

基礎資料（薬学教育評価用）

（2021年5月1日現在）

昭和大学 薬学部

薬学教育評価 基礎資料

(目次)

	資料概要	項目	ページ
基礎資料 1	カリキュラム・ツリー	3	1
基礎資料 2	平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラムのSB0sを実施する科目	3	10
基礎資料 3	学生の修学状況 3-1 評価実施年度における学年別在籍状況 3-2 評価実施年度の直近5年間における6年制学科の学年別学籍異動状況 3-3 評価実施年度の直近5年間における学士課程修了(卒業)状況の実態 3-4 直近6年間の定員充足状況と編入学生の動向	3	45
基礎資料 4	学生受入れ状況 (入学試験種類別)	4	49
基礎資料 5	教員・職員の数	5	50
基礎資料 6	専任教員の年齢構成・男女構成	5	51
基礎資料 7	教員の教育担当状況(担当する授業科目と担当時間)	5	52
基礎資料 8	卒業研究の学生配属状況と研究室の広さ	7	75
基礎資料 9	専任教員の教育および研究活動の業績	5	76
基礎資料10	学生の健康管理	6	229
基礎資料11	薬学科の教育に使用する施設の状況 11-1 薬学科の教育に使用する施設の状況 11-2 卒業研究などに使用する施設	7	230
基礎資料12	学生閲覧室等の規模	7	232
基礎資料13	図書、資料の所蔵数および受け入れ状況	7	233

[注] ページ番号は、資料の枚数に応じて変更してください。

(基礎資料1) カリキュラム・ツリー

ディプロマポリシー

1.プロフェッショナリズム

2 .コミュニケーション能力

3.患者中心のチーム医療

4.専門的実践能力
4-1.医薬品の調整・管理・供給

4.専門的実践能力
4-2-.薬物治療の計画・実践・評価

5.社会的貢献

6.薬学研究と自己研鑽

7.アイデンティティー

6
年

5
年

4
年

3
年

2
年

1
年

アドバンスト実務実習

学部連携病棟実習
学部連携地域医療実習

応用薬学演習

倫理・ヒューマニズム

臨床心理学の活用(演習)
キャリア教育(演習)

在宅チーム医療と倫理
TBLⅢ(学部連携,演習)
キャリアデザイン(演習)

薬剤師の使命(演習)
薬剤師に求められる
倫理観(演習)
研究倫理と統計(演習)
在宅ケア(学部連携,演習)
キャリアデザイン(演習)

在宅チーム医療と倫理
TBLⅡ(学部連携,演習)
コミュニケーション(演習)
生と死(演習)
キャリアデザイン(演習)
学修技法とスチューデント
デベロプメント(演習)

ヒューマン・コミュニ
ケーション(講義・演習)
アカデミックスキルズ
(講義・演習)
チーム医療の基盤
(講義・演習)
人の行動と心理
健康と運動の科学(演習)
健康とスポーツの科学(演習)
薬学への招待

法規・制度

薬剤師と医薬品に係る
法規範Ⅱ
社会保障制度と医療経済

薬剤師と医薬品に係る
法規範Ⅰ

衛生

日常生活と健康
薬毒物と中毒

栄養と健康
健康と環境 実習

個人・集団・社会と健康
生活環境と健康

基礎薬学

漢方医学の実践

薬となる化合物の構造
と性質

分子・細胞から生理・病態へ

生体分子の化学
医薬品の化学

溶液の性質
臨床で用いる分析技術
製剤の性質
製剤設計
機器分析
製剤化と製剤試験法
実習

生命活動を担う分子
(ゲノム情報とバイオ医薬品)
生体防御反応の応用と制御

有機化合物の反応
官能基の化学
薬の宝庫としての天然物

医薬品の化学(実習)

物質の状態と変化
化学平衡
物質の構造
医薬品の検出と定量
物質の性質・分析・製剤
化と製剤試験法(実習)

化学の基礎
有機化合物の構造と性質
漢方薬になる動植物
薬用植物・生薬演習

物理の基礎
熱力学・化学平衡入門
薬学の基礎としての
数学

生命活動を担う分子
物質輸送とエネルギー産生
代謝とその調節
細胞の構造、機能と情報伝達
微生物と感染症
生体防御反応を担う組織・細胞・分子
人体の成り立ちと機能
神経・感覚器・皮膚・泌尿器・消化器
循環器・血液・内分泌・生殖器・遺伝
人体の成り立ちと機能(実習)
生命体の成り立ち(実習)

生命活動を担う分子
生命の基本単位
細胞構成因子
人体の成り立ちと機能
総論
神経・骨格・筋・消化器

医療薬学

薬と疾病
眼・耳鼻咽喉・骨関節疾患
血液・小児・皮膚疾患
薬と疾病フューリアル(演習)
3 (がん疾患)
薬物送達システム
個別化医療
地域医療とプライマリーケア
放射性医薬品の利用と管理

薬と疾病
神経・精神系疾患
呼吸器系疾患
消化器系疾患
循環器系疾患
代謝系・内分泌系疾患
泌尿器系・生殖器系疾患
免疫・アレルギー疾患
薬と疾病フューリアル(演習)
1 (神経疾患)
2 (循環器疾患)

薬物の体内動態
医薬品・化学物質の代謝反応
薬物動態の解析
薬の効くプロセス 実習

薬と疾病
悪性腫瘍
感染症
薬の作用と生体内運命
薬の効き方
生理から病態へ 演習

薬学臨床

薬剤師の臨床判断(実習)

医薬品の副作用・有害事象
(演習)
医薬品評価と開発(演習)
症例演習と薬物療法の実践
(演習)
症候と疾患推測(演習)

実務実習事前学修(実習)
学部連携チーム医療
PBLⅢ(学部連携, 演習)
EBM演習
輸液と栄養

学部連携チーム医療
PBLⅡ(学部連携, 演習)
処方箋と調剤
医薬品情報と患者情報
調剤・患者対応入門 実習
急性期医療と薬剤師 実習

診療の流れを知る 実習

地域医療入門
初年次体験実習

薬学研究

薬学研究

薬学研究入門

研究倫理と統計(演習)

生物統計
薬学の基礎として
の数学

語学

アドバンスト
薬学英語
海外における薬
剤師の役割を知る

薬学英語1
薬学英語2

薬学英語の基礎1
薬学英語の基礎2

Freshman
English
English for
Healthcare
Communication
Paragraph
Writing

薬学演習 基礎サイエンス実習

ディプロマポリシー

1.プロフェSSIONナリズム

2.コミュニケーション能力

3.患者中心のチーム医療

4.専門的実践能力
4-1.医薬品の調整・管理・供給

4.専門的実践能力
4-2.薬物治療の計画・実践・評価

5.社会的貢献

6.薬学研究と自己研鑽

7.アイデンティティー

6年

5年

4年

3年

2年

1年

アドバンスト実務実習

学部連携病棟実習
学部連携地域医療実習

実務実習

病院実習2
(精神医療実習)
病院実習1

薬局実習

薬学臨床

薬剤師の臨床判断(実習)

医薬品の副作用・有害事象
(演習)
医薬品評価と開発(演習)
症例演習と薬物療法の実践
(演習)
症候と疾患推測(演習)

薬学研究

薬学研究

語学

アドバンス
薬学英語
海外における薬
剤師の役割を知る

倫理・ヒューマニズム

臨床心理学の活用(演習)
キャリア教育(演習)

在宅チーム医療と倫理
TBLⅢ(学部連携,演習)
キャリアデザイン(演習)

薬剤師の使命(演習)
薬剤師に求められる
倫理観(演習)
研究倫理と統計(演習)
在宅ケア(学部連携,演習)
キャリアデザイン(演習)

在宅チーム医療と倫理
TBLⅡ(学部連携,演習)
コミュニケーション(演習)
生と死(演習)
キャリアデザイン(演習)
学修技法とスチューデント
デベロプメント(演習)

ヒューマン・コミュニ
ケーション(講義・演習)
アカデミックスキルズ
(講義・演習)
チーム医療の基盤
(講義・演習)
人の行動と心理
健康とスポーツの科学(演習)
薬学への招待

法規・制度

薬剤師と医薬品に係る
法規範Ⅱ
社会保障制度と医療経済

薬剤師と医薬品に係る
法規範Ⅰ

衛生

日常生活と健康
薬毒物と中毒

栄養と健康
健康と環境 実習

個人・集団・社会と健康
生活環境と健康

基礎薬学

漢方医学の実践

薬となる化合物の構造
と性質

分子・細胞から生理・病態へ

生体分子の化学
医薬品の化学

溶液の性質
臨床で用いる分析技術
製剤の性質
製剤設計
機器分析
製剤化と製剤試験法
実習

生命活動を担う分子
(ゲノム情報とバイオ医薬品)
生体防御反応の応用と制御

有機化合物の反応
官能基の化学
薬の宝庫としての天然物
医薬品の化学(実習)

物質の状態と変化
化学平衡
物質の構造
医薬品の検出と定量
物質の性質・分析・製剤
化と製剤試験法(実習)

化学の基礎
有機化合物の構造と性質
漢方薬になる動植物
薬用植物・生薬演習

物理の基礎
熱力学・化学平衡入門
薬学の基礎としての
数学

生命活動を担う分子
物質輸送とエネルギー産生
代謝とその調節
細胞の構造、機能と情報伝達
微生物と感染症
生体防御反応を担う組織・細胞・分子
人体の成り立ちと機能
神経・感覚器・皮膚・泌尿器・消化器
循環器・血液・内分泌・生殖器・遺伝
人体の成り立ちと機能(実習)
生命体の成り立ち(実習)

生命活動を担う分子
生命の基本単位
細胞構成因子
人体の成り立ちと機能
総論
神経・骨格・筋・消化器

医療薬学

薬と疾病
眼・耳鼻咽喉・骨関節疾患
血液・小児・皮膚疾患

薬と疾病フューチャル(演習)
3 (がん疾患)

薬物送達システム
個別化医療
地域医療とプライマリーケア
放射性医薬品の利用と管理

薬と疾病
神経・精神系疾患
呼吸器系疾患
消化器系疾患
循環器系疾患
代謝系・内分泌系疾患
泌尿器系・生殖器系疾患
免疫・アレルギー疾患

薬と疾病フューチャル(演習)
1 (神経疾患)
2 (循環器疾患)

薬物の体内動態
医薬品・化学物質の代謝反応
薬物動態の解析
薬の効くプロセス 実習

薬と疾病
悪性腫瘍
感染症
薬の作用と生体内運命
薬の効き方
生理から病態へ 演習

実務実習事前学修(実習)
学部連携チーム医療
PBLⅢ(学部連携, 演習)
EBM演習
細胞と栄養

学部連携チーム医療
PBLⅡ(学部連携, 演習)
処方箋と調剤
医薬品情報と患者情報
調剤・患者対応入門 実習
急性期医療と薬剤師 実習

診療の流れを知る 実習

地域医療入門
初年次体験実習

研究倫理と統計(演習)

生物統計
薬学の基礎として
の数学

薬学英語1
薬学英語2

薬学英語の基礎1
薬学英語の基礎2

Freshman
English
English for
Healthcare
Communication
Paragraph
Writing

薬学演習 基礎サイエンス実2

ディプロマポリシー

1.プロフェSSIONナリズム

2 .コミュニケーション能力

3.患者中心のチーム医療

4.専門的実践能力
4-1.医薬品の調整・管理・供給

4.専門的実践能力
4-2- 薬物治療の計画・実践・評価

5.社会的貢献

6.薬学研究と自己研鑽

7.アイデンティティー

6
年

5
年

4
年

3
年

2
年

1
年

アドバンスト実務実習

学部連携病棟実習
学部連携地域医療実習

実務実習

病院実習2
(精神医療実習)
病院実習1

薬局実習

薬学臨床

薬剤師の臨床判断(実習)

医薬品の副作用・有害事象
(演習)
医薬品評価と開発(演習)
症例演習と薬物療法の実践
(演習)
症候と疾患推測(演習)

薬学研究

薬学研究

語学

アドバンスト
薬学英語
海外における薬
剤師の役割を知る

倫理・ヒューマニズム

臨床心理学の活用(演習)
キャリア教育(演習)

在宅チーム医療と倫理
TBLⅢ(学部連携,演習)
キャリアデザイン(演習)

薬剤師の使命(演習)
薬剤師に求められる
倫理観(演習)
研究倫理と統計(演習)
在宅ケア(学部連携,演習)
キャリアデザイン(演習)

在宅チーム医療と倫理
TBLⅡ(学部連携,演習)
コミュニケーション(演習)
キャリアデザイン(演習)
学修技法とスチューデント
デベロプメント(演習)

ヒューマン・コミュニ
ケーション(講義・演習)
アカデミックスキルズ
(講義・演習)
チーム医療の基盤
(講義・演習)
人の行動と心理
健康と運動の科学(演習)
健康とスポーツの科学(演習)
薬学への招待

応用薬学演習

衛生

日常生活と健康
薬毒物と中毒

栄養と健康
健康と環境 実習

個人・集団・社会と健康
生活環境と健康

基礎薬学

漢方医学の実践

薬となる化合物の構造
と性質

分子・細胞から生理・病態へ

生体分子の化学
医薬品の化学

溶液の性質
臨床で用いる分析技術
製剤の性質
製剤設計
機器分析
製剤化と製剤試験法
実習

生命活動を担う分子
(ゲノム情報とバイオ医薬品)
生体防御反応の応用と制御

有機化合物の反応
官能基の化学
薬の宝庫としての天然物
医薬品の化学(実習)

物質の状態と変化
化学平衡
物質の構造
医薬品の検出と定量
物質の性質・分析・製剤
化と製剤試験法(実習)

生命活動を担う分子
物質輸送とエネルギー産生
代謝とその調節
細胞の構造、機能と情報伝達
微生物と感染症
生体防御反応を担う組織・細胞・分子
人体の成り立ちと機能
神経・感覚器・皮膚・泌尿器・消化器
循環器・血液・内分泌・生殖器・遺伝
人体の成り立ちと機能(実習)
生命体の成り立ち(実習)

化学の基礎
有機化合物の構造と性質
漢方薬になる動植物
薬用植物・生薬演習

物理の基礎
熱力学・化学平衡入門
薬学の基礎としての
数学

生命活動を担う分子
生命の基本単位
細胞構成因子
人体の成り立ちと機能
総論
神経・骨格・筋・消化器

医療薬学

薬と疾病
眼・耳鼻咽喉・骨関節疾患
血液・小児・皮膚疾患
薬と疾病フューチャル(演習)
3 (がん疾患)
薬物送達システム
個別化医療
地域医療とプライマリーケア
放射性医薬品の利用と管理

薬と疾病
神経・精神系疾患
呼吸器系疾患
消化器系疾患
循環器系疾患
代謝系・内分泌系疾患
泌尿器系・生殖器系疾患
免疫・アレルギー疾患
薬と疾病フューチャル(演習)
1 (神経疾患)
2 (循環器疾患)

薬物の体内動態
医薬品・化学物質の代謝反応
薬物動態の解析
薬の効くプロセス 実習

薬と疾病
悪性腫瘍
感染症
薬の作用と生体内運命
薬の効き方
生理から病態へ 演習

実務実習事前学修(実習)
学部連携チーム医療
PBLⅢ(学部連携, 演習)
EBM演習
輸液と栄養

学部連携チーム医療
PBLⅡ(学部連携, 演習)
処方箋と調剤
医薬品情報と患者情報

調剤・患者対応入門 実習
急性期医療と薬剤師 実習

診療の流れを知る 実習

地域医療入門
初年次体験実習

薬学研究入門

研究倫理と統計(演習)

生物統計
薬学の基礎として
の数学

薬学英語1
薬学英語2

薬学英語の基礎1
薬学英語の基礎2

Freshman
English
English for
Healthcare
Communication
Paragraph
Writing

薬学演習 基礎サイエンス実3

ディプロマポリシー

1.プロフェッショナリズム

2.コミュニケーション能力

3.患者中心のチーム医療

4.専門的実践能力
4-1.医薬品の調整・管理・供給

4.専門的実践能力
4-2.薬物治療の計画・実践・評価

5.社会的貢献

6.薬学研究と自己研鑽

7.アイデンティティー

6年

5年

4年

3年

2年

1年

アドバンスト実務実習

学部連携病棟実習
学部連携地域医療実習

実務実習

病院実習2
(精神医療実習)
病院実習1

薬局実習

薬学臨床

薬剤師の臨床判断(実習)

医薬品の副作用・有害事象
(演習)
医薬品評価と開発(演習)
症例演習と薬物療法の実践
(演習)
症候と疾患推測(演習)

薬学研究

薬学研究

語学

アドバンス
薬学英語
他外における薬
剤師の役割を知る

倫理・ヒューマニズム

臨床心理学の活用(演習)
キャリア教育(演習)

在宅チーム医療と倫理
TBLⅢ(学部連携,演習)
キャリアデザイン(演習)

薬剤師の使命(演習)
薬剤師に求められる
倫理観(演習)
研究倫理と統計(演習)
在宅ケア(学部連携,演習)
キャリアデザイン(演習)

在宅チーム医療と倫理
TBLⅡ(学部連携,演習)
コミュニケーション(演習)
生と死(演習)
キャリアデザイン(演習)
学修技法とスチューデント
デベロフメント(演習)

ヒューマン・コミュニ
ケーション(講義・演習)
アカデミックスキルズ
(講義・演習)
チーム医療の基盤
(講義・演習)
人の行動と心理
健康と運動の科学(演習)
健康とスポーツの科学(演習)
薬学への招待

法規・制度

薬剤師と医薬品に係る
法規範Ⅱ
社会保障制度と医療経済

薬剤師と医薬品に係る
法規範Ⅰ

衛生

日常生活と健康
薬毒物と中毒

栄養と健康
健康と環境 実習

個人・集団・社会と健康
生活環境と健康

基礎薬学

漢方医学の実践

薬となる化合物の構造
と性質

分子・細胞から生理・病態へ

生体分子の化学
医薬品の化学

溶液の性質
臨床で用いる分析技術
製剤の性質
製剤設計
機器分析
製剤化と製剤試験法
実習

生命活動を担う分子
(ゲノム情報とバイオ医薬品)
生体防御反応の応用と制御

有機化合物の反応
官能基の化学
薬の宝庫としての天然物
医薬品の化学(実習)

物質の状態と変化
化学平衡
物質の構造
医薬品の検出と定量
物質の性質・分析・製剤
化と製剤試験法(実習)

生命活動を担う分子
物質輸送とエネルギー産生
代謝とその調節
細胞の構造、機能と情報伝達
微生物と感染症
生体防御反応を担う組織・細胞・分子
人体の成り立ちと機能
神経・感覚器・皮膚・泌尿器・消化器
循環器・血液・内分泌・生殖器・遺伝
人体の成り立ちと機能(実習)
生命体の成り立ち(実習)

化学の基礎
有機化合物の構造と性質
漢方薬になる動植物
薬用植物・生薬演習

物理の基礎
熱力学・化学平衡入門
薬学の基礎としての
数学

生命活動を担う分子
生命の基本単位
細胞構成因子
人体の成り立ちと機能
総論
神経・骨格・筋・消化器

医療薬学

薬と疾病
眼・耳鼻咽喉・骨関節疾患
血液・小児・皮膚疾患
薬と疾病フューチャル(演習)
3 (がん疾患)
薬物送達システム
個別化医療
地域医療とプライマリーケア
放射性医薬品の利用と管理

薬と疾病
神経・精神系疾患
呼吸器系疾患
消化器系疾患
循環器系疾患
代謝系・内分泌系疾患
泌尿器系・生殖器系疾患
免疫・アレルギー疾患
薬と疾病フューチャル(演習)
1 (神経疾患)
2 (循環器疾患)

薬物の体内動態
医薬品・化学物質の代謝反応
薬物動態の解析
薬の効くプロセス 実習

薬と疾病
悪性腫瘍
感染症
薬の作用と生体内運命
薬の効き方
生理から病態へ 演習

実務実習事前学修(実習)
学部連携チーム医療
PBLⅢ(学部連携, 演習)
EBM演習
輸液と栄養

学部連携チーム医療
PBLⅡ(学部連携, 演習)
処方箋と調剤
医薬品情報と患者情報
調剤・患者対応入門 実習
急性期医療と薬剤師 実習

診療の流れを知る 実習

地域医療入門
初年次体験実習

薬学研究入門

研究倫理と統計(演習)

生物統計
薬学の基礎として
の数学

薬学英語1
薬学英語2

薬学英語の基礎1
薬学英語の基礎2

Firstman
English
English for
Healthcare
Communication
Paragraph
Writing

ディプロマポリシー

1.プロフェッショナリズム

2.コミュニケーション能力

3.患者中心のチーム医療

4.専門的実践能力
4-1.医薬品の調整・管理・供給

4.専門的実践能力
4-2.薬物治療の計画・実践・評価

5.社会的貢献

6.薬学研究と自己研鑽

7.アイデンティティー

6年

5年

4年

3年

2年

1年

アドバンスト実務実習

学部連携病棟実習
学部連携地域医療実習

応用薬学演習

倫理・ヒューマニズム

臨床心理学の活用(演習)
キャリア教育(演習)

在宅チーム医療と倫理
TBLⅢ(学部連携,演習)
キャリアデザイン(演習)

薬剤師の使命(演習)
薬剤師に求められる倫理観(演習)
研究倫理と統計(演習)
在宅ケア(学部連携,演習)
キャリアデザイン(演習)

在宅チーム医療と倫理
TBLⅡ(学部連携,演習)
コミュニケーション(演習)
生と死(演習)
キャリアデザイン(演習)
学修技法とスチューデント
デベロプメント(演習)

英語マナー・コミュニケーション(講義・演習)
アカデミックスキルズ(講義・演習)
チーム医療の基礎(講義・演習)
人の行動と心理(講義・演習)
健康と運動の科学(演習)
健康とスポーツの科学(演習)
薬学への招待

法規・制度

薬剤師と医薬品に係る
法規範Ⅱ
社会保障制度と医療経済

薬剤師と医薬品に係る
法規範Ⅰ

衛生

日常生活と健康
薬毒物と中毒

栄養と健康
健康と環境 実習

個人・集団・社会と健康
生活環境と健康

基礎薬学

漢方医学の実践

薬となる化合物の構造
と性質

分子・細胞から生理・病態へ

生体分子の化学
医薬品の化学

溶液の性質
臨床で用いる分析技術
製剤の性質
製剤設計
機器分析
製剤化と製剤試験法
実習

生命活動を担う分子
ゲノム情報とバイオ医薬品
生体防御反応の応用と制御

有機化合物の反応
官能基の化学
薬の宝庫としての天然物
医薬品の化学(実習)

物質の状態と変化
化学平衡
物質の構造
医薬品の検出と定量
物質の性質・分析・製剤
化と製剤試験法(実習)

生命活動を担う分子
物質輸送とエネルギー産生
代謝とその調節
細胞の構造、機能と情報伝達
微生物と感染症
生体防御反応を担う組織・細胞・分子
人体の成り立ちと機能
神経・感覚器・皮膚・泌尿器・消化器
循環器・血液・内分泌・生殖器・遺伝
人体の成り立ちと機能(実習)
生命体の成り立ち(実習)

化学の基礎
有機化合物の構造と性質
漢方薬になる動植物
薬用植物・生薬演習

物理の基礎
熱力学・化学平衡入門
薬学の基礎としての
数学

生命活動を担う分子
生命の基本単位
細胞構成因子
人体の成り立ちと機能
総論
神経・骨格・筋・消化器

医療薬学

実務と基礎の複合演習

薬と疾病
眼・耳鼻咽喉・骨関節疾患
血液・小児・皮膚疾患
薬と疾病カテゴリー(演習)
3.がん疾患

薬物送達システム
個別化医療
地域医療とプライマリケア
放射性医薬品の利用と管理

薬と疾病
神経・精神系疾患
呼吸器系疾患
消化器系疾患
循環器系疾患
代謝系・内分泌系疾患
泌尿器系・生殖器系疾患
免疫・アレルギー疾患

薬と疾病カテゴリー(演習)
1.神経疾患
2.循環器疾患

薬物の体内動態
医薬品・化学物質の代謝反応
薬物動態の解析
薬の効くプロセス 実習

薬と疾病
悪性腫瘍
感染症

薬の作用と生体内運命
薬の効き方
生理から病態へ 演習

薬学臨床

薬剤師の臨床判断(実習)

医薬品の副作用・有害事象
(演習)
医薬品調剤と調剤(演習)
症例演習と薬物療法の実践
(演習)
症候と疾患推測(演習)

実務実習事前学修(実習)
学部連携チーム医療
PBLⅢ(学部連携,演習)
FBM演習
輸液と栄養

学部連携チーム医療
PBLⅡ(学部連携,演習)
処方箋と調剤
医薬品情報と患者情報
調剤・患者対応入門 実習
急性期医療と薬剤師 実習

診療の流れを知る 実習

地域医療入門
初年次体験実習

薬学研究

薬学研究

薬学研究入門

研究倫理と統計(演習)

生物統計
薬学の基礎としての
数学

語学

アドバンスト
薬学英語
海外における薬
剤師の役割を知る

薬学英語1
薬学英語2

薬学英語の基礎1
薬学英語の基礎2

Freshman
English
English for
Healthcare
Communication
Paragraph
Writing

ディプロマポリシー

1.プロフェッショナリズム

2.コミュニケーション能力

3.患者中心のチーム医療

4.専門的実践能力
4-1.医薬品の調整・管理・供給

4.専門的実践能力
4-2.薬物治療の計画・実践・評価

5.社会的貢献

6.薬学研究と自己研鑽

7.アイデンティティー

6年

5年

4年

3年

2年

1年

アドバンスト実務実習

学部連携病棟実習
学部連携地域医療実習

応用薬学演習

倫理・ヒューマニズム

臨床心理学の活用(演習)
キャリア教育(演習)

在宅チーム医療と倫理
TBLⅢ(学部連携,演習)
キャリアデザイン(演習)

薬剤師の使命(演習)
薬剤師に求められる
倫理観(演習)
研究倫理と統計(演習)
在宅ケア(学部連携,演習)
キャリアデザイン(演習)

在宅チーム医療と倫理
TBLⅡ(学部連携,演習)
コミュニケーション(演習)
生と死(演習)
キャリアデザイン(演習)
学修技法とスチューデント
デベロプメント(演習)

英語マナー・コミュニ
ケーション(講義・演習)
アカデミックスキルズ
(講義・演習)
チーム医療の基礎
(講義・演習)
人の行動と心理
健康と運動の科学(演習)
健康とスポーツの科学(演習)
薬学への招待

法規・制度

薬剤師と医薬品に係る
法規範Ⅱ
社会保障制度と医療経済

薬剤師と医薬品に係る
法規範Ⅰ

衛生

日常生活と健康
薬毒物と中毒

栄養と健康
健康と環境 実習

個人・集団・社会と健康
生活環境と健康

基礎薬学

漢方医学の実践

薬となる化合物の構造
と性質

分子・細胞から生理・病態へ

生体分子の化学
医薬品の化学

溶液の性質
臨床で用いる分析技術
製剤の性質
製剤設計
機器分析
製剤化と製剤試験法
実習

生命活動を担う分子
ゲノム情報とバイオ医薬品
生体防御反応の応用と制御

有機化合物の反応
官能基の化学
薬の宝庫としての天然物
医薬品の化学(実習)

物質の状態と変化
化学平衡
物質の構造
医薬品の検出と定量
物質の性質・分析・製剤
化と製剤試験法(実習)

化学の基礎
有機化合物の構造と性質
漢方薬になる動植物
薬用植物・生薬演習

物理の基礎
熱力学・化学平衡入門
薬学の基礎としての
数学

生命活動を担う分子
物質輸送とエネルギー産生
代謝とその調節
細胞の構造・機能と情報伝達
微生物と感染症
生体防御反応を担う組織・細胞・分子
人体の成り立ちと機能
神経・感覚器・皮膚・泌尿器・消化器
循環器・血液・内分泌・生殖器・遺伝
人体の成り立ちと機能(実習)
生命体の成り立ち(実習)

生命活動を担う分子
生命の基本単位
細胞構成因子
人体の成り立ちと機能
総論
神経・骨格・筋・消化器

医療薬学

薬と疾病
眼・耳鼻咽喉・骨関節疾患
血液・小児・皮膚疾患
薬と疾病フューリアル(演習)
3 (がん疾患)
薬物送達システム
個別化医療
地域医療とプライマリーケア
放射性医薬品の利用と管理

薬と疾病
神経・精神系疾患
呼吸器系疾患
消化器系疾患
循環器系疾患
代謝系・内分泌系疾患
泌尿器系・生殖器系疾患
免疫・アレルギー疾患

薬と疾病フューリアル(演習)
1 (神経疾患)
2 (循環器疾患)

薬物の体内動態
医薬品・化学物質の代謝反応
薬物動態の解析

薬の効くプロセス 実習

薬と疾病
悪性腫瘍
感染症
薬の作用と生体内運命
薬の効き方
生理から病態へ 演習

薬学臨床

薬剤師の臨床判断(実習)

医薬品の副作用・有害事象
(演習)
医薬品評価と開発(演習)
症例演習と薬物療法の実践
(演習)
症候と疾患推測(演習)

実務実習事前学修(実習)
学部連携チーム医療
PBLⅢ(学部連携, 演習)
EBM演習
輸液と栄養

学部連携チーム医療
PBLⅡ(学部連携, 演習)
処方箋と調剤
医薬品情報と患者情報
調剤・患者対応入門 実習
急性期医療と薬剤師 実習

診療の流れを知る 実習

生物統計
薬学の基礎として
の数学

薬学研究

薬学研究

薬学研究入門

研究倫理と統計(演習)

生物統計
薬学の基礎として
の数学

語学

アドバンスト
薬学英語
海外における薬
剤師の役割を知る

薬学英語1
薬学英語2

薬学英語の基礎1
薬学英語の基礎2

Freshman
English for
Healthcare
Communication
Paragraph
Writing

薬学演習 基礎サイエンス実習

ディプロマポリシー

1.プロフェッショナリズム

2.コミュニケーション能力

3.患者中心のチーム医療

4.専門的実践能力
4-1.医薬品の調整・管理・供給

4.専門的実践能力
4-2.薬物治療の計画・実践・評価

5.社会的貢献

6.薬学研究と自己研鑽

7.アイデンティティー

6年

5年

4年

3年

2年

1年

アドバンスト実務実習

学部連携病棟実習
学部連携地域医療実習

実務実習

病院実習2
(精神医療実習)
病院実習1

薬局実習

薬学臨床

薬剤師の臨床判断(実習)

医薬品の副作用・有害事象
(演習)
医薬品評価と開発(演習)
症例演習と薬物療法の実践
(演習)
症候と疾患推測(演習)

薬学研究

薬学研究

語学

アドバンスト
薬学英語
海外における薬
剤師の役割を知る

倫理・ヒューマニズム

臨床心理学の活用(演習)
キャリア教育(演習)

在宅チーム医療と倫理
TBLⅢ(学部連携,演習)
キャリアデザイン(演習)

薬剤師の使命(演習)
薬剤師に求められる
倫理観(演習)
研究倫理と研究デザイン
在宅ケア(学部連携,演習)
キャリアデザイン(演習)

在宅チーム医療と倫理
TBLⅡ(学部連携,演習)
コミュニケーション(演習)
生と死(演習)
キャリアデザイン(演習)
必修技法とスチューデント
デベロプメント(演習)

ヒューマン・コミュニ
ケーション(講義・演習)
アカデミックスキルズ
(講義・演習)
チーム医療の基盤
(講義・演習)
人の行動と心理
健康と運動の科学(演習)
健康とスポーツの科学(演習)
薬学への招待

法規・制度

薬剤師と医薬品に係る
法規範Ⅱ
社会保障制度と医療経済

薬剤師と医薬品に係る
法規範Ⅰ

衛生

日常生活と健康
薬毒物と中毒

栄養と健康
健康と環境 実習

個人・集団・社会と健康
生活環境と健康

基礎薬学

漢方医学の実践

薬となる化合物の構造
と性質

分子・細胞から生理・病態へ

生体分子の化学
医薬品の化学

溶液の性質
臨床で用いる分析技術
製剤の性質
製剤設計
機器分析
製剤化と製剤試験法
実習

生命活動を担う分子
(ゲノム情報とバイオ医薬品)
生体防御反応の応用と制御

有機化合物の反応
官能基の化学
薬の宝庫としての天然物
医薬品の化学(実習)

物質の状態と変化
化学平衡
物質の構造
医薬品の検出と定量
物質の性質・分析・製剤
化と製剤試験法(実習)

化学の基礎
有機化合物の構造と性質
漢方薬になる動植物
薬用植物・生薬演習

物理の基礎
熱力学・化学平衡入門
薬学の基礎としての
数学

生命活動を担う分子
物質輸送とエネルギー産生
代謝とその調節
細胞の構造・機能と情報伝達
微生物と感染症
生体防御反応を担う組織・細胞・分子
人体の成り立ちと機能
神経・感覚器・皮膚・泌尿器・消化器
循環器・血液・内分泌・生殖器・遺伝
人体の成り立ちと機能(実習)
生命体の成り立ち(実習)

生命活動を担う分子
生命の基本単位
細胞構成因子
人体の成り立ちと機能
総論
神経・骨格・筋・消化器

医療薬学

薬と疾病
眼・耳鼻咽喉・骨関節疾患
血液・小児・皮膚疾患
薬と疾病カテゴリー(演習)
3 (がん疾患)
薬物送達システム
個別化医療
地域医療とプライマリーケア
放射性医薬品の利用と管理

薬と疾病
神経・精神系疾患
呼吸器系疾患
消化器系疾患
循環器系疾患
代謝系・内分泌系疾患
泌尿器系・生殖器系疾患
免疫・アレルギー疾患

薬と疾病カテゴリー(演習)
1 (神経疾患)
2 (循環器疾患)

薬物の体内動態
医薬品・化学物質の代謝反応
薬物動態の解析
薬の効くプロセス 実習

薬と疾病
悪性腫瘍
感染症
薬の作用と生体内運命
薬の効き方
生理から病態へ 演習

実務実習事前学修(実習)
学部連携チーム医療
PBLⅢ(学部連携, 演習)
EBM演習
輸液と栄養

学部連携チーム医療
PBLⅡ(学部連携, 演習)
処方箋と調剤
医薬品情報と患者情報
調剤・患者対応入門 実習
急性期医療と薬剤師 実習

診療の流れを知る 実習

地域医療入門
初年次体験実習

薬学研究入門

研究倫理と統計(演習)

生物統計
薬学の基礎として
の数学

薬学英語1
薬学英語2

薬学英語の基礎1
薬学英語の基礎2

Freshman
English
English for
Healthcare
Communication
Paragraph
Writing

薬学演習 基礎サイエンス実7

ディプロマポリシー

1.プロフェッショナリズム

2.コミュニケーション能力

3.患者中心のチーム医療

4.専門的実践能力
4-1.医薬品の調整・管理・供給

4.専門的実践能力
4-2.薬物治療の計画・実践・評価

5.社会的貢献

6.薬学研究と自己研鑽

7.アイデンティティー

6年

5年

4年

3年

2年

1年

アドバンスト実務実習

学部連携病棟実習
学部連携地域医療実習

実務実習

病院実習2
(精神医療実習)
病院実習1

薬局実習

薬学臨床

薬剤師の臨床判断(実習)

医薬品の副作用・有害事象
(演習)
医薬品評価と開発 (演習)
症例演習と薬物療法の実践
(演習)
症候と疾患推測(演習)

薬学研究

薬学研究

語学

アドバンスト
薬学英語
海外における薬
剤師の役割を知る

倫理・ヒューマニズム

臨床心理学の活用(演習)
キャリア教育(演習)

在宅チーム医療と倫理
TBLⅢ(学部連携,演習)
キャリアデザイン(演習)

薬剤師の使命(演習)
薬剤師に求められる
倫理観(演習)
研究倫理と統計(演習)
在宅ケア(学部連携,演習)
キャリアデザイン(演習)

在宅チーム医療と倫理
TBLⅡ(学部連携,演習)
コミュニケーション(演習)
生と死(演習)
キャリアデザイン(演習)
学修技法とスチューデント
デベロプメント(演習)

エゴマナ・コミュニ
ケーション(講義・演習)
アカデミックスキルズ
(講義・演習)
チーム医療の基礎
(講義・演習)
人の行動と心理
健康と運動の科学(演習)
健康とスポーツの科学(演習)
薬学への招待

法規・制度

薬剤師と医薬品に係る
法規Ⅱ
社会保障制度と医療経済

衛生

日常生活と健康
薬毒物と中毒

栄養と健康
健康と環境 実習

個人・集団・社会と健康
生活環境と健康

基礎薬学

漢方医学の実践

薬となる化合物の構造
と性質

分子・細胞から生理・病態へ

生体分子の化学
医薬品の化学

溶液の性質
臨床で用いる分析技術
製剤の性質
製剤設計
機器分析
製剤化と製剤試験法
実習

生命活動を担う分子
(ゲノム情報とバイオ医薬品)
生体防御反応の応用と制御

有機化合物の反応
官能基の化学
薬の宝庫としての天然物
医薬品の化学(実習)

物質の状態と変化
化学平衡
物質の構造
医薬品の検出と定量
物質の性質・分析・製剤
化と製剤試験法(実習)

生命活動を担う分子
物質輸送とエネルギー産生
代謝とその調節
細胞の構造、機能と情報伝達
微生物と感染症
生体防御反応を担う組織・細胞・分子
人体の成り立ちと機能
神経・感覚器・皮膚・泌尿器・消化器
循環器・血液・内分泌・生殖器・遺伝
人体の成り立ちと機能(実習)
生命体の成り立ち(実習)

化学の基礎
有機化合物の構造と性質
漢方薬になる動植物
薬用植物・生薬演習

物理の基礎
熱力学・化学平衡入門
薬学の基礎としての
数学

生命活動を担う分子
生命の基本単位
細胞構成因子
人体の成り立ちと機能
総論
神経・骨格・筋・消化器

医療薬学

薬と疾病
眼・耳鼻咽喉・骨関節疾患
血液・小児・皮膚疾患
薬と疾病フルリアル(演習)
3 (がん疾患)
薬物送達システム
個別化医療
地域医療とプライマリーケア
放射性医薬品の利用と管理

薬と疾病
神経・精神系疾患
呼吸器系疾患
消化器系疾患
循環器系疾患
代謝系・内分泌系疾患
泌尿器系・生殖器系疾患
免疫・アレルギー疾患
薬と疾病フルリアル(演習)
1 (神経疾患)
2 (循環器疾患)

薬物の体内動態
医薬品・化学物質の代謝反応
薬物動態の解析
薬の効くプロセス 実習

薬と疾病
悪性腫瘍
感染症
薬の作用と生体内運命
薬の効き方
生理から病態へ 演習

実務実習事前学修(実習)
学部連携チーム医療
PBLⅢ(学部連携, 演習)
EBM演習
輸液と栄養

学部連携チーム医療
PBLⅡ(学部連携, 演習)
処方箋と調剤
医薬品情報と患者情報
調剤・患者対応入門 実習
急性期医療と薬剤師 実習

診療の流れを知る 実習

地域医療入門
初年次体験実習

薬学研究入門

研究倫理と統計(演習)

生物統計
薬学の基礎として
の数学

薬学英語1
薬学英語2

薬学英語の基礎1
薬学英語の基礎2

Freshman
English
English for
Healthcare
Communication
Paragraph
Writing

薬学演習 基礎サイエンス実習

ディプロマポリシー

1.プロフェッショナリズム

2.コミュニケーション能力

3.患者中心のチーム医療

4.専門的実践能力
4-1.医薬品の調整・管理・供給

4.専門的実践能力
4-2.薬物治療の計画・実践・評価

5.社会的貢献

6.薬学研究と自己研鑽

7.アイデンティティ

6年

5年

4年

3年

2年

1年

アドバンスト実務実習

学部連携病棟実習
学部連携地域医療実習

実務実習

病院実習2
(精神医療実習)
病院実習1

薬局実習

薬学臨床

薬剤師の臨床判断(実習)

医薬品の副作用・有害事象
(演習)
医薬品評価と開発(演習)
症例演習と薬物療法の実践
(演習)
症候と疾患推測(演習)

薬学研究

薬学研究

語学

アドバンスト
薬学英語
海外における薬
剤師の役割を知る

倫理・ヒューマニズム

臨床心理学の活用(演習)
キャリア教育(演習)

在宅チーム医療と倫理
TBLⅢ(学部連携,演習)
キャリアデザイン(演習)

薬剤師の使命(演習)
薬剤師に求められる
倫理観(演習)
研究倫理と実務
在宅ケア(学部連携,演習)
キャリアデザイン(演習)

在宅チーム医療と倫理
TBLⅡ(学部連携,演習)
コミュニケーション(演習)
生と死(演習)
キャリアデザイン(演習)
学修技法とスチューデント
デベロプメント(演習)

インターンシップ
コミュニケーション(演習・演習)
アカデミックスキルズ
(講義・演習)
チーム医療の基盤
(講義・演習)
人の行動と心理
健康と運動の科学(演習)
健康とスポーツの科学(演習)
薬学への招待

法規・制度

薬剤師と医薬品に係る
法規Ⅱ
社会保障制度と医療経済

薬剤師と医薬品に係る
法規Ⅰ

衛生

日常生活と健康
薬毒物と中毒

栄養と健康
健康と環境 実習

個人・集団・社会と健康
生活環境と健康

基礎薬学

漢方医学の実践

薬となる化合物の構造
と性質

分子・細胞から生理・病態へ

生体分子の化学
医薬品の化学

溶液の性質
臨床で用いる分析技術
製剤の性質
製剤設計
機器分析
製剤化と製剤試験法
実習

生命活動を担う分子
(ゲノム情報とバイオ医薬品)
生体防御反応の応用と制御

有機化合物の反応
官能基の化学
薬の宝庫としての天然物
医薬品の化学(実習)

物質の状態と変化
化学平衡
物質の構造
医薬品の検出と定量
物質の性質・分析・製剤
化と製剤試験法(実習)

生命活動を担う分子
物質輸送とエネルギー産生
代謝とその調節
細胞の構造・機能と情報伝達
微生物と感染症
生体防御反応を担う組織・細胞・分子
人体の成り立ちと機能
神経・感覚器・皮膚・泌尿器・消化器
循環器・血液・内分泌・生殖器・遺伝
人体の成り立ちと機能(実習)
生命体の成り立ち(実習)

化学の基礎
有機化合物の構造と性質
漢方薬になる動植物
薬用植物・生薬演習

物理の基礎
熱力学・化学平衡入門
薬学の基礎としての
数学

生命活動を担う分子
生命の基本単位
細胞構成因子
人体の成り立ちと機能
総論
神経・骨格・筋・消化器

医療薬学

薬と疾病
眼・耳鼻咽喉・骨関節疾患
血液・小児・皮膚疾患
薬と疾病フューチャ
3 (がん疾患)
薬物送達システム
個別化医療
地域医療とプライマリーケア
放射性医薬品の利用と管理

薬と疾病
神経・精神系疾患
呼吸器系疾患
消化器系疾患
循環器系疾患
代謝系・内分泌系疾患
泌尿器系・生殖器系疾患
免疫・アレルギー疾患

薬と疾病フューチャ
1 (神経疾患)
2 (循環器疾患)

薬物の体内動態
医薬品・化学物質の代謝反応
薬物動態の解析

薬の効くプロセス 実習

薬と疾病
悪性腫瘍
感染症
薬の作用と生体内運命
薬の効き方
生理から病態へ 演習

実務実習事前学修(実習)
学部連携チーム医療
PBLⅢ(学部連携, 演習)
EBM演習
輸液と栄養

学部連携チーム医療
PBLⅡ(学部連携, 演習)
処方箋と調剤
医薬品情報と患者情報
調剤・患者対応入門 実習
急性期医療と薬剤師 実習

診療の流れを知る 実習

地域医療入門
初年次体験実習

薬学研究入門

研究倫理と統計(演習)

生物統計
薬学の基礎として
の数学

薬学英語1
薬学英語2

薬学英語の基礎1
薬学英語の基礎2

Freshman
English
English for
Healthcare
Communication
Paragraph
Writing

(基礎資料 2) 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsを実施する科目

[注] 1 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する内容の必修科目名を(シラバスの名称、選択科目の場合(選)をつける)実施学年の欄に記入してください。

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
A 基本事項						
(1) 薬剤師の使命						
【①医療人として】						
1) 常に患者・生活者の視点に立ち、医療の担い手としてふさわしい態度で行動する。(態度)	薬学への招待、ヒューマンコミュニケーション、地域医療入門	診療の流れを知る	薬剤師の使命	実務実習事前学修	病院実習1、病院実習2、薬局実習、臨床心理学の活用、学部連携病棟実習、学部連携地域医療実習	学部連携病棟実習、学部連携地域医療実習
2) 患者・生活者の健康の回復と維持に積極的に貢献することへの責任感を持つ。(態度)	薬学への招待、ヒューマンコミュニケーション	診療の流れを知る	薬剤師の使命	地域医療とプライマリ・ケア実務実習事前学修	病院実習1、病院実習2、薬局実習、臨床心理学の活用、学部連携病棟実習、学部連携地域医療実習	学部連携病棟実習、学部連携地域医療実習
3) チーム医療や地域保健・医療・福祉を担う一員としての責任を自覚し行動する。(態度)	初年次体験実習、チーム医療の基盤、地域医療入門	診療の流れを知る	薬剤師の使命	地域医療とプライマリ・ケア実務実習事前学修	病院実習1、病院実習2、薬局実習、学部連携病棟実習、学部連携地域医療実習	学部連携病棟実習、学部連携地域医療実習
4) 患者・患者家族・生活者が求める医療人について、自らの考えを述べる。(知識・態度)	薬学への招待、ヒューマンコミュニケーション	生と死	薬剤師の使命	地域医療とプライマリ・ケア	臨床心理学の活用、学部連携病棟実習、学部連携地域医療実習	学部連携病棟実習、学部連携地域医療実習
5) 生と死を通して、生きる意味や役割について、自らの考えを述べる。(知識・態度)	ヒューマンコミュニケーション	生と死	薬剤師に求められる倫理観		学部連携病棟実習、学部連携地域医療実習	学部連携病棟実習、学部連携地域医療実習
6) 一人の人間として、自分が生きている意味や役割を問い直し、自らの考えを述べる。(知識・態度)	ヒューマンコミュニケーション	生と死	薬剤師に求められる倫理観			
7) 様々な死生観・価値観・信条等を受容することの重要性について、自らの言葉で説明する。(知識・態度)	死生観(選)	生と死	薬剤師に求められる倫理観		学部連携病棟実習、学部連携地域医療実習	学部連携病棟実習、学部連携地域医療実習
【②薬剤師が果たすべき役割】						
1) 患者・生活者のために薬剤師が果たすべき役割を自覚する。(態度)	薬学への招待		薬剤師の使命	実務実習事前学修	症候と疾患推測、病院実習1、病院実習2、薬局実習、学部連携病棟実習、学部連携地域医療実習	学部連携病棟実習、学部連携地域医療実習
2) 薬剤師の活動分野(医療機関、薬局、製薬企業、衛生行政等)と社会における役割について説明できる。	薬学への招待		薬剤師の使命	実務実習事前学修	病院実習1、病院実習2、薬局実習	
3) 医薬品の適正使用における薬剤師の役割とファーマシューティカルケアについて説明できる。	薬学への招待、地域医療入門		薬剤師の使命	実務実習事前学修	症候と疾患推測、病院実習1、病院実習2、薬局実習	学部連携病棟実習、学部連携地域医療実習
4) 医薬品の効果が確率論的であることを説明できる。	薬学への招待					
5) 医薬品の創製(研究開発、生産等)における薬剤師の役割について説明できる。	薬学への招待		薬剤師の使命			
6) 健康管理、疾病予防、セルフメディケーション及び公衆衛生における薬剤師の役割について説明できる。	薬学への招待	個人・集団・社会と健康	薬剤師の使命		症候と疾患推測、薬局実習	
7) 薬物乱用防止、自殺防止における薬剤師の役割について説明できる。	薬学への招待		薬剤師と医薬品に係る法規範Ⅱ		薬局実習	
8) 現代社会が抱える課題(少子・超高齢社会等)に対して、薬剤師が果たすべき役割を提案する。(知識・態度)	薬学への招待	個人・集団・社会と健康	薬剤師の使命		薬局実習	
【③患者安全と薬害の防止】						
1) 医薬品のリスクを認識し、患者を守る責任と義務を自覚する。(態度)			薬剤師の使命 薬剤師と医薬品に係る法規範Ⅱ		医薬品の副作用・有害事象	
2) WHOによる患者安全の考え方について概説できる。			薬剤師と医薬品に係る法規範Ⅱ			
3) 医療に関するリスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を説明できる。	地域医療入門		薬剤師の使命 薬剤師と医薬品に係る法規範Ⅱ		病院実習1、病院実習2、薬局実習	
4) 医薬品が関わる代表的な医療過誤やインシデントの事例を列挙し、その原因と防止策を説明できる。		生と死				
5) 重篤な副作用の例について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。(知識・態度)				薬毒物と中毒	医薬品の副作用・有害事象	
6) 代表的な薬害の例(サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジン等)について、その原因と社会的背景及びその後の対応を説明できる。	地域医療入門	生と死	薬剤師と医薬品に係る法規範Ⅱ		医薬品の副作用・有害事象	
7) 代表的な薬害について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。(知識・態度)	地域医療入門	生と死				
【④薬学の歴史と未来】						
1) 薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割について説明できる。	薬学への招待					
2) 薬物療法の歴史と、人類に与えてきた影響について説明できる。	薬学への招待					
3) 薬剤師の誕生から現在までの役割の変遷の歴史(医薬分業を含む)について説明できる。	薬学への招待					
4) 将来の薬剤師と薬学が果たす役割について討議する。(知識・態度)	薬学への招待					
(2) 薬剤師に求められる倫理観						
【①生命倫理】						
1) 生命の尊厳について、自らの言葉で説明できる。(知識・態度)	チーム医療の基盤ヒューマンコミュニケーション	人体の成り立ちと機能(実習) 生と死	薬剤師に求められる倫理観			
2) 生命倫理の諸原則(自律尊重、無危害、善行、正義等)について説明できる。	チーム医療の基盤、ヒューマンコミュニケーション	生と死	薬剤師に求められる倫理観			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
3) 生と死に関わる倫理的問題について討議し、自らの考えを述べる。（知識・態度）	チーム医療の基盤、ヒューマンコミュニケーション	生と死	薬剤師に求められる倫理観			
4) 科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。	文学A（選）	生と死	薬剤師に求められる倫理観			
【②医療倫理】						
1) 医療倫理に関する規範（ジュネーブ宣言等）について概説できる。	チーム医療の基盤		薬剤師に求められる倫理観			
2) 薬剤師が遵守すべき倫理規範（薬剤師綱領、薬剤師倫理規定等）について説明できる。			薬剤師に求められる倫理観	学部連携チーム医療PBL III・TBL III		
3) 医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。	ヒューマンコミュニケーション、文学A（選）、地域医療入門（TBL I）	生と死	薬剤師に求められる倫理観 研究倫理と統計、学部連携チーム医療PBL II・在宅ケア	学部連携チーム医療PBL III・TBL III		
【③患者の権利】						
1) 患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。（態度）	ヒューマンコミュニケーション、地域医療入門	在宅チーム医療と倫理 TBL II	薬剤師に求められる倫理観、学部連携チーム医療PBL II・在宅ケア	学部連携チーム医療PBL III・TBL III	病院実習1、病院実習2、薬局実習、学部連携病棟実習、学部連携地域医療実習	学部連携病棟実習、学部連携地域医療実習
2) 患者の基本的権利の内容（リスボン宣言等）について説明できる。	チーム医療の基盤	在宅チーム医療と倫理 TBL II	薬剤師に求められる倫理観、学部連携チーム医療PBL II・在宅ケア	学部連携チーム医療PBL III・TBL III		
3) 患者の自己決定権とインフォームドコンセントの意義について説明できる。	チーム医療の基盤	在宅チーム医療と倫理 TBL II	薬剤師に求められる倫理観、学部連携チーム医療PBL II・在宅ケア	学部連携チーム医療PBL III・TBL III		
4) 知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。（知識・技能・態度）	初年次体験実習、アカデミックスキルズ		薬剤師に求められる倫理観、学部連携チーム医療PBL II・在宅ケア		病院実習1、病院実習2、薬局実習、学部連携病棟実習、学部連携地域医療実習	学部連携病棟実習、学部連携地域医療実習
【④研究倫理】						
1) 臨床研究における倫理規範（ヘルシンキ宣言等）について説明できる。	チーム医療の基盤		薬剤師に求められる倫理観 薬剤師と医薬品に係る法規範Ⅱ			
2) 「ヒトを対象とする研究において遵守すべき倫理指針」について概説できる。	チーム医療の基盤		薬剤師に求められる倫理観 薬剤師と医薬品に係る法規範Ⅱ			
3) 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。（態度）	法学（選）		研究倫理と統計			
【③ 信頼関係の構築】						
【①コミュニケーション】						
1) 意思、情報の伝達に必要な要素について説明できる。	ヒューマンコミュニケーション、人の行動と心理	コミュニケーション		キャリアデザイン	キャリア教育	
2) 言語的及び非言語的コミュニケーションについて説明できる。	ヒューマンコミュニケーション、人の行動と心理	コミュニケーション			臨床心理学の活用	
3) 相手の立場、文化、習慣等によって、コミュニケーションの在り方が異なることを例を挙げて説明できる。	ヒューマンコミュニケーション、人の行動と心理	コミュニケーション		キャリアデザイン	キャリア教育、臨床心理学の活用	
4) 対人関係に影響を及ぼす心理的要因について概説できる。	ヒューマンコミュニケーション、人の行動と心理	コミュニケーション	薬剤師の使命		臨床心理学の活用	
5) 相手の心理状態とその変化に配慮し、対応する。（態度）	ヒューマンコミュニケーション、人の行動と心理	コミュニケーション	調剤・患者対応入門	実務実習事前学修	病院実習1、病院実習2、薬局実習、臨床心理学の活用、学部連携病棟実習、学部連携地域医療実習	学部連携病棟実習、学部連携地域医療実習
6) 自分の心理状態を意識して、他者と接することができる。（態度）	ヒューマンコミュニケーション、人の行動と心理	コミュニケーション			病院実習1、病院実習2、薬局実習、学部連携病棟実習、学部連携地域医療実習	学部連携病棟実習、学部連携地域医療実習
7) 適切な聴き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように努める。（技能・態度）	アカデミックスキルズ、ヒューマンコミュニケーション	コミュニケーション	調剤・患者対応入門、学部連携チーム医療PBL II・在宅ケア	キャリアデザイン 実務実習事前学修	臨床心理学の活用、キャリア教育、病院実習1、病院実習2、薬局実習、臨床心理学の活用、学部連携病棟実習、学部連携地域医療実習	学部連携病棟実習、学部連携地域医療実習
8) 適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。（技能・態度）	ヒューマンコミュニケーション	コミュニケーション	学部連携チーム医療PBL II・在宅ケア	キャリアデザイン 実務実習事前学修	臨床心理学の活用、キャリア教育、病院実習1、病院実習2、薬局実習、臨床心理学の活用、学部連携病棟実習、学部連携地域医療実習	学部連携病棟実習、学部連携地域医療実習
9) 他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。（知識・技能・態度）	ヒューマンコミュニケーション	コミュニケーション、在宅チーム医療と倫理 TBL II	学部連携チーム医療PBL II・在宅ケア	学部連携チーム医療PBL III・在宅チーム医療と倫理TBL II	学部連携病棟実習、学部連携地域医療実習	学部連携病棟実習、学部連携地域医療実習
【②患者・生活者と薬剤師】						
1) 患者や家族、周囲の人々の心身に及ぼす病気やケアの影響について説明できる。	ヒューマンコミュニケーション	在宅チーム医療と倫理 TBL II	薬剤師の使命、薬剤師の使命、学部連携チーム医療PBL II・在宅ケア		臨床心理学の活用	

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
2) 患者・家族・生活者の心身の状態や多様な価値観に配慮して行動する。（態度）	地域医療入門	在宅チーム医療と倫理 TBL II	薬剤師の使命、学部連携チーム医療PBLII・在宅ケア	学部連携チーム医療PBLIII・在宅チーム医療と倫理TBLII	臨床心理学の活用、薬局実習、病院実習2、学部連携病棟実習、学部連携地域医療実習	学部連携病棟実習、学部連携地域医療実習
（4）多職種連携協働とチーム医療						
1) 保健、医療、福祉、介護における多職種連携協働及びチーム医療の意義について説明できる。	アカデミックスキルズ、ヒューマンコミュニケーション、地域医療入門	キャリアデザイン、在宅チーム医療と倫理 TBL II	キャリアデザイン、学部連携チーム医療PBLII・在宅ケア	キャリアデザイン、学部連携チーム医療PBLIII・在宅チーム医療と倫理TBLII	キャリア教育、学部連携病棟実習、学部連携地域医療実習	学部連携病棟実習、学部連携地域医療実習
2) 多職種連携協働に関わる薬剤師、各職種及び行政の役割について説明できる。	アカデミックスキルズ、地域医療入門	キャリアデザイン、在宅チーム医療と倫理 TBL II	薬剤師の使命 キャリアデザイン、急性期医療と薬剤師、学部連携チーム医療PBLII・在宅ケア	キャリアデザイン、学部連携チーム医療PBLIII・在宅チーム医療と倫理TBLIII	キャリア教育、学部連携病棟実習、学部連携地域医療実習	学部連携病棟実習、学部連携地域医療実習
3) チーム医療に関わる薬剤師、各職種、患者・家族の役割について説明できる。	アカデミックスキルズ、地域医療入門	キャリアデザイン、在宅チーム医療と倫理 TBL II	急性期医療と薬剤師、学部連携チーム医療PBLII・在宅ケア	学部連携チーム医療PBLIII・在宅チーム医療と倫理TBLIII	学部連携病棟実習、学部連携地域医療実習	学部連携病棟実習、学部連携地域医療実習
4) 自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。（態度）		コミュニケーション キャリアデザイン	キャリアデザイン	キャリアデザイン	キャリア教育、学部連携病棟実習、学部連携地域医療実習	学部連携病棟実習、学部連携地域医療実習
5) チームワークと情報共有の重要性を理解し、チームの一員としての役割を積極的に果たすように努める。（知識・態度）	アカデミックスキルズ、初年次体験実習、ヒューマンコミュニケーション、地域医療入門	在宅チーム医療と倫理 TBL II	学部連携チーム医療PBLII・在宅ケア	学部連携チーム医療PBLIII・在宅チーム医療と倫理TBLIII	学部連携病棟実習、学部連携地域医療実習	学部連携病棟実習、学部連携地域医療実習
（5）自己研鑽と次世代を担う人材の育成						
【①学習の在り方】						
1) 医療・福祉・医薬品に関わる問題、社会的動向、科学の進歩に常に目を向け、自ら課題を見出し、解決に向けて努力する。（態度）	薬学への招待	学修技法とスチューデントデベロPMENT				
2) 講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。（技能）	アカデミックスキルズ					
3) 必要な情報を的確に収集し、信憑性について判断できる。（知識・技能）	アカデミックスキルズ					
4) 得られた情報を論理的に統合・整理し、自らの考えとともに分かりやすく表現できる。（技能）	アカデミックスキルズ	人体の成り立ちと機能（神経、感覚器、皮膚、消化器、泌尿器）	薬と疾病（呼吸器）薬と疾病（免疫アレルギー）			
5) インターネット上の情報が持つ意味・特徴を知り、情報倫理、情報セキュリティに配慮して活用できる。（知識・態度）	アカデミックスキルズ					
【②薬学教育の概要】						
1) 「薬剤師として求められる基本的な資質」について、具体例を挙げて説明できる。	薬学への招待	学修技法とスチューデントデベロPMENT				
2) 薬学が総合科学であることを認識し、薬剤師の役割と学習内容を関連づける。（知識・態度）	薬学への招待					
【③生涯学習】						
1) 生涯にわたって自ら学習する重要性を認識し、その意義について説明できる。		学修技法とスチューデントデベロPMENT	薬剤師の使命	キャリアデザイン	キャリア教育	
2) 生涯にわたって継続的に学習するために必要な情報を収集できる。（技能）	アカデミックスキルズ	学修技法とスチューデントデベロPMENT	薬剤師の使命			
【④次世代を担う人材の育成】						
1) 薬剤師の使命に後輩等の育成が含まれることを認識し、ロールモデルとなるように努める。（態度）		学修技法とスチューデントデベロPMENT				
2) 後輩等への適切な指導を実践する。（技能・態度）		学修技法とスチューデントデベロPMENT				
B 薬学と社会						
（1）人と社会に関わる薬剤師						
1) 人の行動がどのような要因によって決定されるのかについて説明できる。	人の行動と心理	薬剤師と医薬品に係る法規範Ⅰ		地域医療とプライマリ・ケア		
2) 人・社会が医薬品に対して抱く考え方や思いの多様性について討議する。（態度）		薬剤師と医薬品に係る法規範Ⅰ	調剤・患者対応入門	地域医療とプライマリ・ケア		
3) 人・社会の視点から薬剤師を取り巻く様々な仕組みと規制について討議する。（態度）		薬剤師と医薬品に係る法規範Ⅰ				
4) 薬剤師が倫理規範や法令を守ることの重要性について討議する。（態度）		薬剤師と医薬品に係る法規範Ⅰ				
5) 倫理規範や法令に則した行動を取る。（態度）			薬剤師と医薬品に係る法規範Ⅱ	実務実習事前学修 病院実習1	病院実習2、薬局実習、学部連携病棟実習、学部連携地域医療実習	学部連携病棟実習、学部連携地域医療実習
（2）薬剤師と医薬品等に係る法規範						
【①薬剤師の社会的位置づけと責任に係る法規範】						
1) 薬剤師に関わる法令とその構成について説明できる。		薬剤師と医薬品に係る法規範Ⅰ				
2) 薬剤師免許に関する薬剤師法の規定について説明できる。		薬剤師と医薬品に係る法規範Ⅰ				
3) 薬剤師の任務や業務に関する薬剤師法の規定とその意義について説明できる。		個人・集団・社会と健康 薬剤師と医薬品に係る法規範Ⅰ				
4) 薬剤師以外の医療職種の任務に関する法令の規定について概説できる。		薬剤師と医薬品に係る法規範Ⅰ				
5) 医療の理念と医療の担い手の責務に関する医療法の規定とその意義について説明できる。	法学（選）	薬剤師と医薬品に係る法規範Ⅰ				
6) 医療提供体制に関する医療法の規定とその意義について説明できる。	法学（選）	薬剤師と医薬品に係る法規範Ⅰ				
7) 個人情報の取扱いについて概説できる。	初年次体験実習、アカデミックスキルズ、地域医療入門		薬剤師と医薬品に係る法規範Ⅱ		病院実習1、病院実習2、薬局実習、学部連携病棟実習、学部連携地域医療実習	学部連携病棟実習、学部連携地域医療実習

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【②医薬品等の品質、有効性及び安全性の確保に係る法規範】						
8）薬剤師の刑事責任、民事責任（製造物責任を含む）について概説できる。		薬剤師と医薬品に係る法規範Ⅰ	薬剤師と医薬品に係る法規範Ⅱ			
1）「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の目的及び医薬品等（医薬品（薬局医薬品、要指導医薬品、一般用医薬品）、医薬部外品、化粧品、医療機器、再生医療等 製品）の定義について説明できる。		薬剤師と医薬品に係る法規範Ⅰ	薬剤師と医薬品に係る法規範Ⅱ			
2）医薬品の開発から承認までのプロセスと法規範について概説できる。			薬剤師と医薬品に係る法規範Ⅱ		医薬品評価と開発	
3）治験の意義と仕組みについて概説できる。			薬剤師と医薬品に係る法規範Ⅱ		医薬品評価と開発	
4）医薬品等の製造販売及び製造に係る法規範について説明できる。			薬剤師と医薬品に係る法規範Ⅱ			
5）製造販売後調査制度及び製造販売後安全対策について説明できる。			薬剤師と医薬品に係る法規範Ⅱ			
6）薬局、医薬品販売業及び医療機器販売業に係る法規範について説明できる。		薬剤師と医薬品に係る法規範Ⅰ	薬剤師と医薬品に係る法規範Ⅱ			
7）医薬品等の取扱いに関する「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の規定について説明できる。		薬剤師と医薬品に係る法規範Ⅰ	薬剤師と医薬品に係る法規範Ⅱ			
8）日本薬局方の意義と構成について説明できる。		薬剤師と医薬品に係る法規範Ⅰ 医薬品の検出と定量				
9）生物由来製品の取扱いと血液供給体制に係る法規範について説明できる。			薬剤師と医薬品に係る法規範Ⅱ			
10）健康被害救済制度について説明できる。			薬剤師と医薬品に係る法規範Ⅱ			
11）レギュラトリーサイエンスの必要性と意義について説明できる。			薬剤師と医薬品に係る法規範Ⅱ			
【③特別な管理を要する薬物等に係る法規範】						
1）麻薬、向精神薬、覚醒剤原料等の取扱いに係る規定について説明できる。			薬剤師と医薬品に係る法規範Ⅱ			
2）覚醒剤、大麻、あへん、指定薬物等の乱用防止規制について概説できる。			薬剤師と医薬品に係る法規範Ⅱ			
3）毒物劇物の取扱いに係る規定について概説できる。			薬剤師と医薬品に係る法規範Ⅱ			
【③ 社会保障制度と医療経済】						
【①医療、福祉、介護の制度】						
1）日本の社会保障制度の枠組みと特徴について説明できる。	地域医療入門		社会保障制度と医療経済			
2）医療保険制度について説明できる。			社会保障制度と医療経済			
3）療養担当規則について説明できる。			社会保障制度と医療経済			
4）公費負担医療制度について概説できる。			社会保障制度と医療経済			
5）介護保険制度について概説できる。			社会保障制度と医療経済			
6）薬価基準制度について概説できる。			社会保障制度と医療経済			
7）調剤報酬、診療報酬及び介護報酬の仕組みについて概説できる。			社会保障制度と医療経済			
【②医薬品と医療の経済性】						
1）医薬品の市場の特徴と流通の仕組みについて概説できる。			社会保障制度と医療経済			
2）国民医療費の動向について概説できる。			社会保障制度と医療経済			
3）後発医薬品とその役割について説明できる。			社会保障制度と医療経済			
4）薬物療法の経済評価手法について概説できる。			社会保障制度と医療経済			
【④ 地域における薬局と薬剤師】						
【①地域における薬局の役割】						
1）地域における薬局の機能と業務について説明できる。	地域医療入門		社会保障制度と医療経済	地域医療とプライマリ・ケア 実務実習事前学修	症候と疾患推測、学部連携地域医療実習、薬局実習	学部連携地域医療実習
2）医薬分業の意義と動向を説明できる。			社会保障制度と医療経済		薬局実習	
3）かかりつけ薬局・薬剤師による薬学的管理の意義について説明できる。			社会保障制度と医療経済	地域医療とプライマリ・ケア 実務実習事前学修	薬局実習	
4）セルフメディケーションにおける薬局の役割について説明できる。			社会保障制度と医療経済	地域医療とプライマリ・ケア 実務実習事前学修	症候と疾患推測、薬局実習	
5）災害時の薬局の役割について説明できる。				地域医療とプライマリ・ケア	薬局実習	
6）医療費の適正化に薬局が果たす役割について説明できる。			社会保障制度と医療経済		薬局実習	
【②地域における保健、医療、福祉の連携体制と薬剤師】						
1）地域包括ケアの理念について説明できる。	地域医療入門	在宅チーム医療と倫理 TBLⅡ	社会保障制度と医療経済、学部連携チーム医療PBLⅡ・在宅ケア	地域医療とプライマリ・ケア、学部連携チーム医療PBLⅢ・在宅チーム医療と倫理TBLⅢ	学部連携地域医療実習、薬局実習	学部連携地域医療実習
2）在宅医療及び居宅介護における薬局と薬剤師の役割について説明できる。	地域医療入門	在宅チーム医療と倫理 TBLⅡ	社会保障制度と医療経済、学部連携チーム医療PBLⅢ・在宅ケア	地域医療とプライマリ・ケア 実務実習事前学修	学部連携地域医療実習、薬局実習	学部連携地域医療実習
3）学校薬剤師の役割について説明できる。		生活環境と健康	社会保障制度と医療経済	地域医療とプライマリ・ケア	薬局実習	
4）地域の保健、医療、福祉において利用可能な社会資源について概説できる。	地域医療入門		社会保障制度と医療経済	地域医療とプライマリ・ケア	学部連携地域医療実習、薬局実習	学部連携地域医療実習
5）地域から求められる医療提供施設、福祉施設及び行政との連携について討議する。（知識・態度）			社会保障制度と医療経済	地域医療とプライマリ・ケア	学部連携地域医療実習、薬局実習	学部連携地域医療実習
C 薬学基礎						
G1 物質の物理的性質						
（1）物質の構造						
【①化学結合】						
1）化学結合の様式について説明できる。	生命活動を担う分子（生命の基本単位）、基礎サイエンス実習、化学の基礎	物質の構造				

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
2) 分子軌道の基本概念および軌道の混成について説明できる。	化学の基礎	物質の構造				
3) 共役や共鳴の概念を説明できる。	有機化合物の構造と性質、化学の基礎	物質の構造				
【②分子間相互作用】						
1) ファンデルワールス力について説明できる。	薬となる化合物の構造と性質、化学の基礎	物質の構造			応用薬学演習	
2) 静電相互作用について例を挙げて説明できる。	薬となる化合物の構造と性質、化学の基礎、物理の基礎	物質の構造			応用薬学演習	
3) 双極子間相互作用について例を挙げて説明できる。	薬となる化合物の構造と性質、化学の基礎	物質の構造			応用薬学演習	
4) 分散力について例を挙げて説明できる。	薬となる化合物の構造と性質、化学の基礎	物質の構造			応用薬学演習	
5) 水素結合について例を挙げて説明できる。	薬となる化合物の構造と性質、基礎サイエンス実習、化学の基礎	物質の構造			応用薬学演習	
6) 電荷移動相互作用について例を挙げて説明できる。	薬となる化合物の構造と性質、化学の基礎	物質の構造			応用薬学演習	
7) 疎水性相互作用について例を挙げて説明できる。	薬となる化合物の構造と性質、化学の基礎	物質の構造			応用薬学演習	
【③原子・分子の挙動】						
1) 電磁波の性質および物質との相互作用を説明できる。	化学の基礎、基礎サイエンス実習、物理の基礎	物質の構造			応用薬学演習	
2) 分子の振動、回転、電子遷移について説明できる。	化学の基礎、基礎サイエンス実習、物理の基礎	物質の構造			応用薬学演習	
3) 電子や核のスピンとその磁気共鳴について説明できる。	化学の基礎、物理の基礎				応用薬学演習	
4) 光の屈折、偏光、および旋光性について説明できる。		物質の構造				
5) 光の散乱および干渉について説明できる。	基礎サイエンス実習、物理の基礎	物質の構造				
6) 結晶構造と回折現象について概説できる。		物質の構造				
【④放射線と放射能】						
1) 原子の構造と放射壊変について説明できる。	化学の基礎	物質の構造		放射性医薬品の利用と管理		
2) 電離放射線の種類を列挙し、それらの性質および物質との相互作用について説明できる。	化学の基礎	物質の構造、生活環境と健康		放射性医薬品の利用と管理		
3) 代表的な放射性核種の物理的性質について説明できる。		物質の構造		放射性医薬品の利用と管理		
4) 核反応および放射平衡について説明できる。		物質の構造		放射性医薬品の利用と管理		
5) 放射線測定の方法と利用について概説できる。		物質の構造		放射性医薬品の利用と管理		
【⑤物質のエネルギーと平衡】						
【①気体の微視的状態と巨視的状態】						
1) ファンデルワールスの状態方程式について説明できる。		物質の状態と変化			応用薬学演習	
2) 気体の分子運動とエネルギーの関係について説明できる。	熱力学・化学平衡概論	物質の状態と変化			応用薬学演習	
3) エネルギーの量子化とボルツマン分布について説明できる。	熱力学・化学平衡概論	物質の状態と変化			応用薬学演習	
【②エネルギー】						
1) 熱力学における系、外界、境界について説明できる。	熱力学・化学平衡概論	物質の状態と変化			応用薬学演習	
2) 熱力学第一法則を説明できる。	熱力学・化学平衡概論	物質の状態と変化			応用薬学演習	
3) 状態関数と経路関数の違いを説明できる。	熱力学・化学平衡概論	物質の状態と変化			応用薬学演習	
4) 定圧過程、定容過程、等温過程、断熱過程を説明できる。	熱力学・化学平衡概論	物質の状態と変化			応用薬学演習	
5) 定容熱容量および定圧熱容量について説明できる。	熱力学・化学平衡概論	物質の状態と変化			応用薬学演習	
6) エンタルピーについて説明できる。	熱力学・化学平衡概論	物質の状態と変化			応用薬学演習	
7) 化学変化に伴うエンタルピー変化について説明できる。	熱力学・化学平衡概論	物質の状態と変化			応用薬学演習	
【③自発的な変化】						
1) エントロピーについて説明できる。	熱力学・化学平衡概論	物質の状態と変化			応用薬学演習	
2) 熱力学第二法則について説明できる。	熱力学・化学平衡概論	物質の状態と変化			応用薬学演習	
3) 熱力学第三法則について説明できる。	熱力学・化学平衡概論	物質の状態と変化			応用薬学演習	
4) ギブズエネルギーについて説明できる。	熱力学・化学平衡概論	物質の状態と変化			応用薬学演習	
5) 熱力学関数を使い、自発的な変化の方向と程度を予測できる。	熱力学・化学平衡概論	物質の状態と変化			応用薬学演習	
【④化学平衡の原理】						
1) ギブズエネルギーと化学ポテンシャルの関係を説明できる。	熱力学・化学平衡概論	物質の状態と変化	溶液の性質		応用薬学演習	
2) ギブズエネルギーと平衡定数の関係を説明できる。	熱力学・化学平衡概論	物質の状態と変化			応用薬学演習	
3) 平衡定数に及ぼす圧力および温度の影響について説明できる。	熱力学・化学平衡概論	物質の状態と変化			応用薬学演習	
4) 共役反応の原理について説明できる。	熱力学・化学平衡概論	物質の状態と変化			応用薬学演習	
【⑤相平衡】						
1) 相変化に伴う熱の移動について説明できる。			溶液の性質		応用薬学演習	
2) 相平衡と相律について説明できる。			溶液の性質		応用薬学演習	
3) 状態図について説明できる。			溶液の性質		応用薬学演習	
【⑥溶液の性質】						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	試 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
1) 希薄溶液の束一的性質について説明できる。	熱力学・化学平衡概論		溶液の性質		応用薬学演習	
2) 活量と活量係数について説明できる。	熱力学・化学平衡概論		溶液の性質		応用薬学演習	
3) 電解質溶液の電気伝導率およびモル伝導率の濃度による変化を説明できる。	熱力学・化学平衡概論		溶液の性質		応用薬学演習	
4) イオン強度について説明できる。	熱力学・化学平衡概論		溶液の性質		応用薬学演習	
【⑦電気化学】						
1) 起電力とギブズエネルギーの関係について説明できる。			溶液の性質		応用薬学演習	
2) 電極電位（酸化還元電位）について説明できる。		化学平衡	溶液の性質		応用薬学演習	
【⑧物質の変化】						
【①反応速度】						
1) 反応次数と速度定数について説明できる。		物質の状態と変化、有機化合物の反応			応用薬学演習	
2) 微分型速度式を積分型速度式に変換できる。（知識・技能）		物質の状態と変化			応用薬学演習	
3) 代表的な反応次数の決定法を列挙し、説明できる。		物質の状態と変化、有機化合物の反応			応用薬学演習	
4) 代表的な(擬)一次反応の反応速度を測定し、速度定数を求めることができる。（技能）		物質の性質・分析・製剤化と製剤試験法 実習			応用薬学演習	
5) 代表的な複合反応（可逆反応、平行反応、連続反応など）の特徴について説明できる。		物質の状態と変化			応用薬学演習	
6) 反応速度と温度との関係を説明できる。	熱力学・化学平衡概論	物質の状態と変化、物質の性質・分析・製剤化と製剤試験法 実習			応用薬学演習	
7) 代表的な触媒反応（酸・塩基触媒反応、酵素反応など）について説明できる。		物質の状態と変化			応用薬学演習	
⑧2 化学物質の分析						
【①分析の基礎】						
1) 分析に用いる器具を正しく使用できる。（知識・技能）	基礎サイエンス実習	物質の性質・分析・製剤化と製剤試験法 実習				
2) 測定値を適切に取り扱うことができる。（知識・技能）	基礎サイエンス実習	物質の性質・分析・製剤化と製剤試験法 実習				
3) 分析法のバリデーションについて説明できる。		医薬品の検出と定量	臨床で用いる分析技術			
【②溶液中の化学平衡】						
【①酸・塩基平衡】						
1) 酸・塩基平衡の概念について説明できる。	熱力学・化学平衡概論、基礎サイエンス実習	化学平衡、薬学基礎から薬物治療へ 演習			応用薬学演習	
2) pH および解離定数について説明できる。（知識・技能）	熱力学・化学平衡概論、基礎サイエンス実習	化学平衡			応用薬学演習	
3) 溶液の pH を測定できる。（技能）	熱力学・化学平衡概論、基礎サイエンス実習	物質の性質・分析・製剤化と製剤試験法 実習			応用薬学演習	
4) 緩衝作用や緩衝液について説明できる。	熱力学・化学平衡概論、基礎サイエンス実習	化学平衡			応用薬学演習	
【②各種の化学平衡】						
1) 錯体・キレート生成平衡について説明できる。	基礎サイエンス実習	化学平衡			応用薬学演習	
2) 沈殿平衡について説明できる。	基礎サイエンス実習	化学平衡			応用薬学演習	
3) 酸化還元平衡について説明できる。	基礎サイエンス実習	化学平衡			応用薬学演習	
4) 分配平衡について説明できる。		化学平衡			応用薬学演習	
【③化学物質の定性分析・定量分析】						
【①定性分析】						
1) 代表的な無機イオンの定性反応を説明できる。	基礎サイエンス実習	医薬品の検出と定量			応用薬学演習	
2) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の確認試験を列挙し、その内容を説明できる。		医薬品の検出と定量			応用薬学演習	
【②定量分析（容量分析・重量分析）】						
1) 中和滴定（非水滴定を含む）の原理、操作法および応用例を説明できる。		物質の性質・分析・製剤化と製剤試験法 実習、医薬品の検出と定量			応用薬学演習	
2) キレート滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。		医薬品の検出と定量			応用薬学演習	
3) 沈殿滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。		医薬品の検出と定量			応用薬学演習	
4) 酸化還元滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。	基礎サイエンス実習	医薬品の検出と定量			応用薬学演習	
5) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の容量分析を実施できる。（知識・技能）		物質の性質・分析・製剤化と製剤試験法 実習、医薬品の検出と定量			応用薬学演習	
6) 日本薬局方収載の代表的な純度試験を列挙し、その内容を説明できる。		医薬品の検出と定量			応用薬学演習	
7) 日本薬局方収載の重量分析法の原理および操作法を説明できる。		医薬品の検出と定量			応用薬学演習	
【④機器を用いる分析法】						
【①分光分析法】						
1) 紫外可視吸光度測定法の原理および応用例を説明できる。	基礎サイエンス実習		臨床で用いる分析技術			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
2) 蛍光光度法の原理および応用例を説明できる。			臨床で用いる分析技術			
3) 赤外吸収（IR）スペクトル測定法の原理および応用例を説明できる。	物理の基礎、基礎サイエンス実習		機器分析			
4) 原子吸光光度法、誘導結合プラズマ（ICP）発光分光分析法および ICP 質量分析法の原理および応用例を説明できる。			臨床で用いる分析技術			
5) 旋光度測定法（旋光分散）の原理および応用例を説明できる。			機器分析			
6) 分光分析法を用いて、日本薬局方収載の代表的な医薬品の分析を実施できる。（技能）			臨床で用いる分析技術			
【②核磁気共鳴（NMR）スペクトル測定法】						
1) 核磁気共鳴（NMR）スペクトル測定法の原理および応用例を説明できる。	化学の基礎、物理の基礎		機器分析		応用薬学演習	
【③質量分析法】						
1) 質量分析法の原理および応用例を説明できる。			機器分析			
【④X線分析法】						
1) X線結晶解析の原理および応用例を概説できる。			機器分析			
2) 粉末X線回折測定法の原理と利用法について概説できる。		物質の構造				
【⑤熱分析】						
1) 熱重量測定法の原理を説明できる。			機器分析			
2) 示差熱分析法および示差走査熱量測定法について説明できる。			機器分析			
【⑥分離分析法】						
【①クロマトグラフィー】						
1) クロマトグラフィーの分離機構を説明できる。	基礎サイエンス実習		臨床で用いる分析技術			
2) 薄層クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。	基礎サイエンス実習		臨床で用いる分析技術			
3) 液体クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。			臨床で用いる分析技術	薬毒物と中毒		
4) ガスクロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。			臨床で用いる分析技術	薬毒物と中毒		
5) クロマトグラフィーを用いて試料を定性・定量できる。（知識・技能）			臨床で用いる分析技術			
【②電気泳動法】						
1) 電気泳動法の原理および応用例を説明できる。			臨床で用いる分析技術			
【⑥臨床現場で用いる分析技術】						
【①分析の準備】						
1) 分析目的に即した試料の前処理法を説明できる。			臨床で用いる分析技術	薬毒物と中毒		
2) 臨床分析における精度管理および標準物質の意義を説明できる。			臨床で用いる分析技術			
【②分析技術】						
1) 臨床分析で用いられる代表的な分析法を列挙できる。			臨床で用いる分析技術			
2) 免疫化学的測定法の原理を説明できる。			臨床で用いる分析技術			
3) 酵素を用いた代表的な分析法の原理を説明できる。			臨床で用いる分析技術			
4) 代表的なドライケミストリーについて概説できる。			臨床で用いる分析技術			
5) 代表的な画像診断技術（X線検査、MRI、超音波、内視鏡検査、核医学検査など）について概説できる。		人体の成り立ちと機能（実習）	臨床で用いる分析技術			
C3 化学物質の性質と反応						
(1) 化学物質の基本的性質						
【①基本事項】						
1) 代表的な化合物を IUPAC 規則に基づいて命名することができる。	有機化合物の構造と性質、化学の基礎	官能基の化学 有機化合物の反応			応用薬学演習	
2) 薬学領域で用いられる代表的な化合物を慣用名で記述できる。	有機化合物の構造と性質、 化学の基礎、基礎サイエンス実習	官能基の化学 有機化合物の反応			応用薬学演習	
3) 基本的な化合物を、ルイス構造式で書くことができる。	有機化合物の構造と性質、 化学の基礎				応用薬学演習	
4) 有機化合物の性質と共鳴の関係について説明できる。	有機化合物の構造と性質、 化学の基礎	有機化合物の反応			応用薬学演習	
5) ルイス酸・塩基、ブレンステッド酸・塩基を定義することができる。	有機化合物の構造と性質、基礎サイエンス実習				応用薬学演習	
6) 基本的な有機反応（置換、付加、脱離）の特徴を理解し、分類できる。	有機化合物の構造と性質、基礎サイエンス実習	有機化合物の反応			応用薬学演習	
7) 炭素原子を含む反応中間体（カルボカチオン、カルボアニオン、ラジカル）の構造と性質を説明できる。	有機化合物の構造と性質、 化学の基礎	有機化合物の反応			応用薬学演習	
8) 反応の過程を、エネルギー図を用いて説明できる。	有機化合物の構造と性質	有機化合物の反応			応用薬学演習	
9) 基本的な有機反応機構を、電子の動きを示す矢印を用いて表すことができる。（技能）	有機化合物の構造と性質	有機化合物の反応			応用薬学演習	
【②有機化合物の立体構造】						
1) 構造異性体と立体異性体の違いについて説明できる。	生命活動を担う分子（生命の基本単位）、化学の基礎、薬学演習	有機化合物の反応			応用薬学演習	
2) キラリティーと光学活性の関係を概説できる。	有機化合物の構造と性質				応用薬学演習	
3) エナンチオマーとジアステレオマーについて説明できる。	有機化合物の構造と性質	医薬品の化学			応用薬学演習	
4) ラセミ体とメソ体について説明できる。	有機化合物の構造と性質	医薬品の化学			応用薬学演習	
5) 絶対配置の表示法を説明し、キラリ化合物の構造を書くことができる。（知識・技能）	有機化合物の構造と性質、薬学演習	有機化合物の反応			応用薬学演習	

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	試 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
6) 炭素—炭素二重結合の立体異性 (cis, trans ならびに E, Z 異性) について説明できる。	有機化合物の構造と性質、薬学演習	有機化合物の反応			応用薬学演習	
7) フィッシャー投影式とニューマン投影式を用いて有機化合物の構造を書くことができる。(技能)	有機化合物の構造と性質		医薬品の化学			
8) エタン、ブタンの立体配座とその安定性について説明できる。	有機化合物の構造と性質、薬学演習					
【2) 有機化合物の基本骨格の構造と反応						
【①アルカン】						
1) アルカンの基本的な性質について説明できる。	化学の基礎				応用薬学演習	
2) アルカンの構造異性体を図示することができる。(技能)	化学の基礎				応用薬学演習	
3) シクロアルカンの環のひずみを決定する要因について説明できる。	化学の基礎				応用薬学演習	
4) シクロヘキサンのいす形配座における水素の結合方向 (アキシアル、エクアトリアル) を図示できる。(技能)	化学の基礎、薬学演習				応用薬学演習	
5) 置換シクロヘキサンの安定な立体配座を決定する要因について説明できる。	化学の基礎				応用薬学演習	
【②アルケン・アルキン】						
1) アルケンへの代表的な付加反応を列挙し、その特徴を説明できる。		有機化合物の反応			応用薬学演習	
2) アルケンの代表的な酸化、還元反応を列挙し、その特徴を説明できる。		有機化合物の反応			応用薬学演習	
3) アルキンの代表的な反応を列挙し、その特徴を説明できる。		有機化合物の反応			応用薬学演習	
【③芳香族化合物】						
1) 代表的な芳香族炭化水素化合物の性質と反応性を説明できる。	化学の基礎	官能基の化学			応用薬学演習	
2) 芳香族性の概念を説明できる。	化学の基礎	官能基の化学			応用薬学演習	
3) 芳香族炭化水素化合物の求電子置換反応の反応性、配向性、置換基の効果について説明できる。		官能基の化学			応用薬学演習	
4) 代表的な芳香族複素環化合物の性質を芳香族性と関連づけて説明できる。		官能基の化学	生体分子の化学		応用薬学演習	
5) 代表的な芳香族複素環の求電子置換反応の反応性、配向性、置換基の効果について説明できる。		官能基の化学	生体分子の化学		応用薬学演習	
【3) 官能基の性質と反応						
【①概説】						
1) 代表的な官能基を列挙し、性質を説明できる。	基礎サイエンス実習	官能基の化学			応用薬学演習	
2) 官能基の性質を利用した分離精製を実施できる。(技能)		医薬品の化学 (実習)			応用薬学演習	
【②有機ハロゲン化合物】						
1) 有機ハロゲン化合物の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化合物の反応			応用薬学演習	
2) 求核置換反応の特徴について説明できる。	基礎サイエンス実習	有機化合物の反応 薬学基礎から薬物治療へ 演習			応用薬学演習	
3) 脱離反応の特徴について説明できる。		有機化合物の反応			応用薬学演習	
【③アルコール・フェノール・エーテル】						
1) アルコール、フェノール類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。		官能基の化学			応用薬学演習	
2) エーテル類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。		官能基の化学			応用薬学演習	
【④アルデヒド・ケトン・カルボン酸・カルボン酸誘導体】						
1) アルデヒド類およびケトン類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。		官能基の化学	生体分子の化学		応用薬学演習	
2) カルボン酸の基本的性質と反応を列挙し、説明できる。			生体分子の化学		応用薬学演習	
3) カルボン酸誘導体 (酸ハロゲン化物、酸無水物、エステル、アミド) の基本的性質と反応を列挙し、説明できる。		薬学基礎から薬物治療へ 演習	生体分子の化学		応用薬学演習	
【⑤アミン】						
1) アミン類の基本的性質と反応を列挙し、説明できる。			生体分子の化学		応用薬学演習	
【⑥電子効果】						
1) 官能基が及ぼす電子効果について概説できる。		官能基の化学	生体分子の化学			
【⑦酸性度・塩基性度】						
1) アルコール、フェノール、カルボン酸、炭素酸などの酸性度を比較して説明できる。		官能基の化学	生体分子の化学		応用薬学演習	
2) 含窒素化合物の塩基性度を比較して説明できる。			生体分子の化学		応用薬学演習	
【4) 化学物質の構造決定						
【①核磁気共鳴 (NMR) 】						
1) ¹ H および ¹³ C NMR スペクトルより得られる情報を概説できる。	化学の基礎、物理の基礎		機器分析		応用薬学演習	
2) 有機化合物中の代表的プロトンについて、おおよその化学シフト値を示すことができる。			機器分析		応用薬学演習	
3) ¹ H NMR の積分値の意味を説明できる。	物理の基礎		機器分析		応用薬学演習	
4) ¹ H NMR シグナルが近接プロトンにより分裂 (カップリング) する基本的な分裂様式を説明できる。			機器分析		応用薬学演習	
5) 代表的な化合物の部分構造を ¹ H NMR から決定できる。(技能)			機器分析		応用薬学演習	
【②赤外吸収 (IR) 】						
1) IR スペクトルより得られる情報を概説できる。	基礎サイエンス実習、物理の基礎		機器分析			
2) IR スペクトル上の基本的な官能基の特性吸収を列挙し、帰属することができる。(知識・技能)	基礎サイエンス実習、物理の基礎		機器分析			
【③質量分析】						
1) マススペクトルより得られる情報を概説できる。			機器分析			
2) 測定化合物に適したイオン化法を選択できる。(技能)			機器分析			
3) ピークの種類 (基準ピーク、分子イオンピーク、同位体ピーク、フラグメントピーク) を説明できる。			機器分析			
4) 代表的な化合物のマススペクトルを解析できる。(技能)			機器分析			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【④総合演習】						
1) 代表的な機器分析法を用いて、代表的な化合物の構造決定ができる。(技能)			機器分析			
(5) 無機化合物・錯体の構造と性質						
【①無機化合物・錯体】						
1) 代表的な典型元素と遷移元素を列挙できる。	化学の基礎、基礎サイエンス実習		生体分子の化学			
2) 代表的な無機酸化物、オキソ化合物の名称、構造、性質を列挙できる。			生体分子の化学			
3) 活性酸素と窒素酸化物の名称、構造、性質を列挙できる。			生体分子の化学			
4) 代表的な錯体の名称、構造、基本的な性質を説明できる。	化学の基礎、基礎サイエンス実習		生体分子の化学			
5) 医薬品として用いられる代表的な無機化合物、および錯体を列挙できる。			生体分子の化学			
04 生体分子・医薬品の化学による理解						
(1) 医薬品の標的となる生体分子の構造と化学的な性質						
【①医薬品の標的となる生体高分子の化学構造】						
1) 代表的な生体高分子を構成する小分子（アミノ酸、糖、脂質、ヌクレオチドなど）の構造に基づく化学的性質を説明できる。	化学の基礎、基礎サイエンス実習		医薬品の化学			
2) 医薬品の標的となる生体高分子（タンパク質、核酸など）の立体構造とそれを規定する化学結合、相互作用について説明できる。	薬学演習	薬の作用と生体内運命	医薬品の化学			
【②生体内で機能する小分子】						
1) 細胞膜受容体および細胞内（核内）受容体の代表的な内因性リガンドの構造と性質について概説できる。		薬の作用と生体内運命	医薬品の化学			
2) 代表的な補酵素が酵素反応で果たす役割について、有機反応機構の観点から説明できる。			医薬品の化学			
3) 活性酸素、一酸化窒素の構造に基づく生体内反応を化学的に説明できる。		薬の作用と生体内運命	医薬品の化学			
4) 生体内に存在する代表的な金属イオンおよび錯体の機能を化学的に説明できる。			医薬品の化学			
(2) 生体反応の化学による理解						
【①生体内で機能するリン、硫黄化合物】						
1) リン化合物（リン酸誘導体など）および硫黄化合物（チオール、ジスルフィド、チオエステルなど）の構造と化学的性質を説明できる。			医薬品の化学			
2) リン化合物（リン酸誘導体など）および硫黄化合物（チオール、ジスルフィド、チオエステルなど）の生体内での機能を化学的性質に基づき説明できる。			医薬品の化学			
【②酵素阻害剤と作用機序】						
1) 不可逆的酵素阻害剤の作用を酵素の反応機構に基づいて説明できる。				薬となる化合物の構造と性質		
2) 基質アナログが競合阻害剤となることを酵素の反応機構に基づいて説明できる。				薬となる化合物の構造と性質		
3) 遷移状態アナログが競合阻害剤となることを酵素の反応機構に基づいて説明できる。				薬となる化合物の構造と性質		
【③受容体のアゴニストおよびアンタゴニスト】						
1) 代表的な受容体のアゴニスト（作用薬、作動薬、刺激薬）とアンタゴニスト（拮抗薬、遮断薬）との相違点について、内因性リガンドの構造と比較して説明できる。		薬の作用と生体内運命		薬となる化合物の構造と性質		
2) 低分子内因性リガンド誘導体が医薬品として用いられている理由を説明できる。		薬の作用と生体内運命		薬となる化合物の構造と性質		
【④生体内で起こる有機反応】						
1) 代表的な生体分子（脂肪酸、コレステロールなど）の代謝反応を有機化学の観点から説明できる。				薬となる化合物の構造と性質		
2) 異物代謝の反応（発がん性物質の代謝的活性化など）を有機化学の観点から説明できる。				薬となる化合物の構造と性質		
(3) 医薬品の化学構造と性質、作用						
【①医薬品と生体分子の相互作用】						
1) 医薬品と生体分子との相互作用を化学的な観点（結合親和性と自由エネルギー変化、電子効果、立体効果など）から説明できる。				薬となる化合物の構造と性質		
【②医薬品の化学構造に基づく性質】						
1) 医薬品の構造からその物理化学的性質（酸性、塩基性、疎水性、親水性など）を説明できる。				薬となる化合物の構造と性質		
2) プロドラッグなどの薬物動態を考慮した医薬品の化学構造について説明できる。			医薬品・化学物質の代謝反応	薬となる化合物の構造と性質		
【③医薬品のコンポーネント】						
1) 代表的な医薬品のファーマコフォアについて概説できる。				薬となる化合物の構造と性質		
2) バイオアイソスター（生物学的等価体）について、代表的な例を挙げて概説できる。				薬となる化合物の構造と性質		
3) 医薬品に含まれる代表的な複素環を構造に基づいて分類し、医薬品コンポーネントとしての性質を説明できる。				薬となる化合物の構造と性質		
【④酵素に作用する医薬品の構造と性質】						
1) ヌクレオシドおよび核酸塩基アナログを有する代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				薬となる化合物の構造と性質		
2) フェニル酢酸、フェニルプロピオン酸構造などをもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				薬となる化合物の構造と性質		
3) スルホンアミド構造をもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				薬となる化合物の構造と性質		
4) キノロン骨格をもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				薬となる化合物の構造と性質		
5) β -ラクタム構造をもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				薬となる化合物の構造と性質		
6) ペプチドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				薬となる化合物の構造と性質		
【⑤受容体に作用する医薬品の構造と性質】						
1) カテコールアミン骨格を有する代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。		薬の効き方		薬となる化合物の構造と性質		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
2) アセチルコリンアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。		薬の効き方		薬となる化合物の構造と性質		
3) ステロイドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				薬となる化合物の構造と性質		
4) ペンゾジアゼピン骨格およびバルビタール骨格を有する代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				薬となる化合物の構造と性質		
5) オピオイドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				薬となる化合物の構造と性質		
【⑥DNA に作用する医薬品の構造と性質】						
1) DNAと結合する医薬品（アルキル化剤、シスプラチン類）を列挙し、それらの化学構造と反応機構を説明できる。				薬となる化合物の構造と性質		
2) DNAにインターカレートする医薬品を列挙し、それらの構造上の特徴を説明できる。				薬となる化合物の構造と性質		
3) DNA鎖を切断する医薬品を列挙し、それらの構造上の特徴を説明できる。				薬となる化合物の構造と性質		
【⑦イオンチャネルに作用する医薬品の構造と性質】						
1) イオンチャネルに作用する医薬品の代表的な基本構造（ジヒドロピリジンなど）の特徴を説明できる。			薬と疾病（循環器系疾患）	薬となる化合物の構造と性質		
C 薬学基礎						
G5 自然が生み出す薬物						
(1) 薬になる動植物						
【①薬用植物】						
1) 代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを挙げることができる。	漢方薬になる動植物					
2) 代表的な薬用植物を外形形態から説明し、区別できる。（知識、技能）	漢方薬になる動植物 薬用植物・生薬演習					
3) 植物の主な内部形態について説明できる。	薬用植物・生薬演習					
4) 法律によって取り扱いが規制されている植物（ケシ、アサ）の特徴を説明できる。		薬の宝庫としての天然物		漢方医学の実践		
【②生薬の基礎】						
1) 日本薬局方収載の代表的な生薬（植物、動物、藻類、菌類由来）を列挙し、その基原、薬用部位を説明できる。	漢方薬になる動植物				応用薬学演習	
【③生薬の用途】						
1) 日本薬局方収載の代表的な生薬（植物、動物、藻類、菌類、鉱物由来）の薬効、成分、用途などを説明できる。	漢方薬になる動植物				応用薬学演習	
2) 副作用や使用上の注意が必要な代表的な生薬を列挙し、説明できる。				漢方医学の実践	応用薬学演習	
【④生薬の同定と品質評価】						
1) 生薬の同定と品質評価法について概説できる。	漢方薬になる動植物 薬用植物・生薬演習				応用薬学演習	
2) 日本薬局方の生薬総則および生薬試験法について説明できる。	漢方薬になる動植物 薬用植物・生薬演習				応用薬学演習	
3) 代表的な生薬を鑑別できる。（技能）	漢方薬になる動植物 薬用植物・生薬演習				応用薬学演習	
4) 代表的な生薬の確認試験を説明できる。	漢方薬になる動植物 薬用植物・生薬演習	薬の宝庫としての天然物			応用薬学演習	
5) 代表的な生薬の純度試験を説明できる。	漢方薬になる動植物 薬用植物・生薬演習				応用薬学演習	
(2) 薬の宝庫としての天然物						
【①生薬由来の生物活性物質の構造と作用】						
1) 生薬由来の代表的な生物活性物質を化学構造に基づいて分類し、それらの生合成経路を概説できる。		薬の宝庫としての天然物			応用薬学演習	
2) 脂質や糖質に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。		薬の宝庫としての天然物			応用薬学演習	
3) 芳香族化合物に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。		薬の宝庫としての天然物			応用薬学演習	
4) テルペノイド、ステロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。		薬の宝庫としての天然物			応用薬学演習	
5) アルカロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。		薬の宝庫としての天然物			応用薬学演習	
【②微生物由来の生物活性物質の構造と作用】						
1) 微生物由来の生物活性物質を化学構造に基づいて分類できる。		薬の宝庫としての天然物			応用薬学演習	
2) 微生物由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。		薬の宝庫としての天然物			応用薬学演習	
【③天然生物活性物質の取扱い】						
1) 天然生物活性物質の代表的な抽出法、分離精製法を概説し、実施できる。（知識、技能）		薬の宝庫としての天然物			応用薬学演習	
【④天然生物活性物質の利用】						
1) 医薬品として使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。		薬の宝庫としての天然物			応用薬学演習	
2) 天然生物活性物質を基に化学修飾等により開発された代表的な医薬品を列挙し、その用途、リード化合物を説明できる。		薬の宝庫としての天然物			応用薬学演習	
3) 農薬や香料品などとして使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。		薬の宝庫としての天然物			応用薬学演習	
G6 生命現象の基礎						
(1) 細胞の構造と機能						
【①細胞膜】						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
1) 細胞膜を構成する代表的な生体成分を列挙し、その機能を分子レベルで説明できる。	生命活動を担う分子（生命の基本単位）、基礎サイエンス実習	薬の作用と生体内運命、生命活動を担う分子（物質輸送とエネルギー産生）			応用薬学演習	
2) エンドサイトーシスとエキソサイトーシスについて説明できる。	生命活動を担う分子（生命の基本単位）	薬の作用と生体内運命、生命活動を担う分子（物質輸送とエネルギー産生）			応用薬学演習	
【②細胞小器官】						
1) 細胞小器官（核、ミトコンドリア、小胞体、リソソーム、ゴルジ体、ペルオキシソームなど）やリボソームの構造と機能を説明できる。	生命活動を担う分子（生命の基本単位）、基礎サイエンス実習	生命活動を担う分子（物質輸送とエネルギー産生）			応用薬学演習	
【③細胞骨格】						
1) 細胞骨格の構造と機能を説明できる。		生命活動を担う分子（細胞の構造・機能と情報伝達）			応用薬学演習	
(2) 生命現象を担う分子						
【①脂質】						
1) 代表的な脂質の種類、構造、性質、役割を説明できる。	生命活動を担う分子（生命の基本単位）、生命活動を担う分子（細胞構成因子）		医薬品の化学	分子・細胞から生理・病態へ		
【②糖質】						
1) 代表的な単糖、二糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。	生命活動を担う分子（生命の基本単位）		医薬品の化学			
2) 代表的な多糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。	生命活動を担う分子（生命の基本単位）、生命活動を担う分子（細胞構成因子）、薬学演習		医薬品の化学			
【④アミノ酸】						
1) アミノ酸を列挙し、その構造に基づいて性質を説明できる。	生命活動を担う分子（生命の基本単位）、基礎サイエンス実習、生命活動を担う分子（細胞構成因子）		医薬品の化学			
【④タンパク質】						
1) タンパク質の構造（一次、二次、三次、四次構造）と性質を説明できる。	生命活動を担う分子（細胞構成因子）、薬学演習		医薬品の化学			
【⑤ヌクレオチドと核酸】						
1) ヌクレオチドと核酸（DNA、RNA）の種類、構造、性質を説明できる。	生命活動を担う分子（生命の基本単位）、生命活動を担う分子（細胞構成因子）		医薬品の化学			
【⑥ビタミン】						
1) 代表的なビタミンの種類、構造、性質、役割を説明できる。		生命活動を担う分子（代謝とその調節）				
【⑦微量元素】						
1) 代表的な必須微量元素の種類、役割を説明できる。	生命活動を担う分子（細胞構成因子）					
【⑧生体分子の定性、定量】						
1) 脂質、糖質、アミノ酸、タンパク質、もしくは核酸の定性または定量試験を実施できる。（技能）		生命体の成り立ち実習				
(3) 生命活動を担うタンパク質						
【①タンパク質の構造と機能】						
1) 多彩な機能をもつタンパク質（酵素、受容体、シグナル分子、膜輸送体、運搬・輸送タンパク質、貯蔵タンパク質、構造タンパク質、接着タンパク質、防御タンパク質、調節タンパク質）を列挙し概説できる。	生命活動を担う分子（生命の基本単位）、生命活動を担う分子（細胞構成因子）	生命活動を担う分子（細胞の構造・機能と情報伝達）、薬の作用と生体内運命			応用薬学演習	
【②タンパク質の成熟と分解】						
1) タンパク質の翻訳後の成熟過程（細胞小器官間の輸送や翻訳後修飾）について説明できる。	生命活動を担う分子（生命の基本単位）	生命活動を担う分子（物質輸送とエネルギー産生）			応用薬学演習	
2) タンパク質の細胞内での分解について説明できる。		生命活動を担う分子（物質輸送とエネルギー産生）			応用薬学演習	
【③酵素】						
1) 酵素反応の特性と反応速度論を説明できる。	生命活動を担う分子（細胞構成因子）	生命体の成り立ち 実習				
2) 酵素反応における補酵素、微量元素の役割を説明できる。	生命活動を担う分子（細胞構成因子）	生命体の成り立ち 実習				
3) 代表的な酵素活性調節機構を説明できる。	生命活動を担う分子（細胞構成因子）	生命体の成り立ち 実習				
4) 酵素反応速度を測定し、解析できる。（技能）		生命体の成り立ち 実習				
【④酵素以外のタンパク質】						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	試 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
1) 膜輸送体の種類、構造、機能を説明できる。	生命活動を担う分子（生命の基本単位）	薬の作用と生体内運命、生命活動を担う分子（物質輸送とエネルギー産生）、薬の作用と生体内運命				
2) 血漿リボタンパク質の種類、構造、機能を説明できる。		生命活動を担う分子（代謝とその調節）		分子・細胞から生理・病態へ		
【4】生命情報を担う遺伝子						
【①概論】						
1) 遺伝情報の保存と発現の流れを説明できる。	生命活動を担う分子（生命の基本単位）、生命活動を担う分子（細胞構成因子）				応用薬学演習	
2) DNA、遺伝子、染色体、ゲノムとは何かを説明できる。	生命活動を担う分子（細胞構成因子）、生命活動を担う分子（細胞構成因子）				応用薬学演習	
【②遺伝情報を担う分子】						
1) 染色体の構造（ヌクレオソーム、クロマチン、セントロメア、テロメアなど）を説明できる。	生命活動を担う分子（細胞構成因子）、生命活動を担う分子（細胞構成因子）				応用薬学演習	
2) 遺伝子の構造（プロモーター、エンハンサー、エキソン、イントロンなど）を説明できる。	生命活動を担う分子（細胞構成因子）				応用薬学演習	
3) RNA の種類（hnRNA、mRNA、rRNA、tRNA など）と機能について説明できる。	生命活動を担う分子（細胞構成因子）、生命活動を担う分子（細胞構成因子）				応用薬学演習	
【③遺伝子の複製】						
1) DNA の複製の過程について説明できる。	生命活動を担う分子（細胞構成因子）					
【④転写・翻訳の過程と調節】						
1) DNA から RNA への転写の過程について説明できる。	生命活動を担う分子（細胞構成因子）					
2) エピジェネティックな転写制御について説明できる。	生命活動を担う分子（細胞構成因子）					
3) 転写因子による転写制御について説明できる。	生命活動を担う分子（細胞構成因子）					
4) RNA のプロセッシング（キャップ構造、スプライシング、snRNP、ポリA鎖など）について説明できる。	生命活動を担う分子（細胞構成因子）					
5) RNA からタンパク質への翻訳の過程について説明できる。	生命活動を担う分子（細胞構成因子）					
【⑤遺伝子の変異・修復】						
1) DNA の変異と修復について説明できる。	生命活動を担う分子（細胞構成因子）					
【⑥組換え DNA】						
1) 遺伝子工学技術（遺伝子クローニング、cDNA クローニング、PCR、組換えタンパク質発現法など）を概説できる。			生命活動を担う分子（ゲノム情報とバイオ医薬品）		応用薬学演習	
2) 遺伝子改変生物（遺伝子導入・欠損動物、クローン動物、遺伝子組換え植物）について概説できる。			生命活動を担う分子（ゲノム情報とバイオ医薬品）		応用薬学演習	
【5】生体エネルギーと生命活動を支える代謝系						
【①概論】						
1) エネルギー代謝の概要を説明できる。		生命活動を担う分子（物質輸送とエネルギー産生）、生命活動を担う分子（代謝とその調節）		分子・細胞から生理・病態へ		
【②ATP の産生と物質代謝】						
1) 解糖系及び乳酸の生成について説明できる。	生命活動を担う分子（生命の基本単位）	生命活動を担う分子（物質輸送とエネルギー産生）	医薬品の化学			
2) クエン酸回路（TCA サイクル）について説明できる。	生命活動を担う分子（生命の基本単位）	生命活動を担う分子（物質輸送とエネルギー産生）	医薬品の化学			
3) 電子伝達系（酸化的リン酸化）と ATP 合成酵素について説明できる。	生命活動を担う分子（生命の基本単位）	生命活動を担う分子（物質輸送とエネルギー産生）	医薬品の化学			
4) グリコーゲンの代謝について説明できる。		生命活動を担う分子（代謝とその調節）、薬学基礎から薬物治療へ演習		分子・細胞から生理・病態へ		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
5) 糖新生について説明できる。		生命活動を担う分子(代謝とその調節)、薬学基礎から薬物治療へ演習		分子・細胞から生理・病態へ		
【④崩壊代謝】						
1) 脂肪酸の生合成と β 酸化について説明できる。		生命活動を担う分子(代謝とその調節)、薬学基礎から薬物治療へ演習				
2) コレステロールの生合成と代謝について説明できる。		生命活動を担う分子(代謝とその調節)、薬学基礎から薬物治療へ演習		分子・細胞から生理・病態へ		
【④飢餓状態と飽食状態】						
1) 飢餓状態のエネルギー代謝（ケトン体の利用など）について説明できる。		生命活動を担う分子(代謝とその調節)				
2) 余剰のエネルギーを蓄えるしくみを説明できる。		生命活動を担う分子(代謝とその調節)				
【⑤その他の代謝系】						
1) アミノ酸分子中の炭素および窒素の代謝（尿素回路など）について説明できる。		生命活動を担う分子(代謝とその調節)				
2) ヌクレオチドの生合成と分解について説明できる。		生命活動を担う分子(代謝とその調節)				
3) ペントースリン酸回路について説明できる。		生命活動を担う分子(代謝とその調節)				
【6）細胞間コミュニケーションと細胞内情報伝達】						
【① 概論】						
1) 細胞間コミュニケーションにおける情報伝達様式を説明できる。		薬の作用と生体内運命、生命活動を担う分子(細胞の構造、機能と情報伝達)			応用薬学演習	
【②細胞内情報伝達】						
1) 細胞膜チャネル内蔵型受容体を介する細胞内情報伝達について説明できる。		生命活動を担う分子（細胞の構造、機能と情報伝達）、薬の作用と生体内運命	医薬品の化学		応用薬学演習	
2) 細胞膜受容体から G タンパク系を介する細胞内情報伝達について説明できる。		生命活動を担う分子（細胞の構造、機能と情報伝達）、薬の作用と生体内運命	医薬品の化学		応用薬学演習	
3) 細胞膜受容体タンパク質などのリン酸化を介する細胞内情報伝達について説明できる。		生命活動を担う分子（細胞の構造、機能と情報伝達）、薬の作用と生体内運命	医薬品の化学		応用薬学演習	
4) 細胞内情報伝達におけるセカンドメッセンジャーについて説明できる。		生命活動を担う分子（細胞の構造、機能と情報伝達）、薬の作用と生体内運命	医薬品の化学		応用薬学演習	
5) 細胞内（核内）受容体を介する細胞内情報伝達について説明できる。		生命活動を担う分子（細胞の構造、機能と情報伝達）、薬の作用と生体内運命	医薬品の化学		応用薬学演習	
【③細胞間コミュニケーション】						
1) 細胞間の接着構造、主な細胞接着分子の種類と特徴を説明できる。		生命活動を担う分子（細胞の構造、機能と情報伝達）				
2) 主な細胞外マトリックス分子の種類と特徴を説明できる。		生命活動を担う分子（細胞の構造、機能と情報伝達）				
【7）細胞の分裂と死】						
【①細胞分裂】						
1) 細胞周期とその制御機構について説明できる。	生命活動を担う分子（細胞構成因子）、基礎サイエンス実習	生命活動を担う分子（細胞の構造、機能と情報伝達）				
2) 体細胞と生殖細胞の細胞分裂について説明できる。	人体の成り立ちと機能（総論）、基礎サイエンス実習	生命活動を担う分子（細胞の構造、機能と情報伝達）				
【②細胞死】						
1) 細胞死（アポトーシスとネクローシス）について説明できる。	人体の成り立ちと機能（総論）	生理から病態へ、生命活動を担う分子（細胞の構造、機能と情報伝達）				
【③がん細胞】						
1) 正常細胞とがん細胞の違いについて説明できる。		生命活動を担う分子（細胞の構造、機能と情報伝達）				

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
2) がん遺伝子とがん抑制遺伝子について概説できる。		生命活動を担う分子 (細胞の構造、機能と情報伝達)		分子・細胞から生理・病態へ		
G7 人体の成り立ちと生体機能の調節						
(1) 人体の成り立ち						
【①遺伝】						
1) 遺伝子と遺伝のしくみについて概説できる。	生命活動を担う分子（生命の基本単位）、生命活動を担う分子（細胞構成因子）	人体の成り立ちと機能（循環器・血液・内分泌・生殖器・遺伝）	生命活動を担う分子（ゲノム情報とバイオ医薬品）			
2) 遺伝子多型について概説できる。		人体の成り立ちと機能（循環器・血液・内分泌・生殖器・遺伝）	生命活動を担う分子（ゲノム情報とバイオ医薬品）、医薬品・化学物質の代謝反応			
3) 代表的な遺伝疾患を概説できる。		人体の成り立ちと機能（循環器・血液・内分泌・生殖器・遺伝）	医薬品・化学物質の代謝反応			
【②発生】						
1) 個体発生について概説できる。	人体の成り立ちと機能（総論）	人体の成り立ちと機能（循環器・血液・内分泌・生殖器・遺伝）				
2) 細胞の分化における幹細胞、前駆細胞の役割について概説できる。	生命活動を担う分子（細胞構成因子）	人体の成り立ちと機能（循環器・血液・内分泌・生殖器・遺伝）				
【③器官系概論】						
1) 人体を構成する器官、器官系の名称、形態、体内での位置および機能を説明できる。	人人体の成り立ちと機能（神経・骨格・筋・消化器）、基礎サイエンス実習、人体の成り立ちと機能（総論）	人体の成り立ちと機能（実習）			応用薬学演習	
2) 組織、器官を構成する代表的な細胞の種類（上皮、内皮、間葉系など）を列挙し、形態的および機能的特徴を説明できる。	人体の成り立ちと機能（神経・骨格・筋・消化器）	人体の成り立ちと機能（実習）			応用薬学演習	
3) 実験動物・人体模型・シミュレーターなどを用いて各種臓器の名称と位置を確認できる。（技能）	基礎サイエンス実習	人体の成り立ちと機能（実習）				
4) 代表的な器官の組織や細胞を顕微鏡で観察できる。（技能）	基礎サイエンス実習	人体の成り立ちと機能（実習）				
【④神経系】						
1) 中枢神経系について概説できる。	人体の成り立ちと機能（神経・骨格・筋・消化器・呼吸器）		薬と疾病（神経・精神系）		応用薬学演習	
2) 末梢（体性・自律）神経系について概説できる。		人体の成り立ちと機能（神経、感覚器、消化器、泌尿器）、薬の効き方			応用薬学演習	
【⑤骨格系・筋肉系】						
1) 骨、筋肉について概説できる。	人体の成り立ちと機能（神経・骨格・筋・消化器・呼吸器）、人体の成り立ちと機能（総論）	人体の成り立ちと機能（実習）				
2) 代表的な骨格筋および関節の名称を挙げ、位置を示すことができる。	人体の成り立ちと機能（神経・骨格・筋・消化器・呼吸器）、人体の成り立ちと機能（総論）	人体の成り立ちと機能（実習）				
【⑥皮膚】						
1) 皮膚について概説できる。		人体の成り立ちと機能（神経、感覚器、消化器、泌尿器）（実習）				
【⑦循環器系】						
1) 心臓について概説できる。	人体の成り立ちと機能（総論）人体の成り立ちと機能（神経・骨格・筋・消化器）基礎サイエンス実習、人体の成り立ちと機能（総論）	人体の成り立ちと機能（循環器・血液・内分泌・生殖器・遺伝）（実習）			応用薬学演習	
2) 血管系について概説できる。	人体の成り立ちと機能（神経・骨格・筋・消化器）基礎サイエンス実習	人体の成り立ちと機能（循環器・血液・内分泌・生殖器・遺伝）（実習）			応用薬学演習	
3) リンパ管系について概説できる。	人体の成り立ちと機能（神経・骨格・筋・消化器）	人体の成り立ちと機能（循環器・血液・内分泌・生殖器・遺伝）（実習）			応用薬学演習	
【⑧呼吸器系】						
1) 肺、気管支について概説できる。	人体の成り立ちと機能（神経・骨格・筋・消化器・呼吸器）、基礎サイエンス実習、人体の成り立ちと機能（総論）	人体の成り立ちと機能（実習）			応用薬学演習	
【⑨消化器系】						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	試 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
1) 胃、小腸、大腸などの消化管について概説できる。	人体の成り立ちと機能（神経・骨格・筋・消化器・呼吸器）、基礎サイエンス実習	人体の成り立ちと機能（実習）			応用薬学演習	
2) 肝臓、脾臓、胆嚢について概説できる。	人体の成り立ちと機能（神経・骨格・筋・消化器・呼吸器）、基礎サイエンス実習	人体の成り立ちと機能（実習）			応用薬学演習	
【⑩泌尿器系】						
1) 泌尿器系について概説できる。	基礎サイエンス実習	人体の成り立ちと機能（神経、感覚器、消化器、泌尿器）（実習）			応用薬学演習	
【⑪生殖系】						
1) 生殖系について概説できる。	基礎サイエンス実習	人体の成り立ちと機能（循環器・血液・内分泌・生殖器・遺伝）（実習）			応用薬学演習	
【⑫内分泌系】						
1) 内分泌系について概説できる。		人体の成り立ちと機能（循環器、内分泌、生殖器、血液、遺伝）（実習）、生命活動を担う分子（代謝とその調節）			応用薬学演習	
【⑬感覚系】						
1) 感覚系について概説できる。		人体の成り立ちと機能（神経、感覚器、消化器、泌尿器）			応用薬学演習	
【⑭血液・造血系】						
1) 血液・造血系について概説できる。	基礎サイエンス実習、人体の成り立ちと機能（総論）	人体の成り立ちと機能（循環器・血液・内分泌・生殖器・遺伝）			応用薬学演習	
(2) 生体機能の調節						
【①神経による調節機構】						
1) 神経細胞の興奮と伝導、シナプス伝達の調節機構について説明できる。		人体の成り立ちと機能（神経、感覚器、消化器、泌尿器）薬の効き方			応用薬学演習	
2) 代表的な神経伝達物質を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。		人体の成り立ちと機能（神経、感覚器、消化器、泌尿器）薬の効き方			応用薬学演習	
3) 神経系、感覚器を介するホメオスタシスの調節機構の代表例を列挙し、概説できる。		人体の成り立ちと機能（神経、感覚器、消化器、泌尿器）			応用薬学演習	
4) 神経による筋収縮の調節機構について説明できる。	人体の成り立ちと機能（神経・骨格・筋・消化器・呼吸器）	人体の成り立ちと機能（循環器、内分泌、生殖器、血液、遺伝）			応用薬学演習	
【②ホルモン・内分泌系による調節機構】						
1) 代表的なホルモンを挙げ、その産生器官、生理活性および作用機構について概説できる。	人体の成り立ちと機能（総論）	人体の成り立ちと機能（循環器・血液・内分泌・生殖器・遺伝）生理から病態へ、生命活動を担う分子（代謝とその調節）		分子・細胞から生理・病態へ	応用薬学演習	
【③オータコイドによる調節機構】						
1) 代表的なオータコイドを挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。		生理から病態へ、人体の成り立ちと機能（循環器・血液・内分泌・生殖器・遺伝）、生命活動を担う分子（代謝とその調節）	生体防御反応の応用と制御	分子・細胞から生理・病態へ	応用薬学演習	
【④サイトカイン・増殖因子による調節機構】						
1) 代表的なサイトカイン、増殖因子を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。		生理から病態へ、人体の成り立ちと機能（循環器・血液・内分泌・生殖器・遺伝）、生命活動を担う分子（代謝とその調節）	生体防御反応の応用と制御		応用薬学演習	
【⑤血圧の調節機構】						
1) 血圧の調節機構について概説できる。	基礎サイエンス実習	人体の成り立ちと機能（循環器・血液・内分泌・生殖器・遺伝）、生理から病態へ、生命活動を担う分子（細胞の構造、機能と情報伝達）	薬と疾病（循環器系疾患）		応用薬学演習	
【⑥血糖の調節機構】						
1) 血糖の調節機構について概説できる。		生理から病態へ、生命活動を担う分子（細胞の構造、機能と情報伝達）	薬と疾病（代謝系・内分泌系疾患）	分子・細胞から生理・病態へ	応用薬学演習	
【⑦体液の調節】						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
1) 体液の調節機構について概説できる。	人体の成り立ちと機能（総論）	人体の成り立ちと機能（神経、感覚器、皮膚、消化器、泌尿器）生理から病態へ			応用薬学演習	
2) 尿の生成機構、尿量の調節機構について概説できる。	人体の成り立ちと機能（総論）	人体の成り立ちと機能（神経、感覚器、皮膚、消化器、泌尿器）			応用薬学演習	
【⑧体温の調節】						
1) 体温の調節機構について概説できる。	基礎サイエンス実習	人体の成り立ちと機能（神経、感覚器、皮膚、消化器、泌尿器）			応用薬学演習	
【⑨血液凝固・線溶系】						
1) 血液凝固・線溶系の機構について概説できる。		人体の成り立ちと機能（循環器・血液・内分泌・生殖器・遺伝）、生理から病態へ			応用薬学演習	
【⑩性周期の調節】						
1) 性周期の調節機構について概説できる。		人体の成り立ちと機能（循環器・血液・内分泌・生殖器・遺伝）、（実習）			応用薬学演習	
C8 生体防御と微生物						
(1) 身体をまもる						
【① 生体防御反応】						
1) 異物の侵入に対する物理的、生理的、化学的バリアー、および補体の役割について説明できる。	感染症とバイオセーフティ（選）	生体防御反応を担う組織、細胞、分子			応用薬学演習	
2) 免疫反応の特徴（自己と非自己の識別、特異性、多様性、クローン性、記憶、寛容）を説明できる。	感染症とバイオセーフティ（選）	生体防御反応を担う組織、細胞、分子			応用薬学演習	
3) 自然免疫と獲得免疫、および両者の関係を説明できる。	感染症とバイオセーフティ（選）	生体防御反応を担う組織、細胞、分子			応用薬学演習	
4) 体液性免疫と細胞性免疫について説明できる。	感染症とバイオセーフティ（選）	生体防御反応を担う組織、細胞、分子			応用薬学演習	
【②免疫を担当する組織・細胞】						
1) 免疫に関与する組織を列挙し、その役割を説明できる。	感染症とバイオセーフティ（選）	生体防御反応を担う組織、細胞、分子			応用薬学演習	
2) 免疫担当細胞の種類と役割を説明できる。	感染症とバイオセーフティ（選）	生体防御反応を担う組織、細胞、分子			応用薬学演習	
3) 免疫反応における主な細胞間ネットワークについて説明できる。		生体防御反応を担う組織、細胞、分子			応用薬学演習	
【③分子レベルで見た免疫のしくみ】						
1) 自然免疫および獲得免疫における異物の認識を比較して説明できる。	感染症とバイオセーフティ（選）	生体防御反応を担う組織、細胞、分子			応用薬学演習	
2) MHC 抗原の構造と機能および抗原提示での役割について説明できる。		生体防御反応を担う組織、細胞、分子			応用薬学演習	
3) T 細胞と B 細胞による抗原認識の多様性（遺伝子再構成）と活性化について説明できる。		生体防御反応を担う組織、細胞、分子			応用薬学演習	
4) 抗体分子の基本構造、種類、役割を説明できる。	感染症とバイオセーフティ（選）	生体防御反応を担う組織、細胞、分子			応用薬学演習	
5) 免疫系に関わる主なサイトカインを挙げ、その作用を概説できる。		生命活動を担う分子（代謝とその調節）	生体防御反応の応用と制御		応用薬学演習	
(2) 免疫系の制御とその破綻・免疫系の応用						
【① 免疫応答の制御と破綻】						
1) 炎症の一般的症状、担当細胞および反応機構について説明できる。		生理から病態へ	生体防御反応の応用と制御	分子・細胞から生理・病態へ	応用薬学演習	
2) アレルギーを分類し、担当細胞および反応機構について説明できる。			生体防御反応の応用と制御薬と疾病（免疫・アレルギー）	分子・細胞から生理・病態へ	応用薬学演習	
3) 自己免疫疾患と免疫不全症候群について概説できる。			生体防御反応の応用と制御薬と疾病（免疫・アレルギー）		応用薬学演習	
4) 臓器移植と免疫反応の関わり（拒絶反応、免疫抑制剤など）について説明できる。			生体防御反応の応用と制御薬と疾病（免疫・アレルギー）		応用薬学演習	
5) 感染症と免疫応答との関わりについて説明できる。	感染症とバイオセーフティ（選）	生理から病態へ	生体防御反応の応用と制御		応用薬学演習	
6) 腫瘍排除に関与する免疫反応について説明できる。			生体防御反応の応用と制御		応用薬学演習	
【② 免疫反応の利用】						
1) ワクチンの原理と種類（生ワクチン、不活化ワクチン、トキシイド、混合ワクチンなど）について説明できる。	感染症とバイオセーフティ（選）	個人・集団・社会と健康	生体防御反応の応用と制御	日常生活と健康	応用薬学演習	
2) モノクローナル抗体とポリクローナル抗体について説明できる。			生体防御反応の応用と制御		応用薬学演習	
3) 血清療法と抗体医薬について概説できる。			生体防御反応の応用と制御		応用薬学演習	
4) 抗原抗体反応を利用した検査方法（ELISA 法、ウエスタンブロット法など）を実施できる。（技能）			生体防御反応の応用と制御		応用薬学演習	

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
(3) 微生物の基本						
【① 総論】						
1) 原核生物、真核生物およびウイルスの特徴を説明できる。	生命活動を担う分子（生命の基本単位）	微生物と感染症			応用薬学演習	
【② 細菌】						
1) 細菌の分類や性質（系統学的分類、グラム陽性菌と陰性菌、好気性菌と嫌気性菌など）を説明できる。	基礎サイエンス実習	微生物と感染症			応用薬学演習	
2) 細菌の構造と増殖機構について説明できる。	基礎サイエンス実習	微生物と感染症			応用薬学演習	
3) 細菌の異化作用（呼吸と発酵）および同化作用について説明できる。		微生物と感染症			応用薬学演習	
4) 細菌の遺伝子伝達（接合、形質導入、形質転換）について説明できる。		微生物と感染症			応用薬学演習	
5) 薬剤耐性菌および薬剤耐性化機構について概説できる。		微生物と感染症			応用薬学演習	
6) 代表的な細菌毒素について説明できる。		微生物と感染症			応用薬学演習	
【③ ウイルス】						
1) ウイルスの構造、分類、および増殖機構について説明できる。	生命活動を担う分子（生命の基本単位）、感染症とバイオセーフティ（選）	微生物と感染症			応用薬学演習	
【④ 真菌・原虫・蠕虫】						
1) 真菌の性状を概説できる。		微生物と感染症			応用薬学演習	
2) 原虫および蠕虫の性状を概説できる。		微生物と感染症			応用薬学演習	
【⑤ 消毒と滅菌】						
1) 滅菌、消毒および殺菌、静菌の概念を説明できる。	基礎サイエンス実習	微生物と感染症		日常生活と健康	応用薬学演習	
2) 主な滅菌法および消毒法について説明できる。	基礎サイエンス実習	微生物と感染症			応用薬学演習	
【⑥ 検出方法】						
1) グラム染色を実施できる。（技能）		生命体の成り立ち実習				
2) 無菌操作を実施できる。（技能）		生命体の成り立ち実習				
3) 代表的な細菌または真菌の分離培養、純培養を実施できる。（技能）		生命体の成り立ち実習				
(4) 病原体としての微生物						
【① 感染の成立と共生】						
1) 感染の成立（感染源、感染経路、侵入門戸など）と共生（腸内細菌など）について説明できる。	感染症とバイオセーフティ（選）	微生物と感染症		日常生活と健康	応用薬学演習	
2) 日和見感染と院内感染について説明できる。	感染症とバイオセーフティ（選）	微生物と感染症		日常生活と健康	応用薬学演習	
【② 代表的な病原体】						
1) DNA ウイルス（ヒトヘルペスウイルス、アデノウイルス、パピローマウイルス、B 型肝炎ウイルスなど）について概説できる。		微生物と感染症	薬と疾病（消化器）		応用薬学演習	
2) RNA ウイルス（ノロウイルス、ロタウイルス、ポリオウイルス、コクサッキーウイルス、エコーウイルス、ライノウイルス、A 型肝炎ウイルス、C 型肝炎ウイルス、インフルエンザウイルス、麻疹ウイルス、風疹ウイルス、日本脳炎ウイルス、狂犬病ウイルス、ムンプスウイルス、HIV、HTLV など）について概説できる。	感染症とバイオセーフティ（選）	微生物と感染症	薬と疾病（消化器、呼吸器）		応用薬学演習	
3) グラム陽性球菌（ブドウ球菌、レンサ球菌など）およびグラム陽性桿菌（破傷風菌、ガス壊疽菌、ボツリヌス菌、ジフテリア菌、炭疽菌、セレウス菌、デフィシル菌など）について概説できる。		微生物と感染症			応用薬学演習	
4) グラム陰性球菌（淋菌、髄膜炎菌など）およびグラム陰性桿菌（大腸菌、赤痢菌、サルモネラ属菌、チフス菌、エルシニア属菌、クレブシエラ属菌、コレラ菌、百日咳菌、腸炎ビブリオ、緑膿菌、レジオネラ、インフルエンザ菌など）について概説できる。		微生物と感染症			応用薬学演習	
5) グラム陰性らせん菌（ヘリコバクター・ピロリ、カンピロバクター・ジェジュニ/コリなど）およびスピロヘータについて概説できる。		微生物と感染症			応用薬学演習	
6) 抗酸菌（結核菌、らい菌など）について概説できる。	感染症とバイオセーフティ（選）	微生物と感染症			応用薬学演習	
7) マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアについて概説できる。		微生物と感染症			応用薬学演習	
8) 真菌（アスペルギルス、クリプトコックス、カンジダ、ムーコル、白癬菌など）について概説できる。		微生物と感染症			応用薬学演習	
9) 原虫（マラリア原虫、トキソプラズマ、腔トリコモナス、クリプトスポリジウム、赤痢アメーバなど）、蠕虫（回虫、鞭虫、アニサキス、エキノコックスなど）について概説できる。		微生物と感染症			応用薬学演習	
E 医療薬学						
E1 薬の作用と体の変化						
(1) 薬の作用						
【① 薬の作用】						
1) 薬の用量と作用の関係を説明できる。		薬の作用と生体内運命				応用薬学演習
2) アゴニスト（作用薬、作動薬、刺激薬）とアンタゴニスト（拮抗薬、遮断薬）について説明できる。		薬の作用と生体内運命		薬となる化合物の構造と性質		応用薬学演習
3) 薬物が作用するしくみについて、受容体、酵素、イオンチャネルおよびトランスポーターを例に挙げて説明できる。		薬の作用と生体内運命		薬となる化合物の構造と性質		応用薬学演習
4) 代表的な受容体を列挙し、刺激あるいは遮断された場合の生理反応を説明できる。		薬の作用と生体内運命		薬となる化合物の構造と性質		応用薬学演習
5) 薬物の作用発現に関連する代表的な細胞内情報伝達系を列挙し、活性化あるいは抑制された場合の生理反応を説明できる。（C6(6)【②細胞内情報伝達】1. ～ 5. 参照）		薬の作用と生体内運命				応用薬学演習
6) 薬物の体内動態（吸収、分布、代謝、排泄）と薬効発現の関わりについて説明できる。（E4(1)【②吸収】、【③分布】、【④代謝】、【⑤排泄】参照）		薬の作用と生体内運命	医薬品・化学物質の代謝反応			応用薬学演習

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	試 験 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
7) 薬物の選択（禁忌を含む）、用法、用量の変更が必要となる要因（年齢、疾病、妊娠等）について具体例を挙げて説明できる。		薬の作用と生体内運命	医薬品・化学物質の代謝反応			応用薬学演習
8) 薬理作用に由来する代表的な薬物相互作用を列挙し、その機序を説明できる。 （E4（1）【②吸収】5.【④代謝】5.【⑤排泄】5.参照）		薬の作用と生体内運命				応用薬学演習
9) 薬物依存性、耐性について具体例を挙げて説明できる。		薬の作用と生体内運命	薬と疾病（神経・精神系疾患）	薬毒物と中毒		応用薬学演習
【②動物実験】						
1) 動物実験における倫理について配慮できる。（態度）	基礎サイエンス実習		薬の効くプロセス 研究倫理と統計			
2) 実験動物を適正に取り扱うことができる。（技能）			薬の効くプロセス			
3) 実験動物での代表的な投与方法が実施できる。（技能）			薬の効くプロセス			
【③日本薬局方】						
1) 日本薬局方収載の生物学的定量法の特徴を説明できる。						
【②身体の病的変化を知る】						
【①症候】						
1) 以下の症候・病態について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を挙げ、患者情報をもとに疾患を推測できる。 ショック、高血圧、低血圧、発熱、けいれん、意識障害・失神、チアノーゼ、脱水、全身倦怠感、肥満・やせ、黄疽、発疹、貧血、出血傾向、リンパ節腫脹、浮腫、心悸亢進・動悸、胸水、胸痛、呼吸困難、咳・痰、血痰・喀血、めまい、頭痛、運動麻痺・不随意運動・筋力低下、腹痛、悪心・嘔吐、嚥下困難・障害、食欲不振、下痢・便秘、吐血・下血、腹部膨満（腹水を含む）、タンパク尿、血尿、尿量・排尿の異常、月経異常、関節痛・関節腫脹、腰背部痛、記憶障害、知覚異常（しびれを含む）・神経痛、視力障害、聴力障害		生理から病態へ	薬と疾病（泌尿器・生殖器系疾患） 薬と疾病（消化器系疾患） 薬と疾病（呼吸器疾患） 薬と疾病（神経・精神系疾患）	薬と疾病（血液・小児・皮膚疾患）	症候と疾患推測	応用薬学演習
【②病態・臨床検査】						
1) 尿検査および糞便検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。		生理から病態へ	薬と疾病（泌尿器・生殖器系疾患） 薬と疾病（消化器系疾患）			
2) 血液検査、血液凝固機能検査および脳脊髄液検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。		生理から病態へ	薬と疾病（神経・精神系疾患）			
3) 血液生化学検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。		生理から病態へ	薬と疾病（泌尿器・生殖器系疾患） 薬と疾病（消化器系疾患） 薬と疾病（呼吸器系疾患）	薬と疾病（血液・小児・皮膚疾患）		
4) 免疫学的検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。		生理から病態へ	薬と疾病（免疫・アレルギー性疾患）	薬と疾病（血液・小児・皮膚疾患）		
5) 動脈血ガス分析の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。		生理から病態へ	薬と疾病（呼吸器疾患）	薬と疾病（血液・小児・皮膚疾患）		
6) 代表的な生理機能検査（心機能、腎機能、肝機能、呼吸機能等）、病理組織検査および画像検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。		生理から病態へ	薬と疾病（泌尿器・生殖器系疾患） 薬と疾病（消化器系疾患）	薬と疾病（血液・小児・皮膚疾患）		
7) 代表的な微生物検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。		薬と疾病（感染症）				
8) 代表的なフィジカルアセスメントの検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。		生理から病態へ	薬と疾病（消化器系疾患） 薬と疾病（呼吸器系疾患） 急性期医療と薬剤師			
【③薬物治療の位置づけ】						
1) 代表的な疾患における薬物治療、食事療法、その他の非薬物治療（外科手術など）の位置づけを説明できる。				薬と疾病（血液・小児・皮膚疾患）	症例演習と薬物療法の実践	
2) 代表的な疾患における薬物治療の役割について、病態、薬効薬理、薬物動態に基づいて討議する。（知識・技能）				薬と疾病（血液・小児・皮膚疾患）		
【④医薬品の安全性】						
1) 薬物の主作用と副作用、毒性との関連について説明できる。		薬の作用と生体内運命	医薬品・化学物質の代謝反応		医薬品の副作用・有害事象	
2) 薬物の副作用と有害事象の違いについて説明できる。			医薬品・化学物質の代謝反応		医薬品の副作用・有害事象	
3) 以下の障害を呈する代表的な副作用疾患について、推定される原因医薬品、身体所見、検査所見および対処方法を説明できる。 血液障害・電解質異常、肝障害、腎障害、消化器障害、循環器障害、精神障害、皮膚障害、呼吸器障害、薬物アレルギー（ショックを含む）、代謝障害、筋障害			薬と疾病（消化器系疾患）	薬毒物と中毒	医薬品の副作用・有害事象	
4) 代表的薬害、薬物乱用について、健康リスクの観点から討議する。（態度）			薬剤師と医薬品に係る法規制Ⅱ	薬毒物と中毒		
E2 薬理・病態・薬物治療						
【①神経系の疾患と薬】						
【①自律神経系に作用する薬】						
1) 交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		薬の効き方				応用薬学演習
2) 副交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		薬の効き方				応用薬学演習
3) 神経節に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		薬の効き方				応用薬学演習
4) 自律神経系に作用する代表的な薬物の効果を動物実験で測定できる。（技能）		薬の効き方				応用薬学演習
【②体性神経系に作用する薬・筋の疾患の薬、病態、治療】						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	試 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
1) 知覚神経に作用する代表的な薬物（局所麻酔薬など）を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		薬の効き方				応用薬学演習
2) 運動神経系に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		薬の効き方				応用薬学演習
3) 知覚神経、運動神経に作用する代表的な薬物の効果を動物実験で測定できる。（技能）		薬の効き方				応用薬学演習
4) 以下の疾患について説明できる。 進行性筋ジストロフィー、Guillain-Barre'（ギラン・バレー）症候群、重症筋無力症（重複）			薬と疾病（神経・精神系疾患）			応用薬学演習
【③中枢神経系の疾患の薬、病態、治療】						
1) 全身麻酔薬、催眠薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。			薬と疾病（神経・精神系疾患）			応用薬学演習
2) 麻薬性鎮痛薬、非麻薬性鎮痛薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用（WHO三段階除痛ラダーを含む）を説明できる。			薬と疾病（神経・精神系疾患）			応用薬学演習
3) 中枢興奮薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。			薬と疾病（神経・精神系疾患）			応用薬学演習
4) 統合失調症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬と疾病（神経・精神系疾患）			応用薬学演習
5) うつ病、躁うつ病（双極性障害）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬と疾病（神経・精神系疾患）			応用薬学演習
6) 不安神経症（パニック障害と全般性不安障害）、心身症、不眠症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬と疾病（神経・精神系疾患）			応用薬学演習
7) てんかんについて、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬と疾病（神経・精神系疾患）			応用薬学演習
8) 脳血管疾患（脳内出血、脳梗塞（脳血栓、脳塞栓、一過性脳虚血）、くも膜下出血）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬と疾病（神経・精神系疾患）			応用薬学演習
9) Parkinson（パーキンソン）病について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬と疾病（神経・精神系疾患）			応用薬学演習
10) 認知症（Alzheimer（アルツハイマー）型認知症、脳血管性認知症等）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬と疾病（神経・精神系疾患）			応用薬学演習
11) 片頭痛について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）について説明できる。			薬と疾病（神経・精神系疾患）			応用薬学演習
12) 中枢神経系に作用する薬物の効果を動物実験で測定できる。（技能）			薬の効くプロセス			
13) 中枢神経系疾患の社会生活への影響および薬物治療の重要性について討議する。（態度）			薬と疾病（神経・精神系疾患）； 薬と疾病チュートリアル1（神経疾患）			
14) 以下の疾患について説明できる。 脳炎・髄膜炎（重複）、多発性硬化症（重複）、筋萎縮性側索硬化症、Narcolepsy（ナルコレプシー）、薬物依存症、アルコール依存症			薬と疾病（神経・精神系疾患）			応用薬学演習
【④化学構造と薬効】						
1) 神経系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。			薬と疾病（神経・精神系疾患）			
【②免疫・炎症・アレルギーおよび骨・関節の疾患と薬】						
【①抗炎症薬】						
1) 抗炎症薬（ステロイド性および非ステロイド性）および解熱性鎮痛薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。		薬学基礎から薬物治療へ 演習	薬と疾病（免疫アレルギー）、 薬と疾病（神経・精神系疾患）	分子・細胞から生理・病態へ		応用薬学演習
2) 抗炎症薬の作用機序に基づいて炎症について説明できる。		生理から病態へ、薬学基礎から薬物治療へ 演習		分子・細胞から生理・病態へ		応用薬学演習
3) 創傷治癒の過程について説明できる。		生理から病態へ				
【②免疫・炎症・アレルギー疾患の薬、病態、治療】						
1) アレルギー治療薬（抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬等）の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。		薬の効き方	薬と疾病（免疫アレルギー）	薬と疾病（血液・小児・皮膚疾患）		応用薬学演習
2) 免疫抑制薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。		薬の効き方	薬と疾病（免疫アレルギー）	薬と疾病（血液・小児・皮膚疾患）		応用薬学演習
3) 以下のアレルギー疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、接触性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎、花粉症、消化管アレルギー、気管支喘息（重複）			薬と疾病（免疫アレルギー） 薬と疾病（呼吸器）	薬と疾病（血液・小児・皮膚疾患）		応用薬学演習
4) 以下の薬物アレルギーについて、原因薬物、病態（病態生理、症状等）および対処法を説明できる。 Stevens-Johnson（スティーブンス・ジョンソン）症候群、中毒性表皮壊死症（重複）、薬剤性過敏症症候群、薬疹			薬と疾病（免疫アレルギー）	薬と疾病（血液・小児・皮膚疾患） 薬毒物と中毒		応用薬学演習
5) アナフィラキシーショックについて、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		生理から病態へ	薬と疾病（免疫アレルギー）			応用薬学演習
6) 以下の疾患について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 尋常性乾癬、水疱症、光線過敏症、ペーチェット病			薬と疾病（免疫アレルギー）	薬と疾病（血液・小児・皮膚疾患）		応用薬学演習

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
7) 以下の臓器特異的自己免疫疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 バセドウ病（重複）、橋本病（重複）、悪性貧血（重複）、アジソン病、1型糖尿病（重複）、重症筋無力症、多発性硬化症、特発性血小板減少性紫斑病、自己免疫性溶血性貧血（重複）、シェーグレン症候群			薬と疾病（免疫アレルギー）	薬と疾病（血液・小児・皮膚疾患）		応用薬学演習
8) 以下の全身性自己免疫疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 全身性エリテマトーデス、強皮症、多発筋炎／皮膚筋炎、関節リウマチ（重複）			薬と疾病（免疫アレルギー）			応用薬学演習
9) 臓器移植（腎臓、肝臓、骨髄、臍帯血、輸血）について、拒絶反応および移植片対宿主病（GVHD）の病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬と疾病（免疫アレルギー）	薬と疾病（血液・小児・皮膚疾患）		応用薬学演習
【③骨・関節・カルシウム代謝疾患の薬、病態、治療】						
1) 関節リウマチについて、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬と疾病（免疫アレルギー）	薬と疾病（眼・耳鼻咽喉・骨関節疾患）		応用薬学演習
2) 骨粗鬆症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		生理から病態へ		薬と疾病（眼・耳鼻咽喉・骨関節疾患）		応用薬学演習
3) 変形性関節症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。				薬と疾病（眼・耳鼻咽喉・骨関節疾患）		応用薬学演習
4) カルシウム代謝の異常を伴う疾患（副甲状腺機能亢進（低下）症、骨軟化症（くる病を含む）、悪性腫瘍に伴う高カルシウム血症）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。				薬と疾病（眼・耳鼻咽喉・骨関節疾患）		応用薬学演習
【④化学構造と薬物】						
1) 免疫・炎症・アレルギー疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。			薬と疾病（免疫アレルギー）	分子・細胞から生理・病態へ		応用薬学演習
【⑤循環器系・血液系・造血系・泌尿器系・生殖器系の疾患と薬】						
【①循環器系疾患の薬、病態、治療】						
1) 以下の不整脈および関連疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 不整脈の例示：上室性期外収縮（PAC）、心室性期外収縮（PVC）、心房細動（Af）、発作性上室頻拍（PSVT）、WPW症候群、心室頻拍（VT）、心室細動（Vf）、房室ブロック、QT延長症候群			薬と疾病（循環器系疾患）、薬と疾病（心臓・小児・皮膚疾患）			応用薬学演習
2) 急性および慢性心不全について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		生理から病態へ	薬と疾病（循環器系疾患）			応用薬学演習
3) 虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		生理から病態へ	薬と疾病（心臓・小児・皮膚疾患）			応用薬学演習
4) 以下の高血圧症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 本態性高血圧症、二次性高血圧症（腎性高血圧症、腎血管性高血圧症を含む）			薬と疾病（循環器系疾患）			応用薬学演習
5) 以下の疾患について概説できる。 閉塞性動脈硬化症（ASO）、心原性ショック、弁膜症、先天性心疾患			薬と疾病（循環器系疾患）			応用薬学演習
6) 循環器系に作用する薬物の効果を動物実験で測定できる。（技能）			薬の効くプロセス			
【②血液・造血系疾患の薬、病態、治療】						
1) 止血薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。		薬の効き方		薬と疾病（血液・小児・皮膚疾患）		応用薬学演習
2) 抗血栓薬、抗凝固薬および血栓溶解薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。		薬の効き方		薬と疾病（血液・小児・皮膚疾患）		応用薬学演習
3) 以下の貧血について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血（悪性貧血等）、再生不良性貧血、自己免疫性溶血性貧血（AIHA）、腎性貧血、鉄芽球性貧血		生理から病態へ		薬と疾病（血液・小児・皮膚疾患）		応用薬学演習
4) 播種性血管内凝固症候群（DIC）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。				薬と疾病（血液・小児・皮膚疾患）		応用薬学演習
5) 以下の疾患について治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 血友病、血栓性血小板減少性紫斑病（TTP）、白血球減少症、血栓性紫癜、白血病（重複）、悪性リンパ腫（重複） （E2（7））【⑧悪性腫瘍の薬、病態、治療】参照）				薬と疾病（血液・小児・皮膚疾患）		応用薬学演習
【③泌尿器系、生殖器系疾患の薬、病態、薬物治療】						
1) 利尿薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。		薬の効き方	薬と疾病（泌尿器・生殖器系疾患）			応用薬学演習
2) 急性および慢性腎不全について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		生理から病態へ	薬と疾病（泌尿器・生殖器系疾患）			応用薬学演習

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
3) ネフローゼ症候群について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬と疾病（泌尿器・生殖器系疾患）			応用薬学演習
4) 過活動膀胱および低活動膀胱について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬と疾病（泌尿器・生殖器系疾患）			応用薬学演習
5) 以下の泌尿器系疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 慢性腎臓病（CKD）、糸球体腎炎（重複）、糖尿病性腎症（重複）、薬剤性腎症（重複）、腎盂腎炎（重複）、膀胱炎（重複）、尿路感染症（重複）、尿路結石			薬と疾病（泌尿器・生殖器系疾患）			応用薬学演習
6) 以下の生殖器系疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 前立腺肥大症、子宮内膜症、子宮筋腫			薬と疾病（泌尿器・生殖器系疾患）			応用薬学演習
7) 妊娠・分娩・避妊に関連して用いられる薬物について、薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬と疾病（泌尿器・生殖器系疾患）			応用薬学演習
8) 以下の生殖器系疾患について説明できる。 異常妊娠、異常分娩、不妊症			薬と疾病（泌尿器・生殖器系疾患）			応用薬学演習
【④化学構造と薬効】						
1) 循環系・泌尿器系・生殖器系疾患の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。			薬と疾病（代謝系疾患） 薬と疾病（泌尿器・生殖器系疾患）			
【4）呼吸器系・消化器系の疾患と薬】						
【①呼吸器系疾患の薬、病態、治療】						
1) 気管支喘息について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬と疾病（呼吸器系疾患）		症例演習と薬物療法の実践	応用薬学演習
2) 慢性閉塞性肺疾患および喫煙に関連する疾患（ニコチン依存症を含む）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬と疾病（呼吸器系疾患）			応用薬学演習
3) 間質性肺炎について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬と疾病（呼吸器系疾患）			応用薬学演習
4) 鎮咳薬、去痰薬、呼吸興奮薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。			薬と疾病（呼吸器系疾患）			応用薬学演習
【②消化器系疾患の薬、病態、治療】						
1) 以下の上部消化器疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 胃食道逆流症（逆流性食道炎を含む）、消化性潰瘍、胃炎			薬と疾病（消化器系疾患）			応用薬学演習
2) 炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病等）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬と疾病（消化器系疾患）			応用薬学演習
3) 肝疾患（肝炎、肝硬変（ウイルス性を含む）、薬剤性肝障害）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬と疾病（消化器系疾患）			応用薬学演習
4) 膵炎について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬と疾病（消化器系疾患）			応用薬学演習
5) 胆道疾患（胆石症、胆道炎）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬と疾病（消化器系疾患）			応用薬学演習
6) 機能性消化管障害（過敏性腸症候群を含む）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬と疾病（消化器系疾患）			応用薬学演習
7) 便秘・下痢について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬と疾病（消化器系疾患）			応用薬学演習
8) 悪心・嘔吐について、治療薬および関連薬物（催吐薬）の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬と疾病（消化器系疾患）			応用薬学演習
9) 痢について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬と疾病（消化器系疾患）			応用薬学演習
【③化学構造と薬効】						
1) 呼吸器系・消化器系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。			薬と疾病（消化器系疾患） 薬と疾病（呼吸器）			
【6）代謝系・内分泌系の疾患と薬】						
【①代謝系疾患の薬、病態、治療】						
1) 糖尿病とその合併症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		薬学基礎から薬物治療へ 演習	薬と疾病（代謝系・内分泌系疾患）		症例演習と薬物療法の実践	応用薬学演習
2) 脂質異常症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		薬学基礎から薬物治療へ 演習	薬と疾病（代謝系・内分泌系疾患）			応用薬学演習
3) 高尿酸血症・痛風について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬と疾病（代謝系・内分泌系疾患）			応用薬学演習
【②内分泌系疾患の薬、病態、治療】						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
1) 性ホルモン関連薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。		薬の効き方	薬と疾病（代謝系・内分泌系疾患）			応用薬学演習
2) Basedow（バセドウ）病について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬と疾病（代謝系・内分泌系疾患）			応用薬学演習
3) 甲状腺炎（慢性（橋本病）、亜急性）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬と疾病（代謝系・内分泌系疾患）			応用薬学演習
4) 尿崩症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬と疾病（代謝系・内分泌系疾患）			応用薬学演習
5) 以下の疾患について説明できる。 先端巨大症、高プロラクチン血症、下垂体機能低下症、ADH不適合分泌症候群（SIADH）、副甲状腺機能亢進症・低下症、Cushing（クッシング）症候群、アルドステロン症、褐色細胞腫、副腎不全（急性、慢性）、子宮内膜症（重複）、アジソン病（重複）		生理から病態へ	薬と疾病（代謝系・内分泌系疾患）			応用薬学演習
【③化学構造と薬効】						
1) 代謝系・内分布系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。			薬と疾病（代謝系・内分泌系疾患）			応用薬学演習
(6) 感覚器・皮膚の疾患と薬						
【①眼疾患の薬、病態、治療】						
1) 緑内障について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		人体の成り立ちと機能（神経、感覚器、皮膚、消化器、泌尿器）		薬と疾病（眼・耳鼻咽喉・骨関節疾患）		
2) 白内障について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。				薬と疾病（眼・耳鼻咽喉・骨関節疾患）		
3) 加齢性黄斑変性について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。				薬と疾病（眼・耳鼻咽喉・骨関節疾患）		
4) 以下の疾患について概説できる。 結膜炎（重複）、網膜症、ぶどう膜炎、網膜色素変性症				薬と疾病（眼・耳鼻咽喉・骨関節疾患）		
【②耳鼻咽喉疾患の薬、病態、治療】						
1) めまい（動揺病、Meniere（メニエール）病等）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。				薬と疾病（眼・耳鼻咽喉・骨関節疾患）		
2) 以下の疾患について概説できる。 アレルギー性鼻炎（重複）、花粉症（重複）、副鼻腔炎（重複）、中耳炎（重複）、口内炎・咽喉炎・扁桃腺炎（重複）、喉頭蓋炎			薬と疾病（免疫・アレルギー）	薬と疾病（眼・耳鼻咽喉・骨関節疾患）		
【③皮膚疾患の薬、病態、治療】						
1) アトピー性皮膚炎について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 （E2（2）【②免疫・炎症・アレルギーの薬、病態、治療】参照）				薬と疾病（血液・小児・皮膚疾患）		
2) 皮膚真菌症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 （E2（7）【⑤真菌感染症の薬、病態、治療】参照）				薬と疾病（血液・小児・皮膚疾患）		
3) 褥瘡について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。				薬と疾病（血液・小児・皮膚疾患）		
4) 以下の疾患について概説できる。 蕁麻疹（重複）、薬疹（重複）、水疱症（重複）、乾癬（重複）、接触性皮膚炎（重複）、光線過敏症（重複）				薬と疾病（血液・小児・皮膚疾患）		
【④化学構造と薬効】						
1) 感覚器・皮膚の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。						
(7) 病原微生物（感染症）・悪性新生物（がん）と薬						
【①抗菌薬】						
1) 以下の抗菌薬の薬理（薬理作用、機序、抗菌スペクトル、主な副作用、相互作用、組織移行性）および臨床適用を説明できる。 β -ラクタム系、テトラサイクリン系、マクロライド系、アミノ配糖体（アミノグリコシド）系、キノロン系、グリコペプチド系、抗結核薬、サルファ剤（ST合剤を含む）、その他の抗菌薬		薬と疾病（感染症）			症例演習と薬物療法の実践	応用薬学演習
2) 細菌感染症に関係する代表的な生物学的製剤（ワクチン等）を挙げ、その作用機序を説明できる。		薬と疾病（感染症）				応用薬学演習
【②抗菌薬の耐性】						
1) 主要な抗菌薬の耐性獲得機構および耐性菌出現への対応を説明できる。		薬と疾病（感染症）				応用薬学演習
【③細菌感染症の薬、病態、治療】						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
1) 以下の呼吸器感染症について、病態（病態生理、症状等）、感染経路と予防方法および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 上気道炎（かぜ症候群（大部分がウイルス感染症）を含む）、気管支炎、扁桃炎、細菌性肺炎、肺結核、レジオネラ感染症、百日咳、マイコプラズマ肺炎		薬と疾病（感染症）	薬と疾病（呼吸器）			応用薬学演習
2) 以下の消化器感染症について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 急性虫垂炎、胆嚢炎、胆管炎、病原性大腸菌感染症、食中毒、ヘリコバクター・ピロリ感染症、赤痢、コレラ、腸チフス、パラチフス、偽膜性大腸炎		薬と疾病（感染症）	薬と疾病（消化器系疾患）			応用薬学演習
3) 以下の感覚器感染症について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 副鼻腔炎、中耳炎、結膜炎		薬と疾病（感染症）		薬と疾病（眼・耳鼻咽喉・骨関節疾患）		応用薬学演習
4) 以下の尿路感染症について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎		薬と疾病（感染症）	薬と疾病（泌尿器・生殖器系疾患）			応用薬学演習
5) 以下の性感染症について、病態（病態生理、症状等）、予防方法および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 梅毒、淋病、クラミジア症等		薬と疾病（感染症）	薬と疾病（泌尿器・生殖器系疾患）			応用薬学演習
6) 脳炎、髄膜炎について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		薬と疾病（感染症）	薬と疾病（神経・精神系疾患）			応用薬学演習
7) 以下の皮膚細菌感染症について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 伝染性膿痂疹、丹毒、癰、毛嚢炎、ハンセン病		薬と疾病（感染症）				応用薬学演習
8) 感染性心内膜炎、胸膜炎について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		薬と疾病（感染症）				応用薬学演習
9) 以下の薬剤耐性菌による院内感染について、感染経路と予防方法、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 MRSA、VRE、セラチア、緑膿菌等		薬と疾病（感染症）				応用薬学演習
10) 以下の全身性細菌感染症について、病態（病態生理、症状等）、感染経路と予防方法および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 ジフテリア、劇症型A群β溶血性連鎖球菌感染症、新生児B群連鎖球菌感染症、破傷風、敗血症		薬と疾病（感染症）				応用薬学演習
【④ウイルス感染症およびプリオン病の薬、病態、治療】						
1) ヘルペスウイルス感染症（単純ヘルペス、水痘・帯状疱疹）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、予防方法および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		薬と疾病（感染症）				応用薬学演習
2) サイトメガロウイルス感染症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		薬と疾病（感染症）				応用薬学演習
3) インフルエンザについて、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、感染経路と予防方法および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。	感染症とバイオセーフティ（選）	薬と疾病（感染症）	薬と疾病（呼吸器）			応用薬学演習
4) ウイルス性肝炎（HAV、HBV、HCV）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、感染経路と予防方法および病態（病態生理（急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、肝細胞がん）、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。（重複）		薬と疾病（感染症）	薬と疾病（消化器）			応用薬学演習
5) 後天性免疫不全症候群（AIDS）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、感染経路と予防方法および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。	感染症とバイオセーフティ（選）	薬と疾病（感染症）	薬と疾病（免疫アレルギー）			応用薬学演習
6) 以下のウイルス感染症（プリオン病を含む）について、感染経路と予防方法および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 伝染性紅斑（リンゴ病）、手足口病、伝染性単核球症、突発性発疹、咽頭結膜熱、ウイルス性下痢症、麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、風邪症候群、Creutzfeldt-Jakob（クロイツフェルト-ヤコブ）病		薬と疾病（感染症）				応用薬学演習
【⑤真菌感染症の薬、病態、治療】						
1) 抗真菌薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。		薬と疾病（感染症）				応用薬学演習
2) 以下の真菌感染症について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 皮膚真菌症、カンジダ症、ニューモシスチス肺炎、肺アスペルギルス症、クリプトコックス症		薬と疾病（感染症）				応用薬学演習
【⑥原虫・寄生虫感染症の薬、病態、治療】						
1) 以下の原虫感染症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 マラリア、トキソプラズマ症、トリコモナス症、アメーバ赤痢		薬と疾病（感染症）				応用薬学演習
2) 以下の寄生虫感染症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 回虫症、蟯虫症、アニサキス症		薬と疾病（感染症）				応用薬学演習
【⑦悪性腫瘍】						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
1) 腫瘍の定義（良性腫瘍と悪性腫瘍の違い）を説明できる。		薬と疾病（悪性腫瘍）				応用薬学演習
2) 悪性腫瘍について、以下の項目を概説できる。 組織型分類および病期分類、悪性腫瘍の検査（細胞診、組織診、画像診断、腫瘍マーカー（腫瘍関連の変異遺伝子、遺伝子産物を含む））、悪性腫瘍の疫学（がん罹患の現状およびがん死亡の現状）、悪性腫瘍のリスクおよび予防要因		薬と疾病（悪性腫瘍）	薬と疾病（神経・精神系疾患）			応用薬学演習
3) 悪性腫瘍の治療における薬物治療の位置づけを概説できる。		薬と疾病（悪性腫瘍）				応用薬学演習
【⑩悪性腫瘍の薬、病態、治療】						
1) 以下の抗悪性腫瘍薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用、相互作用、組織移行性）および臨床適用を説明できる。 アルキル化薬、代謝拮抗薬、抗腫瘍抗生物質、微小管阻害薬、トポイソメラーゼ阻害薬、抗腫瘍ホルモン関連薬、白金製剤、分子標的治療薬、その他の抗悪性腫瘍薬		薬と疾病（悪性腫瘍）	薬と疾病（呼吸器系疾患）	薬と疾病（血液・小児・皮膚疾患）		応用薬学演習
2) 抗悪性腫瘍薬に対する耐性獲得機構を説明できる。		薬と疾病（悪性腫瘍）		薬と疾病（血液・小児・皮膚疾患）		応用薬学演習
3) 抗悪性腫瘍薬の主な副作用（下痢、悪心・嘔吐、白血球減少、皮膚障害（手足症候群を含む）、血小板減少等）の軽減のための対処法を説明できる。		薬と疾病（悪性腫瘍）	薬と疾病（呼吸器系疾患）	薬と疾病（血液・小児・皮膚疾患）、薬と疾病チュートリアル3（がん疾患）		応用薬学演習
4) 代表的ながん化学療法レジメン（FOLFOX等）について、構成薬物およびその役割、副作用、対象疾患を概説できる。		薬と疾病（悪性腫瘍）		薬と疾病（血液・小児・皮膚疾患）、薬と疾病チュートリアル3（がん疾患）	症例演習と薬物療法の実践	応用薬学演習
5) 以下の白血病について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 急性（慢性）骨髄性白血病、急性（慢性）リンパ性白血病、成人T細胞白血病（ATL）		薬と疾病（悪性腫瘍）		薬と疾病（血液・小児・皮膚疾患）		応用薬学演習
6) 悪性リンパ腫および多発性骨髄腫について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		薬と疾病（悪性腫瘍）		薬と疾病（血液・小児・皮膚疾患）		応用薬学演習
7) 骨肉腫について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		薬と疾病（悪性腫瘍）		薬と疾病（眼・耳鼻咽喉・骨関節疾患）		応用薬学演習
8) 以下の消化器系の悪性腫瘍について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 胃癌、食道癌、肝癌、大腸癌、胆嚢・胆管癌、膵癌		薬と疾病（悪性腫瘍）	薬と疾病（消化器疾患）			応用薬学演習
9) 肺癌について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		薬と疾病（悪性腫瘍）	薬と疾病（呼吸器）	薬と疾病シュートリアル3（がん疾患）	症例演習と薬物療法の実践	応用薬学演習
10) 以下の頭頸部および感覚器の悪性腫瘍について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 脳腫瘍、網膜芽細胞腫、喉頭、咽頭、口腔の悪性腫瘍		薬と疾病（悪性腫瘍）	薬と疾病（神経・精神系疾患）			応用薬学演習
11) 以下の生殖器の悪性腫瘍について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 前立腺癌、子宮癌、卵巣癌		薬と疾病（悪性腫瘍）	薬と疾病（泌尿器・生殖器系疾患）			応用薬学演習
12) 腎・尿路系の悪性腫瘍（腎癌、膀胱癌）について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		薬と疾病（悪性腫瘍）	薬と疾病（泌尿器・生殖器系疾患）			応用薬学演習
13) 乳癌について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		薬と疾病（悪性腫瘍）	薬と疾病（泌尿器・生殖器系疾患）			応用薬学演習
【⑪がん終末期医療と緩和ケア】						
1) がん終末期の病態（病態生理、症状等）と治療を説明できる。		薬と疾病（悪性腫瘍）				応用薬学演習
2) がん性疼痛の病態（病態生理、症状等）と薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		薬と疾病（悪性腫瘍）	薬と疾病（神経・精神系疾患）			応用薬学演習
【⑫化学構造と薬効】						
1) 病原微生物・悪性新生物に関わる疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。		薬と疾病（感染症）、薬と疾病（悪性腫瘍）				
【(B) バイオ・細胞医薬品とゲノム情報】						
【⑬組換え体医薬品】						
1) 組換え体医薬品の特色と有用性を説明できる。			薬と疾病（免疫アレルギー）、生命活動を担う分子（ゲノム情報とバイオ医薬品）		応用薬学演習	
2) 代表的な組換え体医薬品を挙挙できる。			薬と疾病（免疫アレルギー）、生命活動を担う分子（ゲノム情報とバイオ医薬品）		応用薬学演習	
3) 組換え体医薬品の安全性について概説できる。			生命活動を担う分子（ゲノム情報とバイオ医薬品）		応用薬学演習	
【⑭遺伝子治療】						
1) 遺伝子治療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。（知識・態度）			生命活動を担う分子（ゲノム情報とバイオ医薬品）		応用薬学演習	
【⑮細胞、組織を利用した移植医療】						
1) 移植医療の原理、方法と手順、現状およびゲノム情報の取り扱いに関する倫理的問題点を概説できる。（知識・態度）			生命活動を担う分子（ゲノム情報とバイオ医薬品）			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	試 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
2) 摘出および培養組織を用いた移植医療について説明できる。			薬と疾病（免疫アレルギー）、生命活動を担う分子（ゲノム情報とバイオ医薬品）			
3) 臍帯血、末梢血および骨髄に由来する血液幹細胞を用いた移植医療について説明できる。			薬と疾病（免疫アレルギー）、生命活動を担う分子（ゲノム情報とバイオ医薬品）			
4) 胚性幹細胞（ES細胞）、人工多能性幹細胞（iPS細胞）を用いた細胞移植医療について概説できる。			生命活動を担う分子（ゲノム情報とバイオ医薬品）			
(9) 要指導医薬品・一般用医薬品とセルフメディケーション						
1) 地域における疾病予防、健康維持増進、セルフメディケーションのために薬剤師が果たす役割を概説できる。			急性期医療と薬剤師 薬剤師と医薬品に係る法規範Ⅱ	地域医療とプライマリ・ケア 実務実習事前学修	医薬品の副作用・有害事象 症候と疾患推測	
2) 要指導医薬品および一般用医薬品（リスクの程度に応じた区分（第一類、第二類、第三類）も含む）について説明し、各分類に含まれる代表的な製剤を列挙できる。			薬剤師と医薬品に係る法規範Ⅱ	地域医療とプライマリ・ケア 実務実習事前学修	医薬品の副作用・有害事象	
3) 代表的な症候について、関連する頻度の高い疾患、見逃してはいけない疾患を列挙できる。				地域医療とプライマリ・ケア 実務実習事前学修	医薬品の副作用・有害事象 症候と疾患推測	
4) 要指導医薬品・一般用医薬品の選択、受診勧奨の要否を判断するために必要な患者情報を収集できる。（技能）				地域医療とプライマリ・ケア 実務実習事前学修	症候と疾患推測	
5) 以下の疾患・症候に対するセルフメディケーションに用いる要指導医薬品・一般用医薬品等に含まれる成分・作用・副作用を列挙できる。 発熱、痛み、かゆみ、消化器症状、呼吸器症状、アレルギー、細菌・真菌感染症、生活習慣病 等				地域医療とプライマリ・ケア 実務実習事前学修	医薬品の副作用・有害事象 症候と疾患推測	
6) 主な養生法（運動・食事療法、サプリメント、保健機能食品を含む）とその健康の保持・促進における意義を説明できる。				地域医療とプライマリ・ケア 実務実習事前学修	症候と疾患推測	
7) 要指導医薬品・一般用医薬品と医療用医薬品、サプリメント、保健機能食品等との代表的な相互作用を説明できる。				地域医療とプライマリ・ケア 実務実習事前学修	医薬品の副作用・有害事象	
8) 要指導医薬品・一般用医薬品等による治療効果と副作用を判定するための情報を収集し評価できる。（技能）				地域医療とプライマリ・ケア 実務実習事前学修		
(10) 医療の中の漢方薬						
【①漢方薬の基礎】						
1) 漢方の特徴について概説できる。	漢方薬になる動植物			漢方医学の実践		
2) 以下の漢方の基本用語を説明できる。 陰陽、虚実、寒熱、表裏、気血水、証				漢方医学の実践		
3) 配合生薬の組み合わせによる漢方薬の系統的な分類が説明できる。				漢方医学の実践		
4) 漢方薬と西洋薬、民間薬、サプリメント、保健機能食品などとの相違について説明できる。				漢方医学の実践		
【②漢方薬の応用】						
1) 漢方医学における診断法、体質や病態の捉え方、治療法について概説できる。				漢方医学の実践		
2) 日本薬局方に収載される漢方薬の適応となる証、症状や疾患について例示して説明できる。				漢方医学の実践		
3) 現代医療における漢方薬の役割について説明できる。				漢方医学の実践		
【③漢方薬の注意点】						
1) 漢方薬の副作用と使用上の注意点を例示して説明できる。				漢方医学の実践		
(11) 薬物治療の最適化						
【①総合演習】						
1) 代表的な疾患の症例について、患者情報および医薬品情報などの情報に基づいて薬物治療の最適化を討議する。（知識・態度）			薬と疾病（神経・精神系疾患）		学部連携病棟実習	学部連携病棟実習
2) 過剰量の医薬品による副作用への対応（解毒薬を含む）を討議する。（知識・態度）				薬毒物と中毒		
3) 長期療養に付随する合併症を列挙し、その薬物治療について討議する。（知識・態度）						
E 医療薬学						
E3 薬物治療に役立つ情報						
(1) 医薬品情報						
【①情報】						
1) 医薬品を使用したり取り扱う上で、必須の医薬品情報を列挙できる。			医薬品情報と患者情報	実務実習事前学修		
2) 医薬品情報に関わっている職種を列挙し、その役割について概説できる。			医薬品情報と患者情報	実務実習事前学修		
3) 医薬品（後発医薬品等を含む）の開発過程で行われる試験（非臨床試験、臨床試験、安定性試験等）と得られる医薬品情報について概説できる。			医薬品情報と患者情報 薬剤師と医薬品に係る法規範Ⅱ	実務実習事前学修		
4) 医薬品の市販後に行われる調査・試験と得られる医薬品情報について概説できる。			医薬品情報と患者情報 薬剤師と医薬品に係る法規範Ⅱ	実務実習事前学修		
5) 医薬品情報に関係する代表的な法律・制度（「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」、GCP、GVP、GPSP、RMP など）とレギュラトリーサイエンスについて概説できる。			医薬品情報と患者情報 薬剤師と医薬品に係る法規範Ⅱ	実務実習事前学修		
【②情報源】						
1) 医薬品情報源の一次資料、二次資料、三次資料の分類について概説できる。			医薬品情報と患者情報	実務実習事前学修		
2) 医薬品情報源として代表的な二次資料、三次資料を列挙し、それらの特徴について説明できる。			医薬品情報と患者情報	実務実習事前学修		
3) 厚生労働省、医薬品医療機器総合機構、製薬企業などの発行する資料を列挙し、概説できる。			医薬品情報と患者情報	実務実習事前学修		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
4）医薬品添付文書（医療用、一般用）の法的位置づけについて説明できる。			医薬品情報と患者情報 薬剤師と医薬品に係る法規範Ⅱ	実務実習事前学修		
5）医薬品添付文書（医療用、一般用）の記載項目（警告、禁忌、効能・効果、用法・用量、使用上の注意など）を列挙し、それらの意味や記載すべき内容について説明できる。			医薬品情報と患者情報 薬剤師と医薬品に係る法規範Ⅱ	実務実習事前学修		
6）医薬品インタビュフォームの位置づけと医薬品添付文書との違いについて説明できる。			医薬品情報と患者情報 調剤・患者対応入門	実務実習事前学修		
【③収集・評価・加工・提供・管理】						
1）目的（効能効果、副作用、相互作用、薬剤鑑別、妊婦への投与、中毒など）に合った適切な情報源を選択し、必要な情報を検索、収集できる。（技能）			医薬品情報と患者情報	実務実習事前学修	症例演習と薬物療法の実践 学部連携病棟実習	学部連携病棟実習
2）MEDLINEなどの医学・薬学文献データベース検索におけるキーワード、シソーラスの重要性を理解し、検索できる。（知識・技能）			医薬品情報と患者情報 調剤・患者対応入門	EBM演習 実務実習事前学修	症例演習と薬物療法の実践 学部連携病棟実習	学部連携病棟実習
3）医薬品情報の信頼性、科学的妥当性などを評価する際に必要な基本的項目を列挙できる。			医薬品情報と患者情報 調剤・患者対応入門	EBM演習 実務実習事前学修		
4）臨床試験などの原著論文および三次資料について医薬品情報の質を評価できる。（技能）			医薬品情報と患者情報 調剤・患者対応入門	実務実習事前学修		
5）医薬品情報をニーズに合わせて加工・提供し管理する際の方法と注意点（知的所有権、守秘義務など）について説明できる。			医薬品情報と患者情報 調剤・患者対応入門	実務実習事前学修		
【④EBM（Evidence-based Medicine）】						
1）EBMの基本概念と実践のプロセスについて説明できる。			医薬品情報と患者情報	EBM演習		
2）代表的な臨床研究法（ランダム化比較試験、コホート研究、ケースコントロール研究など）の長所と短所を挙げ、それらのエビデンスレベルについて概説できる。		個人・集団・社会と健康	医薬品情報と患者情報	EBM演習		
3）臨床研究論文の批判的吟味に必要な基本的項目を列挙し、内的妥当性（研究結果の正確度や再現性）と外的妥当性（研究結果の一般化の可能性）について概説できる。 （E3（1）【③収集・評価・加工・提供・管理】参照）			医薬品情報と患者情報	EBM演習		
4）メタアナリシスの概念を理解し、結果を説明できる。		個人・集団・社会と健康	医薬品情報と患者情報	EBM演習		
【⑤生物統計】						
1）臨床研究における基本的な統計量（平均値、中央値、標準偏差、標準誤差、信頼区間など）の意味と違いを説明できる。		個人・集団・社会と健康	医薬品情報と患者情報			
2）帰無仮説の概念および検定と推定の違いを説明できる。			医薬品情報と患者情報			
3）代表的な分布（正規分布、t分布、二項分布、ポアソン分布、 χ^2 分布、F分布）について概説できる。			医薬品情報と患者情報			
4）主なパラメトリック検定とノンパラメトリック検定を列挙し、それらの使い分けを説明できる。			医薬品情報と患者情報			
5）二群間の差の検定（t検定、 χ^2 検定など）を実施できる。（技能）			研究倫理と統計			
6）主な回帰分析（直線回帰、ロジスティック回帰など）と相関係数の検定について概説できる。			研究倫理と統計			
7）基本的な生存時間解析法（カプラン・マイヤー曲線など）について概説できる。			研究倫理と統計	EBM演習		
【⑥臨床研究デザインと解析】						
1）臨床研究（治験を含む）の代表的な手法（介入研究、観察研究）を列挙し、それらの特徴を概説できる。			医薬品情報と患者情報 研究倫理と統計 薬剤師と医薬品に係る法規範Ⅱ	EBM演習	医薬品評価と開発	
2）臨床研究におけるバイアス・交絡について概説できる。			医薬品情報と患者情報 研究倫理と統計	EBM演習	医薬品評価と開発	
3）観察研究での主な疫学研究デザイン（症例報告、症例集積、コホート研究、ケースコントロール研究、ネステッドケースコントロール研究、ケースコホート研究など）について概説できる。			医薬品情報と患者情報	EBM演習	医薬品評価と開発	
4）副作用の因果関係を評価するための方法（副作用判定アルゴリズムなど）について概説できる。					医薬品の副作用・有害事象、医薬品評価と開発	
5）優越性試験と非劣性試験の違いについて説明できる。						
6）介入研究の計画上の技法（症例数設定、ランダム化、盲検など）について概説できる。			研究倫理と統計		医薬品評価と開発	
7）統計解析時の注意点について概説できる。			研究倫理と統計		医薬品評価と開発	
8）介入研究の効果指標（真のエンドポイントと代用のエンドポイント、主要エンドポイントと副次的エンドポイント）の違いを、例を挙げて説明できる。			研究倫理と統計	EBM演習	医薬品評価と開発	
9）臨床研究の結果（有効性、安全性）の主なパラメータ（相対リスク、相対リスク減少、絶対リスク、絶対リスク減少、治療必要数、オッズ比、発生率、発生割合）を説明し、計算できる。 （知識・技能）			研究倫理と統計	EBM演習	医薬品評価と開発	
【⑦医薬品の比較・評価】						
1）病院や薬局において医薬品を採用・選択する際に検討すべき項目を列挙し、その意義を説明できる。			医薬品情報と患者情報			薬剤師の臨床判断
2）医薬品情報にもとづいて、代表的な同種同効薬の有効性や安全性について比較・評価できる。 （技能）			調剤・患者対応入門			薬剤師の臨床判断
3）医薬品情報にもとづいて、先発医薬品と後発医薬品の品質、安全性、経済性などについて、比較・評価できる。（技能）			調剤・患者対応入門			薬剤師の臨床判断
【⑧患者情報】						
【①情報と情報源】						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
1) 薬物治療に必要な患者基本情報を列挙できる。			医薬品情報と患者情報 調剤・患者対応入門	実務実習事前学修		
2) 患者情報源の種類を列挙し、それぞれの違いを説明できる。			医薬品情報と患者情報			
【②収集・評価・管理】						
1) 問題志向型システム（POS）を説明できる。			医薬品情報と患者情報、薬と疾病 チュートリアルⅠ（神経疾患）	実務実習事前学修		
2) SOAP形式などの患者情報の記録方法について説明できる。			医薬品情報と患者情報、薬と疾病 チュートリアルⅠ（神経疾患）	実務実習事前学修		
3) 医薬品の効果や副作用を評価するために必要な患者情報について概説できる。			医薬品情報と患者情報	実務実習事前学修		
4) 患者情報の取扱いにおける守秘義務と管理の重要性を説明できる。 （A（2）【③患者の権利】参照）			医薬品情報と患者情報	実務実習事前学修		
【③個別化医療】						
【①遺伝的素因】						
1) 薬物の主作用および副作用に影響する代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。			生命活動を担う分子（ゲノム情報 とバイオ医薬品）、医薬品・化学 物質の代謝反応	個別化医療		
2) 薬物動態に影響する代表的な遺伝的素因（薬物代謝酵素・トランスポーターの遺伝子変異など） について、例を挙げて説明できる。			生命活動を担う分子（ゲノム情報 とバイオ医薬品）、医薬品・化学 物質の代謝反応	個別化医療		
3) 遺伝的素因を考慮した薬物治療について、例を挙げて説明できる。			生命活動を担う分子（ゲノム情報 とバイオ医薬品）、医薬品・化学 物質の代謝反応	個別化医療		
【②年齢的要因】						
1) 低出生体重児、新生児、乳児、幼児、小児における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を 説明できる。			薬物動態の解析	個別化医療、薬と疾病（血液・小 児・皮膚疾患）		
2) 高齢者における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。			薬物動態の解析	個別化医療		
【③臓器機能低下】						
1) 腎疾患・腎機能低下時における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。			薬物動態の解析	個別化医療		
2) 肝疾患・肝機能低下時における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。			薬物動態の解析	個別化医療		
3) 心臓疾患を伴った患者における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。			薬物動態の解析	個別化医療		
【④その他の素因】						
1) 薬物の効果に影響する生理的要因（性差、閉経、日内変動など）を列挙できる。				個別化医療		
2) 妊娠・授乳期における薬物動態と、生殖・妊娠・授乳期の薬物治療で注意すべき点を説明できる。			薬物動態の解析	個別化医療		
3) 栄養状態の異なる患者（肥満、低アルブミン血症、腹水など）における薬物動態と、薬物治療で 注意すべき点を説明できる。				個別化医療		
【⑤個別化医療の計画・立案】						
1) 個別の患者情報（遺伝的素因、年齢的要因、臓器機能など）と医薬品情報をもとに、薬物治療を 計画・立案できる。（技能）				個別化医療		
2) コンパニオン診断にもとづく薬物治療について、例を挙げて説明できる。				個別化医療		
E4 薬の生体内運命						
【①生体内運命】						
1) 薬物の生体内運命における単純拡散、促進拡散および能動輸送の特徴を説明できる。		薬の作用と生体内運命	薬物の体内動態 医薬品・化学物質の代謝反応			応用薬学演習
2) 薬物の生体内運命に関わるトランスポーターの例を挙げ、その特徴と薬物動態における役割を 説明できる。		薬の作用と生体内運命	薬物の体内動態 医薬品・化学物質の代謝反応			応用薬学演習
【②吸収】						
1) 経口投与された薬物の吸収について説明できる。		薬の作用と生体内運命	薬物の体内動態 医薬品・化学物質の代謝反応			応用薬学演習
2) 非経口的に投与される薬物の吸収について説明できる。		薬の作用と生体内運命	薬物の体内動態			応用薬学演習
3) 薬物の吸収に影響する因子（薬物の物性、生理学的要因など）を列挙し、説明できる。		薬の作用と生体内運命	薬物の体内動態			応用薬学演習
4) 薬物の吸収過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。		薬の作用と生体内運命	薬物の体内動態 医薬品・化学物質の代謝反応			応用薬学演習
5) 初回通過効果について説明できる。		薬の作用と生体内運命	薬物の体内動態 医薬品・化学物質の代謝反応			応用薬学演習
【③分布】						
1) 薬物が結合する代表的な血漿タンパク質を挙げ、タンパク結合の強い薬物を列挙できる。		薬の作用と生体内運命	薬物の体内動態 医薬品・化学物質の代謝反応			応用薬学演習
2) 薬物の組織移行性（分布容積）と血漿タンパク結合ならびに組織結合との関係を、定量的 に説明できる。		薬の作用と生体内運命	薬物の体内動態			応用薬学演習
3) 薬物のタンパク結合および結合阻害の測定・解析方法を説明できる。		薬の作用と生体内運命	薬物の体内動態			応用薬学演習

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
4) 血液—組織関門の構造・機能と、薬物の脳や胎児等への移行について説明できる。		薬の作用と生体内運命	医薬品・化学物質の代謝反応、薬物の体内動態			応用薬学演習
5) 薬物のリンパおよび乳汁中への移行について説明できる。		薬の作用と生体内運命	薬物の体内動態			応用薬学演習
6) 薬物の分布過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。			薬物の体内動態			応用薬学演習
【④代謝】						
1) 代表的な薬物代謝酵素を列挙し、その代謝反応が起こる組織ならびに細胞内小器官、反応様式について説明できる。		薬の作用と生体内運命	医薬品・化学物質の代謝反応			応用薬学演習
2) 薬物代謝の第Ⅰ相反応（酸化・還元・加水分解）、第Ⅱ相反応（抱合）について、例を挙げて説明できる。		薬の作用と生体内運命	医薬品・化学物質の代謝反応			応用薬学演習
3) 代表的な薬物代謝酵素（分子種）により代謝される薬物を列挙できる。		薬の作用と生体内運命	医薬品・化学物質の代謝反応			応用薬学演習
4) プロドラッグと活性代謝物について、例を挙げて説明できる。		薬の作用と生体内運命	医薬品・化学物質の代謝反応	薬物送達システム、薬となる化合物の構造と性質		応用薬学演習
5) 薬物代謝酵素の阻害および誘導のメカニズムと、それらに関連して起こる相互作用について、例を挙げ、説明できる。			医薬品・化学物質の代謝反応			応用薬学演習
【⑤排泄】						
1) 薬物の尿中排泄機構について説明できる。		薬の作用と生体内運命	薬物の体内動態			応用薬学演習
2) 腎クリアランスと、糸球体ろ過、分泌、再吸収の関係を定量的に説明できる。			薬物の体内動態			応用薬学演習
3) 代表的な腎排泄型薬物を列挙できる。			薬物の体内動態			応用薬学演習
4) 薬物の胆汁中排泄と腸肝循環について説明できる。			薬物の体内動態			応用薬学演習
5) 薬物の排泄過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。			薬物の体内動態			応用薬学演習
【②薬物動態の解析】						
【①薬物速度論】						
1) 線形コンパートメントモデルと、関連する薬物動態パラメータ（全身クリアランス、分布容積、消失半減期、生物学的利用能など）の概念を説明できる。			薬物の体内動態、薬物動態の解析 調剤・患者対応入門		応用薬学演習	
2) 線形1-コンパートメントモデルに基づいた解析ができる（急速静注・経口投与〔単回および反復投与〕、定速静注）。（知識、技能）			薬物の体内動態、薬物動態の解析 調剤・患者対応入門		応用薬学演習	
3) 体内動態が非線形性を示す薬物の例を挙げ、非線形モデルに基づいた解析ができる。（知識、技能）			薬物動態の解析 調剤・患者対応入門		応用薬学演習	
4) モーメント解析の意味と、関連するパラメータの計算法について説明できる。			薬物動態の解析		応用薬学演習	
5) 組織クリアランス（肝、腎）および固有クリアランスの意味と、それらの関係について、数式を使って説明できる。			薬物動態の解析		応用薬学演習	
6) 薬物動態学—薬力学解析（PK-PD解析）について概説できる。			薬物動態の解析		応用薬学演習	
【②TDM（Therapeutic Drug Monitoring）と投与設計】						
1) 治療薬物モニタリング（TDM）の意義を説明し、TDMが有効な薬物を列挙できる。			薬物動態の解析 調剤・患者対応入門			応用薬学演習
2) TDMを行う際の採血ポイント、試料の取り扱い、測定法について説明できる。			薬物動態の解析 調剤・患者対応入門			応用薬学演習
3) 薬物動態パラメータを用いて患者ごとの薬物投与設計ができる。（知識、技能）			薬物動態の解析 調剤・患者対応入門			応用薬学演習
4) ボビュレーションファーマコキネティクスの概念と応用について概説できる。			薬物動態の解析			応用薬学演習
E5 製剤化のサイエンス						
【1）製剤の性質】						
【①固形材料】						
1) 粉体の性質について説明できる。			製剤の性質			応用薬学演習
2) 結晶（安定形および準安定形）や非晶質、無水物や水和物の性質について説明できる。			製剤の性質			応用薬学演習
3) 固形材料の溶解現象（溶解度、溶解平衡など）や溶解した物質の拡散と溶解速度について説明できる。 （C2（2）【①酸・塩基平衡】1.及び【②各種の化学平衡】2.参照）			溶液の性質（溶解速度）			応用薬学演習
4) 固形材料の溶解に影響を及ぼす因子（pHや温度など）について説明できる。			製剤の性質			応用薬学演習
5) 固形材料の溶解度や溶解速度を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。			製剤の性質			応用薬学演習
【②半固形・液状材料】						
1) 流動と変形（レオロジー）について説明できる。			製剤の性質			応用薬学演習
2) 高分子の構造と高分子溶液の性質（粘度など）について説明できる。			製剤の性質			応用薬学演習
【③分散系材料】						
1) 界面の性質（界面張力、分配平衡、吸着など）や代表的な界面活性剤の種類と性質について説明できる。 （C2（2）【②各種の化学平衡】4.参照）			製剤の性質			応用薬学演習
2) 代表的な分散系（分子集合体、コロイド、乳剤、懸濁剤など）を列挙し、その性質について説明できる。			製剤の性質			応用薬学演習
3) 分散した粒子の安定性と分離現象（沈降など）について説明できる。			製剤の性質			応用薬学演習
4) 分散安定性を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。			製剤の性質			応用薬学演習
【④薬物及び製剤材料の物性】						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SB06）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
1）製剤分野で汎用される高分子の構造を理解し、その物性について説明できる。			製剤の性質			応用薬学演習
2）薬物の安定性（反応速度、複合反応など）や安定性に影響を及ぼす因子（pH、温度など）について説明できる。 （C1（3）【①反応速度】1.～7.参照）			製剤の性質			応用薬学演習
3）薬物の安定性を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。			製剤の性質			応用薬学演習
【2）製剤設計						
【①代表的な製剤】						
1）製剤化の概要と意義について説明できる。		物質の性質・分析・製剤化と製剤試験法 実習	製剤設計 製剤化と製剤試験法 実習			応用薬学演習
2）経口投与する製剤の種類とその特性について説明できる。		物質の性質・分析・製剤化と製剤試験法 実習	製剤設計 製剤化と製剤試験法 実習			応用薬学演習
3）粘膜に適用する製剤（点眼剤、吸入剤など）の種類とその特性について説明できる。		物質の性質・分析・製剤化と製剤試験法 実習	製剤設計 製剤化と製剤試験法 実習			応用薬学演習
4）注射により投与する製剤の種類とその特性について説明できる。			製剤設計			応用薬学演習、薬剤師の臨床判断
5）皮膚に適用する製剤の種類とその特性について説明できる。		物質の性質・分析・製剤化と製剤試験法 実習	製剤設計 製剤化と製剤試験法 実習			応用薬学演習、薬剤師の臨床判断
6）その他の製剤（生薬関連製剤、透析に用いる製剤など）の種類と特性について説明できる。			製剤設計			応用薬学演習
【②製剤化と製剤試験法】						
1）代表的な医薬品添加物の種類・用途・性質について説明できる。		物質の性質・分析・製剤化と製剤試験法 実習	製剤設計 製剤化と製剤試験法 実習			応用薬学演習
2）製剤化の単位操作、汎用される製剤機械および代表的な製剤の具体的な製造工程について説明できる。		物質の性質・分析・製剤化と製剤試験法 実習	製剤設計 製剤化と製剤試験法 実習			応用薬学演習
3）汎用される容器、包装の種類や特徴について説明できる。			製剤設計			
4）製剤に関連する試験法を列挙し、説明できる。		物質の性質・分析・製剤化と製剤試験法 実習	製剤設計 製剤化と製剤試験法 実習			応用薬学演習
【③生物学的同等性】						
1）製剤の特性（適用部位、製剤からの薬物の放出性など）を理解した上で、生物学的同等性について説明できる。			製剤設計 薬剤師と医薬品に係る法規Ⅱ			
【3）DDS（Drug Delivery System：薬物送達システム）						
【①DDS の必要性】						
1）DDSの概念と有用性について説明できる。				薬物送達システム		応用薬学演習
2）代表的なDDS技術を列挙し、説明できる。 （プロドラッグについては、E4（I）【④代謝】4.も参照）				薬物送達システム		応用薬学演習
【②コントロールドリリース（放出制御）】						
1）コントロールドリリースの概要と意義について説明できる。				薬物送達システム		応用薬学演習
2）投与部位ごとに、代表的なコントロールドリリース技術を列挙し、その特性について説明できる。				薬物送達システム		応用薬学演習
3）コントロールドリリース技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。				薬物送達システム		応用薬学演習
【③ターゲティング（標的指向化）】						
1）ターゲティングの概要と意義について説明できる。				薬物送達システム		応用薬学演習
2）投与部位ごとに、代表的なターゲティング技術を列挙し、その特性について説明できる。				薬物送達システム		応用薬学演習
3）ターゲティング技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。				薬物送達システム		応用薬学演習
【④吸収改善】						
1）吸収改善の概要と意義について説明できる。				薬物送達システム		応用薬学演習
2）投与部位ごとに、代表的な吸収改善技術を列挙し、その特性について説明できる。				薬物送達システム		応用薬学演習
3）吸収改善技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。				薬物送達システム		応用薬学演習
F 薬学臨床						
前）：病院・薬局での実務実習履修前に修得すべき事項						
【1）薬学臨床の基礎						
【①早期臨床体験】 ※原則として 2年次修了までに学習する事項						
1）患者・生活者の視点に立って、様々な薬剤師の業務を見聞し、その体験から薬剤師業務の重要性について討議する。（知識・態度）	初年次体験実習	診療の流れを知る				
2）地域の保健・福祉を見聞した具体的体験に基づきその重要性や課題を討議する。（知識・態度）				地域医療とプライマリーケア 学部連携チーム医療PBLⅢⅠ・在宅 チーム医療と倫理TBLⅢⅠ	地域医療実習	地域医療実習
3）一次救命処置（心肺蘇生、外傷対応等）を説明し、シミュレータを用いて実施できる。 （知識・技能）	初年次体験実習		急性期医療と薬剤師			薬剤師の臨床判断
【②臨床における心構え】【A（1）、（2）参照】						
1）前）医療の担い手が守るべき倫理規範や法令について討議する。（態度）		薬剤師と医薬品に係る法規Ⅰ	薬剤師と医薬品に係る法規Ⅱ			薬剤師の臨床判断
2）前）患者・生活者中心の医療の視点から患者・生活者の個人情報や自己決定権に配慮すべき個々の対応ができる。（態度）			調剤・患者対応入門	実務実習事前学修		薬剤師の臨床判断

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SB06）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
3) 前) 患者・生活者の健康の回復と維持、生活の質の向上に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を討議する。（態度）			調剤・患者対応入門	実務実習事前学修		
4) 医療の担い手が守るべき倫理規範を遵守し、ふさわしい態度で行動する。（態度）		診療の流れを知る			臨床心理学の活用、薬局実習、病院実習1,2	
5) 患者・生活者の基本的権利、自己決定権について配慮する。（態度）					臨床心理学の活用、薬局実習、病院実習1,2	
6) 薬学的管理を実施する際に、インフォームド・コンセントを得ることができる。（態度）					薬局実習、病院実習2	
7) 職務上知り得た情報について守秘義務を遵守する。（態度）		診療の流れを知る			臨床心理学の活用、薬局実習、病院実習1,2	
【③臨床実習の基礎】						
1) 前) 病院・薬局における薬剤師業務全体の流れを概説できる。				実務実習事前学修		
2) 前) 病院・薬局で薬剤師が実践する薬学的管理の重要性について説明できる。				実務実習事前学修		
3) 前) 病院薬剤部門を構成する各セクションの業務を列挙し、その内容と関連を概説できる。				実務実習事前学修		
4) 前) 病院に所属する医療スタッフの職種名を列挙し、その業務内容を相互に関連づけて説明できる。			急性期医療と薬剤師	実務実習事前学修		
5) 前) 薬剤師の関わる社会保障制度（医療、福祉、介護）の概略を説明できる。 【B（3）①参照】				実務実習事前学修		
6) 病院における薬剤部門の位置づけと業務の流れについて他部門と関連付けて説明できる。				実務実習事前学修	病院実習1、学部連携病棟実習	
7) 代表的な疾患の入院治療における適切な薬学的管理について説明できる。					病院実習1、学部連携病棟実習	
8) 入院から退院に至るまで入院患者の医療に継続して関わることができる。（態度）					病院実習1,2、学部連携病棟実習	
9) 急性期医療（救急医療・集中治療・外傷治療等）や周術期医療における適切な薬学的管理について説明できる。			急性期医療と薬剤師		病院実習2	
10) 周産期医療や小児医療における適切な薬学的管理について説明できる。			急性期医療と薬剤師	個別化医療	病院実習2	
11) 終末期医療や緩和ケアにおける適切な薬学的管理について説明できる。					病院実習2、学部連携病棟実習	
12) 外来化学療法における適切な薬学的管理について説明できる。					病院実習1、学部連携病棟実習	
13) 保険評価要件を薬剤師業務と関連付けて概説することができる。					薬局実習、病院実習1,2	
14) 薬局における薬剤師業務の流れを相互に関連付けて説明できる。					薬局実習	
15) 薬局者の調剤に対して、処方せんの受付から薬剤の交付に至るまで継続して関わることができる。（知識・態度）					薬局実習	
【2）処方せんに基づく調剤】						
【①法令・規則等の理解と遵守】【B（2）、（3）参照】						
1) 前) 調剤業務に関わる事項（処方せん、調剤録、疑義照会等）の意義や取り扱いを法的根拠に基づいて説明できる。			処方箋と調剤 調剤・患者対応入門	実務実習事前学修		
2) 調剤業務に関わる法的文書（処方せん、調剤録等）の適切な記載と保存・管理ができる。（知識・技能）					薬局実習、病院実習1	
3) 法的根拠に基づき、一連の調剤業務を適正に実施する。（技能・態度）					薬局実習、病院実習1	
4) 保険薬局として必要な条件や設備等を具体的に関連付けて説明できる。					薬局実習	
【②処方せんと疑義照会】						
1) 前) 代表的な疾患に使用される医薬品について効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用を列挙できる。			処方箋と調剤	実務実習事前学修	症例演習と薬物療法の実践	
2) 前) 処方オーダーリングシステムおよび電子カルテについて概説できる。			処方箋と調剤			
3) 前) 処方せんの様式と必要記載事項、記載方法について説明できる。			処方箋と調剤 調剤・患者対応入門	実務実習事前学修		
4) 前) 処方せんの監査の意義、その必要性と注意点について説明できる。			処方箋と調剤 調剤・患者対応入門	実務実習事前学修		
5) 前) 処方せんを監査し、不適切な処方せんについて、その理由が説明できる。			処方箋と調剤 調剤・患者対応入門	輸液と栄養 実務実習事前学修		
6) 前) 処方せん等に基づき疑義照会ができる。（技能・態度）			処方箋と調剤 調剤・患者対応入門	実務実習事前学修		
7) 処方せんの記載事項（医薬品名、分量、用法・用量等）が適切であるか確認できる。（知識・技能）				実務実習事前学修	薬局実習、病院実習1	
8) 注射薬処方せんの記載事項（医薬品名、分量、投与速度、投与ルート等）が適切であるか確認できる。（知識・技能）				実務実習事前学修	病院実習1	薬剤師の臨床判断
9) 処方せんの正しい記載方法を例示できる。（技能）				実務実習事前学修	薬局実習、病院実習1	
10) 薬歴、診療録、患者の状態から処方が妥当であるか判断できる。（知識・技能）				実務実習事前学修	薬局実習、病院実習2	薬剤師の臨床判断
11) 薬歴、診療録、患者の状態から判断して適切に疑義照会ができる。（技能・態度）				実務実習事前学修	薬局実習、病院実習2	薬剤師の臨床判断
【③処方せんに基づく医薬品の調製】						
1) 前) 薬袋、薬札（ラベル）に記載すべき事項を適切に記入できる。（技能）			調剤・患者対応入門	実務実習事前学修		
2) 前) 主な医薬品の成分（一般名）、商標名、剤形、規格等を列挙できる。			処方箋と調剤 調剤・患者対応入門	実務実習事前学修		
3) 前) 処方せんに従って、計数・計量調剤ができる。（技能）			調剤・患者対応入門	実務実習事前学修		
4) 前) 後発医薬品選択の手順を説明できる。			処方箋と調剤	実務実習事前学修		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
5) 前) 代表的な注射剤・散剤・水剤等の配合変化のある組合せとその理由を説明できる。			処方箋と調剤 調剤・患者対応入門	輸液と栄養 実務実習事前学修		
6) 前) 無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。（知識・技能）			処方箋と調剤	実務実習事前学修		
7) 前) 抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的な手法を実施できる。 （技能）				実務実習事前学修		
8) 前) 処方せんに基づき調剤された薬剤の監査ができる。（知識・技能）			処方箋と調剤 調剤・患者対応入門	実務実習事前学修		
9) 主な医薬品の一般名・剤形・規格から該当する製品を選択できる。（技能）					薬局実習、病院実習1	
10) 適切な手順で後発医薬品を選択できる。（知識・技能）					薬局実習、病院実習1	
11) 処方せんに従って計数・計量調剤ができる。（技能）			調剤・患者対応入門		薬局実習、病院実習1	
12) 錠剤の粉砕、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる。（知識・技能）					薬局実習、病院実習1	
13) 一回量（一包化）調剤の必要性を判断し、実施できる。（知識・技能）					薬局実習、病院実習1	
14) 注射処方せんに従って注射薬調剤ができる。（技能）				実務実習事前学修	病院実習1	
15) 注射剤・散剤・水剤等の配合変化に関して実施されている回避方法を列挙できる。				実務実習事前学修	病院実習1	
16) 注射剤（高カロリ輸液等）の無菌的混合操作を実施できる。（技能）				実務実習事前学修	病院実習1	
17) 抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の手法を実施できる。 （知識・技能）				実務実習事前学修	病院実習1	
18) 特別な注意を要する医薬品（劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬・抗悪性腫瘍薬等）の調剤と適切な取扱いができる。（知識・技能）					薬局実習、病院実習1	
19) 調製された薬剤に対して、監査が実施できる。（知識・技能）					薬局実習、病院実習1	
【④患者・来局者対応、服薬指導、患者教育】						
1) 前) 適切な態度で、患者・来局者と応対できる。（態度）			調剤・患者対応入門	実務実習事前学修		
2) 前) 妊婦・授乳婦、小児、高齢者などへの応対や服薬指導において、配慮すべき事項を具体的に列挙できる。			調剤・患者対応入門	実務実習事前学修		
3) 前) 患者・来局者から、必要な情報（症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等）を適切な手順で聞き取ることができる。（知識・態度）			調剤・患者対応入門	実務実習事前学修		
4) 前) 患者・来局者に、主な医薬品の効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用、保管方法等について適切に説明できる。（技能・態度）			調剤・患者対応入門	実務実習事前学修		
5) 前) 代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。			調剤・患者対応入門	実務実習事前学修		
6) 前) 患者・来局者に使用上の説明が必要な製剤（眼軟膏、坐剤、吸入剤、自己注射剤等）の取扱い方法を説明できる。（技能・態度）				実務実習事前学修		薬剤師の臨床判断
7) 前) 薬歴・診療録の基本的な記載事項とその意義・重要性について説明できる。			調剤・患者対応入門	実務実習事前学修		
8) 前) 代表的な疾患の症例についての患者対応の内容を適切に記録できる。（技能）			調剤・患者対応入門	実務実習事前学修		
9) 患者・来局者に合わせて適切な応対ができる。（態度）					薬局実習、病院実習1、2、学部連携病棟実習	
10) 患者・来局者から、必要な情報（症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等）を適切な手順で聞き取ることができる。（知識・態度）					薬局実習、病院実習1、2、学部連携病棟実習	薬剤師の臨床判断
11) 医師の治療方針を理解した上で、患者への適切な服薬指導を実施する。（知識・態度）					薬局実習、病院実習2、学部連携病棟実習	
12) 患者・来局者の病状や背景に配慮し、医薬品を安全かつ有効に使用するための服薬指導や患者教育ができる。（知識・態度）			調剤・患者対応入門	実務実習事前学修	薬局実習、病院実習2、学部連携病棟実習	
13) 妊婦・授乳婦、小児、高齢者等特別な配慮が必要な患者への服薬指導において、適切な応対ができる。（知識・態度）					薬局実習、病院実習2、学部連携病棟実習	
14) お薬手帳、健康手帳、患者向け説明書等を使用した服薬指導ができる。（態度）				実務実習事前学修	薬局実習、病院実習2、学部連携病棟実習	
15) 収集した患者情報を薬歴や診療録に適切に記録することができる。（知識・技能）				実務実習事前学修	薬局実習、病院実習2、学部連携病棟実習	
【⑤医薬品の供給と管理】						
1) 前) 医薬品管理の意義と必要性について説明できる。			処方箋と調剤 急性期医療と薬剤師			
2) 前) 医薬品管理の流れを概説できる。			処方箋と調剤 急性期医療と薬剤師			
3) 前) 劇薬、毒薬、麻薬、向精神薬および覚醒剤原料等の管理と取り扱いについて説明できる。			薬剤師と医薬品に係る法規範Ⅱ 急性期医療と薬剤師	実務実習事前学修		
4) 前) 特定生物由来製品の管理と取り扱いについて説明できる。			薬剤師と医薬品に係る法規範Ⅱ	実務実習事前学修		
5) 前) 代表的な放射性医薬品の種類と用途、保管管理方法を説明できる。				実務実習事前学修		
6) 前) 院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。				実務実習事前学修		
7) 前) 薬局製剤・漢方製剤について概説できる。	薬用植物・生薬演習			漢方医学の実践 実務実習事前学修		
8) 前) 医薬品の品質に影響を与える因子と保存条件を説明できる。				輸液と栄養、実務実習事前学修		
9) 医薬品の供給・保管・廃棄について適切に実施できる。（知識・技能）					薬局実習、病院実習1	
10) 医薬品の適切な在庫管理を実施する。（知識・技能）					薬局実習、病院実習1	

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
11) 医薬品の適正な採用と採用中止の流れについて説明できる。					薬局実習、病院実習1	
12) 劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬および覚醒剤原料の適切な管理と取り扱いができる。 （知識・技能）					薬局実習、病院実習1, 2	
13) 特定生物由来製品の適切な管理と取り扱いを体験する。（知識・技能）					薬局実習、病院実習1	
【⑥安全管理】						
1) 前) 処方から服薬（投薬）までの過程で誤りを生じやすい事例を列挙できる。			処方箋と調剤	実務実習事前学修		
2) 前) 特にリスクの高い代表的な医薬品（抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等）の特徴と注意点を列挙できる。			処方箋と調剤	実務実習事前学修		
3) 前) 代表的なインシデント（ヒヤリハット）、アクシデント事例を解析し、その原因、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を討議する。（知識・態度）			処方箋と調剤	実務実習事前学修		
4) 前) 感染予防の基本的考え方とその方法が説明できる。	基礎サイエンス実習			輸液と栄養、実務実習事前学修		
5) 前) 衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施できる。（技能）	基礎サイエンス実習			実務実習事前学修		
6) 前) 代表的な消毒薬の用途、使用濃度および調製時の注意点を説明できる。				輸液と栄養、実務実習事前学修		
7) 前) 医薬品のリスクマネジメントプランを概説できる。			処方箋と調剤 薬剤師と医薬品に係る法規範Ⅱ			
8) 特にリスクの高い代表的な医薬品（抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等）の安全管理を体験する。（知識・技能・態度）					薬局実習、病院実習1	
9) 調剤ミスを防止するために工夫されている事項を具体的に説明できる。					薬局実習、病院実習1	
10) 施設内のインシデント（ヒヤリハット）、アクシデントの事例をもとに、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を提案することができる。（知識・態度）					薬局実習、病院実習1, 2	
11) 施設内の安全管理指針を遵守する。（態度）					薬局実習、病院実習1, 2	
12) 施設内で衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施する。（技能）					薬局実習、病院実習1, 2	
13) 臨床検体・感染性廃棄物を適切に取り扱うことができる。（技能・態度）					病院実習2	
14) 院内での感染対策（予防、蔓延防止など）について具体的な提案ができる。（知識・態度）					病院実習2	
【③薬物療法の実践】						
【①患者情報の把握】						
1) 前) 基本的な医療用語、略語の意味を説明できる。				輸液と栄養、実務実習事前学修		
2) 前) 患者および種々の情報源（診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等）から、薬物療法に必要な情報を収集できる。（技能・態度） 【E3（2）①参照】				実務実習事前学修	症候と疾患推測	薬剤師の臨床判断
3) 前) 身体所見の観察・測定（フィジカルアセスメント）の目的と得られた所見の薬学的管理への活用について説明できる。			急性期医療と薬剤師	実務実習事前学修	症候と疾患推測	薬剤師の臨床判断
4) 前) 基本的な身体所見を観察・測定し、評価できる。（知識・技能）			急性期医療と薬剤師	実務実習事前学修	症候と疾患推測	薬剤師の臨床判断
5) 基本的な医療用語、略語を適切に使用できる。（知識・態度）					薬局実習、病院実習1, 2 学部連携病棟実習	学部連携病棟実習
6) 患者・薬局者および種々の情報源（診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等）から、薬物療法に必要な情報を収集できる。（技能・態度）					薬局実習、病院実習1, 2 学部連携病棟実習	学部連携病棟実習
7) 患者の身体所見を薬学的管理に活かすことができる。（技能・態度）					薬局実習、病院実習2 学部連携病棟実習	学部連携病棟実習 薬剤師の臨床判断
【②医薬品情報の収集と活用】【E3（1）参照】						
1) 前) 薬物療法に必要な医薬品情報を収集・整理・加工できる。（知識・技能）			調剤・患者対応入門	実務実習事前学修		薬剤師の臨床判断
2) 施設内において使用できる医薬品の情報源を把握し、利用することができる。（知識・技能）					薬局実習、病院実習1, 2 学部連携病棟実習	学部連携病棟実習
3) 薬物療法に対する問い合わせに対し、根拠に基づいた報告書を作成できる。（知識・技能）					薬局実習、病院実習2 学部連携病棟実習	学部連携病棟実習
4) 医療スタッフおよび患者のニーズに合った医薬品情報提供を体験する。（知識・態度）					薬局実習、病院実習1, 2 学部連携病棟実習	学部連携病棟実習
5) 安全で有効な薬物療法に必要な医薬品情報の評価、加工を体験する。（知識・技能）					薬局実習、病院実習1, 2 学部連携病棟実習	学部連携病棟実習
6) 緊急安全性情報、安全性速報、不良品回収、製造中止などの緊急情報を施設内で適切に取扱うことができる。（知識・態度）					薬局実習、病院実習1, 2 学部連携病棟実習	学部連携病棟実習
【③処方設計と薬物療法の実践（処方設計と提案）】						
1) 前) 代表的な疾患に対して、疾患の重症度等に応じて科学的根拠に基づいた処方設計ができる。					症例演習と薬物療法の実践 症候と疾患推測	薬剤師の臨床判断
2) 前) 病態（肝・腎障害など）や生理的特性（妊婦・授乳婦、小児、高齢者など）等を考慮し、薬剤の選択や用法・用量設定を立案できる。				輸液と栄養		
3) 前) 患者のアドヒアランスの評価方法、アドヒアランスが良くない原因とその対処法を説明できる。			急性期医療と薬剤師	実務実習事前学修		薬剤師の臨床判断
4) 前) 皮下注射、筋肉内注射、静脈内注射・点滴等の基本的な手技を説明できる。			急性期医療と薬剤師	輸液と栄養		薬剤師の臨床判断
5) 前) 代表的な輸液の種類と適応を説明できる。				輸液と栄養、実務実習事前学修		
6) 前) 患者の栄養状態や体液量、電解質の過不足などが評価できる。				輸液と栄養、実務実習事前学修		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
7) 代表的な疾患の患者について、診断名、病態、科学的根拠等から薬物治療方針を確認できる。					薬局実習、病院実習1, 2 症例演習と薬物療法の実践 学部連携病棟実習	学部連携病棟実習 薬剤師の臨床判断
8) 治療ガイドライン等を確認し、科学的根拠に基づいた処方立案できる。					薬局実習、病院実習2 症例演習と薬物療法の実践 学部連携病棟実習	学部連携病棟実習 薬剤師の臨床判断
9) 患者の状態（疾患、重症度、合併症、肝・腎機能や全身状態、遺伝子の特性、心理・希望等）や薬剤の特徴（作用機序や製剤の性質等）に基づき、適切な処方を提案できる。（知識・態度）					薬局実習、病院実習2 学部連携病棟実習	学部連携病棟実習 薬剤師の臨床判断
10) 処方設計の提案に際し、薬物投与プロトコールやクリニカルパスを活用できる。（知識・態度）					薬局実習、病院実習2 学部連携病棟実習	学部連携病棟実習 薬剤師の臨床判断
11) 入院患者の持参薬について、継続・変更・中止の提案ができる。（知識・態度）					薬局実習、病院実習2 学部連携病棟実習	学部連携病棟実習 薬剤師の臨床判断
12) アドヒアランス向上のために、処方変更、調剤や用法の工夫が提案できる。（知識・態度）					薬局実習、病院実習2 学部連携病棟実習	学部連携病棟実習 薬剤師の臨床判断
13) 処方提案に際して、医薬品の経済性等を考慮して、適切な後発医薬品を選択できる。					薬局実習、病院実習2 学部連携病棟実習	学部連携病棟実習 薬剤師の臨床判断
14) 処方提案に際し、薬剤の選択理由、投与量、投与方法、投与期間等について、医師や看護師等に判りやすく説明できる。（知識・態度）					薬局実習、病院実習2 学部連携病棟実習	学部連携病棟実習
【④処方設計と薬物療法の実践（薬物療法における効果と副作用の評価）】						
1) 前) 代表的な疾患に用いられる医薬品の効果、副作用に関してモニタリングすべき症状と検査所見等を具体的に説明できる。				輸液と栄養	症例演習と薬物療法の実践 症候と疾患推測	薬剤師の臨床判断
2) 前) 代表的な疾患における薬物療法の評価に必要な患者情報収集ができる。（知識・技能）				実務実習事前学修	症候と疾患推測	薬剤師の臨床判断
3) 前) 代表的な疾患の症例における薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で記録できる。（知識・技能）				実務実習事前学修		薬剤師の臨床判断
4) 医薬品の効果と副作用をモニタリングするための検査項目とその実施を提案できる。（知識・態度）					薬局実習、病院実習2 学部連携病棟実習	学部連携病棟実習 薬剤師の臨床判断
5) 薬物血中濃度モニタリングが必要な医薬品が処方されている患者について、血中濃度測定を提案できる。（知識・態度）					薬局実習、病院実習2 学部連携病棟実習	学部連携病棟実習
6) 薬物血中濃度の推移から薬物療法の効果および副作用について予測できる。（知識・技能）					薬局実習、病院実習2 学部連携病棟実習	学部連携病棟実習
7) 臨床検査値の変化と使用医薬品の関連性を説明できる。					薬局実習、病院実習2 学部連携病棟実習	学部連携病棟実習
8) 薬物治療の効果について、患者の症状や検査所見などから評価できる。					薬局実習、病院実習2、学部連携 病棟実習、症候と疾患推測	学部連携病棟実習 薬剤師の臨床判断
9) 副作用の発現について、患者の症状や検査所見などから評価できる。					薬局実習、病院実習2、学部連携 病棟実習、症候と疾患推測	学部連携病棟実習 薬剤師の臨床判断
10) 薬物治療の効果、副作用の発現、薬物血中濃度等に基づき、医師に対し、薬剤の種類、投与量、投与方法、投与期間等の変更を提案できる。（知識・態度）					薬局実習、病院実習2 学部連携病棟実習	学部連携病棟実習
11) 報告に必要な要素（SWIH）に留意して、収集した患者情報を正確に記載できる。（技能）					薬局実習、病院実習2 学部連携病棟実習	学部連携病棟実習
12) 患者の薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で適切に記録する。（知識・技能）					薬局実習、病院実習2 学部連携病棟実習	学部連携病棟実習
13) 医薬品・医療機器等安全性情報報告用紙に、必要事項を記載できる。（知識・技能）					薬局実習、病院実習2 学部連携病棟実習	学部連携病棟実習
【(4) チーム医療への参画】 [A (4) 参照]						
【①医療機関におけるチーム医療】						
1) 前) チーム医療における薬剤師の役割と重要性について説明できる。	アカデミックスキルズ、地域医療 入門		急性期医療と薬剤師			
2) 前) 多様な医療チームの目的と構成、構成員の役割を説明できる。	アカデミックスキルズ、地域医療 入門		急性期医療と薬剤師			
3) 前) 病院と地域の医療連携の意義と具体的な方法（連携クリニカルパス、退院時共同指導、病院・薬局連携、関連施設との連携等）を説明できる。				地域医療とプライマリ・ケア		
4) 薬物療法上の問題点を解決するために、他の薬剤師および医師・看護師等の医療スタッフと連携できる。（態度）					病院実習1, 2、学部連携病棟実習	学部連携病棟実習
5) 医師・看護師等の他職種と患者の状態（病状、検査値、アレルギー歴、心理、生活環境等）、治療開始後の変化（治療効果、副作用、心理状態、QOL等）の情報を共有する。（知識・態度）					病院実習1, 2、学部連携病棟実習	学部連携病棟実習
6) 医療チームの一員として、医師・看護師等の医療スタッフと患者の治療目標と治療方針について討議（カンファレンスや患者回診への参加等）する。（知識・態度）					病院実習1, 2、学部連携病棟実習	学部連携病棟実習
7) 医師・看護師等の医療スタッフと連携・協力して、患者の最善の治療・ケア提案を体験する。（知識・態度）					病院実習1, 2、学部連携病棟実習	学部連携病棟実習
8) 医師・看護師等の医療スタッフと連携して退院後の治療・ケアの計画を検討できる。（知識・態度）					病院実習2、学部連携病棟実習	学部連携病棟実習

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
9) 病院内の多様な医療チーム（ICT、NST、緩和ケアチーム、褥瘡チーム等）の活動に薬剤師の立場で参加できる。（知識・態度）					病院実習1、2、学部連携病棟実習	学部連携病棟実習
【②地域におけるチーム医療】						
1) 前) 地域の保健、医療、福祉に関わる職種とその連携体制（地域包括ケア）およびその意義について説明できる。	地域医療入門			地域医療とプライマリ・ケア		
2) 前) 地域における医療機関と薬局薬剤師の連携の重要性を討議する。（知識・態度）	地域医療入門	診療の流れを知る		地域医療とプライマリ・ケア		
3) 地域における医療機関と薬局薬剤師の連携を体験する。（知識・態度）				学部連携チーム医療PBLⅢ・在宅チーム医療と倫理TBLⅢ	薬局実習	
4) 地域医療を担う職種間で地域住民に関する情報共有を体験する。（技能・態度）				学部連携チーム医療PBLⅢ・在宅チーム医療と倫理TBLⅢ	薬局実習	
【(5) 地域の保健・医療・福祉への参画】 【B(4) 参照】						
【①在宅（訪問）医療・介護への参画】						
1) 前) 在宅医療・介護の目的、仕組み、支援の内容を具体的に説明できる。	地域医療入門			地域医療とプライマリ・ケア 実務実習事前学修	学部連携地域医療実習	
2) 前) 在宅医療・介護を受ける患者の特色と背景を説明できる。	地域医療入門			地域医療とプライマリ・ケア 実務実習事前学修	学部連携地域医療実習	
3) 前) 在宅医療・介護に関わる薬剤師の役割とその重要性について説明できる。	地域医療入門			地域医療とプライマリ・ケア 実務実習事前学修	学部連携地域医療実習	
4) 在宅医療・介護に関する薬剤師の管理業務（訪問薬剤管理指導業務、居宅療養管理指導業務）を体験する。（知識・態度）				学部連携チーム医療PBLⅢ・TBLⅢ	薬局実習、学部連携地域医療実習	
5) 地域における介護サービスや介護支援専門員等の活動と薬剤師との関わりを体験する。（知識・態度）		在宅チーム医療と倫理 TBLⅡ		学部連携チーム医療PBLⅢ・TBLⅢ	薬局実習、学部連携地域医療実習	
6) 在宅患者の病状（症状、疾患と重症度、栄養状態等）とその変化、生活環境等の情報収集と報告を体験する。（知識・態度）		在宅チーム医療と倫理 TBLⅡ	学部連携チーム医療PBLⅡ・在宅ケア	学部連携チーム医療PBLⅢ・TBLⅢ	薬局実習、学部連携地域医療実習	
【②地域保健（公衆衛生、学校薬剤師、啓発活動）への参画】						
1) 前) 地域保健における薬剤師の役割と代表的な活動（薬物乱用防止、自殺防止、感染予防、アンチドーピング活動等）について説明できる。			薬剤師と医薬品に係る法規制Ⅱ	地域医療とプライマリ・ケア		
2) 前) 公衆衛生に求められる具体的な感染防止対策を説明できる。			急性期医療と薬剤師	輸液と栄養		
3) 学校薬剤師の業務を体験する。（知識・技能）					薬局実習	
4) 地域住民の衛生管理（消毒、食中毒の予防、日用品に含まれる化学物質の誤嚥誤飲の予防等）における薬剤師活動を体験する。（知識・技能）					薬局実習	
【③プライマリケア、セルフメディケーションの実践】 【E2(9) 参照】						
1) 前) 現在の医療システムの中でのプライマリケア、セルフメディケーションの重要性を討議する。（態度）				地域医療とプライマリ・ケア 実務実習事前学修	症候と疾患推測	
2) 前) 代表的な症候（頭痛・腹痛・発熱等）を示す来局者について、適切な情報収集と疾患の推測、適切な対応の選択ができる。（知識・態度）				地域医療とプライマリ・ケア 実務実習事前学修	症候と疾患推測	
3) 前) 代表的な症候に対する薬局製剤（漢方製剤含む）、要指導医薬品・一般用医薬品の適切な取り扱いと説明ができる。（技能・態度）				地域医療とプライマリ・ケア 実務実習事前学修		
4) 前) 代表的な生活習慣の改善に対するアドバイスができる。（知識・態度）				地域医療とプライマリ・ケア 実務実習事前学修		
5) 薬局製剤（漢方製剤含む）、要指導医薬品・一般用医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等をリスクに応じ適切に取り扱い、管理できる。（技能・態度）					薬局実習	
6) 来局者から収集した情報や身体所見などに基づき、来局者の病状（疾患、重症度等）や体調を推測できる。（知識・態度）					薬局実習、症候と疾患推測	
7) 来局者に対して、病状に合わせた適切な対応（医師への受診勧奨、救急対応、要指導医薬品・一般用医薬品および検査薬などの推奨、生活指導等）を選択できる。（知識・態度）					薬局実習、症候と疾患推測	
8) 選択した薬局製剤（漢方製剤含む）、要指導医薬品・一般用医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等の使用方法や注意点を来局者に適切に判りやすく説明できる。（知識・態度）					薬局実習、症候と疾患推測	
9) 疾病の予防および健康管理についてのアドバイスを体験する。（知識・態度）					薬局実習、症候と疾患推測	
【④災害時医療と薬剤師】						
1) 前) 災害時医療について概説できる。			急性期医療と薬剤師	地域医療とプライマリ・ケア		
2) 災害時における地域の医薬品供給体制・医療救護体制について説明できる。			急性期医療と薬剤師		薬局実習	
3) 災害時における病院・薬局と薬剤師の役割について討議する。（態度）			急性期医療と薬剤師		薬局実習	
8 薬学研究						
【(1) 薬学における研究の位置づけ】						
1) 基礎から臨床に至る研究の目的と役割について説明できる。			研究倫理と統計		薬学研究	
2) 研究には自立性と独創性が求められていることを知る。					薬学研究	薬学研究
3) 現象を客観的に捉える観察眼をもち、論理的に思考できる。（知識・技能・態度）				薬学研究入門	薬学研究	薬学研究
4) 新たな課題にチャレンジする創造的精神を養う。（態度）				薬学研究入門	薬学研究	薬学研究
【(2) 研究に必要な法規制と倫理】						
1) 自らが実施する研究に係る法令、指針について概説できる。				薬学研究入門	薬学研究	薬学研究
2) 研究の実施、患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。				薬学研究入門	薬学研究	薬学研究

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
3) 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。（態度）A-(2)-④-3再掲			研究倫理と統計	薬学研究入門	薬学研究	
〔3〕 研究の実践						
1) 研究課題に関する国内外の研究成果を調査し、読解、評価できる。（知識・技能）				薬学研究入門	薬学研究	薬学研究
2) 課題達成のために解決すべき問題点を抽出し、研究計画を立案する。（知識・技能）				薬学研究入門	薬学研究	薬学研究
3) 研究計画に沿って、意欲的に研究を実施できる。（技能・態度）				薬学研究入門	薬学研究	薬学研究
4) 研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考察する。（知識・技能・態度）				薬学研究入門	薬学研究	薬学研究
5) 研究成果の効果的なプレゼンテーションを行い、適切な質疑応答ができる。（知識・技能・態度）				薬学研究入門	薬学研究	薬学研究
6) 研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。（技能）				薬学研究入門	薬学研究	薬学研究

(基礎資料3-1) 評価実施年度における学年別在籍状況

学年		1年	2年	3年	4年	5年	6年
入学年度の入学定員 ¹⁾		200	200	200	200	200	200
入学時の学生数 ²⁾	A	200	200	200	215	199	199
在籍学生数 ³⁾	B	213	218	207	173	173	191
過年度在籍者数 ⁴⁾	留年による者 C	12	36	47	20	18	28
	休学による者 D	1	0	3	2	1	1
編入学などによる在籍者数 E		0	0	0	0	0	0
ストレート在籍者数 ⁵⁾	F	200	182	157	151	154	162
ストレート在籍率 ⁶⁾	F/A	1.00	0.91	0.79	0.70	0.77	0.85
過年度在籍率 ⁷⁾	(C+D)/B	0.06	0.17	0.24	0.13	0.11	0.15

1) 各学年が入学した年度の入学者選抜で設定されていた入学定員を記載してください。

2) 当該学年が入学した時点での実入学者数を記載してください。

3) 評価実施年度の5月1日現在における各学年の在籍学生数を記載してください。

4) 過年度在籍者数を「留年による者」と「休学による者」に分けて記載してください。休学と留年が重複する学生は留年者に算入してください。

5) (在籍学生数) - [(過年度在籍者数) + (編入学などによる在籍者数)] を記載してください。

ストレート在籍者数 {B-(C+D+E)}

6) (ストレート在籍者数) / (入学時の学生数) の値を小数点以下第2位まで記載してください。(％表示でなく、1.00のように記載ください)

7) (過年度在籍者数) / (在籍学生数) の値を小数点以下第2位まで記載してください。(％表示でなく、1.00のように記載ください)

(基礎資料3-2) 評価実施年度の直近5年間における6年制学科の学年別学籍異動状況

		2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
1年次	在籍者数 ¹⁾	204	223	204	211	213
	休学者数 ²⁾	1	0	0	1	1
	退学者数 ²⁾	6	4	7	5	8
	留年者数 ²⁾	7	4	11	12	5
	進級率 ³⁾	0.93	0.96	0.91	0.91	0.93
2年次	在籍者数 ¹⁾	205	204	233	222	218
	休学者数 ²⁾	1	1	1	1	3
	退学者数 ²⁾	3	5	5	14	11
	留年者数 ²⁾	13	17	35	24	28
	進級率 ³⁾	0.92	0.89	0.82	0.82	0.81
3年次	在籍者数 ¹⁾	193	198	190	204	207
	休学者数 ²⁾	0	0	0	3	1
	退学者数 ²⁾	4	2	5	11	10
	留年者数 ²⁾	10	9	12	21	5
	進級率 ³⁾	0.93	0.94	0.91	0.83	0.92
4年次	在籍者数 ¹⁾	177	180	190	179	173
	休学者数 ²⁾	0	0	1	1	0
	退学者数 ²⁾	1	0	3	3	1
	留年者数 ²⁾	1	3	5	0	6
	進級率 ³⁾	0.99	0.98	0.95	0.98	0.96
5年次	在籍者数 ¹⁾	222	177	178	181	173
	休学者数 ²⁾	2	0	0	1	0
	退学者数 ²⁾	0	0	1	0	1
	留年者数 ²⁾	0	1	0	0	0
	進級率 ³⁾	0.99	0.99	0.99	0.99	0.99

[注] 様式4の印刷体では、このページの注は、印刷範囲にいれないでください。

- 1) 在籍者数(前年度の“編入生”、“再入学者”、“転入学者”を含む)は、評価対象年度初(4月1日)において1年次から5年次に在籍していた学生数。ただし、年度途中で、編入、再入学、転入学した学生数は、この資料の対象外とします。なお、「年度初の在籍者を確定する基準日」が4月1日でない場合、大学の基準日におけるデータを記入してください。また、留年者数には、復学したが進級できなかった者の数も含めてください。
- 2) 休学者数、退学者数(転学者数、除籍者数を含む)、留年者数は、各年度の年度末に、それぞれの学年から次の学年に進級できなかった学生数。
また、同一学生に複数の事象が発生した場合は、最後の事象に基づき算入してください。
ただし、前期に休学して後期から復学した学生については、進級できなかった場合は休学として算入し、進級した場合は“休学”には算入しないでください。
- 3) 進級率は、次式で計算した結果を小数点以下第2位まで(%表示でなく、1.00のように)記入してください。

$$\{(\text{在籍者数}) - (\text{休学者数} + \text{退学者数} + \text{留年者数})\} / (\text{在籍者数})$$

(基礎資料3-3) 評価実施年度の直近5年間における学士課程修了(卒業)状況の実態

		2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
卒業判定時(年度末)の在籍学生数 ¹⁾ A		189	222	183	181	184
学士課程修了(卒業)者数 ¹⁾ B		171	195	167	168	174
卒業率 ²⁾ B/A		0.90	0.88	0.91	0.93	0.95
卒業までに要した 在学期間別の 内訳 ³⁾	6年 C	154	187	154	157	156
	7年	16	8	13	9	12
	8年	0	0	0	1	4
	9年以上	1	0	0	0	2
入学時の学生数(実入学者数) ⁴⁾ D		187	232	188	198	199
ストレート卒業率 ⁵⁾ C/D		0.82	0.81	0.82	0.79	0.78

1) 当該年度の9月に卒業した学生は、「在籍学生数」(A)にも、「卒業者数」(B)にも含みません。

なお、卒業者数は、**当該年度の卒業判定会議(年度末)における卒業認定者数**を記載してください。

2) 卒業率＝(学士課程修了者数)／(6年次の在籍者数)の値(B/A)を小数点以下第2位まで記載してください。

3) 「編入学者を除いた卒業者数」の内訳を卒業までに要した期間別に記載してください。

4) それぞれの年度の6年次学生(C)が入学した年度の実入学者数(編入学者を除く)を記載してください。

5) ストレート卒業率＝(卒業までに要した在学期間が6年間の学生数)／(入学時の学生数)の値(C/D)を、小数点以下第2位まで記載してください。

(基礎資料3-4) 直近6年間の定員充足状況と編入学者の動向

入学年度		2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	平均値 ⁵⁾
入学定員	A	180	200	200	200	200	200	202
実入学者数 ¹⁾	B	199	199	215	200	200	200	
入学定員充足率 ²⁾	B/A	110.56%	99.50%	107.5%	100.00%	100.00%	100.00%	102.80%
編入学定員		3	3	3	3	3	3	0
編入学者数 ³⁾	C+D+E	1	0	0	0	0	0	
編入学した学年別の内数 ⁴⁾	2年次 C	1	0	0	0	0	0	0
	3年次 D	0	0	0	0	0	0	0
	4年次 E	0	0	0	0	0	0	0

- 1) 各年度の実入学者数として、当該年の5月1日に在籍していた新入生数を記載してください。
- 2) 各年度の実入学者数をその年度の入学定員で除した数値(小数点以下第2位まで)を記載してください。
- 3) その年度に受け入れた編入学者(転学部、転学科などを含む)の合計数を記載してください。
- 4) 編入(転入)学による入学者の受け入れ学年別の内数を記入してください。
- 5) 6年間の平均値を人数については整数で、充足率については小数点以下第2位まで記入してください。

(基礎資料4) 学生受入れ状況 (入学試験種類別)

	学科名	入試の種類		2017年度入試 (2016年度実施)	2018年度入試 (2017年度実施)	2019年度入試 (2018年度実施)	2020年度入試 (2019年度実施)	2021年度入試 (2020年度実施)	2022年度入試 (2021年度実施)	募集定員数に対す る入学者数の比率 (6 年間の平均)	
薬 学 部	薬 学 科	総合型選抜入試	受験者数	-	-	-	-	-	50	101. 17%	
			合格者数	-	-	-	-	-	20		
			入学者数 (A)	-	-	-	-	-	20		
			募集定員数 (B)	-	-	-	-	-	20		
			A/B*100 (%)	-	-	-	-	-	100%		
		学校推薦型 選抜入試 (2020年度ま で：推薦入試)	受験者数	114	137	148	90	76	53		
			合格者数	56	72	56	55	46	37		
			入学者数 (A)	56	72	56	55	46	34		
			募集定員数 (B)	55	55	55	55	55	35		
			A/B*100 (%)	101. 82%	130. 91%	101. 82%	100. 00%	83. 64%	97%		
		卒業生推薦入試	受験者数	-	-	-	-	-	4		
			合格者数	-	-	-	-	-	4		
			入学者数 (A)	-	-	-	-	-	4		
			募集定員数 (B)	-	-	-	-	-	10		
			A/B*100 (%)	-	-	-	-	-	40%		
		一般選抜入試	受験者数	1, 208	1, 225	997	731	511	668		
			合格者数	282	258	252	261	242	239		
			入学者数 (A)	134	130	125	130	140	133		
			募集定員数 (B)	135	125	120	120	120	120		
			A/B*100 (%)	99. 26%	104. 00%	104. 17%	108. 33%	116. 67%	111%		
		医学部一般選抜 入試（Ⅰ期）利 用の薬学部併願 入試	受験者数	-	-	153	87	164	133		
			合格者数	-	-	38	24	39	25		
			入学者数 (A)	-	-	3	5	3	1		
			募集定員数 (B)	-	-	5	5	5	5		
			A/B*100 (%)			60. 00%	100. 00%	60. 00%	20%		
		大学入学共通テ スト利用入試 (2021年度ま で：大学入試セ ンター試験利用 入試A方式)	受験者数	336	340	348	229	198	255		
			合格者数	68	43	74	58	69	64		
			入学者数 (A)	9	3	5	2	5	8		
			募集定員数 (B)	10	10	10	10	10	10		
			A/B*100 (%)	90. 00%	30. 00%	50. 00%	20. 00%	50. 00%	80%		
		大学入学共通テ スト利用入試B 方式	受験者数	-	30	47	25	33			
			合格者数	-	11	13	9	7			
			入学者数 (A)	-	10	11	8	6			
			募集定員数 (B)	-	10	10	10	10			
			A/B*100 (%)		100. 00%	110. 00%	80. 00%	60. 00%			
		学 科 計	受験者数	1, 658	1, 732	1, 693	1, 162	982	1, 163		
			合格者数	406	384	433	407	403	389		
			入学者数 (A)	199	215	200	200	200	200		
			募集定員数 (B)	200	200	200	200	200	200		
			A/B*100 (%)	99. 50%	107. 50%	100. 00%	100. 00%	100. 00%	100%		
		編（転）入試験	受験者数	-	-	-	-	-	-		
			合格者数	-	-	-	-	-	-		
			入学者数 (A)	-	-	-	-	-	-		
			募集定員数 (B)	-	-	-	-	-	-		
			A/B*100 (%)								

- 【注】
- 1 入学者数は、実施した入試により **5月1日** (評価対象年度に実施した入試のデータは調書提出時) に新入学者となっている学生数を記入してください。
 - 2 実施している全種類の入試が網羅されるように「入試の種類」の名称を記入し、適宜欄を設けて記入してください。なお、該当しない入試方法の欄は削除してください。
 - 3 入試の種類ごとに「募集定員数 (B) に対する入学者数 (A)」の割合 [A/B*100 (%)] を算出してください。
 - 4 「留学生入試」に交換留学生は含めないでください。
 - 5 各入学 (募集) 定員が若干名の場合は「若干名」と記入してください。
 - 6 6年制が複数学科で構成されている場合は、「学部合計」欄を設けて記入してください。
 - 7 薬科学科との一括入試の場合は、欄外に「(備考) ○年次に・・・・・・を基に学科を決定する。なお、薬学科の定員は△△△名」と注を記入してください。

（基礎資料５）教員・職員の数

表１．大学設置基準（別表第１）の対象となる薬学科（６年制）の専任教員

教授	准教授	専任講師	助教	合計	基準数 ^{１)}
19名	24名	27名	112名	182名	34名
上記における臨床実務経験を有する者の内数					
教授	准教授	専任講師	助教	合計	必要数 ^{２)}
5名	13名	10名	64名	92名	6名

１) 大学設置基準第13条別表第１のイ（表１）及び備考４に基づく数／別表２の教員は含まない

２) 上記基準数の６分の１（大学設置基準第13条別表第１のイ備考10）に相当する数

表２．薬学科（６年制）の教育研究に携わっている表１．以外の薬学部教員

助手 ^{１)}	兼任教員 ^{２)}
0名	0名

１) 学校教育法第92条⑨による教員として大学設置基準第10条２の教育業務及び研究に携わる常勤者

２) ４年制学科を併設する薬学部で、薬学科の専門教育を担当する４年制学科の専任教員

表３．演習、実習、実験などの補助に当たる教員以外の者

TA	SA	その他 ^{１)}	合計
11名	84名	0名	95名

自己点検・評価を実施した年度の実績を記入

１) 実習などの補助を担当する臨時、契約職員など（無給は除く）

表４．薬学部専任の職員

事務職員 ^{１)}	技能職員 ^{２)}	その他 ^{３)}	合計
6名	0名	0名	6名

１) 薬学部の業務を専門に行う職員（非常勤を含む。ただし非常勤者数は（ ）に内数で記入。複数学部の兼任は含まないこと。）

２) 薬用植物園や実験動物の管理、電気施設など保守管理に携わる職員

３) 司書、保健・看護職員など

(基礎資料6) 専任教員(基礎資料5の表1)の年齢構成

	教授	准教授	専任講師	助教	合計	比率
70代	0名	0名	0名	0名	0名	0%
60代	6名	0名	0名	0名	6名	3.30%
50代	11名	5名	7名	2名	25名	13.70%
40代	2名	18名	16名	11名	47名	25.80%
30代	0名	1名	4名	69名	74名	40.70%
20代	0名	0名	0名	30名	30名	16.50%
合計	19名	24名	27名	112名	182名	100.00%

専任教員の定年年齢：(65 歳)※教授

専任教員の定年年齢：(60 歳)※教授以外

(参考資料) 専任教員(基礎資料5の表1)の男女構成

	教授	准教授	専任講師	助教	合計	比率
男性	15名	20名	18名	35名	88名	46.40%
女性	4名	4名	9名	77名	94名	53.60%

(基礎資料7) 教員の教育担当状況 (病院薬剤学講座は後掲)

表1. 薬学科(6年制)専任教員(基礎資料5の表1)が担当する授業科目と担当時間

表1. 薬学科(6年制)専任教員(基礎資料5の表1)が担当する授業科目と担当時間										
学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏 名	年齢	性別	学位称号	現職就任 年 月 日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した 週当り授業時間 ⁵⁾	
薬学科	教授						薬学への招待		1.50	0.05
							コミュニケーション		6.00	0.20
							学修技法とチューデントデベロプメント		1.00	0.03
							学部連携チーム医療PBLⅢ・在宅チーム医療と倫理TBLⅢ		15.00	0.50
							学部連携病棟実習	◎	4.00	0.13
							授業担当時間の合計		27.50	0.92
薬学科	教授						薬となる化合物の構造と性質		21.00	0.70
							生体分子の化学		13.00	0.43
							医薬品の化学		13.00	0.43
							薬と疾病(神経・精神系疾患)		1.00	0.03
							薬と疾病(消化器系疾患)		1.00	0.03
							薬と疾病(代謝系・内分泌系疾患)		1.00	0.03
							薬と疾病(循環器系疾患)		1.00	0.03
							薬と疾病(泌尿器系・生殖器系疾患)		1.00	0.03
							有機化合物の構造と性質		4.50	0.15
							応用薬学演習		3.00	0.10
							P6集中講義		3.00	0.10
							薬学演習	◎	3.00	0.10
							医薬品の化学実習	◎	30.00	1.00
							授業担当時間の合計		95.50	3.18
薬学科	教授						P1薬学への招待		1.00	0.03
							P1薬学演習		1.00	0.03
							P1熱力学・化学平衡概論		4.00	0.13
							P2化学平衡		21.00	0.70
							P2医薬品の検出と定量		1.00	0.03
							P2薬学基礎から薬物治療へ 演習		2.00	0.07
							P2物質の性質・分析・製剤化と製剤試験法 実習	◎	7.00	0.23
							P3臨床で用いる分析技術		21.00	0.70
							P3機器分析		2.00	0.07
							P4実務と基礎の複合演習		1.50	0.05
							P5応用薬学演習		3.00	0.10
							P6集中講義		3.00	0.10
							授業担当時間の合計		67.50	2.25
							薬学科	教授		
物質の状態と変化		22.00	0.73							
物質の構造		6.00	0.20							
溶液の性質		16.50	0.55							
薬学演習		1.50	0.05							
実務と基礎の複合演習		1.00	0.03							
応用薬学演習		4.50	0.15							
集中講義		4.50	0.15							
物質の性質・分析・製剤化と製剤試験法 実習	◎	24.00	0.80							
生体高分子の構造解析法	院	3.00	0.10							
授業担当時間の合計		89.00	2.97							
薬学科	教授						生命活動を担う分子(細胞構成因子)		21.00	0.70
							生命活動を担う分子(物質輸送とエネルギー産生)		18.00	0.60
							生命活動を担う分子(代謝とその制御)		6.00	0.20
							分子・細胞から生理・病態へ		8.00	0.27
							生命活動を担う分子(細胞の構造、機能と情報伝達)		10.00	0.33
							生命体の成り立ち	◎	21.00	0.70
							応用薬学演習		4.50	0.15
							疾患解明の先端科学	院	3.00	0.10
							高分子の構造解析法	院	1.50	0.05
							授業担当時間の合計		93.00	3.10
薬学科	教授						生体防御反応の応用と制御		21.00	0.70
							分子・細胞から生理・病態へ		8.00	0.27
							生命活動を担う分子(細胞の構造、機能と情報伝達)		11.00	0.37
							生体防御反応を担う組織、細胞、分子		15.00	0.50
							薬と疾病(悪性腫瘍)		7.00	0.23

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏 名	年齢	性別	学位称号	現職就任 年 月 日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した 週当り授業時間 ⁵⁾
							薬と疾病（免疫・アレルギー疾患）	1.00	0.03
							応用薬学演習	4.50	0.15
							集中講義	4.50	0.15
							アドバンスト薬学英語	10.00	0.33
							生命体の成り立ち 実習	◎ 21.00	0.70
							腫瘍細胞生物学（輪講）	院 24.00	0.80
							疾患解明の先端科学	院 6.00	0.20
							がん薬物療法	院 1.50	0.05
							授業担当時間の合計	134.50	4.48
薬学科	教授						初年次体験実習	◎ 13.00	0.43
							人体の成り立ちと機能	1.00	0.03
							薬の作用と生体内運命	5.00	0.17
							薬毒物と中毒	13.00	0.43
							日常生活と健康	6.00	0.20
							医薬品・化学物質の代謝反応	7.00	0.23
							応用薬学演習	12.00	0.40
							集中講義	4.50	0.15
							キャリアデザイン	3.00	0.10
							研究倫理と統計	1.00	0.03
							授業担当時間の合計	65.50	2.18
薬学科	教授						薬学への招待	1.00	0.03
							薬の作用と生体内運命	7.00	0.23
							薬の作用と生体内運命（対面型）	3.00	0.10
							薬の効き方	9.00	0.30
							薬の効き方（対面型）	18.00	0.60
							薬の効くプロセス	◎ 15.00	0.50
							薬と疾病（循環器系疾患）	4.00	0.13
							薬と疾病（循環器系疾患）（対面型）	3.00	0.10
							薬と疾病（代謝内分泌系疾患）	5.00	0.17
							薬と疾病（代謝内分泌系疾患）（対面型）	3.00	0.10
							応用薬学演習	7.50	0.25
							集中講義	4.50	0.15
							生理薬理学領域基礎研究の流れ（前期）	院 10.00	0.33
							生理薬理学領域基礎研究の流れ（後期）	院 10.00	0.33
							授業担当時間の合計	100.00	3.33
薬学科	教授						P1 人体の成り立ちと機能	6.00	0.20
							P2 人体の成り立ちと機能（神経等）	18.00	0.60
							P2 人体の成り立ちと機能・実習	◎ 30.00	1.00
							P2 生理から病態へ・演習	11.00	0.37
							P2 診療の流れを知る	◎ 15.00	0.50
							P3 薬と疾病（呼吸器）	19.00	0.63
							P3 薬と疾病（消化器）	3.00	0.10
							P3 薬と疾病（免疫アレルギー）	13.00	0.43
							P3 救急医療と薬剤師・演習	2.00	0.07
							P4 EBM演習	◎ 10.00	0.33
							P4 実務実習事前学習（病棟）	◎ 6.00	0.20
							P5 応用薬学演習	2.00	0.07
							P6 応用薬学演習	2.00	0.07
							P6 学部連携病棟実習	◎ 6.00	0.20
							P6 集中講義	3.00	0.10
							がんの薬物治療学	院 1.50	0.05
							授業担当時間の合計	147.50	4.92
薬学科	教授						薬学への招待	1.50	0.05
							薬物送達システム	8.00	0.27
							薬剤学（輪講）	院 30.00	1.00
							授業担当時間の合計	39.50	1.32
薬学科	教授 （実務）						薬物の体内動態（P3）	6.00	0.20
							薬物動態の解析（P3）	20.00	0.67
							診療の流れを知る（P2）	◎ 15.00	0.50
							調剤・患者対応入門（P3）	◎ 9.00	0.30
							集中講義（薬剤）（P6）	1.50	0.05

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏 名	年齢	性別	学位称号	現職就任 年 月 日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した 週当り授業時間 ⁵⁾
							応用薬学演習（薬剤）（P6）	3.00	0.10
							応用薬学演習（計算）（P6）	3.00	0.10
							個別化製剤概論	院 9.00	0.30
							医学生物における統計学	院 6.00	0.20
							授業担当時間の合計	72.50	2.42
薬学科	教授						個人・集団・社会と健康	21.00	0.70
							生活環境と健康	21.00	0.70
							研究倫理と統計	1.00	0.03
							健康と環境 実習	◎ 1.50	0.05
							分子・細胞から生理・病態へ	5.00	0.17
							日常生活と健康	15.00	0.50
							放射性医薬品の利用と管理	2.00	0.07
							生命活動を担う分子（ゲノム情報とバイオ医薬品）	18.00	0.60
							応用薬学演習（P5）	3.00	0.10
							応用薬学演習（P6）	9.00	0.30
							P6集中講義	9.00	0.30
							疾患解明の生命科学	院 3.00	0.10
							授業担当時間の合計	108.50	3.62
薬学科	教授						リハ・介護・在宅医療	◎ 6.00	0.20
							薬学への招待	1.50	0.05
							コミュニケーション 演習	18.00	0.60
							診療の流れを知る 実習	◎ 3.00	0.10
							社会保障と医療経済	21.00	0.70
							研究倫理と統計 演習	3.00	0.10
							学部連携チーム医療PBLⅢ・在宅ケア演習	12.00	0.40
							調剤・患者対応入門 実習	◎ 9.00	0.30
							地域医療とプライマリケア	19.00	0.63
							実務実習事前学修 実習	◎ 15.00	0.50
							アドバンスト薬学英语	15.00	0.50
							社会薬学（輪講）	院 43.50	1.45
							薬学における量的研究と質的研究	院 15.00	0.50
							授業担当時間の合計	181.00	6.03
薬学科	教授 （実務）						薬学への招待	1.00	0.03
							薬と疾病（消化器疾患）	12.00	0.40
							薬と疾病（泌尿器・生殖器官疾患）	2.00	0.07
							薬と疾病（免疫・アレルギー疾患）	9.00	0.30
							調剤・患者対応入門	◎ 16.00	0.53
							学部連携チーム医療PBLⅡ・在宅ケア	18.00	0.60
							研究倫理と統計	11.00	0.37
							個別化医療	8.00	0.27
							実務と基礎の複合演習	3.00	0.10
							症例演習と薬物療法の実践	4.00	0.13
							学部連携病棟実習	◎ 6.00	0.20
							応用薬学演習	1.00	0.03
							P6アドバンスト薬学英语	4.00	0.13
							P5アドバンスト薬学英语	4.00	0.13
							薬物治療学特論	院 18.00	0.60
							薬物治療学（輪講）	院 80.00	2.67
							授業担当時間の合計	197.00	6.57
薬学科	教授 （実務）						漢方薬になる動植物	15.00	0.50
							薬用植物・生薬演習	◎ 45.00	1.50
							初年次体験実習	◎ 30.00	1.90
							処方箋と調剤	2.00	0.07
							統合医学	1.00	0.03
							調剤・患者対応入門実習	◎ 15.00	0.50
							漢方医学の実践	21.00	0.70
							応用薬学演習	1.00	0.03
							P6集中講義	3.00	0.10
							学部連携病棟実習	◎ 3.00	0.10
							アドバンスト薬学英语	12.00	0.40
							天然医薬治療学輪講	院 15.00	0.50
							天然医薬治療学研究課題	院 30.00	1.00

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏 名	年齢	性別	学位称号	現職就任 年 月 日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した 週当たり授業時間 ⁵⁾
							授業担当時間の合計	193.00	6.43
薬学科	教授						感染症とバイオセーフティー	7.50	0.25
							微生物と感染症	20.00	0.67
							薬と疾病（感染症）	4.50	0.15
							診療の流れを知る	◎ 15.00	0.50
							生命体の成り立ち実習	◎ 30.00	1.00
							輸液と栄養	3.00	0.10
							実務と基礎の複合演習	3.00	0.10
							学部連携病棟実習	◎ 6.00	0.20
							応用薬学演習	4.50	0.15
							集中講義	4.50	0.15
							感染制御薬学	院 10.50	0.35
							疾患解明の先端科学	院 6.00	0.20
							感染制御薬学（輪講）	院 18.00	0.60
							授業担当時間の合計	132.50	4.42
薬学科	教授						薬と疾病(悪性腫瘍)	13.00	0.43
							医薬品情報と患者情報	1.00	0.03
							生命活動を担う分子(ゲノム情報とバイオ医薬品)	2.00	0.07
							応用薬学演習	1.50	0.05
							集中講義	4.50	0.15
							調剤・患者対応入門 実習	◎ 9.00	0.30
							薬と疾病チュートリアル3（がん疾患）	15.00	0.50
							EBM演習	8.00	0.27
							実務と基礎の複合演習	3.00	0.10
							実務実習事前学修	◎ 24.00	0.80
							症例演習と薬物療法の実践	8.00	0.27
							学部連携病棟実習	◎ 6.00	0.20
							がん薬物療法学	院 3.00	0.10
							Research Article English	院 1.50	0.05
							がんゲノム医療薬学（輪講）	院 11.00	0.37
							授業担当時間の合計	110.50	3.68
薬学科	教授 （実務）						人体の成り立ちと機能(内分泌)	6.00	0.20
							診療の流れを知る 実習	◎ 3.00	0.10
							人体の成り立ちと機能 実習	◎ 9.00	0.30
							薬と疾病(内分泌系疾患)	6.00	0.20
							輸液と栄養	1.50	0.05
							集中講義（内分泌系、ホルモン薬）	1.50	0.05
							授業担当時間の合計	27.00	0.90
薬学科	准教授						薬学への招待	1.50	0.05
							学修技法とスチューデントデベロプメント	1.00	0.03
							地域医療入門 TBL I	6.00	0.20
							初年次体験実習	◎ 6.00	0.20
							在宅チーム医療と倫理TBL II	12.00	0.40
							生と死	11.00	0.37
							薬と疾病（神経・精神系疾患）	14.00	0.47
							薬と疾病PBLチュートリアル1（神経疾患）	19.00	0.63
							薬剤師に求められる倫理観	11.00	0.37
							学部連携チーム医療PBL II・在宅ケア	33.00	1.10
							学部連携チーム医療PBL III・在宅チーム医療と倫理TBL III	30.00	1.00
							実務実習事前学修	◎ 15.00	0.50
							臨床心理学の活用	14.00	0.47
							応用薬学演習・集中講義	6.00	0.20
							学部連携病棟実習P5	◎ 6.00	0.20
							学部連携病棟実習P6	◎ 6.00	0.20
							教育実践学（輪講）	院 15.00	0.50
							授業担当時間の合計	206.50	6.88
薬学科	准教授						薬と疾病（呼吸器系疾患）	1.00	0.03
							薬と疾病（免疫・アレルギー疾患）	1.00	0.03
							薬と疾病（眼・耳鼻咽喉・骨関節疾患）	1.00	0.03
							薬と疾病（血液・小児・皮膚疾患）	1.00	0.03
							有機化合物の構造と性質	3.00	0.10
							官能基の化学	21.00	0.70

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏 名	年齢	性別	学位称号	現職就任 年 月 日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した 週当り授業時間 ⁵⁾	
							薬学演習	◎	1.50	0.05
							応用薬学演習		2.00	0.07
							P6集中講義		2.00	0.07
							医薬品の化学	◎	30.00	1.00
							学部連携チーム医療PBLⅡ・在宅ケア	◎	12.00	0.40
							実務実習事前学修	◎	30.00	1.00
							授業担当時間の合計		105.50	3.52
薬学科	准教授						アカデミックスキルズ		12.00	0.40
							有機化合物の構造と性質		3.00	0.10
							薬学演習		3.00	0.10
							薬学基礎から薬物治療へ 演習		7.00	0.23
							医薬品の化学実習	◎	30.00	1.00
							生体分子の化学		6.00	0.20
							医薬品の化学		6.00	0.20
							実務と基礎の複合演習		1.50	0.05
							実務実習事前学習		36.00	1.20
							応用薬学演習		3.00	0.10
							集中講義		3.00	0.10
							授業担当時間の合計		110.50	3.68
薬学科	准教授						生命活動を担う分子（代謝とその制御）		18.00	0.60
							生理から病態へ 演習		3.00	0.10
							薬学基礎から薬物治療へ 演習		7.00	0.23
							実務実習事前学修	◎	44.00	1.47
							生命体の成り立ち	◎	21.00	0.70
							アカデミックスキルズ	◎	12.00	0.40
							応用薬学演習		3.00	0.10
							P6集中講義		3.00	0.10
							高分子の構造解析法	院	3.00	0.10
							授業担当時間の合計		114.00	3.80
薬学科	准教授						医薬品・化学物質の代謝反応		12.00	0.40
							研究倫理と統計	◎	2.00	0.07
							薬と疾病チュートリアル1（神経疾患）	◎	13.00	0.43
							学部連携チーム医療PBLⅡ・在宅ケア	◎	18.00	0.60
							薬毒物と中毒		1.00	0.03
							実務実習事前学修	◎	30.00	1.00
							学部連携病棟実習	◎	18.00	0.60
							授業担当時間の合計		94.00	3.13
薬学科	准教授						初年次体験実習	◎	12.00	0.40
							人体の成り立ちと機能（神経・感覚器・皮膚・泌尿器・消化器）		1.00	0.03
							人体の成り立ちと機能 実習	◎	1.00	0.03
							薬の効き方		24.00	0.80
							薬学基礎から薬物治療へ 演習		3.00	0.10
							薬と疾病（消化器系疾患）		2.00	0.07
							薬と疾病（代謝系・内分泌系疾患）		5.00	0.17
							薬と疾病チュートリアル2（循環器疾患）		15.00	0.50
							薬の効くプロセス 実習	◎	18.00	0.60
							急性期医療と薬剤師 実習	◎	9.00	0.30
							薬と疾病（眼・耳鼻咽喉・骨関節疾患）		10.00	0.33
							EBM演習		9.00	0.30
							実務実習事前学修	◎	36.00	1.20
							症例演習と薬物療法の実践		8.00	0.27
							学部連携病棟実習	◎	6.00	0.20
							応用薬学演習		4.50	0.15
							集中講義		3.00	0.10
							生理・薬理学領域基礎研究の流れ	院	3.00	0.10
							生体の機能解析法（薬理学（医科薬理学分野））	院	6.00	0.20
							授業担当時間の合計		175.50	5.85
薬学科	准教授						人体の成り立ちと機能（循環器・血液・内分泌・生殖器・遺伝）		13.00	0.43
							人体の成り立ちと機能 実習	◎	30.00	1.00
							生理から病態へ 演習		4.00	0.13
							調剤・患者対応入門 実習	◎	3.00	0.10
							薬と疾病（循環器系疾患）		5.50	0.18

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏 名	年齢	性別	学位称号	現職就任 年 月 日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した 週当り授業時間 ⁵⁾
							薬と疾病チュートリアル2 (循環器疾患)	14.00	0.47
							薬と疾病 (血液・小児・皮膚疾患)	7.00	0.23
							実務実習事前学習	◎ 18.00	0.60
							応用薬学演習	3.00	0.10
							集中講義	1.50	0.05
							授業担当時間の合計	99.00	3.30
薬学科	准教授						物質の性質・分析・製剤化と製剤試験法実習	◎ 50.00	1.67
							製剤化と製剤試験法	◎ 30.00	1.00
							製剤の性質	7.00	0.23
							製剤設計	8.00	0.27
							学部連携チーム医療PBLⅡ・在宅ケア	18.00	0.60
							実務実習事前学習	◎ 15.00	0.50
							薬物送達システム	2.00	0.07
							応用薬学演習	4.00	0.13
							集中講義	1.00	0.03
							個別化製剤概論	院 9.00	0.30
							薬剤学 (輪講)	院 18.00	0.60
							授業担当時間の合計	162.00	5.40
薬学科	准教授 (実務)						薬物の体内動態 (P3)	11.00	0.37
							薬物動態の解析 (P3)	16.00	0.53
							処方箋と調剤 (P3)	1.00	0.03
							医薬品情報と患者情報 (P3)	2.00	0.07
							個別化医療 (P4)	1.00	0.03
							輸液と栄養 (P4)	7.00	0.23
							集中講義 (薬剤) (P6)	3.00	0.10
							応用薬学演習 (薬剤) (P6)	3.00	0.10
							応用薬学演習 (計算) (P6)	4.50	0.15
							薬と疾病チュートリアル (P3)	6.00	0.20
							薬と疾病チュートリアル (P4)	11.00	0.37
							診療の流れを知る (P2)	◎ 12.00	0.40
							調剤・患者対応入門 (P3)	◎ 9.00	0.30
							事前学習 (注射・経管) (P4)	◎ 20.00	0.67
							学部連携病棟実習 (P6, 5)	◎ 6.00	0.20
							個別化製剤概論	院 9.00	0.30
							医学生物における統計学	院 12.00	0.40
							授業担当時間の合計	133.50	4.45
薬学科	准教授						栄養と健康	21.00	0.70
							集中講義	2.00	0.07
							応用薬学演習	4.50	0.15
							学部連携チーム医療PBLⅡ・在宅ケア	◎ 12.00	0.40
							実務実習事前学修	◎ 36.00	1.20
							健康と環境 実習	◎ 24.00	0.80
							早期臨床体験実習Ⅰ (初年次体験実習)	◎ 8.00	0.27
							授業担当時間の合計	107.50	3.58
薬学科	准教授						P3 薬剤師と医薬品に係る法規範Ⅱ	14.00	0.47
							P3 急性期医療と薬剤師 実習	◎ 27.00	0.90
							P3 調剤・患者対応入門 実習	◎ 7.50	0.25
							P4 薬と疾病チュートリアル3 (がん疾患)	6.00	0.20
							P4 学部連携チーム医療PBLⅢ・在宅チーム医療と倫理TBLⅢ	18.00	0.60
							P4 EBM演習	1.00	0.03
							P4 医薬品評価と開発	1.00	0.03
							P4 実務実習事前学修	◎ 58.00	1.93
							P5 症候と疾患推測	12.00	0.40
							P5 アドバンスト薬学英语	3.00	0.10
							P5 学部連携病棟実習	◎ 6.00	0.20
							P6 応用薬学演習	6.00	0.20
							P6 集中講義	3.00	0.10
							P6 アドバンスト薬学英语	3.00	0.10
							P6 学部連携病棟実習	◎ 6.00	0.20
							P6 薬剤師の臨床判断	◎ 22.00	0.73
							D1 救急・集中治療薬学	院 3.00	0.10
							授業担当時間の合計	196.50	6.55

学科 1)	職名 2)	氏 名	年齢	性別	学位称号	現職就任 年 月 日	授業担当科目 3)	授業時間 4)	年間で平均した 週当り授業時間 5)								
薬学科	准教授						人体の成り立ちと機能(循環器・血液・内分泌・生殖器・遺伝)		2.00	0.07							
							薬学基礎から薬物治療へ 演習		4.00	0.13							
							薬と疾病(泌尿器系・生殖器系疾患)		6.00	0.20							
							調剤・患者対応入門	◎	16.00	0.53							
							学部連携チーム医療PBLⅡ・在宅ケア		15.00	0.50							
							薬と疾病(血液・小児・皮膚疾患)		3.00	0.10							
							個別化医療		8.00	0.27							
							症例演習と薬物療法の実践		4.00	0.13							
							実務実習事前学修	◎	42.00	1.40							
							学部連携チーム医療PBLⅢ・在宅チーム医療と倫理TBLⅢ		18.00	0.60							
							学部連携病棟実習	◎	6.00	0.20							
							応用薬学演習		1.00	0.03							
							P6アドバンスト薬学英語		1.00	0.03							
							P5アドバンスト薬学英語		1.00	0.03							
							薬物治療学(輪講)	院	80.00	2.67							
							授業担当時間の合計								207.00	6.90	
							薬学科	准教授 (実務)						処方箋と調剤		6.00	0.20
医薬品情報と患者情報		3.00	0.10														
EBM演習		2.00	0.07														
集中講義		1.00	0.03														
薬と疾病(神経・精神系疾患)		1.00	0.03														
漢方薬になる動植物	◎	20.00	0.67														
初年次体験実習	◎	12.00	0.40														
調剤・患者対応入門 実習	◎	10.00	0.33														
実務実習事前学習	◎	18.00	0.60														
漢方医学の実践		1.00	0.03														
薬用植物・生薬演習	◎	1.00	0.03														
薬物治療学特論	院	2.00	0.07														
生体の機能解析法(薬理学(医科薬理学分野))	院	4.00	0.13														
アドバンスト薬学英語		4.00	0.13														
天然医薬治療学輪講	院	2.00	0.07														
天然医薬治療学研究課題	院	3.00	0.10														
授業担当時間の合計														90.00	3.00		
薬学科	准教授 (実務)						薬と疾病(感染症)		18.00	0.60							
							生命体の成り立ち実習	◎	30.00	1.00							
							医薬品情報と患者情報		11.00	0.37							
							臨床シナリオ・学部連携PBLチュートリアル	◎	18.00	0.60							
							調剤患者対応入門	◎	12.00	0.40							
							EBM演習		18.00	0.60							
							実務実習事前学修	◎	27.00	0.90							
							症例演習と薬物療法の実践		12.00	0.40							
							症候学Ⅲ		1.50	0.05							
							応用薬学演習		3.00	0.10							
							集中講義		1.50	0.05							
							学部連携病棟実習	◎	6.00	0.20							
							感染制御薬学	院	4.50	0.15							
							授業担当時間の合計								162.50	5.42	
							薬学科	講師						学部連携チーム医療PBLⅢ・在宅チーム医療と倫理TBLⅢ	◎	30.00	1.00
														薬の宝庫としての天然物		15.00	0.50
														学修技法とスチューデントデベロプメント	◎	1.00	0.03
薬と疾病チュートリアル2(循環器疾患)	◎	11.00	0.37														
学部連携チーム医療PBLⅡ・在宅ケア	◎	18.00	0.60														
実務実習事前学修		36.00	1.20														
応用薬学演習	◎	1.00	0.03														
学部連携病棟実習		2.00	0.07														
薬学への招待		1.50	0.05														
生と死	◎	12.00	0.40														
授業担当時間の合計														127.50	4.25		
薬学科	講師													地域医療入門		12.00	0.40
														在宅チーム医療と倫理TBLⅡ(学部連携)		12.00	0.40
							薬剤師の使命		10.00	0.33							
							薬と疾病チュートリアル1(神経疾患)		10.00	0.33							

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏 名	年齢	性別	学位称号	現職就任 年 月 日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した 週当り授業時間 ⁵⁾
							薬剤師に求められる倫理観	7.00	0.23
							学部連携チーム医療PBLⅡ・在宅ケア	30.00	1.00
							学部連携チーム医療PBLⅢ・在宅チーム医療と倫理TBLⅢ	30.00	1.00
							実務と基礎の複合演習	5.00	0.17
							実務実習事前学修	◎ 15.00	0.50
							臨床心理学の活用	12.00	0.40
							学部連携病棟実習	9.00	0.30
							授業担当時間の合計	152.00	5.07
薬学科	講師						薬学演習	3.00	0.10
							有機化合物の反応	21.00	0.70
							医薬品の化学I	◎ 30.00	1.00
							学部連携 高齢者コミュニケーション演習	12.00	0.40
							実務実習事前学習	36.00	1.20
							応用薬学演習	1.00	0.03
							集中講義	2.00	0.07
							授業担当時間の合計	105.00	3.50
薬学科	講師						在宅チーム医療と倫理TBLⅡ	◎ 6.00	0.20
							医薬品の化学実習	◎ 27.00	0.90
							生体分子の化学	2.00	0.07
							実務実習事前学修	◎ 30.00	1.00
							医薬品の化学	2.00	0.07
							地域医療入門	◎ 12.00	0.40
							薬学演習	◎ 3.00	0.10
							授業担当時間の合計	82.00	2.73
薬学科	講師						医薬品の検出と定量	20.00	0.67
							物質の性質・分析・製剤化と製剤試験法 実習	◎ 29.00	0.97
							実務実習事前学習	◎ 19.50	0.65
							P5応用薬学演習	4.50	0.15
							P6集中講義	3.00	0.10
							授業担当時間の合計	76.00	2.53
薬学科	講師						地域医療入門	12.00	0.40
							在宅チーム医療と倫理TBLⅡ	12.00	0.40
							物質の性質・分析・製剤化と製剤試験法実習	◎ 27.00	0.90
							機器分析	11.50	0.38
							学部連携チーム医療PBLⅢ	18.00	0.60
							実務実習事前学修	◎ 36.00	1.20
							症例演習と薬物療法の実践	16.00	0.53
							薬局実習	11.50	0.38
							集中講義	0.50	0.02
							授業担当時間の合計	144.50	4.82
薬学科	講師						P1 地域医療入門	12.00	0.40
							P2 在宅チーム医療と倫理TBLⅢ(学部連携)	12.00	0.40
							P2 物質の性質・分析・製剤化と製剤試験法実習	◎ 27.00	0.90
							P3 在宅チーム医療と倫理TBLⅢ(学部連携)	12.00	0.40
							P3 機器分析	14.50	0.48
							P4 実務実習事前学修	◎ 21.00	0.70
							P5 症例演習と薬物療法の実践	16.00	0.53
							P5 (物理)応用薬学演習	1.00	0.03
							P6 集中講義	0.50	0.02
							授業担当時間の合計	116.00	3.87
薬学科	講師						物質の構造	7.00	0.23
							物質の性質・分析・製剤化と製剤試験法実習	◎ 30.00	1.00
							実務と基礎の複合演習	1.00	0.03
							応用薬学演習	1.50	0.05
							生体高分子の構造解析法	院 3.00	0.10
							溶液の性質	4.50	0.15
							初年次体験実習	◎ 10.00	0.33
							実務実習事前学修	◎ 30.00	1.00
							授業担当時間の合計	87.00	2.90
薬学科	講師						生体防御反応を担う組織、細胞、分子	12.00	0.40
							生命体の成り立ち実習	◎ 21.00	0.70
							生体防御反応の応用と制御	7.00	0.23

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏 名	年齢	性別	学位称号	現職就任 年 月 日	授業担当科目 ³⁾		授業時間 ⁴⁾	年間で平均した 週当り授業時間 ⁵⁾
							放射性医薬品の利用と管理		5.00	0.17
							学部連携チーム医療PBLⅢ・在宅チーム医療と倫理TBLⅢ		18.00	0.60
							実務実習事前学修		33.00	1.10
							アドバンスト薬学英語		10.00	0.33
							腫瘍細胞生物学（輪講）	院	24.00	0.80
							授業担当時間の合計		130.00	4.33
薬学科	講師						薬学への招待		1.00	0.03
							薬と疾病チュートリアル1（神経疾患）	◎	10.00	0.33
							研究倫理と統計		18.00	0.60
							学部連携チーム医療PBLⅡ・在宅ケア	◎	18.00	0.60
							薬毒物と中毒		5.00	0.17
							実務実習事前学修	◎	15.00	0.50
							症例演習と薬物療法の実践	◎	2.00	0.07
							学部連携病棟実習（5年）	◎	3.50	0.12
							学部連携病棟実習（6年）	◎	7.00	0.23
							授業担当時間の合計		79.50	2.65
薬学科	講師						薬の作用と生体内運命		6.00	0.20
							薬の効き方		18.00	0.60
							人体の成り立ちと機能 実習	◎	3.00	0.10
							薬と疾病（呼吸器系疾患）		1.00	0.03
							薬と疾病（循環器系疾患）		6.00	0.20
							薬と疾病（免疫・アレルギー疾患）		1.00	0.03
							薬と疾病チュートリアル1（神経疾患）		10.00	0.33
							薬と疾病チュートリアル2（循環器疾患）		11.00	0.37
							薬の効くプロセス 実習	◎	15.00	0.50
							実務実習事前学修	◎	12.00	0.40
							応用薬学演習		4.50	0.15
							集中講義		2.00	0.07
							生理薬理学領域基礎研究の流れ	院	3.00	0.10
							授業担当時間の合計		92.50	3.08
薬学科	講師						物質の性質・分析・製剤化と製剤試験法 実習	◎	31.00	1.03
							製剤の性質		12.00	0.40
							薬と疾病チュートリアル2（循環器疾患）		11.00	0.37
							学部連携チーム医療PBLⅡ・在宅ケア		12.00	0.40
							製剤化と製剤試験法 実習	◎	27.00	0.90
							実務実習事前学修		15.00	0.50
							応用薬学演習		1.00	0.03
							P6集中講義		1.00	0.03
							応用薬学演習		1.00	0.03
							授業担当時間の合計		111.00	3.70
薬学科	講師						製剤設計		3.00	0.10
							薬物送達システム		8.00	0.27
							応用薬学演習		2.00	0.07
							集中講義		2.00	0.07
							薬と疾病チュートリアル2（循環器疾患）		11.00	0.37
							在宅チーム医療と倫理TBLⅡ（学部連携）		14.00	0.47
							実務実習事前学修	◎	36.00	1.20
							製剤化と製剤試験法	◎	27.00	0.90
							授業担当時間の合計		103.00	3.43
薬学科	講師						学部連携TBLⅠ		12.00	0.40
							学部連携TBLⅡ		8.00	0.27
							診療の流れを知る		12.00	0.40
							製剤化と製剤試験法実習	◎	33.00	1.10
							製剤化と製剤試験法実習	◎	15.00	0.50
							製剤設計		10.00	0.33
							薬物送達システム		3.00	0.10
							EBM演習		6.00	0.20
							薬と疾病チュートリアル		6.00	0.20
							実務と基礎の複合演習		3.00	0.10
							実務実習事前学習		15.00	0.50
							学部連携PBLⅢ		12.00	0.40
							応用薬学演習		1.00	0.03

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏 名	年齢	性別	学位称号	現職就任 年 月 日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した 週当り授業時間 ⁵⁾
							応用薬学演習	2.25	0.08
							集中講義	2.25	0.08
							授業担当時間の合計	140.50	4.68
薬学科	講師						薬物の体内動態	7.00	0.23
							薬物動態の解析	6.00	0.20
							学部連携チーム医療PBLⅢ・在宅チーム医療と倫理TBLⅢ	18.00	0.60
							薬と疾病チュートリアル3(がん疾患)	3.00	0.10
							症例演習と薬物療法の実践	3.00	0.10
							P6集中講義	1.50	0.05
							応用薬学演習	1.50	0.05
							医学生物における統計学的解析法	院 3.00	0.10
							初年次体験実習	◎ 12.00	0.40
							調剤・患者対応入門 実習	◎ 3.00	0.10
							実務実習事前学修	◎ 15.00	0.50
							学部連携病棟実習	◎ 6.00	0.20
							授業担当時間の合計	79.00	2.63
薬学科	講師 (実務)						薬剤師と医薬品に係る法規範Ⅰ	20.00	0.67
							薬と疾病チュートリアル1(神経疾患)	2.00	0.07
							学部連携チーム医療PBLⅡ・在宅ケア	18.00	0.60
							調剤・患者対応入門 実習	◎ 9.00	0.30
							学部連携チーム医療PBLⅢ・在宅チーム医療と倫理TBLⅢ	12.00	0.40
							実務実習事前学修	◎ 27.00	0.90
							学部連携病棟実習	◎ 3.00	0.10
							P6集中講義	3.00	0.10
							応用薬学演習	7.50	0.25
							アドバンスト薬学英語	15.00	0.50
							学部連携病棟実習	◎ 3.00	0.10
							社会薬学(輪講)	院 39.00	1.30
							授業担当時間の合計	158.50	5.28
薬学科	講師						人体の成り立ちと機能(循環器・血液・内分泌・生殖器・遺伝)	2.00	0.07
							人体の成り立ちと機能 実習	◎ 9.00	0.30
							薬と疾病(泌尿器系・生殖器系疾患)	6.00	0.20
							薬と疾病チュートリアル1(神経疾患)	6.00	0.20
							薬と疾病チュートリアル2(循環器疾患)	25.00	0.83
							学部連携チーム医療PBLⅡ・在宅ケア	18.00	0.60
							調剤・患者対応入門 実習	◎ 9.00	0.30
							薬と疾病(血液・小児・皮膚疾患)	2.00	0.07
							個別化医療	3.00	0.10
							EBM演習	8.00	0.27
							実務実習事前学修	30.00	1.00
							P5アドバンスト薬学英語	1.00	0.03
							P6アドバンスト薬学英語	1.00	0.03
							学部連携病棟実習	◎ 6.00	0.20
							薬物治療学特論	院 20.00	0.67
							薬物治療学(輪講)	院 56.00	1.87
							授業担当時間の合計	202.00	6.73
薬学科	講師						漢方薬になる動植物	12.00	0.40
							薬の宝庫としての天然物	13.00	0.43
							漢方医学の実践	6.00	0.20
							薬用植物・生薬演習	◎ 45.00	1.50
							調剤・患者対応入門実習	◎ 6.00	0.20
							学部連携チーム医療PBLⅠ・在宅ケア	6.00	0.20
							実務実習事前学修	◎ 42.00	1.40
							アドバンスト薬学英語	4.00	0.13
							天然医薬治療学(輪講)	院 6.00	0.20
							天然医薬治療学(薬学研究課題)	院 10.00	0.33
							初年次体験学習	◎ 12.00	0.40
							授業担当時間の合計	162.00	5.40
薬学科	講師 (実務)						薬と疾病(悪性腫瘍)	6.00	0.20
							医薬品情報と患者情報	2.00	0.07
							診療の流れを知る	◎ 12.00	0.40
							調剤・患者対応入門 実習	◎ 5.00	0.17

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏 名	年齢	性別	学位称号	現職就任 年 月 日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した 週当り授業時間 ⁵⁾
							学部連携チーム医療PBLⅡ・在宅ケア	◎ 18.00	0.60
							急性期医療と薬剤師 実習	◎ 9.00	0.30
							薬と疾病チュートリアル3 (がん疾患)		11.00 0.37
							EBM演習		7.00 0.23
							実務実習事前学修	◎ 14.50	0.48
							海外における薬剤師の役割を知る	◎ 1.00	0.03
							学部連携病棟実習	◎ 6.00	0.20
							がんゲノム医療薬学 (輪講)	院 11.00	0.37
							授業担当時間の合計	102.50	3.42
薬学科	講師 (実務)						薬と疾病チュートリアル (神経疾患)		10.00 0.33
							輸液と栄養		5.00 0.17
							実務実習事前学修	◎ 55.00	1.83
							症例演習と薬物療法の実践		12.00 0.40
							病院実習1	◎ 6.00	0.20
							病院実習2	◎ 22.00	0.73
							応用薬学演習		2.00 0.07
							学部連携病棟実習	◎ 12.00	0.40
							集中講義		1.00 0.03
							授業担当時間の合計	125.00	4.17
薬学科	助教 (実務)						生と死		8.00 0.27
							薬学英語1		10.00 0.33
							薬学英語2		10.00 0.33
							薬と疾病チュートリアル		4.00 0.13
							薬剤師に求められる倫理観		4.00 0.13
							学部連携チーム医療PBLⅢ・在宅チーム医療と倫理TBLⅢ		10.00 0.33
							実務実習事前学習	◎ 24.00	0.80
							海外における薬剤師の役割を知る		5.00 0.17
							臨床心理学の応用		6.00 0.20
							学部連携病棟実習	◎ 3.00	0.10
							学部連携病棟実習	◎ 3.00	0.10
							授業担当時間の合計	87.00	2.90
薬学科	助教 (実務)						薬剤師の使命		6.00 0.20
							薬剤師に求められる倫理観		3.00 0.10
							調剤・患者対応入門 実習	◎ 36.00	1.20
							学部連携チーム医療PBLⅢ・在宅チーム医療と倫理TBLⅢ		12.00 0.40
							実務実習事前学修	◎ 24.00	0.80
							臨床心理学の活用		9.00 0.30
							薬局実習	◎ 30.00	1.00
							学部連携病棟実習	◎ 3.00	0.10
							P6集中講義		1.50 0.05
							授業担当時間の合計	124.50	4.15
薬学科	助教						物質の性質・分析・製剤化と製剤試験法 実習	◎ 27.00	0.90
							学部連携チーム医療PBLⅡ・在宅ケア 演習		12.00 0.40
							学部連携チーム医療PBLⅢ・在宅チーム医療と倫理TBLⅢ 演習		12.00 0.40
							実務実習事前学修	◎ 15.00	0.50
							生体高分子の構造解析法	院 3.00	0.10
							授業担当時間の合計	69.00	2.30
薬学科	助教						生命活動を担う分子 (物質輸送とエネルギー産生)		6.00 0.20
							生命体の成り立ち	◎ 21.00	0.70
							学部連携チーム医療PBLⅡ・在宅ケア		6.00 0.20
							実務実習事前学修	◎ 48.00	1.70
							授業担当時間の合計	81.00	2.70
薬学科	助教						生命体の成り立ち	◎ 21.00	0.70
							実務実習事前実習	◎ 15.00	0.50
							授業担当時間の合計	36.00	1.20
薬学科	助教						生体防御反応を担う組織、細胞、分子		6.00 0.20
							生命体の成り立ち 実習	◎ 21.00	0.70
							生体防御反応の応用と制御		6.00 0.20
							学部連携チーム医療PBLⅢ・在宅チーム医療と倫理TBLⅢ	◎ 6.00	0.20
							薬と疾病チュートリアル3 (がん疾患)	◎ 12.00	0.40
							実務実習事前学修	◎ 30.00	1.00
							アドバンスト薬学英語		10.00 0.33

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏 名	年齢	性別	学位称号	現職就任 年 月 日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した 週当り授業時間 ⁵⁾
							腫瘍細胞生物学（輪講）	院 12.00	0.40
							授業担当時間の合計	103.00	3.43
薬学科	助教						実務実習事前学修	◎ 27.00	0.90
							在宅チーム医療と倫理TBLⅡ（学部連携）	13.00	0.43
							薬と疾病チュートリアル1（神経疾患）	10.00	0.33
							研究倫理と統計	2.00	0.07
							学部連携病棟実習（5年生）	◎ 8.00	0.27
							学部連携病棟実習（6年生）	◎ 8.00	0.27
							授業担当時間の合計	68.00	2.27
薬学科	助教						薬の効き方	18.00	0.60
							薬と疾病チュートリアル1（神経疾患）	10.00	0.33
							実務実習事前学修	◎ 18.00	0.60
							薬の効くプロセス	◎ 12.00	0.40
							生理薬理学領域基礎研究の流れ	院 3.00	0.10
							授業担当時間の合計	61.00	2.03
薬学科	助教						人体の成り立ちと機能 実習	◎ 30.00	1.00
							診療の流れを知る 実習	◎ 8.00	0.27
							調剤・患者対応入門 実習	◎ 4.00	0.13
							急性期医療と薬剤師	9.00	0.30
							薬と疾病チュートリアル3(がん疾患)	9.00	0.30
							EBM演習	6.00	0.20
							学部連携チーム医療PBLⅡ・在宅ケア	18.00	0.60
							生理から病態へ 演習	1.00	0.03
							実務実習事前学修(薬局)	16.00	0.53
							授業担当時間の合計	101.00	3.37
薬学科	助教						人体の成り立ちと機能(神経・感覚器・皮膚・泌尿器・消化器)	6.00	0.20
							薬と疾病(呼吸器系疾患)	6.00	0.20
							人体の成り立ちと機能 実習	◎ 15.00	0.50
							実務実習事前学修(病棟)	◎ 30.00	1.00
							薬と疾病(免疫・アレルギー疾患)	6.00	0.20
							授業担当時間の合計	63.00	2.10
薬学科	助教						健康と環境 実習	◎ 24.00	0.80
							実務実習事前学修	◎ 33.00	1.10
							学部連携チーム医療PBLⅡ・在宅ケア	◎ 30.00	1.00
							薬と疾病チュートリアル（循環器系疾患）	◎ 6.00	0.20
							在宅医療を支えるNBMと倫理	◎ 11.00	0.37
							授業担当時間の合計	104.00	3.47
薬学科	助教						健康と環境 実習	◎ 24.00	0.80
							実務実習事前学修	◎ 24.00	0.80
							学部連携チーム医療PBLⅡ・在宅ケア	◎ 30.00	1.00
							地域医療入門	◎ 12.00	0.40
							在宅チーム医療と倫理TBLⅡ	◎ 18.00	0.60
							薬と疾病チュートリアル1（神経疾患）	◎ 12.00	0.40
							授業担当時間の合計	120.00	4.00
薬学科	助教 （実務）						リハ・介護・在宅医療	◎ 6.00	0.20
							在宅医療を支える基本技能（在宅演習）	◎ 6.00	0.20
							コミュニケーション	18.00	0.60
							診療の流れを知る	◎ 8.00	0.27
							研究倫理と統計	◎ 3.00	0.10
							学部連携チーム医療PBLⅡ・在宅ケア	◎ 12.00	0.40
							急性期医療と薬剤師	◎ 12.00	0.40
							製剤化と製剤試験法	◎ 6.00	0.20
							調剤・患者対応入門	◎ 9.00	0.30
							地域医療とプライマリーケア	7.00	0.23
							輸液と栄養	6.00	0.20
							EBM演習	◎ 3.00	0.10
							実務実習事前学修	◎ 18.00	0.60
							症例演習と薬物療法の実践	6.00	0.80
							学部連携病棟実習	◎ 6.00	0.20
							アドバンスト薬学英語	15.00	0.50
							集中講義	2.00	0.07
							社会薬学（輪講）	院 43.50	1.45

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏 名	年齢	性別	学位称号	現職就任 年 月 日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した 週当り授業時間 ⁵⁾
							授業担当時間の合計	186.50	6.22
薬学科	助教						P2 生と死	9.00	0.30
							P3 薬剤師と医薬品に係る法規範2	2.00	0.07
							P3 急性期医療と薬剤師 実習	◎ 23.00	0.77
							P3 調剤・患者対応入門 実習	◎ 3.50	0.12
							P3 学部連携チーム医療PBLⅡ・在宅ケア	◎ 6.00	0.20
							P4 薬と疾病チュートリアル3（がん疾患）	6.00	0.20
							P4 EBM演習	16.00	0.53
							P4 実務実習事前学修	◎ 26.00	0.87
							P5 学部連携病棟実習	◎ 6.00	0.20
							P6 学部連携病棟実習	◎ 3.00	0.10
							P6 薬剤師の臨床判断	◎ 22.00	0.73
							D1 救急・集中治療薬学	院 3.00	0.10
							授業担当時間の合計	125.50	4.18
薬学科	助教						アカデミックスキルズ	12.00	0.40
							診療の流れを知る	◎ 13.00	0.43
							薬剤師と医薬品に係る法規範Ⅱ	7.00	0.23
							急性期医療と薬剤師	◎ 23.00	1.40
							調剤・患者対応入門	◎ 5.75	0.19
							薬と疾病チュートリアル3（がん疾患）	6.00	0.20
							EBM演習	16.00	0.53
							実務実習事前学修	◎ 20.00	0.67
							症候と疾患推測	2.00	0.07
							集中講義	2.00	0.07
							応用薬学演習	1.00	0.03
							薬剤師の臨床判断	◎ 23.00	0.77
							救急・集中治療薬学	院 3.00	0.10
							授業担当時間の合計	133.75	4.46
薬学科	助教 （実務）						人体の成り立ちと機能 実習	◎ 6.00	0.20
							処方箋と調剤	4.00	0.13
							医薬品情報と患者情報	1.00	0.03
							薬と疾病チュートリアル1（神経疾患）	6.00	0.20
							調剤・患者対応入門 実習	◎ 15.00	0.50
							個別化医療	2.00	0.07
							学部連携チーム医療PBLⅢ・在宅チーム医療と倫理TBLⅢ	18.00	0.60
							薬と疾病チュートリアル3（がん疾患）	9.00	0.30
							EBM演習	9.00	0.30
							学部連携病棟実習	◎ 6.00	0.20
							P6集中講義	2.00	0.07
							P6アドバンスト薬学英语	4.00	0.13
							薬物治療学（輪講）	院 80.00	2.67
							授業担当時間の合計	162.00	5.40
薬学科	助教						漢方薬になる動植物	2.00	0.07
							薬用植物・生薬演習	◎ 9.00	0.30
							初年次体験実習	◎ 18.00	0.60
							調剤・患者対応入門実習	◎ 4.00	0.13
							漢方医学の実践	4.00	0.13
							実務実習事前学習	◎ 16.00	0.53
							学部連携チーム医療PBLⅢ・在宅チーム医療と倫理TBLⅢ	12.00	0.40
							学部連携病棟実習	◎ 2.00	0.07
							アドバンスト薬学英语	4.00	0.13
							天然医薬治療学輪講	院 2.00	0.07
							天然医薬治療学研究課題	院 3.00	0.10
							授業担当時間の合計	76.00	2.53
薬学科	助教 （実務）						薬と疾病チュートリアル2（循環器疾患）	22.00	0.73
							調剤・患者対応入門 実習	◎ 3.00	0.10
							学部連携チーム医療PBLⅢ・在宅チーム医療と倫理TBLⅢ	18.00	0.60
							薬と疾病チュートリアル3（がん疾患）	11.00	0.37
							実務実習事前学修	◎ 24.00	0.80
							薬と疾病（悪性腫瘍）	6.00	0.20
							EBM演習	6.00	0.20
							学部連携病棟実習	◎ 6.00	0.20

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任 年 月 日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した 週当り授業時間 ⁵⁾
							がんゲノム医療薬学（輪講）院	11.00	0.37
							授業担当時間の合計	96.00	3.20

(基礎資料 7) 教員の教育担当状況 (病院薬剤学講座)

表 1. 薬学科(6年制)専任教員(基礎資料5の表1)が担当する授業科目と担当時間

病院実習 1 は40日間、病院実習 2 は36週間、精神医療実習は60日間、学部連携病棟実習は15日間 (いずれも延べ日数で、実習時間は9:00~17:00) にわたって行われており、以下に示す病院薬剤学講座所属の教育職員は、病棟薬剤師業務と並行して実習指導を行っている。このため、正確な算出が難しい授業時間欄は空欄としている。

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏 名	年齢	性別	学位称号	現職就任 年 月 日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均 した 週当たり授業 時間 ⁵⁾
薬学科	教授員外 (実務)						病院実習 1	◎	
							病院実習 2	◎	
							処方箋と調剤		1.00
							実務と基礎の複合演習		1.00
							薬剤師の使命		1.00
							病院薬剤学特論	院	1.50
							授業担当時間の合計		4.50
薬学科	准教授 (実務)						病院実習1	◎	
							病院実習2	◎	
							処方箋と調剤		1.00
							危機管理入門(医薬部4年)		1.50
							薬学的医療マネジメント学	院	1.50
							病院薬剤学特論	院	1.50
							授業担当時間の合計		5.50
薬学科	准教授 (実務)						病院実習1	◎	
							病院実習2	◎	
							診療の流れを知る		1.50
							薬と疾病(呼吸器疾患)		6.00
							医薬品の副作用・有害事象		1.50
							薬学的医療マネジメント学	院	1.50
							病院薬剤学特論	院	1.50
							授業担当時間の合計		12.00
薬学科	准教授 (実務)						精神医療実習	◎	
							病院実習 2	◎	
							診療の流れを知る	◎	3.00
							薬と疾病		2.00
							医薬品の副作用・有害事象		1.50
							薬物治療学特論	院	2.00
							病院薬剤学特論	院	1.50
							授業担当時間の合計		10.00
薬学科	准教授 (実務)						病院実習 1	◎	
							病院実習 2	◎	
							薬と疾病(眼・耳鼻咽喉・骨関節)		1.00
							実務と基礎の複合演習		1.00
							口腔医学とチーム医療Ⅱ		1.00
							病院薬剤学特論	院	1.50
							授業担当時間の合計		4.50
薬学科	准教授 (実務)						病院実習 1	◎	
							病院実習 2	◎	
							学部連携病棟実習	◎	
							薬と疾病チュートリアル		1.50
							薬と疾病		1.50
							個別化医療		1.50
							医薬品の副作用・有害事象		1.50
							病院薬剤学特論	院	1.50
							薬学的医療マネジメント	院	1.50
							授業担当時間の合計		9.00
薬学科	准教授 (実務)						病院実習 1	◎	
							病院実習 2	◎	
							薬と疾病(代謝系・内分泌系疾患)		3.00
							薬と疾病(免疫・アレルギー疾患)		3.00

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏 名	年齢	性別	学位称号	現職就任 年 月 日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均 した 週当り授業 時間 ⁵⁾
							医薬品の副作用・有害事象	1.50	0.05
							P6集中講義	3.00	0.10
							薬物治療学特論	1.50	0.05
							病院薬剤学特論	1.50	0.05
							授業担当時間の合計	13.50	0.45
薬学科	准教授 (実務)						病院実習1	◎	
							病院実習2	◎	
							学部連携病棟実習	◎	
							臨床実習Ⅲ（多職種実習）	◎	20.00
							薬と疾病チュートリアル（がん疾患）	◎	2.00
							処方箋と調剤		2.00
							個別化治療（がん領域）		1.00
							P6集中講義		3.00
							薬学的がんケア学	院	3.00
							薬学的医療マネジメント学	院	3.00
							授業担当時間の合計	34.00	1.13
薬学科	准教授 (実務)						病院実習 1	◎	
							病院実習 2	◎	
							学部連携病棟実習	◎	
							薬と疾病チュートリアル		1.50
							薬と疾病		1.50
							個別化医療		1.50
							医薬品の副作用・有害事象		1.50
							病院薬剤学特論	院	1.50
							薬学的医療マネジメント	院	1.50
							薬物治療学特論	院	1.50
							授業担当時間の合計	10.50	0.35
薬学科	准教授 (実務)						病院実習 1	◎	
							病院実習 2	◎	
							学部連携病棟実習	◎	
							診療の流れを知る	◎	3.00
							臨床実習Ⅲ（多職種実習）	◎	20.00
							実務実習事前学修		4.00
							医薬品の副作用・有害事象		1.50
							P6集中講義		1.50
							病院薬剤学特論	院	1.50
							病院薬剤師が行う臨床研究 院	院	4.50
							授業担当時間の合計	36.00	1.20
薬学科	准教授 (実務)						病院実習 1	◎	
							病院実習 2	◎	
							調剤・患者対応入門実習	◎	12.00
							処方箋と調剤		3.00
							実務実習事前学習		4.00
							P6集中講義		1.50
							薬毒物と中毒		1.50
							病院薬剤学特論	院	1.50
							臨床薬理学：薬理作用		1.50
							授業担当時間の合計	25.00	0.83
薬学科	講師 (実務)						病院実習 1	◎	
							病院実習 2	◎	
							実務と基礎の複合演習		3.00
							授業担当時間の合計		
薬学科	講師 (実務)						病院実習 1	◎	
							病院実習 2	◎	
							学部連携病棟実習	◎	
							診療の流れを知る	◎	3.00
							授業担当時間の合計	3.00	0.10

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏 名	年齢	性別	学位称号	現職就任 年 月 日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均 した 週当り授業 時間 ⁵⁾
薬学科	講師 (実務)						病院実習 1	◎	
							病院実習 2	◎	
							学部連携病棟実習	◎	
							授業担当時間の合計		
薬学科	講師 (実務)						病院実習 1	◎	
							病院実習 2	◎	
							海外における薬剤師の役割を知る	◎	5.00
							医薬品の副作用・有害事象		1.50
							P6集中講義		1.50
							病院薬剤学特論	院	1.50
							病院薬剤師が行う臨床研究	院	1.50
							授業担当時間の合計		11.00
薬学科	講師 (実務)						病院実習1	◎	
							病院実習2	◎	
							医薬品の副作用と有害事象		1.50
							薬学的がんケア学	院	3.00
							授業担当時間の合計		4.50
薬学科	講師 (実務)						病院実習 1	◎	
							病院実習 2	◎	
							薬と疾病		1.50
							薬学的がんケア学	院	3.00
							授業担当時間の合計		4.50
薬学科	講師 (実務)						病院実習1	◎	
							病院実習2	◎	
							救急・集中治療薬学	院	6.00
							授業担当時間の合計		6.00
薬学科	助教 (実務)						病院実習 1	◎	
							病院実習 2	◎	
							個別化医療		1.00
							薬物治療学特論	院	2.00
							授業担当時間の合計		3.00
薬学科	助教 (実務)						病院実習1	◎	
							病院実習2	◎	
							授業担当時間の合計		
薬学科	助教 (実務)						病院実習1	◎	
							病院実習2	◎	
							授業担当時間の合計		
薬学科	助教 (実務)						病院実習1	◎	
							病院実習2	◎	
							学部連携病棟実習	◎	
							診療の流れを知る	◎	
							授業担当時間の合計		
薬学科	助教 (実務)						病院実習 1	◎	
							病院実習 2 (精神医療実習を含む)	◎	
							授業担当時間の合計		
薬学科	助教 (実務)						病院実習 1	◎	
							病院実習 2	◎	
							薬と疾病 (循環器系疾患)		0.50
							授業担当時間の合計		
薬学科	助教 (実務)						病院実習1	◎	
							病院実習2	◎	
							授業担当時間の合計		
薬学科	助教 (実務)						病院実習 1	◎	
							病院実習 2	◎	

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏 名	年齢	性別	学位称号	現職就任 年 月 日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均 した 週当り授業 時間 ⁵⁾
							学部連携病棟実習	◎	
							急性期医療と薬剤師	◎	1.00
							救急・集中治療薬学	院	2.50
							授業担当時間の合計		3.50
薬学科	助教 (実務)						病院実習1	◎	
							病院実習2	◎	
							授業担当時間の合計		
薬学科	助教 (実務)						実務と基礎の複合演習		3.00
							病院実習1	◎	
							病院実習2	◎	
							授業担当時間の合計		3.00
薬学科	助教 (実務)						病院実習 1	◎	
							病院実習 2	◎	
							薬学的がんケア学	院	1.50
							病院薬剤学（輪講）	院	1.50
							授業担当時間の合計		3.00
薬学科	助教 (実務)						病院実習1	◎	
							病院実習2	◎	
							学部連携病棟実習	◎	
							授業担当時間の合計		
薬学科	助教 (実務)						病院実習 1	◎	
							病院実習 2	◎	
							学部連携病棟実習	◎	
							授業担当時間の合計		
薬学科	助教 (実務)						病院実習 1	◎	
							病院実習 2	◎	
							授業担当時間の合計		
薬学科	助教 (実務)						病院実習 1	◎	
							病院実習 2	◎	
							学部連携病棟実習	◎	
							救急・集中治療薬学	院	2.00
							薬物治療学特論	院	2.00
							授業担当時間の合計		4.00
薬学科	助教 (実務)						病院実習 1	◎	
							病院実習 2	◎	
							授業担当時間の合計		
薬学科	助教 (実務)						急性期医療と薬剤師		1.50
							病院実習1	◎	
							病院実習2	◎	
							薬物治療学特論	院	2.00
							救急・集中治療薬学	院	3.00
							授業担当時間の合計		6.50
薬学科	助教 (実務)						病院実習1	◎	
							病院実習2	◎	
							授業担当時間の合計		
薬学科	助教 (実務)						病院実習1	◎	
							病院実習2	◎	
							授業担当時間の合計		
薬学科	助教 (実務)						病院実習 1	◎	
							病院実習 2	◎	
							授業担当時間の合計		
薬学科	助教 (実務)						病院実習 1	◎	
							病院実習 2	◎	
							授業担当時間の合計		
薬学科	助教 (実務)						実務実習 1	◎	
							実務実習 2	◎	
							授業担当時間の合計		

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏 名	年 齢	性別	学位称号	現職就任 年 月 日	授業担当科目 ³⁾		授業時間 ⁴⁾	年間で平均 した 週当り授業 時間 ⁵⁾
薬学科	助教 (実務)						薬と疾病(神経・精神系疾患)		3.00	0.10
							病院実習 1	◎		
							病院実習 2 (精神医療実習を含む)	◎		
							病院薬剤学 (輪講)	院		
							授業担当時間の合計			3.00
薬学科	助教 (実務)						病院実習 1	◎		
							病院実習 2	◎		
							学部連携病棟実習	◎		
							授業担当時間の合計			
薬学科	助教 (実務)						病院実習 2	◎	1.50	0.05
							P3薬と疾病			
							授業担当時間の合計			
薬学科	助教 (実務)						病院実習 1	◎		
							病院実習 2	◎		
							学部連携病棟実習	◎		
							授業担当時間の合計			
薬学科	助教 (実務)						病院実習 1	◎		
							病院実習 2 (精神医療実習を含む)	◎		
							授業担当時間の合計			
薬学科	助教 (実務)						病院実習1	◎		
							病院実習2	◎		
							授業担当時間の合計			
薬学科	助教 (実務)						病院実習1	◎		
							病院実習2	◎		
							学部連携病棟実習	◎		
							授業担当時間の合計			
薬学科	助教 (実務)						病院実習1	◎		
							病院実習2	◎		
							授業担当時間の合計			
薬学科	助教 (実務)						病院実習1	◎		
							病院実習2	◎		
							授業担当時間の合計			
薬学科	助教 (実務)						病棟実習1	◎		
							病棟実習2	◎		
							授業担当時間の合計			
薬学科	助教 (実務)						病院実習 1	◎		
							病院実習 2	◎		
							学部連携病棟実習	◎		
							授業担当時間の合計			
薬学科	助教 (実務)						病院実習1	◎		
							病院実習2	◎		
							授業担当時間の合計			
薬学科	助教						病院実習1	◎		
							病院実習2	◎		
							学部連携病棟実習	◎		
							授業担当時間の合計			
薬学科	助教 (実務)						病院実習 1	◎	15.00	0.05
							病院実習 2	◎		
							学部連携病棟実習	◎		
							救急・集中治療薬学	院		
							授業担当時間の合計			15.00
薬学科	助教 (実務)						病院実習 1	◎		
							病院実習 2	◎		
							授業担当時間の合計			
薬学科	助教 (実務)						病院実習1	◎		
							病院実習2	◎		
							授業担当時間の合計			

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏 名	年齢	性別	学位称号	現職就任 年 月 日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均 した 週当り授業 時間 ⁵⁾
薬学科	助教 (実務)						病院実習 1	◎	
							病院実習 2	◎	
							授業担当時間の合計		
薬学科	助教 (実務)						病院実習 1	◎	
							病院実習 2	◎	
							学部連携病棟実習	◎	
							授業担当時間の合計		
薬学科	助教 (実務)						病院実習 1	◎	
							病院実習 2	◎	
							学部連携病棟実習	◎	
							授業担当時間の合計		
薬学科	助教 (実務)						病院実習1	◎	
							病院実習2	◎	
							薬学的がんケア学	院	1.50 0.05
							授業担当時間の合計		1.50 0.05
薬学科	助教 (実務)						病院実習 1	◎	
							病院実習 2	◎	
							薬学的がんケア学	院	1.50 0.05
							授業担当時間の合計		1.50 0.05
薬学科	助教 (実務)						病院実習1		
							病院実習2		
							授業担当時間の合計		
薬学科	助教 (実務)						病院実習1	◎	
							病院実習2	◎	
							薬学的がんケア学	院	1.50 0.05
							授業担当時間の合計		1.50 0.05
薬学科	助教 (実務)						病院実習1	◎	
							病院実習2	◎	
							授業担当時間の合計		
薬学科	助教 (実務)						病院実習 1	◎	
							病院実習 2	◎	
							学部連携病棟実習	◎	
							診療の流れを知る	◎	
薬学科	助教 (実務)						授業担当時間の合計		
							病棟実習1	◎	
							病棟実習2	◎	
薬学科	助教 (実務)						授業担当時間の合計		
							病院実習1	◎	
							病院実習2	◎	
薬学科	助教 (実務)						授業担当時間の合計		
							病院実習1	◎	
							病院実習2	◎	
薬学科	助教 (実務)						授業担当時間の合計		
							病院実習1	◎	
							病院実習2	◎	
薬学科	助教						授業担当時間の合計		
							病院実習 1	◎	
							病院実習2	◎	
薬学科	助教 (実務)						授業担当時間の合計		
							病院実習1	◎	
							病院実習2	◎	
薬学科	助教 (実務)						薬学的がんケア学	院	1.50 0.05
							授業担当時間の合計		1.50 0.05
薬学科	助教 (実務)						病院実習 1		
							病院実習 2		
							学部連携病棟実習		
							授業担当時間の合計		

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏 名	年齢	性別	学位称号	現職就任 年 月 日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均 した 週当り授業 時間 ⁵⁾
薬学科	助教						病院実習 1	◎	
							病院実習 2	◎	
							授業担当時間の合計		
薬学科	助教 (実務)						病院実習1	◎	
							病院実習2	◎	
							授業担当時間の合計		
薬学科	助教						病院実習1	◎	
							病院実習2	◎	
							授業担当時間の合計		
薬学科	助教						病院実習1	◎	
							病院実習2	◎	
							授業担当時間の合計		
薬学科	助教 (実務)						病院実習1	◎	
							病院実習2	◎	
							授業担当時間の合計		
薬学科	助教						病院実習 1	◎	
							病院実習 2	◎	
							学部連携病棟実習	◎	
薬学科	助教 (実務)						授業担当時間の合計		
							病院実習 1	◎	
							病院実習 2	◎	
薬学科	助教						病院薬剤学（輪講）	院	
							授業担当時間の合計		
							授業担当時間の合計		
薬学科	助教						病院実習1	◎	
							病院実習2	◎	
							授業担当時間の合計		
薬学科	助教 (実務)						病院実習1	◎	
							病院実習2	◎	
							授業担当時間の合計		
薬学科	助教						実務実習1	◎	
							実務実習2	◎	
							授業担当時間の合計		
薬学科	助教						病院実習1	◎	
							病院実習2	◎	
							学部連携病棟実習	◎	
薬学科	助教 (実務)						授業担当時間の合計		
							病院実習1	◎	
							病院実習2	◎	
薬学科	助教						授業担当時間の合計		
							病院実習1	◎	
							病院実習2	◎	
薬学科	助教						授業担当時間の合計		
							病院実習 1	◎	
							病院実習 2	◎	
薬学科	助教						授業担当時間の合計		
							病院実習 1	◎	
							病院実習 2	◎	
薬学科	助教						授業担当時間の合計		
							病院実習1	◎	
							病院実習2	◎	
薬学科	助教 (実務)						授業担当時間の合計		
							病院実習1	◎	
							病院実習2	◎	
薬学科	助教 (薬科)						授業担当時間の合計		
							病院実習 1	◎	
							病院実習 2	◎	

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏 名	年齢	性別	学位称号	現職就任 年 月 日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均 した 週当り授業 時間 ⁵⁾
							授業担当時間の合計		
薬学科	助教 (薬科)						病院実習 1	◎	
							病院実習 2	◎	
							授業担当時間の合計		
薬学科	助教 (薬科)						病院実習1	◎	
							病院実習2	◎	
							学部連携病棟実習	◎	
							授業担当時間の合計		
薬学科	助教 (薬科)						病院実習1	◎	
							病院実習2	◎	
							授業担当時間の合計		
薬学科	助教 (薬科)						病院実習 1	◎	
							病院実習 2	◎	
							授業担当時間の合計		
薬学科	助教 (薬科)						病院実習 1	◎	
							病院実習 2	◎	
							授業担当時間の合計		
薬学科	助教 (薬科)						病院実習1	◎	
							病院実習2	◎	
							学部連携病棟実習	◎	
							授業担当時間の合計		
薬学科	助教 (薬科)						病院実習 1	◎	
							病院実習 2	◎	
							授業担当時間の合計		
薬学科	助教 (薬科)						病院実習 1	◎	
							病院実習 2	◎	
							授業担当時間の合計		
薬学科	助教 (薬科)						病院実習 I	◎	
							病院実習 II	◎	
							授業担当時間の合計		
薬学科	助教 (薬科)						病院実習1	◎	
							病院実習2	◎	
							授業担当時間の合計		
薬学科	助教 (薬科)						病院実習1	◎	
							病院実習2	◎	
							授業担当時間の合計		
薬学科	助教 (薬科)						病院実習1	◎	
							病院実習2	◎	
							授業担当時間の合計		
薬学科	助教 (薬科)						病院実習1	◎	
							病院実習2	◎	
							授業担当時間の合計		
薬学科	助教 (薬科)						実務実習事前学習		14.00
							病院実習1	◎	
							病院実習2	◎	
							授業担当時間の合計		14.00
薬学科	助教 (薬科)						病院実習1	◎	
							病院実習2	◎	
							授業担当時間の合計		
薬学科	助教 (薬科)						病院実習 1	◎	
							病院実習 2	◎	
							授業担当時間の合計		
薬学科	助教 (薬科)						病院実習1	◎	
							病院実習2	◎	
							授業担当時間の合計		

学科 1)	職名 2)	氏 名	年齢	性別	学位称号	現職就任 年 月 日	授業担当科目 3)	授業時間 4)	年間で平均 した 週当り授業 時間 5)
							授業担当時間の合計		
薬学科	助教 (薬科)						病院実習1	◎	
							病院実習2	◎	
							授業担当時間の合計		
薬学科	助教 (薬科)						病院実習 1	◎	
							病院実習 2	◎	
							授業担当時間の合計		
薬学科	助教 (薬科)						病院実習 1	◎	
							病院実習 2	◎	
							授業担当時間の合計		

(基礎資料 8) 卒業研究の学生配属状況および研究室の広さ

4年生の在籍学生数 173 名

5年生の在籍学生数 173 名

6年生の在籍学生数 191 名

カッコ内は連携する他学部の講座部門とそこで研究を行う教員・学生の内数
(研究室の面積には含めていない)

	配属講座など	指導教員数	4年生 配属学生数	5年生 配属学生数	6年生 配属学生数	合計	卒業研究を実施する 研究室の面積 (m ²)
1	薬学教育学講座教育企画・評価学部門	2	3	0	0	3	100.7
2	薬学教育学講座教育実践学部門 (連携：医学部・顕微解剖学講座)	8 (4)	4 (1)	6 (0)	8 (0)	18 (1)	
3	基礎薬学講座医薬化学部門	5	13	19	21	53	549.9
4	基礎薬学講座生体分析化学部門	4	13	11	9	33	576.0
5	基礎薬学講座生物物理化学部門 (連携：医学部・生化学講座)	8 (5)	7 (1)	3 (0)	5 (1)	15 (2)	257.1
6	基礎薬学講座生物化学部門	4	8	8	12	28	227.8
7	基礎薬学講座腫瘍細胞生物学部門	3	9	11	7	27	171.2
8	基礎医療薬学講座毒物学部門	4	11	13	14	38	992.0
9	基礎医療薬学講座薬理学部門	4	6	10	13	29	
10	基礎医療薬学講座生理・病態学部門	4	8	7	10	25	104.6
11	基礎医療薬学講座薬剤学部門 (連携：歯学部・スペシャルティ口腔医学講座口腔衛生学部門)	11 (6)	14 (0)	14 (0)	15 (2)	43 (2)	235.6
12	基礎医療薬学講座薬物動態学部門 (連携：医学部・法医学講座)	7 (4)	10 (1)	6 (0)	9 (1)	25 (2)	130.5
13	社会健康薬学講座衛生薬学部門	4	12	13	13	38	272.1
14	社会健康薬学講座社会薬学部門	3	10	9	13	32	108.2
15	社会健康薬学講座医薬品評価薬学部門	4	9	8	9	26	107.8
16	臨床薬学講座薬物治療学部門	4	10	13	9	32	180.2
17	臨床薬学講座天然医薬治療学部門	4	11	13	14	38	241.8
18	臨床薬学講座感染制御薬学部門	2	4	6	8	18	55.0
19	臨床薬学講座がんゲノム医療薬学部門	3	11	3	2	16	93.9
20	臨床薬学講座臨床栄養代謝学部門	2	0	0	0	0	59.7
21							
22							
23							
24							
25							
26							
27							
28							
29							
30							
合 計		90 (19)	173 (3)	173	191 (4)	537 (7)	

- [注] 1 卒業研究を実施している学年にあわせ、欄を増減して作成してください。
 2 指導教員数には担当する教員（助手を含む）の数を記入してください。
 3 講座制をとっていない大学は、配属講座名を適宜変更して作成してください。
 4 隣接する複数の講座などで共有して使用する実験室などは、基礎資料11-2に記載してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績(病院薬剤学講座は後掲)

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 教育企画・評価学	職名 教授	氏名 小林靖奈
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	21年 4月 1日 21年 7月 7日	学習効果が向上する論文を講義で紹介した 薬剤師が教育者であることを意識させるレポート課題を出した	
2 作成した教科書、教材、参考書	17年 3月25日 20年 2月28日	病気と薬物療法 消化器疾患 わかりやすい疾患と処方薬の解説【病態・薬物治療編】	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	19年 7月27日 21年 8月21日	第5回日本医薬品安全性学会学術大会 シンポジウム 2 第6回日本薬学教育学会大会 シンポジウム 03 他 17件	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	20年 4月 1日 19年 9月 22日	十日町看護専門学校客員講師 第7回災害薬事研修会(新潟大学医学部) 他 10件	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2021年 7月	日本災害医療薬剤師学会第9回学術大会 実行委員長		
2021年 7月	災害薬学研究会2021 オーガナイザー		
2021年 8月	第6回日本薬学教育学会シンポジウム03 オーガナイザー		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 医薬化学部門	職名 教授	氏名 福原 潔
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2017-2021	授業アンケートを実施	
2 作成した教科書、教材、参考書 各講義における配布資料 クライン有機化学問題の解き方(日本語版)	2017-2021 2020.3		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2005年6月～現在	日本酸化ストレス学会評議員		
2008年4月～現在	医薬品医療機器総合機構 化学薬品委員会専門委員		
2011年4月～2021年3月	厚生労働省食品衛生審議会 日本薬局方部会委員		
2021年6月～現在	Antioxidants(MDPI) Editorial Board		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 生体分析化学部門	職名 教授	氏名 加藤 大
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 基礎の学修内容と臨床を結びつける学修を行った	2021年	化学平衡や電磁波などの基礎的な学修内容が臨床で活用される様子が分かるように講義を行った	
2 作成した教科書、教材、参考書 パートナー分析化学I第4版（2022年出版予定） パートナー分析化学II第4版（2022年出版予定）			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 CBT委員長 3年生学年担当委員	2021年 2021年	CBTの運営 教育委員の3年生の担当	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
2. 学会発表（評価	II 研究活動については別紙にて提出		
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2021年6月	生物化学的測定研究会第26回学術集会学術集会長		
2020/4/1～	ぶんせき（日本分析化学会会誌）編集理事		
2021/3/27	2021年FIPフォーラムオーガナイザー		
	Forcus group Chair on Analytical Sciences in a SIG of FIP		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 生物物理化学部門	職名 教授	氏名 合田 浩明
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	毎年	授業評価の結果を受けて、毎年、「講義の中で演習問題を行う」、「講	
2 作成した教科書、教材、参考書	2021/9/7	薬学生の物理化学（培風館）（分担執筆）	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2017年8月5日～ 6日 2018年8月9日～ 10日	教育者のためのワークショップ(アドバンスト)に参加 教育者のためのワークショップ(アドバンスト)に参加	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名	
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2016年4月～現在	日本薬学会構造活性相関部会・常任幹事		
2017年4月～2019年3月	日本薬学会物理系薬学部会・世話人		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 生物化学	職名 教授	氏名 板部 洋之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2017年度～現在 2019年度～現在	演習小テスト実施（採点后返却） 学生実習にPCでのグラフ作成/ポートフォリオ導入	
2 作成した教科書、教材、参考書	2020/7/1 2017年度～現在	詳解 生化学（京都廣川書店）編著 「生命体の成り立ち」実習書毎年度更新	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2019/4/1 2018年9月	修学支援制度について（学内での講演） 第3回日本薬学教育学会大会（ポスター発表）	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2019年7月 2017年4月	フロリダ大学薬学部と学部間交流開始 台北医学大学薬学部と学部間交流開始	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2005年4月～現在	日本薬学会評議員		
2014年4月～現在	薬学共用試験センターCBT問題管理委員		
2016年8月～2018年7月	医道審議会専門委員		
2019年4月～現在	薬剤師国家試験委員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 腫瘍細胞生物学	職名 教授	氏名 柴沼 質子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし	
2 作成した教科書、教材、参考書	2020年7月3日 2020年8月1日	詳解 生化学 執筆者 図解 腫瘍薬学 執筆者	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2017年4月～現在	日本癌学会評議員		
2018年4月～2019年3月	薬学評価機構 評価実施員		
2019年12月～2020年11月	科学研究費委員会専門委員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 毒物学	職名 教授	氏名 沼澤 聡
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	適宜	学生アンケート、自己省察による改善	
2 作成した教科書、教材、参考書	2018. 2. 25 2018. 3. 5	化学物質の毒性, 衛生薬学 健康と環境 第6版, 丸善出版, 447-463 臨床中毒学, トキシコロジー, 日本毒性学会教育委員会編, 朝倉書店, 他2件	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2017. 4. 1～現在 2017～2020	学内教育委員会副委員長 昭和大学教育者のためのワークショップ参加 他1件	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2017年4月～現在	日本毒性学会編集委員会委員		
2017年9月～現在2	日本法科学技術学会理事		
2018年7月～現在	日本法中毒学会理事		
2020年11月～現在	日本法科学技術学会誌編集委員長		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 薬理学	職名 教授	氏名 野部 浩司
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	毎年	講義用コンテンツをブラッシュアップしている。 学生アンケートによる対応を行っている。 講義に口頭試問を加えている。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2021/7/27	頻用薬のこれなんで? (株式会社 じほう)	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2001年4月～現在	日本薬理学会学術評議委員		
2016年4月～2018年3月	日本薬学会編集委員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 生理病理学	職名 教授	氏名 巖本三壽
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 P2P3 アクティブラッグでの新たな試み		2021年5月	P2では答えのない課題を学生に与えて、検索、および考察のクオリティを評価して採点する。対面講義では、学生の発表討論、専門家の臨床薬剤師の育成には入体の仕組みを知ることの重要性が増している。
P2入体の成り立ちと機能・実用性の効果的な施行の試み 1) 画像診断の講義の組み入れ 2) PBLテーマとリアルズの組織学実習		2016年以降～現在	短い割り当て時間の中で効率的に知識の習得をする工夫をおこなった。上は解剖の知識をテキストを見ればすぐに解答できる記述式の問題を提示して復習させた。これは、講義の復習、試験対策として活用でき、学習効果も上げ、何卒も活用するとして、長期記憶を定着させる効果も期待した。
各講義後の小テストの施行		2016年4月以降～現在	これまで薬学部で使用できる病態と症候学がなかったのを、昭和大学教員の分担執筆で作成した。各症状の病態、発生メカニズム、トリアージ、OTCによるセルフメディケーションの構成で、薬局にける実践に役
2 作成した教科書、教材、参考書 症候学的病態生理学 編著（京都廣川書店）		2020年9月	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 P2アクティブラーニングにおけるアンケート調査 講義中に寝ている学生の成績調査		2021年5月 2016年5月	P2アクティブラーニングのアンケート調査を行い学生が系統講義より興味を持ち、より深い理解と知識を得たとの回答が多かった。P2講義にて常に寝ている学生をチェックして、その学生とそうでない学生のその講義の定期試験の成績を比較したところ、有意に寝ている学
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2015年10月～現在	一般社団法人日本先進医療医師会 特定認定再生医療等委員会審査委員		
2019年5月～現在	日本薬事法務学会再生医療等委員会 技術専門員		
2017年1月～2019年2月	医療法人社団ニューシティ大崎クリニック再生医療等委員会審査員		
2021年8月～現在	日本人事試験研究センター 地方公務員採用試験問題作成委員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	部門名	職名	氏名
昭和大学	薬剤学	教授	中村 明弘
Ⅰ 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2020. 6. 3～ 2021. 5. 14～	講義のオンデマンド動画配信開始 講義のオンデマンド動画配信にアクティブラーニングを導入
2 作成した教科書、教材、参考書 スタンダード薬学シリーズⅡ「薬学研究」		2017. 9. 29	領域担当編集委員
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2017. 4～20. 10	薬学部薬学教育推進室長
Ⅱ 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Ⅱ 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表（評価対象年度ののみ）	発表年・月		学会名
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2018年10月～現在	一般社団法人日本薬学教育学会副理事長		
2017年4月～現在	薬学共用試験センター理事		
2017年4月～現在	日本私立薬科大学協会理事		
2017年4月～現在	全国薬科大学長・薬学部長会議理事		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 薬物動態学	職名 教授	氏名 佐藤 均
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2019. 4. 1	講義の際の話し方(速度、発声など)を改善した。	
	2020. 4. 1	講義資料の記載内容(難易度)を改善した。	
	2021. 4. 1	動画作成ソフトを導入し講義動画作成法を改善した	
2 作成した教科書、教材、参考書	2019-2021 2020-2021	講義プリントを教材として作成し、PDF配布した。 教材対応の講義ビデオを作成して学生に提供した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2019-2021	教育研究に関する部門会議でのプレゼンテーション を年に数回行なった。	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2019-2021	学内FDに参加し、グループ毎に発表を行なった。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2017年4月～2022年3月	日本薬学会会員		
2017年4月～2022年3月	日本医療薬学会会員		
2017年4月～2022年3月	日本薬物動態学会会員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 衛生薬学部門	職名 教授	氏名 原 俊太郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2017年度～現在	学生からの意見を参考に講義内容・手法を検討	
	2018. 2. 25 2020. 3. 30	第6版 衛生薬学 -健康と環境- コンパス 衛生化学 -健康と環境- (改訂第3版) 他2件	
		なし	
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2017年度～現在	薬学部教育委員長	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2019年3月～現在	日本薬学会	環境・衛生部会	副部会長
2021年3月～現在	厚生労働省	薬事・食品衛生審議会	薬事分科会委員
2020年5月～現在	文部科学省	大学設置・学校法人審議会	専門委員
2017年度～現在	日本薬学会	幹事・代議員	

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 社会薬学	職名 教授	氏名 岸本桂子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2018年9月～ 2018年9月～	授業内で2回の小テストを実施し、理解の促進に努めた 調剤報酬の算定を実施できるよう、事例に基づく計算演習を取り入れた	
2 作成した教科書、教材、参考書	2020年3月 2020年9月	教科書（薬学と社会 薬事関連法・制度）作成 初学者であっても医療ビッグデータの解析を実践可能な演習教材を作成	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2021年3月	薬局実務実習におけるオンラインによる「学生カンファレンス」の有用	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2020年11月29日 2021年9月11・12	質の高い実務実習の為のアドバンストWS 令和3年度 第5回認定実務実習指導薬剤師養成WS	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2017年7月～現在	薬学共用試験センターCBT問題管理委員		
2018年9月～現在	日本薬剤師会 編集委員会委員		
2020年4月～現在	東京都薬剤師会実務実習委員会委員		
2021年4月～現在	厚生労働省 薬剤師試験委員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 薬物治療学	職名 教授	氏名 向後麻里
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2017年4月 2017年4月	2017年度より「薬と疾病（11科目）」に薬学教員・臨床医・臨床薬剤師 2017年度より「個別化医療」に症例演習（7症例）を導入した。事前に 他6件	
2 作成した教科書、教材、参考書	2020年 2020年	薬物治療学, 第9版, 南山堂, 東京, 2020 臨床薬学テキストシリーズ, 2020 他4件	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2018年9月 2021年3月	昭和大学薬学部 薬物治療らせん型カリキュラムにおけるルーブリック 薬局実務実習におけるオンラインによる「学生カンファレンス」の有用 他10件	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2021年8月 2021年7月	昭和大学薬学部アドバンストWS 昭和大学薬学部病院実習指導者養成WS 他4件	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2015年4月～2021年3月	日本薬学会ファルマシア委員会		
2017年4月～現在	薬学共用試験センターOSCE実施委員会		
2017年2月～現在	日本薬学会代議員・関東支部幹事		
2020年4月～現在	日本薬学会会長井記念薬学研究奨励支援選考委員会		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 天然医薬治療学	教授	氏名 川添和義
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 身近な植物を利用した演習 薬用植物園を活用した生薬学関連講義	2017～2021	薬用植物演習で富士吉田校舎の近くに自生する植物を利用し、身近な植 薬用植物園見学を講義と並行させ、基原植物と生薬の知識を同時に獲得	
2 作成した教科書、教材、参考書 実践 漢方生薬学（京都廣川書店） 図解 簡保処方（トリセツ第2版（じほう））	2020/3/16 2021/9/30	1 年次「漢方薬になる動植物」の教科書 4 年次「漢方医学の実践」の教科書	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 中医学に基づく薬学漢方教育の構築と実践 『薬学教育モデル・コアカリキュラム』における漢方教育	2018/2/4 2021/8/13	第42回「漢方研究」イスクラ奨励賞受賞講演 第71回日本東洋医学会学術総会で発表	
4 その他教育活動上特記すべき事項 第12回富士吉田教育部教員者のためのワークショップ参加 2021年度昭和大学教育者のためのワークショップ：富士吉田	2018/8/9～10 2021/8/7～8	テーマ「富士吉田教育部教育について」 テーマ「新たな初年次教育のあり方、カリキュラムプランニングについ	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2018年10月～	日本東洋医学会代議員		
2019年4月～	日本生薬学会代議員		
2020年9月～	日本腎臓病薬物療法学会副理事長		
2021年4月～	日本薬学会代議員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 感染制御薬学	職名 教授	氏名 石野 敬子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 COVID-19に関する講義を実施した 症例ベースの課題を実施した	2021年5月 2021年5月		
2 作成した教科書、教材、参考書 薬学生・薬剤師レジデントのための感染症学・抗菌薬治療テ スタンダード薬学シリーズⅡ 6 医療薬学 IV.薬理・病	2018年8月 2017年6月	分担執筆 分担執筆	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 シラバスに関するFD講習会 シラバス作成方法に関するFD講習会	2020年12月 2019年12月	受講 受講	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
1998年4月～	日本薬学会会員		
2000年4月～	日本化学療法学会会員		
2011年4月～	日本医真菌学会会員		
2018年4月～	日本感染症学会会員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 がんゲノム医療薬学	職名 教授	氏名 藤田健一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 低学年講義における症例検討の導入 アクティブラーニングの導入		2年次の薬と疾病（悪性腫瘍）の講義において、将来の臨床薬剤師のイ 2年次の薬と疾病（悪性腫瘍）での症例検討にアクティブラーニングを	
2 作成した教科書、教材、参考書 なし			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 学部連携PBLワークショップ 大学院運営委員 FDワークショップ 2年生担当教育委員 アドバンストワークショップ	2019. 8. 1-2 2020. 4~ 2021. 3. 22 2021. 4~ 2021. 8. 7-8	学部連携PBLのファシリテータ養成コースを受講した。 大学院教育の充実に向けた改善を行っている。 ディプロマポリシーについて分担して議論した。 2年生担当の教育委員として、学生の学修面生活面のサポートを行って 臨床薬学実習・研究における新プログラムアドバンスト・プログラムに	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2015年以前～現在	日本薬物動態学会評議員		
2015年以前～現在	日本臨床薬理学会社員（評議員）		
2015年以前～現在	日本薬物動態学会ベストポスター賞選考委員		
2021年4月～現在	日本薬学会Biol Pharm Bull、Chem Pharm Bull、薬学雑誌Associate editor		
2021年4月～現在	昭和大学学芸会誌副編集長		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 薬学部臨床薬学講座	教授	千葉 正博
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	前期終了時	基礎から応用までに至る内分泌に関する授業を 受け持っているが、生徒参加型の授業を一コマ 加えるようにしている。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2021年4月1日	JSPENテキストブック	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2019年12月13日 2020年10月10日	杏林大学看護学部特別講義 神奈川工科大学健康医療科学部管理栄養学科特別講義	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2021年2月～現在	日本臨床栄養代謝学会 教育統括担当理事・教育委員会委員・総務委員会委員・代議員		
2019年5月～現在	日本栄養アセスメント研究会世話人		
2012年7月～現在	日本外科代謝栄養学会 認定医指導委員会委員・教育委員会委員・保険委員会委員		
2010年7月～現在	日本外科代謝栄養学会 総務規約委員会委員・評議員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 教育実践学	職名 教授員外	氏名 田中佐知子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 Google Classroom に関する薬学部教員情報共有サイトの構築・運営	2020年3月-2021年4月	本学教員向けのGoogle Classroom使用方法をテキスト化し、オンデマンド配信講義に必要なガイドを作成した（総数15編以上）	
2 作成した教科書、教材、参考書 薬物治療第2版 平井みどり・三木智博編集 化学同人	2019年4月	「神経系疾患と薬物治療:2.2.2 - 2.2.4項」分担執筆	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 昭和大学薬学部における「A基本事項」の取り組みと評価 参加型生涯研修プログラムの有用性評価	2020年8月21日 2019年8月24日	第6回日本薬学教育学会大会 第4回日本薬学教育学会大会	
4 その他教育活動上特記すべき事項 薬学部新人教育職員および薬学部教員へのFD-WS主催 昭和大学教育者のためのWS(アドバンスト、ビギナー)	2021年3月、5月 2021年8月	毎年薬学部教員向けのFD-WS企画運営 毎年昭和大学教育者のためのFD-WSにタスクとして参加	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名	
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2016年6月～現在	昭和大学薬剤師生涯研修認定制度を取りまとめ研修認定薬剤師を輩出している		
2010年3月～現在	日本薬理学会評議員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 医薬化学	職名 准教授	氏名 永田 和弘
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 途中に演習問題を取り入れ、理解を深めさせながら講義を進めている。 中間に確認テストを実施し、理解度をチェックしている。	2017-2021 2020-2021		
2 作成した教科書、教材、参考書 各講義における配布資料	2017-2021		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 なし (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名	
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
	日本薬学会会員		
	有機合成化学協会会員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 医薬化学	職名 准教授	氏名 太田公規
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2020年8月 2021年8月	授業アンケートを実施 授業アンケートを実施 他6件	
2 作成した教科書、教材、参考書	2020年3月1日 2021年4月	教科書の章末問題の解説書執筆 授業プリントおよび動画の作成 他15件	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2020年7月 2020年12月	教育者のためのワークショップ参加 シラバスに関するFD講習会参加 他4件	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)	発表年・月	学会名	
III 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2018年4月～現在	日本薬学会ファルマシア編集委員		
2020年4月～現在	科学技術・学術政策研究所NISTEP専門調査員		
2021年4月～現在	日本薬学会関東支部代議員		
2021年3月27日、28日	日本薬学会第141年会一般シンポジウムオーガナイザー (2件)		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 生物化学部門	職名 准教授	氏名 小濱 孝士
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 生命活動を担う分子(代謝とその調節) 実務実習事前学修	2017年度～現在 2017年度～現在	毎年学生から授業評価を受け、講義や配布資料の内容の検証と改善を進 OSCE学習・評価項目を中心に指導しており、OSCE外部評価を行った経験	
2 作成した教科書、教材、参考書 詳解生化学 (京都廣川書店) 実務実習事前学修 実習書2冊 他1件	2021年度～ 2017年度～現在	担当講義の内容を分担執筆した。2021年度より、2年次の担当講義や演 実習期間中だけでなく、OSCEの練習でも使用するものを作成した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 薬学部FDワークショップ 教育者のためのワークショップ (アドバンスコース) 他3件	2021年3月22日 2020年8月22、23日	オンラインツールを活用した講義の運用について 令和2年度カリキュラムにおける評価・学生ケア～教育改革の始動～	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)	発表年・月	学会名	
III 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
日本薬学会会員	1998年11月～現在		
日本生化学会会員	1998年5月～現在		
日本脂質生化学会会員	2001年2月～現在		
日本動脈硬化学会会員	2011年5月～現在		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 毒物学	職名 准教授	氏名 芦野 隆
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2021. 5-6月 2021. 6. 11	アクティブラーニング：薬と疾病チュートリアル（神経疾患） 学生による授業評価	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2017. 7. 8 2017. 7. 26 2018. 9. 6 2018. 12. 4 2020. 3. 5 2020. 12. 15 2021. 3. 22	FD講習会：「より良い学生指導を目指して」 ～講師・助教 の視点で FD講習会：薬学教育の動向と教育の質保証 FD講習会：箱根駅伝4連覇から学ぶことー学生の個性を活かし、最大限 FD講習会：シラバス作成方法に関するFD講習会 FD講習会：各科目におけるディプロマポリシーの到達度について考えて FD講習会：シラバスに関するFD講習会 FD講習会：ディプロマポリシーの見直し等 ―オンラインPBLルームを	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2014年8月～現在	日本毒性学会誌 Fundam Toxicol Sci 査読委員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 薬理学部門	職名 准教授	氏名 柴田佳太
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	毎年	可能な限り図を用いて視覚的に薬理作用を講義している。学生による教員評価アンケートを基に、資料をブラッシュアップしている。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2021年7月27日 2020年2月10日	頻用薬のこれなんで？（株式会社じほう） リハベシック薬理学・臨床薬理学 (医歯薬出版株式会社)	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2021年3月22日 2019年8月11, 12日	ディプロマポリシーの見直し等FD（他9件） 認定実務実習指導薬剤師養成WSタスク（他10件）	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2021年3月～現在	日本薬学会 ファルマシア地区通信委員		
2021年2月～現在	日本薬学会 代議員		
2020年11月～現在	日本薬理学会 代議員		
2019年7月～現在	東京都薬剤師会 代議員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 生理・病態学	職名 准教授	氏名 谷岡 利裕
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 授業評価アンケート	2021年9月	今年度前期講義の学生授業評価アンケートにおいて担当科目が高い評価を得ている。	
2 作成した教科書、教材、参考書 症候学的病態生理学 症候学的に病態生理・トリアージ・セルフメディケーションを考える	2021年8月	本書は、薬学生が症候から疾患を理解し、セルフメディケーションを実践できるように構成された内容である。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 病院実習指導者養成ワークショップ ファシリテーター	2021年7月	新たに実施する病院実習の詳細なカリキュラムをSGDで議論する内容である。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名	
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2018年4月～2020年3月	関東地区調整機構 指導薬剤師養成小委員		
2017年4月	関東地区調整機構 認定実務実習指導薬剤師のためのアドバンスワークショップ		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 薬剤学	職名 准教授	氏名 原田努
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 企業の製剤研究者を実習指導に招聘 高齢者・小児の実際の服薬シーンの紹介	2017. 6. 12 2021. 9. 17	製剤化と製剤試験法に第一三共などより製剤設計の講義でビデオ視聴	
2 作成した教科書、教材、参考書 デキる薬剤師をつくる現場の教科書 基礎から学ぶ製剤化のサイエンス第4版	2019. 10. 10 2021. 9. 1	薬の飲みやすさについての服薬指導 医薬品開発と生産の流れについて	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 第45 回日本小児臨床薬理学会学術集会 教育講演 小児アドバイザリーボードの紹介	2018. 10. 6 2019. 9. 15	欧米における小児製剤の開発動向 学生・企業研究者と患児の座談会開催	
4 その他教育活動上特記すべき事項 薬学部FD-WS 教育者のためのアドバンスワークショップ	2021. 3. 22 2020. 8. 22	ディプロマポリシーの見直し 評価・学生ケア～教育改革～	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名	
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2020年4月～現在	日本薬剤学会 小児製剤フォーカスグループリーダー		
2020年10月～現在	製剤機械技術学会 国際委員会 副委員長		
2019年7月～現在	服薬支援研究会 小児部門 副部門長		
2018年4月～現在	小児患者によるアドバイザリーボードの企画・運営		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 薬物動態学	職名 准教授	氏名 杉山 恵理花
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 P3～P4進級試験 改革 コロナ自粛下におけるP6オンライン学修構築	2017年9月1日 2020年3月20日	P3P4進級試験 出題内容の改善 P6講義・国家試験対策オンライン学修構築	
2 作成した教科書、教材、参考書 P4事前学修・OSCE 無菌操作法の実践動画	2018年9月1日	無菌操作法学生学修用動画の作成	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 薬物治療ルーブリックの導入と評価	2018年9月2日	第3回日本薬学教育学会大会	
4 その他教育活動上特記すべき事項 薬学部教育委員会 薬学部カリキュラム検討委員会 他 WSなど6件	2017年4月1日 2017年4月1日	～現在 学年担当教育委員 ～現在 委員	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名	
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2017年4月～2022年3月	日本薬学会会員		
2017年4月～2022年3月	日本医療薬学会会員		
2017年4月～2018年5月	第2回日本老年薬学会学術大会 大会実行委員会委員		
2021年4月～2021年6月	昭和大学リカレントカレッジ講師		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 衛生薬学部門	職名 准教授	氏名 桑田 浩
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	後期講義終了毎	学生からの授業評価を受け、内容を改善した。 通常の講義プリントに加え、穴埋め式のものを使用し て講義を行った。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2020年3月 2020年10月	オンライン実習動画 オンライン講義動画 他1件	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2021. 03. 22 2020. 12. 15	FD ワークショップ（ディプロマポリシーについて） FD講習会（シラバスに関するFD） 他1件	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名	
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2020年6月～現在	COVID-19 PCR ボランティア（週1回）		
2019年～2020年	国際誌査読（2件）		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 医薬品評価薬学	職名 准教授	氏名 亀井 大輔
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 2021年度前期教員評価アンケート（授業評価等を含む） 2020年度前期教員評価アンケート（授業評価等を含む） 他3件	2021年5月27日 2020年7月3日	授業に関する満足度アンケート（結果により次年度の改善を実施） 授業に関する満足度アンケート（結果により次年度の改善を実施）	
2 作成した教科書、教材、参考書 薬学と社会 - 薬事関連法規・制度 -（南江堂）改訂第2版 薬学と社会 - 薬事関連法規・制度 -（南江堂）	2021年1月 2020年3月	共著として「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等」 共著として「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等」	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 対人援助職としての薬剤師養成を志向した症候学教育の実践 昭和大学薬学部における救急医療教育の実践 ～ シミュレー 他6件	2021年8月21日 2019年8月24日	日本薬学教育学会教育実践奨励賞受賞講演 第4回日本薬学教育学会大会 シンポジウム8（シンポジスト兼演者とし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 病院実習指導者ワークショップ（FDを含む） 昭和大学FDワークショップ 他2件	2021年7月17日 2021年3月22日		
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名	
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
薬学共用試験センター広報委員会 委員（2017. 4～現在）			
日本薬剤師会が実施する健康サポート薬局研修に係る教材スライド作成及び教材DVD収録（2021. 4. 23）			
東京都薬剤師会 2019年度 第1回臨床薬学講座 講演及び実習（2019. 7）			
日本薬学教育学会会員...他			

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 薬物治療学	職名 准教授	氏名 大林真幸
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2020年4月	2020年4月より「P3調剤患者対応入門」の科目責任として、3年次の講義「処方箋と調剤」との知識の修得に向けた連携や「P4実務実習事前学修」ならびにOSCE対策に向けた技能・態度修得がスムーズになるよう	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2020年9月 2019年7月	TRY!事例を使った薬学倫理教育 -四分割表の活用法-（ワークショップ 高齢者とのコミュニケーション能力向上を目指したSP参加型カリキュラ 他2件	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名	
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
	なし		

教育および研究活動の業績一覧				
大学名 昭和大学	部門名 天然医薬治療学	職名 准教授	氏名 栗原 竜也	
I 教育活動				
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 薬物治療関連ルーブリック評価の構築 薬学臨床関連ルーブリック評価の構築 (授業評価等を含む)		2017年4月 2017年4月	低学年から実務実習までの段階的なルーブリック評価を構築した 事前学習から卒業臨床研修までの段階的かつ連続的なルーブリック評価	
2 作成した教科書、教材、参考書 臨床腫瘍薬学		2019年3月28日	がん治療・がん化学療法領域の書籍	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 第5回日本薬学教育学会大会・ポスター発表 第3回日本薬学教育学会大会・シンポジウム		2020年9月12日 2018年9月1日	精神医療実習（病院実務実習）の構築 —精神疾患患者の実際を学び対 実務実習における形成的評価 —病棟における薬学的管理に関するルー 他4件	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)				
II 研究活動				
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称	
II 研究活動については別紙にて提出				
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名	
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）				
2019年4月～現在		日本医療薬学会代議員		
2020年10月～現在		日本臨床腫瘍薬学会 実地研修委員会		
2017年4月～2020年3月		日本臨床腫瘍薬学会 臨床研究委員会		
2017年4月～現在		日本アブライド・セラピューティクス（実践薬物治療）学会 評議員		
2019年10月 全2日間		令和元年東日本台風に伴う災害に対するボランティア活動（長野県）		
・・・		日本薬学会会員※		

教育および研究活動の業績一覧				
大学名 昭和大学	部門名 感染制御薬学	職名 准教授	氏名 前田 真之	
I 教育活動				
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 感染症の症例を提示し、解析させる 実際の症例と国家試験過去問との関連性を解説		2021年4月 2021年4月		
2 作成した教科書、教材、参考書 薬学生・薬剤師レジデントのための感染症学・抗菌薬治療 臨床薬学テキストシリーズ 血液・造血器/感染症/悪性腫瘍		2018年8月 2021年6月	編集、分担執筆 分担執筆	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等				
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			なし	
II 研究活動				
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称	
II 研究活動については別紙にて提出				
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名	
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）				
2016年～現在		日本化学療法学会抗微生物薬適正使用推進検討委員会 委員		
2018年～現在		日本化学療法学会抗菌化学療法認定薬剤師認定委員会 委員		
2019年～現在		日本病院薬剤師会感染制御専門薬剤師部門試験委員会 委員		
2021年～現在		日本病院薬剤師会学術第3小委員会 委員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 教育企画・評価学	職名 講師	氏名 福村 基徳
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2017年～毎年度 2021年6月	授業評価結果に基づく講義資料・方法の改善 アクティブラーニングによる能動的学習の実施	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2020. 12. 15 2021. 3. 22	シラバスに関するFD講習会 ディプロマポリシー の見直しFD 他9件	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2016年度～現在	埼玉県保険薬剤師		
2017年4月～2018年3月	文部科学省高等教育局医学教育課技術参与		
2018年5月～2019年3月	文部科学省医療人養成に関するアドバイザー		
2020年度～現在	病院・薬局実務実習関東地区調整機構指導薬剤師養成小委員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 教育実践学	職名 講師	氏名 加藤里奈
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 オンラインカリキュラムの教員・学生支援 薬学部オンラインPBLルーム作成・運用・実施支援	2021年度 2021年度	Google Classroomを中心としたオンラインカリキュラムの実施を支援 薬学部カリキュラムにおけるオンライングループ討議の実施を支援する	
2 作成した教科書、教材、参考書 学部連携PBLⅢ (ファシリテータガイド・学生ガイド) 学部連携TBLⅢ (ファシリテータガイド・学生ガイド)	2021年度6月 2021年度6月	学部連携チーム医療PBL教材 (対象医歯薬4年・保健医療3年) 学部連携チーム医療PBL教材 (対象医歯薬4年・保健医療3年)	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 第6回日本薬学教育学会大会・ポスター発表 (オンライン開 薬学教育・総説 (5巻, 55-61, 2021)	2021年8月22日 オンライン公開 2021年4月21日	オンラインを活用した教育システムを効果的に実施するための教員・学 参加型演習科目「臨床心理学の活用」の遠隔授業での実施 -オンライ ンを活用した教育システムの構築-	
4 その他教育活動上特記すべき事項 薬学部FD 薬学部オンラインPBLルーム説明会 主催 学部連携科目ファシリテータ養成ワークショップ 運営	2021年4月13日 2021年9月30- 10月1日	オンライングループ討議を実施方法を解説し、実施準備、オンライン 学部連携教育科目のファシリテータ養成のためのワークショップにタス クとして参加し、グループ討議のファシリテータを担当した。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2020年度～	日本薬学教育学会会員		
2019年度～	日本医学教育学会会員		
2021年度	日本薬学教育学会論文審査員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 医薬化学部門	職名 講師	氏名 金光卓也
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書 クライン有機化学問題の解き方(日本語版)	2020.3		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 医薬化学	職名 講師	氏名 水野 美麗
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2021年3月22日 2019年4月12日	薬学部FDワークショップ 基礎系実習の見直しWS 他5件	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2014年12月～現在	日本薬学会 会員		
2015年3月～2018年1月	日本酸化ストレス学会 会員		
2015年12月～現在	日本農芸化学会 会員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 薬学部生体分析化学部	職名 講師	氏名 村山周平
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		医薬品の検出と定量は、計算が多く理解が大変な科目であり、演習問題を多めに出すことで、理解につなげるようにしており、授業評価でも概ね好評である。	
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2021年9月	Sensors and Materials査読		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名	職名	氏名
I 教育活動		生体分析化学	講師 松林 智子
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 物質の性質・分析・製剤化と製剤試験法実習 質量分析の依頼測定	2021年4月	新型コロナウイルス感染対策をした学生実習を行った 学生から依頼された質量分析を行い、解説した	
2 作成した教科書、教材、参考書 物質の性質・分析・製剤化と製剤試験法実習 実習書 講義で使用する全ての講義資料		実習書作成（既存のものの修正） 講義動画、講義資料を作成	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 分子分析センター 実務実習委員会 薬局担当 OSCE委員会 委員		質量分析計の維持・管理 薬局担当として、新型コロナウイルス感染症対策、担当教員対応を担当した	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2020年6月～現在	昭和大学PCRセンター ボランティア活動（週1回、各3時間）		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 生体分析化学	職名 講師	氏名 小田中 友紀
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 機器分析講義	2021年	「分かり難い、まったくわからなかった」と感じる学生がより少なくなるよう、スライドや資料を改善しています。	
2 作成した教科書、教材、参考書		スライドや授業動画の作成	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 ・FD参加 ・OSCE対策委員 ・分子分析センター職員として大型装置の維持管理教育	2017年5月17日 2018年2月25日 2019年3月26日	FD_「より良い学生指導を目指して」 FD_色覚弱者とのコミュニケーションにおける注意点 FD_「薬学部生の日本語力をめぐる現状について」 OSCE対策直前練習のサポート 2021年度は、5回のNMR測定講習会を行った	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
なし	なし		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 生物物理化学	職名 講師	氏名 早川 大地
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	毎年	授業評価の結果を受けて、講義資料の記載を改変したり、演習問題の難	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2017年8月7日～9日	教育者のためのワークショップ(ビギナーズ)に参加	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
	日本薬学会会員		
	分子シミュレーション学会会員		
	セルロース学会会員		
	米国化学学会会員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 腫瘍細胞生物学部門	講師	森 一憲
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 討論形式の活用 授業評価の活用	2021.5～ 2017.4～	自主性や協調性を高め、論理的思考力を養うために、事前提示した課題内容についてグループ討議を行った。講義後に学生アンケートを実施し、改善希望事項については可能な限り改善している。	
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 医療系大学における聴覚障害学生への合理的配慮	2018.03.01	障害者差別解消法で求められる大学の取り組みについて概観するとともに、聴覚障害学生への支援について具体的な場面をあげて対応例を学んだ。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2017年4月～2021年3月	日本組織培養学会 情報企画委員委員長		
2021年4月～現在	日本組織培養学会 理事		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 毒物学	職名 講師	氏名 光本 明日香
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2017年～現在 2017年～現在	講義にアクティブラーニングを取り入れる 毎年、授業評価アンケートを基に講義内容を改善	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2021年3月22日 2020年12月15日 他9件	ディプロマポリシー の見直し等 シラバスに関するFD講習会	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2019年7月～現在	日本法中毒学会評議員		
2019年1月～現在	日本法中毒学会若手研究者委員		
2019年7月～2020年3月	文部科学省高等教育局医学教育課 医療人養成に関するアドバイザー		
2018年4月～2019年3月	文部科学省高等教育局医学教育課 技術参与		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 薬理学部門	職名 講師	氏名 古林創史
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	毎年	見やすいスライド作りを心がけている。学生からの評価を次年度の講義に反映させている。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2021年7月27日	頻用薬のこれなんで？(株式会社じほう)	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2021年3月22日	ディプロマポリシーの見直し等FD (他4件)	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 薬剤学	職名 講師	氏名 村山信浩
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	7月19日 2020年10月23日	教員評価 教員評価 他5件	
2 作成した教科書、教材、参考書	2021年5月26日 2019年6月19日	製剤化と製剤試験法 2021年度 製剤化と製剤試験法 2019年度 他2件	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2021年3月22日 2019年12月4日	R2年度 FDワークショップ シラバス作成方法に関するFD講習会 他2件	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
1988年3月～現在	日本薬学会会員		
2012年3月～現在	日本薬剤学会会員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 薬剤学	職名 講師	氏名 藤田 吉明
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2021年3月22日 2020年12月1日	薬学部FDワークショップ シラバスに関する講習会	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2021年4月～現在	公益社団法人日本薬剤学会小児製剤フォーカスグループ 執行部 会計		
2018年9月～2021年3月	公益社団法人日本薬剤学会個別化製剤フォーカスグループ 執行部 広報		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 薬剤学	職名 講師	氏名 齊藤 清美
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2020年度 2021年度～現在	関連性のある科目の繋がりを意識させる講義 講義時間内に自己学修の時間を設けて能動的学修を取り入れている	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2021/3/22 2021/7/17	令和2年度薬学部FD-WS参加 病院実習指導者養成WS参加 他4件	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
1997年8月～現在	日本分子生物学会員		
2009年4月～現在	日本肥満学会員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 薬物動態学	職名 講師	氏名 田島正教
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2021年5月	薬物の体内動態（講義）：演習問題を取り入れた繰り返し学習	
2 作成した教科書、教材、参考書	2021年4月	調剤・患者対応入門 実習書	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2020年9月	精神医療実習（病院実務実習）の構築（第5回日本薬学教育学会大会、共同発表）	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2016年8月	第8回昭和大学教育者のためのワークショップ参加	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2016年4月～現在	日本薬学会会員		
2007年4月～現在	日本医療薬学会会員		
2007年4月～現在	日本薬物動態学会会員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 社会薬学部門	職名 講師	氏名 赤川 圭子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2017年～現在 2017年～現在	全10回の講義の途中に、2～3回の小テストを導入することで、講義の理解を理解するための、補助イラストや関連問題・解説を作成して講義	
2 作成した教科書、教材、参考書	2017年～現在	共感的な態度で服薬指導している薬剤師像を学生がイメージしやすいよ	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2017年7月	保険薬剤師に対するセルフメディケーション演習プログラムの実施とそ	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2017年6月～現在 2018年4月～	週1回程度薬剤師業務をしながら講義・実習を行うことで、実際に社会地域包括ケアシステムにおいて薬物治療に貢献できる薬剤師を育成する	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2016年～現在	日本薬学会教育委員会 第三者確認委員会委員（2020年～副委員長）		
2010年～現在	薬剤師国家試験問題検討委員「法規・制度・倫理部会」、薬学教育協議会 薬学と社会教科担当教員		
2018年～現在	昭和大学病院 ポリファーマシー対策チーム		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 薬物治療学	職名 講師	氏名 神山 紀子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2021年7月12日 2021年7月13日	「人体の成り立ちと機能」(生殖器)において、課題演習を取り入れた。 「薬と疾病」(小児)において、症例演習を取り入れた。事前に症例課 他2件	
2 作成した教科書、教材、参考書	2020年8月29日 2019年8月1日	症候学的病態生理学 症候学的に病態生理・トリアージ・セルフメディ 2ページで理解する標準薬物治療ファイル 改訂3版, 南山堂	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2018年9月 2021年9月	昭和大学薬学部 薬物治療らせん型カリキュラムにおけるルーブリック 科学的・合理的に薬物治療を実践するためのワークショップ『症例解析	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2021年3月12日 2021年7月17日	昭和大学PBLチュートリアルファシリテータ養成ワークショップ 昭和大学病院実習指導者ワークショップ2021 他4件	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2015年10月～現在	日本アブライドセラピューティクス学会科学的・合理的に薬物治療を実践するためのワークショップ認定指導者		
2017年9月～現在	日本アブライドセラピューティクス学会評議員		
2018年11月～現在	日本臨床薬理学会社員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 天然医薬治療学	職名 講師	氏名 栗本 慎一郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	令和3年5月～ 現在	「薬の宝庫としての天然物」の講義ではパワーポイントを使用した講義 を行い、天然物の構造中の重要な骨格や生成単位を色を変えて示すな どして、視覚的にも理解しやすいようにした。また、講義終了時に、確 なし	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2021年4月～現在	日本薬学会ファルマシアトピックス小委員		
2007年4月～現在	日本薬学会会員		
2006年9月～現在	日本生薬学会会員		
2011年1月～現在	アメリカ生薬学会会員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 がんゲノム医療薬学	職名 講師	氏名 半田智子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 薬物治療ルーブリックの開発 アクティブラーニングを用いた医薬品情報実習	2016年～現在 2016年～現在	症例解析をSOAP形式でまとめルーブリック評価法で自己評価させた 異なる医薬品について調査し同種同効薬の比較をグループで行うプログラ	
2 作成した教科書、教材、参考書 なし			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 FDワークショップ 病院実習指導者ワークショップ2021	2021. 3. 22 2021. 7. 17	ディプロマポリシーについて分担して議論した。 “症例研究実践の推進のための指導者育成と実施体制の構築”を担当した	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
	日本医療薬学会		
	日本薬学会		
	日本医薬品情報学会		
	QOL-PRO研究会		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 臨床栄養代謝学	職名 講師（実務）	氏名 唐沢浩二
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2017年～現在	病院実習評価用の電子ルーブリック・電子ポートフォリオを作成し、現在も使用中	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2021/5/17 2017/8/5～6	病院実習指導者ワークショップ 医・歯・薬・保健医療学部・富士吉田教育部教育者のためのワークショップ	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2019年4月～2020年3月	文部科学省高等教育局医学教育課 技術参与		
2021年5月～2022年3月31日	学修領域（大項目「C. 基礎薬学」）検討小委員会（6年制薬学教育制度調査検討委員会）		
2021年4月～	日本臨床栄養代謝学会会員		
2011年～	日本薬学会会員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 教育実践学部	職名 助教	氏名 小林 文
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2020年～現在	英語の授業評価を受けて好評のため、臨床に必要な英会話を取り入れ	
	2017年～現在	英語の音読シートを作成して授業を行った。	
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2021年7月31日	Interprofessional Education at Showa University	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2021年3月 2020年8月 2018年3月	昭和大学薬学部FDワークショップ 昭和大学教育者のためのワークショップ 文部科学省 大学における医療人育成の在り方に関する調査研究	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2017年9月	昭和学士会雑誌論文査読		
2018年2月～現在	Global survey of academic opinion 評価委員 [QC (Quacquarelli Symonds) Intelligence Unit]		
2017年～現在	臨床薬理学会会員、日本臨床試験研究会会員、日本生命倫理学会会員、東大CBEL研究会会員、全国英語教育学会		
2019年～現在	International Pharmaceutical Federation (FIP) 会員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 教育実践学	職名 助教	氏名 山本に美
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2017～通年実施	実務実習中にGoogleフォームでアンケートを収集し、実習内容の把握に努め、学生や教員にフィードバックを行った	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2021/3/22 2020/12/15	ディプロマポリシーの見直し シラバスに関するFD講習会 他6件のFD講習会に参加	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2013年11月～現在	日本薬学会会員		
2017年5月～現在	日本薬学教育学会会員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 生物物理化学部門	職名 助教	氏名 小田（渡邊）友里江
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	通年	実習や演習において、学生が学習内容に興味を持って自発的に取り組めるよう、わかりやすい説明と質疑応答を心がけている。	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2020年12月	シラバス作成方法に関するFD講習会（オンデマンド開催）	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2017年～現在	日本薬学会会員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 生物化学部門	職名 助教	氏名 牧山 智彦
I 教育活動 生命活動を担う分子			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2021年4月14日	各講義終了時には重要項目の確認テストを実施し、習熟度の向上を図り、状況を見つ、学生同士の議論が出来る対面講義を設けた。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2021年4月14日	講義科目のレジメンを作成した。 シラバス該当範囲のまとめ、練習問題を作成し、習熟度の向上を図った。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特にありません	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		特にありません	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2014年12月～現在	日本生化学会会員、日本分子生物学会会員		
2018年4月～現在	日本薬理学会会員		
2021年1月～現在	日本脂質生化学会会員		
2021年1月～現在	日本薬学会会員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 生物化学	職名 助教	氏名 渡邊 雄一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 令和3年度新入教育職員WS 2021年度ファシリテータ養成WS	2021/5/15 2021/9/30-10/1	薬学教育について考えるFDに参加した 医療系学部連携教育に関するFDに参加した	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2011年4月～現在	日本薬学会会員		
2021年4月～現在	日本脂質生化学会会員		
2011年4月～現在	日本生化学会会員		
2016年4月～現在	日本農芸化学会会員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 腫瘍細胞生物学	職名 助教	氏名 日暮 大渡
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2020. 8. 17-19 2020. 3. 11	第11回 昭和大学教育者のためのワークショップ 2020年度 ファシリテータ養成ワークショップ	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2021. 8. 3	救急蘇生BLS指導のためBLSプロバイダー資格取得	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2016年7月～現在	日本癌学会会員		
2018年7月～現在	分子生物学会会員		
2020年5月～現在	昭和大学病院PCRセンター		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 毒物学部門	職名 助教	氏名 宇佐美（服部） 夏実
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	毎年度	学生に分かりやすいように伝え方を工夫する。 学生の自主性が育つように、こちらですぐに説明 をせずに、学生の言葉で考えを伝えてもらう。	
2 作成した教科書、教材、参考書	なし		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	なし		
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	令和3年3月22日 2020/12/15	ディプロマポリシー・ルーブリックの見直し シラバスに関するFD講習会 他8件	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2016年10月～現在	日本薬学会会員		
2017年3月～現在	日本法中毒学会会員		
2018年3月～現在	日本毒性学会会員		
2020年7月～現在	日本臨床・分析中毒学会会員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 薬理学	職名 助教	氏名 篠内 良介
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書	2021年7月27日	頻用薬のこれなんで？(株式会社じほう)	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2017年4月～現在	日本薬学会（一般会員）		
2018年10月～現在	日本薬理学会（一般会員）		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 生理・病態学	職名 助教	氏名 前田 耕平
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2019年8月～現在	日本免疫学会会員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 生理・病態学	職名 助教	氏名 高橋 玲
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2021年		
2 作成した教科書、教材、参考書 症候学的病態生理学 編著 京都廣川書店	永田 未希		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2019年8月～現在	日本免疫学会会員		
2019年9月～現在	日本乾癬学会		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 衛生薬学	職名 助教	氏名 依田 恵美子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2021年3月22日 2019年4月12日	薬学部FDワークショップ 基礎系実習ワークショップ 他1件	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2020年5月～現在	新型コロナウイルス対応PCRセンター サポート		
2021年5月	食品衛生管理者登録者講習会 実習補助（3日間）		
2021年7月～8月	東京オリンピックボランティア活動		
・・・	日本薬学会会員、日本毒学会会員、日本脂質生化学会会員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 衛生薬学	職名 助教	氏名 佐々木由香
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	2020年9月 2021年5月	P4事前学修 注射・経管投与においてオンラインで事前学修を行うため P3環境と健康実習においてオンラインと対面のハイブリッド実習のため	
2 作成した教科書、教材、参考書	2021年9月 2020年9月	P4事前学修 注射・経管投与 実習書作成 P4事前学修 注射・経管投与 実習書作成	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2021年7月17日 2021年3月22日	病院実習指導者ワークショップ2021に酸化 令和2年度薬学部FDワークショップに参加 他1件	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2016年4月～2019年3月	日本薬学会 衛生薬学部会 若手研究者活性化小委員会		
2020年6月～	新型コロナウイルス対応PCRセンター サポート業務		
	日本毒学会会員、日本生化学会会員、日本脂質生化学会会員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 社会薬学	職名 助教	氏名 熊木 良太
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2020/6/30 2021/6/30	講義内での演習時間の増加 反転授業の導入	
2 作成した教科書、教材、参考書	2019/8/19	無菌調製手技動画の作成	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2021/3/27	薬局実務実習におけるオンラインによる「学生カンファレンス」の有用	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2021/7/17 2018/2/12	病院実習指導者ワークショップへの参加 認定実務実習指導者のためのアドバンストワークショップへ参加	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2017年11月～現在	日本服薬支援研究会（旧簡易懸濁法研究会）幹事		
2019年4月～現在	日本老年薬学会 研修企画運営委員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 医薬品評価薬学	職名 助教	氏名 滝 伊織
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 令和3年度前期授業教員評価アンケート（授業評価等を含む）	2021年5月27日	授業に関する満足度アンケート（結果により次年度の改善を実施）	
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 令和2年度FDワークショップ（FDを含む） 病院実習指導者ワークショップ	2021/3/22 2021/7/17	全教員対象WS 病院指導薬剤師養成WSのタスクフォースとして参加	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
	日本薬学会		
	日本ジェネリック医薬品・バイオシミラー学会		
	日本アブライド・セラピューティクス学会		
	日本薬学教育学会		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 医薬品評価薬学	職名 助教	氏名 村瀬礼美
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2020年7月3日 2021年5月27日	2020年度前期教員評価アンケート 2021年度前期教員評価アンケート 他1件	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2018年8月1日 2019年8月20日	第13回昭和大学PBLファシリテータ養成WS 第10回昭和大学教育者のためのWS 他3件	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
・・・	日本薬学会会員		
・・・	レギュラトリーサイエンス学会会員		
・・・	日本生化学会会員		
・・・	日本脂質生化学会会員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 薬物治療学	職名 助教	氏名 里美貴
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2021年7月	「人体の成り立ちと機能」において、課題演習を取り入れた。事前に課題を提示し、レポート提出・発表・討議を行った（アクティブラーニングの導入）	
2 作成した教科書、教材、参考書	2020年4月 2021年8月	「個別化医療」において、症例演習を取り入れた。事前に症例課題を提 フィジカルアセスメントに基づく症例解析と薬物治療。京都廣川書店。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項	2019年8月	第10回昭和大学教育者のためのWS（ビギナーズ）	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2009年3月～現在	日本薬学会		
2013年3月～現在	日本医療薬学会		
2016年2月～現在	日本臨床栄養代謝学会		
2019年3月～現在	日本集中治療医学会		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 天然医薬治療学部門	職名 助教	氏名 小池 佑果
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2021年4月26日 2021年7月1日 2021年7月7日	P3調剤・患者対応入門、P4学部連携チーム医療PBLⅢ・在宅チーム医療と倫理TBLⅢ、P1 漢方薬になる動植物物において、講義動画やオンライン指導は、学生が理解しやすい言葉を選び指導しました。	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2021年3月22日 2019年3月26日 2017年7月8日	2020年度薬学部FD-WS 2019年度「FD:薬学部生の日本語力をめぐる現状について」覚える”か 「より良い学生指導を目指して」～講師・助教の視点で考える～	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2021年6月～現在	品川区ワクチン接種ボランティア（3回）		
2014年1月～現在	日本薬学会会員		
2013年8月～現在	和漢医薬学会会員		
2013年6月～現在	生薬学会会員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 がんゲノム医療薬学	職名 助教	氏名 松本奈都美
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 なし			
2 作成した教科書、教材、参考書 なし			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 ファシリテーター養成ワークショップ FDワークショップ 病院指導者ワークショップ	2021.3.11-12 2021.3.22 2021.7.17	ファシリテーターの役割について議論した。 ディプロマポリシーについて分担して議論した。 臨床薬剤師養成のためのプログラムの構想を練った。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
	日本臨床腫瘍学会会員		
	日本臨床薬理学会会員		
	日本薬学会会員		
	日本乳癌学会		
	日本薬物動態学会		
	日本臨床腫瘍薬学会会員		

(基礎資料 9) 専任教員の教育および研究活動の業績 (病院薬剤学講座)

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 病院薬剤学	職名 教授員外	氏名 渡邊 徹
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2021年4月8日 2021年6月3日	薬学部生へwebでの講義、小テスト、解説を実施。 講義、課題の解説を動画で作成し、学生に配信。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2021年4月8日 2021年6月3日	実際に臨床現場で行っている事例をスライドとして配信。 薬剤師の行うべき使命についてオリジナルの資料を作成配信。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会名			学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2017年4月～現在	日本医療薬学会 代議員		
2019年4月～現在	公益社団法人神奈川県病院薬剤師会 理事		
1999年4月～現在	一般社団法人東京都病院薬剤師会 輸液栄養領域薬剤師養成小委員会 委員		
2013年1月～現在	私立医大薬剤部研究会 評議員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 病院薬剤学	職名 准教授	氏名 田中克巳
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会名			学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2019年4月～現在	DIA Japan 電子製品情報/添付文書Workshopプログラム委員会 委員		
2019年4月～現在	(公財)日本医療機能評価機構 医療事故防止事業部 総合評価部会 委員		
2018年4月～現在	(公財)日本医療機能評価機構 評価調査者		
2018年4月～現在	(一般社団)東京都病院薬剤師会 城東支部 支部長		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 病院薬剤学	職名 准教授	氏名 柏原 由佳
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表(評価対象年度のみ)	発表年・月	学会名	
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2009年～現在	日本緩和医療薬学会 評議員		
2009年～現在	日本緩和医療薬学会 専門・認定制度委員		
2020年6月～2021年3月末日	日本緩和医療薬学会 緩和医療専門薬剤師制度ワーキンググループ		
2004年4月～現在	東京都病院薬剤師会 緩和医療領域薬剤師養成特別委員会委員		
教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 病院薬剤学講座	職名 准教授	氏名 黒沢 雅広
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表(評価対象年度のみ)	発表年・月	学会名	
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2005年～現在	精神科臨床薬学研究会世話人(顧問)、広報委員会委員長		
2005年～現在	日本医療薬学会会員		
2016年～現在	日本精神薬学会(評議員)、編集委員会副委員長		
2020年～現在	日本病院薬剤師会、精神科専門薬剤師部門、研修委員会委員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大	部門名 病院薬剤学	職名 准教授	氏名 阿部 誠治
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2020年9月29日 2021年7月14日	歯学部生へwebでの講義、小テスト、解説を実施。 講義、課題の解説を動画で作成し、学生に配信。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2020年9月29日 2021年7月14日	実際に現場で使用されている書類などを提示。 オリジナルの症例を提示し、課題に取り組む。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表			学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2013年4月～現在	大学病院の緩和ケアを考える会 準世話人		
2016年8月～2021年7月	私立医大薬剤部研究会 評議員		
2019年9月～現在	写真付き服薬指導CD-ROM編集委員会 委員		
教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大	部門名 薬学部病院薬剤学講座	職名 准教授	氏名 藤原久登
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2021. 7. 17 2021. 8. 7～8. 8	病院実習指導者ワークショップ 第16回薬学教育者のためのワークショップ	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2006年4月～2017年6月	神奈川県病院薬剤師会 業務検討委員会 委員		
2019年7月～2021年6月	神奈川県病院薬剤師会 薬学生病院実習検討委員会 委員		
2016年7月～現在	日本病院薬剤師会 学術小委員会 委員		
2017年10月～現在	私立医大病院薬剤部研究会 評議員		
2019年4月～現在	日本医療薬学会 代議員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 薬学部病院薬剤学講座	職名 准教授	氏名 田中 広紀
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2018/3/21	第7回 日本薬剤師レジデントフォーラム 昭和大学病院におけるレジデント教育の現状と展望	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2021/7/17 2019/8/20~22	病院実習ワークショップ 教育者のためのワークショップ・ビギナーズコース	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会			学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2010年6月~	日本病院薬剤師会感染制御専門薬剤師認定審査委員		
2019年4月~	日本医療薬学会 代議員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 病院薬剤学講座	職名 准教授	氏名 縄田 修一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2021. 8. 21	学部教育から臨床研修薬剤師教育まで一貫した臨床薬剤師教育体制確立	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会			学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
日本臨床腫瘍薬学会	理事、代議員、実地研修委員会委員長		
日本医療薬学会	代議員		
日本癌治療学会	代議員		
日本DMAT	業務調整員		

教育および研究活動の業績一覧				
大学名 昭和大学	部門名 薬学部病院薬剤学講座	職名 准教授	氏名 須永 登美子	
I 教育活動				
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)				
2 作成した教科書、教材、参考書				
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等				
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2021. 7. 17	病院実習ワークショップ	
II 研究活動				
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出				
2. 学				学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)				
2019年3月～2021年3月		日本医療薬学会 代議員		
2021年3月～現在		神奈川循環器薬剤師フォーラム実行委員会 実行委員		
2021年6月～現在		日本医療薬学会 医療薬学学術小委員会(2021年第1) 委員長		
教育および研究活動の業績一覧				
大学名 昭和大学	部門名 薬学部病院薬剤学講座	職名 准教授	氏名 百 賢二	
I 教育活動				
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)				
2 作成した教科書、教材、参考書				
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2021年9月～	病院薬剤師が研究を学ぶための論文抄読セミナー2021 主催(24回/年)	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2021. 7. 17	病院実習ワークショップ(オーガナイズ)	
II 研究活動				
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出				
2. 学				学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)				
2019年4月～現在		日本医療薬学会 評議員、学術第4小委員会委員、専門薬剤師認定試験委員会		
2020年1月～現在		日本薬剤学会 評議員、臨床製剤FG副リーダー		
2021年4月～現在		日本医療安全学会 評議員、広報委員会委員		
2020年4月～現在		日本医療機能評価機構 薬剤サーベイヤ		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 薬学部病院薬剤学講座	職名 准教授	氏名 鈴木 信也
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書	2021年3月	薬学臨床推論 臨床での考えかた, 南江堂	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2021年6月	大学における理想的な医薬品情報学教育とは, 第23回日本医薬品情報学	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学			学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
〇〇年4月～〇〇年3月	震災復旧ボランティア活動(〇〇地区 年2回、各1週間)		
〇〇年6月～現在	学会常任理事		
...	〇〇学会論文審査員		
...	日本薬学会会員※		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 薬学部病院薬剤学講座	職名 講師	氏名 和田 紀子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学			学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2011年2月～現在	日本緩和医療薬学会 評議員		
2011年4月～現在	東京都病院薬剤師会 緩和医療領域薬剤師養成特別委員会 委員		
2018年2月～現在	日本緩和医療学会 代議員		
2021年2月	日本医薬品情報学会 医薬品情報学会学術誌 査読		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 薬学部病院薬剤学講座	職名 講師	氏名 北原 加奈之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会名			学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2014年4月～現在	東京都病院薬剤師会 臨床推論特別研究会 副委員長		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 薬学部病院薬剤学講座	職名	氏名 吉川 雅之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会名			学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2012年12月～現在	私立医科大学病院感染対策協議会委員 薬剤師専門職部会(教育委員)		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 薬学部病院薬剤学講座	職名 准教授	氏名 内倉健
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学			学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2014年4月～現在	日本医薬品情報学会 医薬品情報専門薬剤師試験委員会 委員		
2016年1月～現在	日本医薬品情報学会 編集委員会 委員		
2016年4月～現在	日本臨床薬理学会 評議員		
2020年4月～現在	日本病院薬剤師会 学術第6小委員会 委員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 病院薬剤学講座	職名 講師	氏名 市倉 大輔
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし	
2 作成した教科書、教材、参考書 臨床研修薬剤師 e-learning ハイアラート薬、副作用救済制度	2021年2月8日	臨床研修薬剤師向けのe-learningコンテンツとして、ハイアラート薬および副作用救済制度に関するコンテンツを作成した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学			学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2007年～現在	日本臨床腫瘍学会		
2010年～現在	日本医療薬学会		
2010年～現在	日本臨床腫瘍薬学会		
2020年	日本医療薬学会 がん専門薬剤師認定審査書面審査委員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 病院薬理学	職名 講師	氏名 島本 一志
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2018年7月～ 2019年7月～	P4 薬と疾病（血液，小児，皮膚疾患）講師 大学院 薬学的がんケア学 講師	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学			学会名
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2017年2月～現在	日本緩和医療薬学会 社員		
2021年7月～現在	神奈川県病院薬剤師会 会員・広報出版委員会 委員		
2021年7月～現在	私立医大病院薬剤部研究会 評議員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 薬学部病院薬剤学講座	職名 講師	氏名 杉田 栄樹
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学			学会名
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2019年3月20日～現在	日本医療薬学会代議員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 薬学部病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 小林 麻美
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学			学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
1999年4月～現在	日本医療薬学会		
2016年4月～現在	日本産科婦人科学会		
2018年10月～現在	日本小児臨床薬理学会		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 薬学部病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 若林 仁美
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学			学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2010年3月～現在	日本化学療法学会 抗菌化学療法認定薬剤師		
2013年5月～現在	日本薬剤師研修センター 小児薬物療法認定薬剤師		
2018年4月～現在	日本薬剤師研修センター 小児薬物療法認定薬剤師制度における必須業務実績報告評価者		
	小児臨床薬理学会会員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 病院薬剤学	職名 助教	氏名 大戸祐治
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学			学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2014年4月～現在	日本緩和医療薬学会 社員(評議員)		
2020年6月～2021年3月	日本緩和医療薬学会 緩和医療専門薬剤師制度ワーキンググループ		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 薬学部	職名 助教	氏名 渡邊 亜矢子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学			学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2021年2月～	日本臨床腫瘍薬学会		
2021年4月～	日本薬局学会		
2021年4月～	日本老年薬学会		
2021年7月～	日本医療薬学会		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 薬学部病院薬剤学	職名 助教	氏名 星 茜
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		病院実習において、基礎学習と実地臨床業務の関連性を示しながら、臨床薬剤師育成に対する心構えやコミュニケーションを指導している。	
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学			学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2007年3月～現在	日本緩和医療薬学会		
2007年7月～現在	日本医療薬学会		
2008年1月～現在	日本緩和医療学会		
2010年6月～現在	日本臨床腫瘍学会		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 薬学部病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 杉 沢 諭
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学			学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2009年3月～現在	日本医療薬学会 会員		
2010年3月～現在	日本社会精神医学会 会員		
2010年5月～現在	日本臨床精神神経薬理学会 会員		
2019年1月～現在	日本臨床栄養代謝学会 会員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 病院薬剤学	助教	中村 彰子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2018. 10～2020. 1	薬と疾病（循環器系疾患）講師	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会名			学会名
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2017年2月～現在	日本医療薬学会 会員		
2020年5月～現在	日本循環器学会 会員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 病院薬剤学	職名 助教	氏名 阿部 久瑠美
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会名			学会名
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2015年4月～現在	日本小児臨床薬理学会会員		
2017年4月～現在	日本小児感染症学会会員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 薬学部病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 玉造 竜郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2019年8月24日	救急医療を担う薬剤師教育の現状と課題	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学			学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2021年4月～現在	日本臨床救急医学会 評議員		
2020年10月～現在	日本臨床救急医学会 救急認定薬剤師認定委員会委員		
2017年4月～現在	日本中毒学会東日本地方会 幹事		
2021年4月～現在	特定非営利活動法人 日本集中治療教育研究会 薬剤師部会コアメンバー		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 薬学部病院薬剤学講座	職名	氏名 内藤 結花
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学			学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2015年4月～現在	東京都病院薬剤師会 抗菌化学療法・感染制御専門薬剤師養成特別委員会		
...			
...			
...			

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 病院薬剤学講座	職名 助教（実務）	氏名 詫間 章俊
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし	
2 作成した教科書、教材、参考書 臨床研修薬剤師 e-learning 感染症領域	2019年12月2日	臨床研修薬剤師向けのe-learningコンテンツとして感染症診療や抗菌薬適正使用について5つのコンテンツを作成した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会名			学会名
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2021年7月～現在	神奈川県病院薬剤師会 薬学生委員会 委員		
2013年4月～現在	日本化学療法学会会員		
2016年4月～現在	医療薬学会会員		
2013年4月～現在	環境感染学会会員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 薬学部病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 鈴木 康介
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		無し	
2 作成した教科書、教材、参考書		無し	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		無し	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2017. 5. 13 2017. 7. 8	講師・助教を対象としたFDワークショップ 講師・助教を対象としたFDワークショップ	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会名			学会名
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2016年4月～現在	日本医療薬学会会員		
2016年4月～現在	日本臨床腫瘍薬学会会員		
2016年9月～現在	日本造血細胞移植学会会員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 中山泰葉
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会名			学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2011年4月～現在	医療薬学会会員		
2013年4月～現在	母乳哺育学会会員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 薬学部病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 仁尾 祐太
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会名			学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
・ ・ ・	日本医療薬学会会員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 薬学部病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 太田品子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会名			学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2017年～現在	日本薬学教育会会員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 高田昂輔
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会名			学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2020年2月17日	新型コロナウイルス感染症関連ダイヤモンド・プリンセス船内活動(大黒ふ頭、1日間)		
2021年7月1日～2021年8月11日	東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会活動(横浜スタジアム、6週間)		
2015年～現在	日本医療薬学会会員		
2019年～現在	日本腎臓病薬物療法学会会員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 薬学部病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 二村 哲未
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会名			学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2013年～	日本医療薬学会会員		
2014年～	日本腎臓病薬物療法学会会員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 薬学部病院薬剤学	職名 助教	氏名 米澤 龍
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2021. 7. 17	昭和大学病院実習指導者ワークショップ	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会名			学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2021年7月～現在	2021年度医療薬学学術小委員会 委員		
2021年7月～現在	神奈川県病院薬剤師会 会員・広報出版委員会		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 越塚 宏美
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	12/18/19 12/16/20	薬物治療学特論 講師 薬物治療学特論 講師 他1件	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会名			学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2014年4月～現在	日本臨床栄養代謝学会		
2015年6月～現在	日本医療薬学会		
2021年4月～現在	日本医薬品情報学会		
2021年7月～現在	医薬情報部第3小委員会 委員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 薬学部病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 田中 茜
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会名			学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2016年～現在	日本病院薬剤師会会員		
2016年～現在	神奈川県病院薬剤師会会員		
2019年～現在	日本くすりと糖尿病学会会員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 松崎あい理
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会名			学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
	なし		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 薬学部病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 守屋 賀奈絵
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会名			学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2013年4月～現在	日本医療薬学会 会員		
2015年4月～現在	日本緩和医療薬学会 会員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 病院薬剤学	職名 助教	氏名 田川 菜緒
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学			学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2020年4月～現在	日本医療薬学会		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 病院薬剤学	職名 助教	氏名 永井 努
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学			学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2016年9月～現在	日本精神薬学会 評議員		
2018年6月～現在	日本病院薬剤師会 精神科専門薬剤師部門 認定審査委員会委員		
2019年3月～現在	日本神経精神薬理学会 統合失調症薬物治療ガイドライン改訂委員		
2021年5月～現在	東京都病院薬剤師会 専門薬剤師養成部精神科専門薬剤師養成小委員会 副委員長		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 薬学部病院薬剤学講座	職名	氏名 岡田 葉津美
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会名			学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2021年4月	日本腫瘍循環器学会員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 葛城 怜子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 なし (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書 なし			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 なし (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会名			学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 薬学部病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 田中 道子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書	2021. 2	消化器疾患最新の治療2021-2022	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2021. 7. 17	病院実習ワークショップ	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会			学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 薬学部病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 戸村 和希
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2021. 7. 17	病院実習指導者ワークショップ2021	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会			学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
	日本薬学会会員		
	日本医療薬学会会員		
2018年1月～現在	日本医療薬学会認定薬剤師		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 薬学部病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 江島 麗
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会名			学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2016年4月～	日本病院薬剤師会		
2017年5月～	日本医療薬学会		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 佐藤真理子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会名			学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2017年～	日本医療薬学会会員		
2018年～	日本臨床救急医学会会員		
2019年	青葉区消防操法技術訓練会参加(優勝)		
2020年2月	COVID-19クルーズ船外活動参加		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 稲垣 彩美
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会名			学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2016年～現在	小児臨床薬理学会		
2016年～現在	日本母乳保育学会		
2019年～現在	日本臨床栄養代謝学会		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 病院薬剤学	職名 助教	氏名 磯崎 遥
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会名			学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2016年～現在	日本病院薬剤師会会員(116550)		
2018年～現在	日本医療薬学会会員(24161)		
2019年9月3日	第22回 江東豊洲地域連携研修会(講演者)		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学 横浜市北部病院	部門名 病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 木村 祐子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会名			学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2018年～現在	日本医療薬学会		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 薬学部病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 楠裕美子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会名			学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
	医療薬学会会員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 徳永 愛美
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学			学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2019年～現在	日本緩和医療薬学会		
2021年～現在	日本臨床腫瘍薬学会		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 薬学部病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 服部 はるか
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学			学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2016年4月～現在	日本医療薬学会会員		
2016年9月～現在	日本化学療法学会会員		
2016年～現在	東京都病院薬剤師会会員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 薬学部病院薬剤学講座	職名 助教(実務)	氏名 関戸 匡恵
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書	2019/6/19	総合診療医がケースで教える副作用を診るロジック	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表(評価対象年度のみ)	発表年・月	学会名	
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2019年4月～現在	日本臨床腫瘍学会 会員		
2020年12月～現在	日本医療薬学会		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 病院薬剤学	職名 助教	氏名 中野 裕佳子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表(評価対象年度のみ)	発表年・月	学会名	
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2020年4月～現在	日本精神薬学会		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 病院薬剤学	職名 助教	氏名 久知良礼美
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会名			学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2015年9月～現在	医療薬学会会員		
2017年6月～現在	臨床腫瘍学会会員		
2018年1月～現在	臨床腫瘍薬学会会員		
2018年8月～現在	日本癌治療学会会員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 薬学部病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 山寺志保
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会名			学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2020年6月～現在	日本腎臓病薬物療法学会		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 薬学部病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 田中葉央
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
なし			
2 作成した教科書、教材、参考書			
なし			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
なし			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会名			学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
なし			

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 嶋崎 真耶
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会名			学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
...	日本薬学会会員、日本病院薬剤師会会員、日本医療薬学会会員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 薬学部病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 船越 晴喜
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし	
2 作成した教科書、教材、参考書		卒業試験問題作成に関与	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会名			学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2015年4月～	日本医療薬学会会員		
2015年4月～	日本臨床腫瘍薬学会会員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 市村 文典
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会名			学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2012年4月～現在	日本医療薬学会会員		
2016年4月～現在	日本臨床腫瘍薬学会会員		
2017年4月～現在	日本癌治療学会会員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 病院薬理学	職名 助教	氏名 喜田昌記
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学			学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2015年10月～現在	日本緩和医療薬学会		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 病院薬理学講座	職名 助教	氏名 日向 美羽
I 教育活動 P5 実習 (実務)			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学			学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2020年～現在	日本緩和医療学会		
2021年～現在	日本緩和医療薬学会		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 薬学部病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 高田 恵理子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会名			学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 薬学部病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 松井 美月
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会名			学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 病院薬理学	職名 助教	氏名 柘植縁理佳
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫		なし	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会名			学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
なし			

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 病院薬理学講座	職名 助教	氏名 染谷 梨沙
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会名			学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2016年～現在	日本薬学会		
2017年～現在	日本医療薬学会		
2018年～現在	日本化学療法学会		
2019年～現在	日本人工関節学会		
2021年～現在	日本褥瘡学会		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 病院薬剤学	職名 助教	氏名 伊藤 綾花
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会名			学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
なし			

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 病院薬剤学	職名 助教	氏名 中田 麻里
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会名			学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
なし			

教育および研究活動の業績一覧						
大学名 昭和大学	部門名 薬学部病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 山口 天士			
I 教育活動						
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要			
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)						
2 作成した教科書、教材、参考書						
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等						
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)						
II 研究活動						
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称			
II 研究活動については別紙にて提出						
				2. 学		学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)						
2016年5月～現在		日本医療薬学会会員				
2018年3月～現在		日本骨粗鬆症学会会員				
2019年10月～現在		日本リウマチ学会会員				

教育および研究活動の業績一覧						
大学名 昭和大学	部門名 薬学部病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 山口 芽衣			
I 教育活動						
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要			
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)						
2 作成した教科書、教材、参考書		2020年	オンラインで病院実習のため模擬患者資料を作成 (病院実習2)			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等						
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)						
II 研究活動						
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称			
II 研究活動については別紙にて提出						
				2. 学		学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)						
2021年7月		日病薬病院薬剤師認定薬剤師 取得				
2020年7月		日本薬剤師研修センター 研修認定薬剤師 取得				
2020年1月		日本薬剤師研修センター 漢方薬・生薬認定薬剤師 取得				
2018年7月～		日本緩和医療薬学会・日本医療薬学会入会				

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 病院薬剤学	職名 助教	氏名 中谷香織
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
〇〇年4月～〇〇年3月	震災復旧ボランティア活動(〇〇地区 年2回、各1週間)		
〇〇年6月～現在	学会常任理事		
...	〇〇学会論文審査員		
...	日本薬学会会員※		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 病院薬剤学	職名 助教	氏名 古屋宏章
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2017年4月～現在	日本臨床栄養代謝学会		
2020年9月～現在	日本精神薬学会		
2021年3月～現在	日本老年薬学会		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 病院薬剤学	職名 助教	氏名 永田 卓也
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会名			学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
	なし		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 薬剤部	職名	氏名 阿部 和正
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会名			学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大	部門名 病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 石井 俊一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学			学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2019年～現在	日本医療薬学会		
2020年～現在	日本循環器病予防学会		
2021年～現在	日本循環器学会		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大	部門名 病院薬剤学	職名 助教	氏名 伊波樹
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学			学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2017年4月～現在	東京都病院薬剤師会会員		
2017年4月～現在	日本病院薬剤師会会員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 薬学部病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 岡田 貴裕
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学			学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
〇〇年4月～〇〇年3月	震災復旧ボランティア活動(〇〇地区 年2回、各1週間)		
〇〇年6月～現在	学会常任理事		
...	〇〇学会論文審査員		
...	日本薬学会会員※		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 薬学部病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 岡本 まとか
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学			学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2017年4月～現在	日本病院薬剤師会会員		
2018年9月～現在	日本医療薬学会会員		
2020年8月～現在	日本臨床救急医学会会員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 薬学部病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 高橋 伸幸
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会名			学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 薬学部病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 古田 康之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会名			学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2018年4月～現在	日本医療機能評価機構 薬剤サーベイヤ		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 病院薬剤学	助教	氏名 佐伯美沙
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会名			学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
	なし		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 薬学部病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 田中志津子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会名			学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2020年4月～現在	日本化学療法学会会員		
2019年～現在	日本医療薬学会会員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 薬学部病院薬剤学	職名 助教	氏名 平出 美紀
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会名			学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
なし			

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 病院薬剤学	職名 助教	氏名 前田 絵里加
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会名			学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
なし			

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 病院薬理学	職名 助教	氏名 米澤夏里
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会名			学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
	なし		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 病院薬理学講座	職名	氏名 磯部 順哉
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会名			学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
〇〇年4月～〇〇年3月	震災復旧ボランティア活動(〇〇地区 年2回、各1週間)		
〇〇年6月～現在	学会常任理事		
...	〇〇学会論文審査員		
...	日本薬学会会員※		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 永尾美智瑠
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2021. 1. 10	OSCE評価	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会名			学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 病院薬剤学	職名 薬剤師	氏名 大城(仙北屋) 真理奈
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会名			学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2010年～現在	日本医療薬学会会員		
2013年～現在	日本癌治療学会会員		
...			
...			

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 病院薬剤学	職名 助教(薬科)	氏名 野口拓馬
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	著者・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
	なし		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 薬学部病院薬剤学講座	職名 助教(薬科)	氏名 青木 悟
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	著者・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 薬学部病院薬剤学	職名 助教（薬科）	氏名 太田 晃
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2018年12月 2019年12月	OSCE評価者 OSCE評価者	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	著者・共著の氏名	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 衛生薬学	職名 助教（薬科）	氏名 黒瀧 アン里
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2020, 2021	病院実習 (調剤業務、病棟業務、術前外来指導)	
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	著者・共著の氏名	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2017~2021	東京都病院薬剤師会会員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 病院薬剤学	職名 講師	氏名 三井 奈緒
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	著者・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 薬学部病院薬剤学講座	職名 助教(薬科)	氏名 竹安 葵
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2021年4月17日	臨床研修薬剤師のFDワークショップ (薬学部薬学教育学講座教育実践学部門)	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	著者・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2017年4月～現在	日本病院薬剤師会会員		
2020年8月～現在	日本薬学教育学会会員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 薬学部病院薬剤学講座	職名 助教(薬科)	氏名 出口 智一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	著者・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2019年2月～現在	日本医療薬学会会員		
2021年9月～現在	日本循環器学会準会員		
...			
...			

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 病院薬剤学	職名 助教(薬科)	氏名 徳留真優
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	著者・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
	なし		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 統括薬剤部	職名 助教(薬科)	氏名 稲本真弓
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	著者・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
	日本病院薬剤師会		
	日本医療薬学会		
	日本臨床救急医学会		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 病院薬剤学	職名 助教(薬科)	氏名 井上 裕美子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	著者・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 薬学部病院薬剤学講座	職名 助教(薬科)	氏名 柏瀬 弓佳
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	著者・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2018年4月～現在	日本病院薬剤師会		
2018年4月～現在	日本医療薬学会		
2020年4月～現在	日本薬学会		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 病院薬剤学講座	職名 助教薬科	氏名 永田 未希
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	著者・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
	日本病院薬剤師会会員		
	神奈川県病院薬剤師会会員		
	日本医療薬学会会員		
	日本臨床腫瘍薬学会会員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 病院薬剤学講座	職名 助教 (薬科)	氏名 西田 純平
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	著者・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
	日本病院薬剤師会会員		
	日本医療薬学会会員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 病院薬剤学	職名 助教 (薬科)	氏名 福元 史織
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	著者・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
	なし		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 薬剤部	助教（薬科）	與儀和香子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	著者・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
なし			

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 薬物治療学部門	職名	氏名 稲垣 貴士
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	著者・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
なし	なし		
なし	なし		
なし	なし		
なし	なし		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 病院薬剤学	職名	氏名 井上 恵里花
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	著者・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2019年4月～現在	日本病院薬剤師会会員		
2019年4月～現在	神奈川県病院薬剤師会会員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 薬学部病院薬剤学講座	職名 助教(薬科)	氏名 大日方瞳
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	著者・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 病院薬剤学	職名 助教（薬科）	氏名 杉本 佳寿美
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	著者・共著者の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
なし			

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 病院薬剤学	職名 助教（薬科）	氏名 村岡健太
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	著者・共著者の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2019年4月～現在	日本救急医学会 学生・研修医部会 (SMAQ) 代表		
2019年11月	長野県豪雨災害 ボランティア		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 病院薬剤学	職名	氏名 山内 梨袋
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	著者・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2019年4月～現在	日本病院薬剤師会会員		
2019年4月～現在	神奈川県病院薬剤師会会員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和大学	部門名 薬学部病院薬剤学講座	職名	氏名 竹安 結花子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	著者・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
II 研究活動については別紙にて提出			
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
なし			

業績項目における「会議発表(論文・口頭)」は発表形式を問わず、すべての学会発表を示します。

昭和大学	部門名 教育企画・評価学	職名 教授	氏名 小林靖奈
------	--------------	-------	---------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
原著論文	Online Survey of problems inhibiting the active improvement of community pharmacist in patients with cancer undergoing outpatient chemotherapy	Yasuna Kobayashi, Keiko Sugihara-Tsukamoto, Aya Kobayashi, Noriko Kohyama and Toshinori Yamamoto	Journal Academy for Quality of Life	3	2	1	Academic Society for Quality of Life	2017年 6月
総説 (Invited)	Point Mutation and Potential Biomarker of the Gene Coding for KRAS/RAS in Patients with Colorectal Carcinoma	Yasuna Kobayashi	Journal Academy for Quality of Life	4	3	1	Academic Society for Quality of Life	2017年 9月
総説	ヒト型 Organic Solute Carrier Partner 1 (hOSC1) に関する最近の話題	小林靖奈	医薬品相互作用研究	41	3	10	医薬品相互作用研究会	2017年 9月
原著論文	The exploration of population pharmacokinetic model for meropenem in augmented renal clearance and investigation of optimum setting of dose	Tatsuro Tanatsukuri, Masayuki Ohbayashi, Noriko Kohyama, Yasuna Kobayashi, Toshinori Yamamoto, Shunsuke Nakamura, Yasufumi Miyake, Kenji Dohi, and Mari Kogo	Journal of Infection and Chemotherapy	24	10	834	日本化学療法学会	2018年 10月
原著論文	診療所の医師と薬剤師の連携に向けた処方せん様式変更に伴う残薬管理に関する調査研究	瀬戸小百合、加藤 肇、神山紀子、小林靖奈、山元俊憲、向後麻里	社会薬学	37	1	19	日本社会薬学会	2018年 6月
会議発表 (論文・口頭)	薬学生の災害時医療に対する学習ニーズ～テキストマイニング解析から見たもの～	小林靖奈					日本災害医療薬剤師学会	2021年 7月
会議発表 (論文・口頭)	薬学生の災害時医療に対する学修ニーズに関する調査研究	小林靖奈					日本薬学教育学会	2021年 8月

昭和大学	部門名 医薬化学部門	職名 教授	氏名 福原 潔
------	------------	-------	---------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	Effects of reaction environments on radical-scavenging mechanisms of ascorbic acid	NAKANISHI Ikuo SHOJI Yoshifumi OHKUBO Kei FUKUHARA Kiyoshi OZAWA Toshihiko MATSUMOTO Kenichiro FUKUZUMI Shunichi	J Clin Biochem Nutr	68	2	116		Mar-21
学術雑誌論文 (学外)	Relationship between the radical-scavenging activity of selected flavonols and thermodynamic parameters calculated by density functional theory	NAKANISHI Ikuo OHKUBO Kei SHOJI Yoshimi FUJITAKA Yuya SHIMODA Kei MATSUMOTO Kenichiro FUKUHARA Kiyoshi HAMADA Hiroki	Free Radic Res	54	7	535		Jul-21
学術雑誌論文 (学外)	Development of photoswitchable estrogen receptor ligands	TSUCHIYA Keisuke UMENO Tomohiro TSUJI Genichiro YOKOO Hidetomo TANAKA Masakazu FUKUHARA Kiyoshi DEMIZU Yosuke MISAWA Takashi	Chem Pharm Bull (Tokyo)	68	4	398		Apr-20
学術雑誌論文 (学外)	Synthesis and radical-scavenging activity of C-methylated fisetin analogues.	IMAI Kohei NAKANISHI I OHKUBO K OHNO A MIZUNO Mirei FUKUZUMI S MATSUMOTO K FUKUHARA Kiyoshi	Bioorg Med Chem	27	8	1720		Apr-19
学術雑誌論文 (学外)	Efficient protective activity of a planar catechin analogue against radiation-induced apoptosis in rat thymocytes	SEKINE-SUZUKI Emiko NAKANISHI Ikuo IMAI Kohei UENO Megumi SHIMOKAWA Takashi MATSUMOTO Kenichiro FUKUHARA Kiyoshi	RSC Advances	8	19	10158		Oct-18
会議発表 (論文・口頭)	C-メチルフィセチンのラジカル消去活性	福原 潔 中西 郁夫 大久 保敬 水野 美麗 松本 謙一郎 大野 彰子					日本農芸化学会2021年度大会	Mar-21
会議発表 (論文・口頭)	Potent radical-scavenging activities of C-methyl fisetins	FUKUHARA Kiyoshi, OHNO Akiko					第80回 日本癌学会学術総会	Oct-21
会議発表 (論文・口頭)	Docking study on the position of nitro groups affecting the mutagenicity of nitroarenes	OHNO Akiko, OKIYAMA Yoshio, HIROSE Akihiko, FUKUHARA Kiyoshi					第80回 日本癌学会学術総会	Oct-21
会議発表 (論文・口頭)	ニトロ多環芳香族炭化水素の変異原性に関するin silico解析	大野彰子、沖山佳生、広瀬明彦、福原 潔					日本環境変異原ゲノム学会第50回記念大会	Nov-21
会議発表 (論文・口頭)	Rationally designed peptide modulators of amyloid-β toxicity in Alzheimer's disease	FUKUHARA Kiyoshi, MORI Kazunori, OKIYAMA Yoshio, MISAWA Takashi, MIZUNO Mirei, DEMIZU Yosuke, SHIBANUMA Motoko, OHNO Akiko					AIMECS 2021	Nov-21

昭和大学	部門名 生体分析化学部門	職名 教授	氏名 加藤 大
------	--------------	-------	---------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
その他	医療貢献を目指した分析化学(特別講演)	加藤 大					第33回バイオ メディカル分 析科学シンポ ジウム (BMA2021)	Sep-21
その他	HPLC column for 100-nm nanoparticles analysis(招待講演)	KATO Masaru					31st International Symposium on Pharmaceutica l and Biomedical Analysis	Aug-21
学術雑誌論文 (学外)	Facile and simple purification method for small extracellular vesicles obtained from a culture medium through cationic particle capture.	KATO Masaru NAKAMOTO R ISHIZUKA M WATANABE N	Anal Bioanal Chem	413	9	2523		Apr-21
学術雑誌論文 (学外)	Extraction of urinary cell-free DNA by using triamine-modified silica particles for liquid biopsy.	KATO Masaru FUJITA Y IIZUKA T NOZAKI K TAKANO S FUNATSU T SANO Yoshihiro MURAYAMA Shuhei KARASAWA Koji	Anal Bioanal Chem	412	23	5647		Sep-20
学術雑誌論文 (学外)	Trimethylammonium modification of a polymer-coated monolith column for rapid and simultaneous analysis of nanomedicines.	KATO Masaru ATHUMI Y YAMAGUCHI M DATE Haruka YAMAMOTO E MURAYAMA Shuhei KARASAWA Koji	J Chromatogr A	1617		460826		Apr-20

昭和大学	部門名 生物物理化学部門	職名 教授	氏名 合田 浩明
------	--------------	-------	----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
会議発表 (論文・口頭)	電荷分布を明示的に記述する分子モデル構築のための電子密度フィッティング法	早川 大地 渡邊 友里江 合田 浩明					第49回構造活 性相関シンポ ジウム	Sep-21
学術雑誌論文 (学外)	Unpolarizable molecular model describing electron distribution for treating halogen bonds	HAYAKAWA Daichi WATANABE-ODA Yurie GOUDA Hiroaki	Chem Phys Lett	779		138824		Sep-21
学術雑誌論文 (学外)	A molecular interaction field describing nonconventional intermolecular interactions and its application to protein-ligand interaction prediction	HAYAKAWA Daichi SAWADA Nahoko WATANABE Yurie GOUDA Hiroaki	J Mol Graph Model	96		107515		May-20
学術雑誌論文 (学外)	Synthesis of a novel and potent small-molecule antagonist of PAC1 receptor for the treatment of neuropathic pain	TAKASAKI Ichiro OGASHI Haruna OKADA Takuya SHIMODAIRA Ayaka HAYAKAWA Daichi WATANABE Ai MIYATA Atsuro KURIHARA Takashi GOUDA Hiroaki TOYOOKA Naoki	Eur J Med Chem	186		111902		Jan-20
学術雑誌論文 (学外)	Computational study on formation of 15-membered azalactone by double reductive amination using molecular mechanics and density functional theory calculations	GOUDA Hiroaki NAKAYAMA Naofumi MIURA Tomoaki KANEMOTO Kenichi AJITO Keiichi	J Antibiot (Tokyo)	71	5	549		May-18
学術雑誌論文 (学外)	In Silico Screening Identified Novel Small-molecule Antagonists of PAC1 Receptor	TAKASAKI Ichiro WATANABE Ai YOKAI Masafumi WATANABE Yurie HAYAKAWA Daichi NAGASHIMA Ryota FUKUCHI Mamoru OKADA Takuya TOYOOKA Naoki MIYATA Atsuro GOUDA Hiroaki KURIHARA Takasi	J Pharmacol Exp Ther	365	1	1		Apr-18

昭和大学	部門名 生物化学部門	職名 教授	氏名 板部 洋之
------	------------	-------	----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
会議発表 (論文・口頭)	生体内酸化LDL研究の進展	小濱 孝士 板部 洋之					第94回日本生 化学会大会	Nov-21
会議発表 (論文・口頭)	感染症と酸化リポタンパク質	板部 洋之 小濱 孝士					第94回日本生 化学会大会	Nov-21
会議発表 (論文・口頭)	好中球細胞外トラップ形成におけるlysoPCの関与	小濱 孝士 澤田 直子 牧山 智彦 板部 洋之					第63回日本脂 質生化学会	Jun-21
会議発表 (論文・口頭)	細胞内脂肪滴形成機構における小胞出芽制御因子 Sar1の影響	牧山 智彦 小濱 孝士 板部 洋之					第63回脂質生 化学会	Jun-21

会議発表 (論文・口頭)	好中球細胞外トラップ：感染制御から血管疾患の増悪へ	小瀧 孝士 板部 洋之					第21回 Pharmaco- Hematology シンポジウム	May-21
学術雑誌論文 (学外)	Structure and dynamics of oxidized lipoproteins in vivo: roles of high-density lipoprotein.	ITABE Hiroyuki SAWADA Naoko MAKIYAMA Tomohiko OBAMA Takashi	Biomedicines	9	6	655		Jun-21
学術雑誌論文 (学外)	Neutrophils as a novel target of modified low-density lipoproteins and an accelerator of cardiovascular diseases.	OBAMA Takashi ITABE Hiroyuki	Int J Mol Sci	21	21	8312		Nov-20
学術雑誌論文 (学外)	Circulating Oxidized LDL, Increased in Patients With Acute Myocardial Infarction, Is Accompanied by Heavily Modified HDL	SAWADA Naoko OBAMA Takashi KOBASHI Shinji TAKAKI Takashi IWAMOTO Sanju AIUCHI Toshihiro KATO Rina KIKUCHI Masaki HAMAZAKI Yuji ITABE Hiroyuki	J Lipid Res	61	6	816		Jun-20
学術雑誌論文 (学外)	Cooperative action of oxidized low-density lipoproteins and neutrophils on endothelial inflammatory responses through neutrophil extracellular trap formation	OBAMA Takashi OHINATA Hitomi TAKAKI Takashi IWAMOTO Sanju SAWADA Naoko AIUCHI Toshihiro KATO Rina ITABE Hiroyuki	Front Immunol	10		1899		Aug-19
学術雑誌論文 (学外)	Temporal and spatial changes of peroxiredoxin 2 levels in aortic media at very early stages of atherosclerotic lesion formation in apoE-knockout mice.	KATO Rina HAYASHI Masataka AIUCHI Toshihiro SAWADA Naoko OBAMA Takashi ITABE Hiroyuki	Free Radic Biol Med	130		348		Jan-19

昭和大学	部門名 腫瘍細胞生物学	職名 教授	氏名 柴沼賢子
------	-------------	-------	---------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	Rac1-mediated sustained β 4 integrin level develops reattachment ability of breast cancer cells after anchorage loss	MORI Kazunori HIGURASHI Masato ISHIKAWA Fumihiko SHIBANUMA Motoko	Cancer Sci			1		May-21
学術雑誌論文 (学外)	High expression of FOXM1 critical for sustaining cell proliferation in mitochondrial DNA-less liver cancer cells	HIGURASHI Masato MURUYAMA Tsuyoshi NOGAMI Yusuke ISHIKAWA Fumihiko YOSHIDA Yukiko MORI Kazunori FUJITA Ken-ichi SHIBANUMA Motoko	Exp Cell Res	389	1	111889		Apr-20
学術雑誌論文 (学外)	Rabeprazole intake does not affect systemic exposure to capecitabine and its metabolites, 5'-deoxy-5-fluorocytidine, 5'-deoxy-5-fluorouridine, and 5-fluorouracil	SEKIDO Masae FUJITA Ken-ichi KUBOTA Yutaro ISHIDA Hiroo TAKAHASHI Takehiro OHKUMA Ryotaro TSUNODA Takuya ISHIKAWA Fumihiko SHIBANUMA Motoko SASAKI Yasutsuna	Cancer Chemother Pharmacol	83	6	1127		Jun-19
学術雑誌論文 (学外)	Decreased Disposition of Anticancer Drugs Predominantly Eliminated via the Liver in Patients with Renal Failure	FUJITA Ken-ichi MATSUMOTO Natsumi ISHIDA Hiroo KUBOTA Yutaro IWA Shinichi SHIBANUMA Motoko KATO Yukio	Curr Drug Metab	20	5	361		Mar-19
学術雑誌論文 (学外)	A mitochondrial ROS pathway controls matrix metalloproteinase 9 levels and invasive properties in RAS-activated cancer cells	MORI Kazunori UCHIDA Tetsu YOSHIE Toshihiko MIZOTE Yuko ISHIKAWA Fumihiko KATSUYAMA Masato SHIBANUMA Motoko	FEBS J	286	3	459		Feb-19

昭和大学	部門名 毒物学	職名 教授	氏名 沼澤聡
------	---------	-------	--------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
その他	中毒検体の取り扱い-採血方法と保存上の注意点-(教育講演)	沼澤 聡 徳留 真優 光本(貝崎) 明日香 佐藤 真理子 渡邊 徹					第2回日本臨床・分析中毒学会学術集会	Mar-21
会議発表 (論文・口頭)	急性カフェイン中毒21症例のカフェイン及びその代謝物の血中濃度解析	山崎 喜貴 光本(貝崎) 明日香 佐々木 忠徳 林 宗貴 土肥 謙二 沼澤 聡					第3回日本臨床・分析中毒学会学術集会	Sep-21
会議発表 (論文・口頭)	胎仔期のメチルフェニデート暴露はADHD症状を誘発しDrd2とSrc6a3遺伝子発現を低下させる	光本(貝崎) 明日香 青木 悟 宇佐美(服部) 夏実 沼澤 聡					第48回日本毒性学会学術年会	Jul-21
会議発表 (論文・口頭)	血小板由来増殖因子による血管平滑筋細胞遊走におけるサルフェンイオウの役割	芦野 隆 石井 俊一 沼澤 聡					第48回日本毒性学会学術年会	Jul-21
学術雑誌論文 (学外)	Comparative study between active and passive exposure of methamphetamine vapor in mice	ABE Kazumasa KAIZAKI-MITSUMOTO Asuka NUMAZAWA Satoshi	Forensic Toxicol	39	2	394		Jul-21

学術雑誌論文 (学外)	Fetal methylphenidate exposure induced ADHD-like phenotypes and decreased Drd2 and Slc6a3 expression levels in mouse offspring.	AOKI Satoru KAIZAKI-MITSUMOTO Asuka HATTORI Natsumi NUMAZAWA Satoshi	Toxicol Lett	344		1		Jun-21
学術雑誌論文 (学外)	Anti-Obesity Effect of Ginkgo Vinegar, a Fermented Product of Ginkgo Seed Coat, in Mice Fed a High-Fat Diet and 3T3-L1 Preadipocyte Cells.	HOSODA Shugo KAWAZOE Yumi SHIBA Toshikazu NUMAZAWA Satoshi MANABE Atsufumi	Nutrients	12	1	230		Jan-20
学術雑誌論文 (学外)	Hyperreflexia induced by XLR-11 smoke is caused by the pyrolytic degradant	HATAOKA Kyoko KAIZAKI-MITSUMOTO Asuka TAKEBAYASHI-OHSAWA Mika HATTORI Natsumi FUNADA Masahiko NUMAZAWA Satoshi	Forensic Toxicol	37	2	412		Jul-19
学術雑誌論文 (学外)	Inorganic polyphosphate protects against lipopolysaccharide-induced lethality and tissue injury through regulation of macrophage recruitment.	TERASHIMA-HASEGAWA Mikako ASHINO Takashi KAWAZOE Yumi SHIBA Toshikazu MANABE Atsufumi NUMAZAWA Satoshi	Biochem Pharmacol	159		96		Jan-19

昭和大学	部門名 薬理学部門	職名 教授	氏名 野部 浩司
------	-----------	-------	----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	Potent efficacy of Stachybotrys microspora triphenyl phenol-7, a small molecule having anti-inflammatory and antioxidant activities, in a mouse model of acute kidney injury	Keita Shibata, Terumasa Hashimoto, Keiji Hasumi, Koji Nobe	European Journal of Pharmacology					IN PRESS
学術雑誌論文 (学内)	非筋細胞収縮およびその細胞内情報伝達系評価のためのコラーゲンファイバー法の有用性	野部 浩司 野部 裕美 加園 恵三	昭和学術会雑誌	77	4	385		Aug-17
学術雑誌論文 (学内)	プリン作動性P2X4受容体サブタイプはウシ大動脈内皮細胞の一酸化窒素産生に関与する	黄 洋一 野部 浩司	昭和学術会雑誌	77	3	342		Jun-17
会議発表 (論文・口頭)	糖尿病神経障害モデルマウスに対する SMTP-44D の作用メカニズムの検討	篠内 良介 柴田 佳太 城野 詩織 橋本 光正 蓮見 恵司 野部 浩司					日本薬学会第141年会	Mar-21

昭和大学	部門名 生理病態学	職名 教授	氏名 巖本三壽
------	-----------	-------	---------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学内)	A profile of pro-inflammatory cytokine expression in human Delta-1-induced monocyte-derived Langerhans cell-like dendritic cells after stimulation with Toll-like receptor ligands	TAKAHASHI Rei IWAMOTO Sanju TANIOKA Toshihiro MAEDA Kohei	Showa Univ J Med Sci	33	3	67		Sep-21
学術雑誌論文 (学内)	The Ang III/AT2R Pathway Enhances Glucose Uptake by Improving GLUT1 Expression in 3T3-L1 Adipocytes.	TANIOKA Toshihiro MAEDA Kohei TAKAHASHI Rei IWAMOTO Sanju	Biol Pharm Bull	44	7	1014		Jul-21
学術雑誌論文 (学内)	Regulatory Effect of IL-4 on Early Th17 Differentiation from Naive T Cells into Stem Cell Memory Th17 Precursors via Modulation of CD31 and CCR6 Expression	MAEDA Kohei TANIOKA Toshihiro IWAMOTO Sanju	Showa Univ J Med Sci	32	2	135		Jul-20
学術雑誌論文 (学外)	Killer cell immunoglobulin-like receptor 2DL4 is expressed in and suppresses the cell growth of Langerhans cell histiocytosis	TAKEI Yusuke UESHIMA Chiyuki KATAOKA Tatsuki R. HIRATA Masahiro SUGIMOTO Akihiko ROKUTAN-KURATA Mariyo MORIYOSHI Koki ONO Kazuo MURAKAMI Ichiro IWAMOTO Sanju HAGA Hironori	Oncotarget	8	23	36964		Jun-17
図書	症候学的病態生理学 症候学的に病態生理・トリアージ・セルフメディケーションを考える	岩井 信市 巖本 三壽 木内 祐二 神山 紀子 谷岡 利裕 橋本 光正 稗田 宗太郎	京都廣川書店					Aug-20
会議発表 (論文・口頭)	単球由来Delta-1誘導ランゲルハンス細胞様樹状細胞は乾癬病態に関連するサイトカインを産生する	高橋 玲 巖本 三壽 谷岡 利裕 前田 耕平					第36回日本乾癬学会学術大会	Sep-21
会議発表 (論文・口頭)	A profile of pro-inflammatory cytokine expression in human Delta-1-induced monocyte-derived Langerhans cell-like dendritic cells after stimulation with Toll-like receptor ligands	TAKAHASHI Rei IWAMOTO Sanju TANIOKA Toshihiro MAEDA Kohei					第50回日本免疫学会学術集会	Dec-21
その他	乾癬における病的Th17サブセットの増殖と分化	巖本 三壽					第14回乾癬とアトピー性皮膚炎を考える会	Dec-18
その他	乾癬におけるTh17細胞の動態と分化	巖本 三壽					トルツ学術講演会	Jun-17

昭和大学	部門名 薬剤学	職名 教授	氏名 中村 明弘
------	---------	-------	----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	Recent Advances in Biomarkers and Regenerative Medicine for Diabetic Neuropathy	FUJITA Yoshiaki MURAKAMI T NAKAMURA Akihiro	Int J Mol Sci.	22	5	2301		Feb-21

学術雑誌論文 (学外)	Effect of Disintegrants on Prolongation of Tablet Disintegration Induced by Immersion in Xanthan Gum-Containing Thickening Solution: Contribution of Disintegrant Interactions with Disintegration Fluids Disintegration Fluids.	SUGIURA Daisuke ONUKI Y FUJITA Yoshiaki NAKAMURA Akihiro HARADA Tsutomu	Chem Pharm Bull	68	11	1055		Nov-20
学術雑誌論文 (学外)	Effect of xanthan gum-based food thickeners on the dissolution profile of fluoroquinolones oral formulations	TAKAHASHI Nobuyuki FUJITA Yoshiaki TAKAHASHI Nanako NAKAMURA Akihiro HARADA Tsutomu	J Pharm Health Care Sci	6	2	25		Nov-20
学術雑誌論文 (学外)	A novel method to quantitatively evaluate slipperiness and frictional forces of solid oral dosage forms and to correlate these parameters with ease of swallowing	SHIMASAKI Maya 村山 信浩 藤田 吉明 中村 明弘 原田 努	J Drug Deliv Sci Technol	53		101141		Oct-19
学術雑誌論文 (学外)	Effect of Film Coating on Xanthan Gum Solution-induced Delays in the Disintegration and Dissolution of Tablets	EBATA Rei FUJITA Yoshiaki NAKAMURA Akihiro HARADA Tsutomu	医療薬学	45	4	182		Apr-19
会議発表 (論文・口頭)	6か月以上2歳未満の乳幼児における細粒剤およびシロップ剤を対照とした ミニタブレットの服用性と受容性の検討	鈴木(三井)奈緒 肥田 典子 神谷太郎 山崎 太義 宮崎 和城 齊藤 清美 齊藤 順平 山谷 明正 石川 洋一 中村 秀文 中村 明弘 原田 努					日本薬学会第36年会	May-21
会議発表 (論文・口頭)	Swallowability of mini-tablets in Japanese children aged 6-23 months : Results from an exploratory randomized crossover study	Nao Mitsui Noriko Hida Taro Kamiya Taigi Yamazaki Kazuki Miyazaki Kiyomi Saito Jumpei Saito Akimasa Yamatani Yoichi Ishikawa Akihiro Nakamura Tsutomu Harada Hidefumi Nakamura					13th conference of the European Paediatric Formulation Initiative	Sep-21
会議発表 (論文・口頭)	高齢心不全ポリファーマシー是正のための薬剤師の役割とチーム医療の実践〜循環器内科と薬剤部による共同研究としての取り組み〜	須永 登美子 横山 あずさ 中村 彰子 宮本 渚 渡辺 佐紀 辻内 美希 南雲 さくら 野木 彩夏 前澤 秀之 水上 拓也 江波戸 美緒 鈴木 洋 中村 明弘 渡邊 徹 佐々木 忠徳					第69回日本心臓病学会学術集会	Sep-21

昭和大学	部門名 薬物動態学	職名 教授	氏名 佐藤 均
------	-----------	-------	---------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	Associations among plasma concentrations of regorafenib and its metabolites, adverse events, and ABCG2 polymorphisms in patients with metastatic colorectal cancers.	KOBAYASHI Kazuo SUGIYAMA Erika SHINOZAKI E WAKATSUKI T TAJIMA Masataka KIDOKORO Hiyori AOYAMA T NAKANO Y KAWAKAMI K HASHIMOTO K SUENAGA M ICHIMURA T OGURA M CHIN K NAKAYAMA I OOKI A TAKAHARI D SUZUKI W YOKOKAWA T MINOWA Y HIRAOKA T SUZUKI K SATO Hitoshi HAMA T YAMAGUCHI K	Cancer Chemother Pharmacol	87	6	767		Jun-21
学術雑誌論文 (学外)	Effects of dosing frequency on the clinical efficacy of ampicillin/sulbactam in Japanese elderly patients with pneumonia: A single-center retrospective observational study.	SUZUKI Tomokazu SUGIYAMA Erika NOZAWA Kenji TAJIMA Masataka TAKAHASHI Kyoka YOSHII M SUZUKI H SATO VH SATO Hitoshi	Pharmacol Res Perspect	9	2	e00746		Apr-21
学術雑誌論文 (学外)	Nonlinear Disposition and Metabolic Interactions of Cannabidiol Through CYP3A Inhibition <i>In Vivo</i> in Rats.	NAGAO Michiru NAKANO Yukako TAJIMA Masataka SUGIYAMA Erika SATO VH INADA M SATO Hitoshi	Cannabis Cannabinoid Res	5	4	318		Dec-20
学術雑誌論文 (学外)	Development of a Novel Nanoemulsion Formulation to Improve Intestinal Absorption of Cannabidiol	NAKANO Yukako TAJIMA Masataka 杉山 恵理花 SATO Vilasinee Hirunpanich SATO Hitoshi	Med Cannabis Cannabinoids	2		35		Apr-19
学術雑誌論文 (学外)	Comparison of adverse events following injection of original or generic docetaxel for the treatment of breast cancer.	TAGAWA Nao SUGIYAMA Erika TAJIMA Masataka SASAKI Yasutsuna NAKAMURA Seigo OKUYAMA Hiromi SHIMIZU Hisanori SATO Vilasinee Hirunpanich SASAKI Tadanori SATO Hitoshi	Cancer Chemother Pharmacol	80	4	841		Oct-17
会議発表 (論文・口頭)	チオ硫酸銀錯体によるがん細胞選択的な抗腫瘍効果	太田 晃 田島 正教 森 一恵 杉山 恵理花 佐藤 均					第373回昭和大学学士会例会 (薬学部会主催)	Jun-21

昭和大学	部門名 衛生薬学	職名 教授	氏名 原俊太郎
------	----------	-------	---------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
------	---------	----	-----	---	---	-------	------------	------

学術雑誌論文 (学外)	Coordinated action of microsomal prostaglandin E synthase-1 and prostacyclin synthase on contact hypersensitivity.	OCHIAI Tsubasa SASAKI Yuka KUWATA Hiroshi NAKATANI Yoshihito YOKOYAMA Chieko HARA Shuntaro	Biochem Biophys Res Commun	546		124		Mar-21
学術雑誌論文 (学外)	Involvement of prostacyclin synthase in high-fat-diet-induced obesity.	SASAKI Yuka KUWATA Hiroshi AKATSU Moe YAMAKAWA Yuri OCHIAI Tsubasa YODA Emiko NAKATANI Yoshihito YOKOYAMA Chieko HARA Shuntaro	Prostaglandins Other Lipid Mediat	153		106523		Dec-20
学術雑誌論文 (学外)	Ferroptosis driven by radical oxidation of n-6 polyunsaturated fatty acids mediates acetaminophen-induced acute liver failure	YAMADA Naoya KARASAWA Tadayoshi KIMURA Hiroaki WATANABE Sachiko KOMADA Takanori KAMARA Ryo SAMPILVANJIL Ariunaa ITO Junya NAKAGAWA Kiyotaka KUWATA Hiroshi HARA Shuntaro MIZUTA Koichi SAKUMA Yasunaru SATA Naohiro TAKAHASHI Masafumi	Cell Death Dis	11	2	144		Feb-20
学術雑誌論文 (学外)	Long-chain acyl-CoA synthetase 4 participates in the formation of highly unsaturated fatty acid-containing phospholipids in murine macrophages.	KUWATA Hiroshi NAKATANI Eriko SHIMBARA-MATSUBAYASHI Satoko ISHIKAWA Fumihiro SHIBANUMA Motoko SASAKI Yuka YODA Emiko NAKATANI Yoshihito HARA Shuntaro	Biochim Biophys Acta Mol Cell Biol Lipids	1864	11	1606		Nov-19
学術雑誌論文 (学外)	Calcium-independent phospholipase A2y (iPLA2y) and its roles in cellular functions and diseases.	HARA Shuntaro YODA Emiko SASAKI Yuka NAKATANI Yoshihito KUWATA Hiroshi	Biochim Biophys Acta Mol Cell Biol Lipids	1864	6	861		Jun-19
会議発表 (論文・口頭)	高度不飽和脂肪酸の活性化の阻害が炎症応答に及ぼす影響	桑田 浩 原 俊太郎					第21回 Pharmacology-Hematology シンポジウム	May-21

昭和大学	部門名 社会薬学	職名 教授	氏名 岸本桂子
------	----------	-------	---------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	服用薬に対する態度とヘルスリテラシーがノンアドヒアランスへ及ぼす影響に関する実証研究	櫻井 秀彦 武井 唯 山崎 颯太郎 森藤 ちひろ 岸本 桂子	日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会誌					in press (Sep-21 Accept)
図書	セルフメディケーション／一般医薬品・漢方薬・保健機能食品(臨床薬学テキストシリーズ)	下平 秀夫 [ほか] 岸本 桂子						Sep-21
会議発表 (論文・口頭)	GISを活用した北海道における地域薬局分布に関する研究	石坂 碧衣 浅川 紗良 櫻井 秀彦 岸本 桂子 古田 精一					日本アブライド・セラピューティクス(実践薬物治療)学会第11回学術大会 日本社会薬学会第40年会合同大会	Sep-21
会議発表 (論文・口頭)	スイッチOTC医薬品として販売されている経皮吸収型鎮痛消炎貼付剤の不適切な使用に影響する因子の解析	赤川(佐々木) 圭子 狩野 小町 熊木 良太 岸本 桂子					日本アブライド・セラピューティクス(実践薬物治療)学会第11回学術大会 日本社会薬学会第39年会合同大会	Sep-21
会議発表 (論文・口頭)	ネット販売における指定第2類医薬品の注意喚起に関する調査	浅岡 宝花 熊木 良太 赤川(佐々木) 圭子 岸本 桂子					日本アブライド・セラピューティクス(実践薬物治療)学会第11回学術大会 日本社会薬学会第39年会合同大会	Sep-21

会議発表 (論文・口頭)	ヘルスリテラシー概念に着目した服薬アドヒアランスに対する影響要因の再検討	櫻井 秀彦 森藤 ちひろ 岸本 桂子					日本アブライド・セラピューティクス(実践薬物治療)学会第11回学術大会 日本社会薬学会第42年合同大会	Sep-21
会議発表 (論文・口頭)	子供に抗菌薬が処方されなかったことへ納得できない母親の思いに影響する要因の検討	川村 ひとみ 岸本 桂子					日本アブライド・セラピューティクス(実践薬物治療)学会第11回学術大会 日本社会薬学会第39年合同大会	Sep-21
会議発表 (論文・口頭)	薬局における患者の薬剤師への情報提供の促進要因及び患者の情報提供積極性の評価方法の検討	岸本 桂子 熊木 良太 清塚 千夏 櫻井 秀彦					日本アブライド・セラピューティクス(実践薬物治療)学会第11回学術大会 日本社会薬学会第42年合同大会	Sep-21
図書	医療者のための質的研究はじめの一步!! 数値で表しきれないデータを読み解く	榎田 めぐみ 岸本 桂子 今福 輪太郎						Jul-21
学術雑誌論文 (学外)	Effectiveness of a camera support system for the prevention of occupational anti-cancer drug exposure.	KISHIMOTO Makoto TAKUMA Chogahara KISHIMOTO Keiko KURATA Naomi	社会薬学	40	1	12		Jun-21
会議発表 (論文・口頭)	薬局薬剤師が減薬提案したくてもできない要因とその解消方法に関する調査	熊木 良太 後藤 広樹 赤川 圭子 後藤 知良 岸本 桂子					第5回日本老年薬学会学術大会	May-21
学術雑誌論文 (学外)	回復期リハビリテーション病棟における機能的自立度評価表(FIM)に影響する薬学的要因の探索ー決定木分析と重回帰分析を使用してー	大坪 博子 岸本 桂子 平野 偉与 中野 仁 板谷 一宏 熊木 良太 赤川 圭子 大隅 寛之	医療薬学	47	2	96		Feb-21
図書	今日のOTC薬:解説と便覧 改訂第5版	岸本 桂子 木内 祐二 赤川 圭子						Feb-21
学術雑誌論文 (学外)	ゲル化コーティング製剤の服用性の評価	鈴木 奈緒 秋山 滋男 岸本 桂子 原田 努 倉田 なおみ	日本摂食・嚥下リハビリテーション学会雑誌	24	3	231		Dec-20
学術雑誌論文 (学外)	新規格経管栄養器具(ISO 80369-3)における細菌汚染の経時変化の検証	古屋 宏章 石野 敬子 熊木 良太 岸本 桂子 倉田 なおみ	学会誌JSPEN	2	5	316		Nov-20
図書	薬学総論・衛生薬学(スタンダード薬学シリーズII:9. 薬学演習:3)	木内 祐二 岸本 桂子 沼澤 聡 原 俊太郎 藤原 久登						Nov-20
学術雑誌論文 (学外)	患者・生活者は、医薬品についてインターネット上で、どのような情報を求めているか?	川田 愛 岸本 桂子	社会薬学	39	1	12		Jun-20
図書	NEXT栄養薬学・薬理学入門 第2版(栄養科学シリーズNEXT)	岸本 桂子						Mar-20
学術雑誌論文 (学外)	Survey Of pharmacist services and status of drug administration to patients with dysphagia in convalescence rehabilitation wards	OHTSUBO Hiroko KISHIMOTO Keiko KUMAKI Ryota AKAGAWA Keiko KURATA Naomi	Jap J Compr Rehabil Sci	10	2019	108		Dec-19
学術雑誌論文 (学外)	意図的/非意図的中断に着目した服薬アドヒアランスの影響要因に関する実証研究	櫻井 秀彦 岸本 桂子 森藤 ちひろ	日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会誌	16	2	4		Oct-18
学術雑誌論文 (学外)	OTC内服薬テレビCMの物語構造と内包するメッセージ 質的分析によるアプローチ	岸本 桂子 大渡 康平 福島 紀子	社会薬学	37	1	38		Jun-18
学術雑誌論文 (学外)	スマートフォン向けフリーマーケットアプリケーションにおける医薬品出品の現状と違反報告への対応	岸本 桂子 竹内 智重 福島 紀子	YAKUGAKU ZASSHI	137	12	1533		Dec-17
学術雑誌論文 (学外)	国民の院外処方賛否に関する評価の視点ー混合研究法を用いてー	男全 恵里花 岸本 桂子 福島 紀子 櫻井 秀彦	社会薬学	36	2	78		Dec-17
学術雑誌論文 (学外)	中学生に対する医薬品の適正使用教育と薬物乱用防止教育の在り方と多職種からの視点	城山 今日子 岸本 桂子 小林 典子 山浦 克典 福島 紀子	社会薬学	36	1	2		Jun-17

昭和大学	部門名 薬物治療学	職名 教授	氏名 向後麻里
------	-----------	-------	---------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
------	---------	----	-----	---	---	-------	------------	------

学術雑誌論文 (学外)	Prognostic Index for Survival in Patients with Advanced Non-Small-Cell Lung Cancer Treated with Third-Generation Agents.	KOGO Mari SUNAGA Tomiko NAKAMURA Shoko AKITA Takahiro KURIHARA Tatsuya SHIKAMA Yusuke NAKAJIMA Hiroaki TOBE Takashi YONEYAMA Keiichiro KIUCHI Yuji	Chemotherapy	62	4	239		Jun-17
学術雑誌論文 (学外)	The Association between Fever and Prognosis in Lung Cancer Patients with Bone Metastases Receiving Zoledronic Acid.	SUNAGA Tomiko SHIMAMOTO Kazushi NAKAMURA Shoko TAKAHASHI Noriko HIGASHINO Mayumi HOZUMI Tomomi MATSUI Mitsuki NAGATANI Akiko KOKUBU Fumio KOGO Mari SASAKI Tadanori	Chemotherapy	62	6	327		Jun-17
学術雑誌論文 (学外)	Effects of riluzole on spinal seizure-like activity in the brainstem-spinal cord preparation of newborn rat.	LIN Shih Tien OHBAYASHI Masayuki YAMAMOTO Toshinori ONIMARU Hiroshi KOGO Mari	Neurosci Res	125		46		Dec-17
学術雑誌論文 (学外)	The exploration of population pharmacokinetic model for meropenem in augmented renal clearance and investigation of optimum setting of dose	TAMATSUKURI Tatsuro OHBAYASHI Masayuki KOHYAMA Noriko KOBAYASHI Yasuna YAMAMOTO Toshinori FUKUDA Kenichiro NAKAMURA Shunsuke MIYAKE Yasufumi DOHI Kenji KOGO Mari	J Infect Chemother	24	10	834		Oct-18
学術雑誌論文 (学内)	Risk factors for initial antibiotic treatment failure in patients with aspiration pneumonia	FUKUDA Moemi KOHYAMA Noriko MAEDA Masayuki KAWASAKI Tsutomu YAMAMOTO Toshinori KOGO Mari	Showa Univ J Med Sci	33	2	55		Jun-21

昭和大学	部門名 天然医薬治療学	職名 教授	氏名 川添和義
------	-------------	-------	---------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	抗老化を目指した漢方薬の評価	高松 智 小池 佑果 川添 和義	アグリバイオ	5	9	98		Jul-21
学術雑誌論文 (学外)	腎疾患、透析療法と漢方薬	川添 和義	日本透析医会雑誌	35	1	153		Apr-20
学術雑誌論文 (学外)	What is the correct adjustment protocol for serum creatinine value to reflect renal function in bedridden elderly patients?	OTANI Tomoko KASE Yasuko KUNITOMO Kazufumi SHIMOOKA Kazumi KAWAZOE Kazuyoshi SATO Youichi YAMAUCHI Aiko	日本腎臓病薬物療法学会誌	7	1	3		Jun-18
学術雑誌論文 (学外)	Helianthus tuberosus (Jerusalem artichoke) tubers improve glucose tolerance and hepatic lipid profile in rats fed a high-fat diet.	OKADA Naoto KOBAYASHI Shinya MORIYAMA Kouta MIYATAKA Kohsuke ABE Shinji SATO Chiemi KAWAZOE Kazuyoshi	Asian Pac J Trop Med	10	5	439		May-17
図書	症状から読み解く 薬局で買える漢方薬のトリセツ	川添 和義						May-17
会議発表 (論文・口頭)	中国におけるCOVID-19治療に関連する処方と生薬	川添 和義					第38回 和漢医薬学会学術大会 (シンポジウム3)	Sep-21
会議発表 (論文・口頭)	潜在意味解析LSIを用いた非階層的クラスタリングによる医療用医薬品添付文書の分類	伊東 理絵 島田 洋輔 大塚 裕太 後藤 了 真野 泰成 川添 和義					第23回 日本医薬品情報学会総会・学術大会	Jun-21
会議発表 (論文・口頭)	トロンビン活性を抑制した治打撲一方の成分	小池 佑果 高松 智 川添 和義					第43回日本血栓止血学会学術集会	May-21

昭和大学	部門名 感染制御薬学	職名 教授	氏名 石野敬子
------	------------	-------	---------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	Impact of the multidisciplinary antimicrobial stewardship team intervention focusing on carbapenem de-escalation: A single-centre and interrupted time series analysis	SUZUKI Ayako MAEDA Masayuki YOKOE Takuya HASHIGUCHI Miyuki TOGASHI Mayumi ISHINO Keiko	Int J Clin Pract	75	3	e13693		Mar-21
学術雑誌論文 (学外)	新型コロナウイルスと分析化学 医療系大学の基礎系教員の支援により開設した“新型コロナウイルス対応 PCR センター”の活動	木内 祐二 小山田 英人 石野敬子 石川 文博 宇高 結子	ぶんせき		552	485		Dec-20

学術雑誌論文 (学外)	新規格経管栄養器具(ISO 80369-3)における細菌汚染の経時的変化の検証	古屋 宏章 石野 敬子 熊木 良太 岸本 桂子 倉田 なおみ	JSPEN	2	5	316		Nov-20
学術雑誌論文 (学外)	Epidemiology and risk factors for mortality in bloodstream infections: A single-center retrospective study in Japan.	HATTORI Haruka MAEDA Masayuki NAGATOMO Yasuhiro TAKUMA Takahiro NIKI Yoshihito NAITO Yuika SASAKI Tadanori ISHINO Keiko	Am J Infect Control	46	12	e75		Dec-18
学術雑誌論文 (学外)	血液培養陽性患者に対する抗菌薬適正使用支援プログラムに基づく早期介入のアウトカム評価—後ろ向き準実験的研究—	前田 真之 詫間 隆博 内藤 結花 宇賀神 和久 寺田 真悠子 小司 久志 関 はるか 石野 敬子 二木 芳人	日本化学療法学会雑誌	65	5	751		Sep-17
会議発表 (論文・口頭)	経鼻胃管、胃瘻カテーテルの真菌汚染状況	石野 敬子 稲葉 大輝 江副 紫音 古屋 宏章 倉田 なおみ					第65回日本医真菌学会総会・学術集会	Oct-21
会議発表 (論文・口頭)	学病院付属PCRセンターにおける新型コロナウイルス検出例の分子疫学的解析	石川 文博 石野 敬子 小山田 英人 宇高 結子 時松 一成 木内 裕二					第70回日本感染症学会東日本地方学術集会	Oct-21
会議発表 (論文・口頭)	抗MRSA薬使用量推移とそれぞれの 耐性 Staphylococci と Enterococci 新規検出の推移	岡富 大輔 山西 紀子 山本 浩之 山水 有紀子 片山 雄太 松田 裕之 石野 敬子 二木 芳人					第36回日本環境感染症学会総会・学術集会	Sep-21
会議発表 (論文・口頭)	リネゾリド使用量低下によるリネゾリド耐性 Staphylococcus capitis の新規検出減少と薬剤費削減効果	岡富 大輔 山西 紀子 荒木 裕美 高岡 俊介 山本 浩之 芝美代子 山水 有紀子 片山 雄太 谷口 雅敏 松田 裕之 石野 敬子 福地 邦彦 二木 芳人					MRSA フォーラム2020	Jul-21
会議発表 (論文・口頭)	新規誤接続防止コネクタ (ISO 80369-3) における栄養チューブ接合部の洗浄方法に関する検討 (ワークショップ03 新経腸栄養コネクタへの対応と工夫)	古屋 宏章 倉田 なおみ 石野 敬子 岸本 真					第36回日本臨床栄養代謝学会学術集会 (JSPEN2021)	Jul-21
会議発表 (論文・口頭)	新規誤接続防止コネクタ (ISO80365-3) における栄養チューブ接合部の洗浄方法に関する検討	古屋 宏章 倉田 なおみ 石野 敬子 岸本 真					第5回日本老年薬学会学術大会	May-21

昭和大学	部門名 がんゲノム医療薬学	職名 教授	氏名 藤田健一
------	---------------	-------	---------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	Minimal contribution of the hepatic uptake transporter OATP1B1 to the inter-individual variability in SN-38 pharmacokinetics in cancer patients without severe renal failure.	TSUBOYA Ayako KUBOTA Yutaro ISHIDA Hiroo OHKUMA Ryotaro ISHIGURO Tomoyuki HIRASAWA Yuya ARIIZUMI Hirotatsu TSUNODA Takuya SASAKI Yasutsuna MATSUMOTO Natsumi KONDO Yusuke TOMODA Yukana KUSUHARA Hiroyuki FUJITA Ken-ichi	Cancer Chemother Pharmacol	88	3	543		Jun-21
その他	抗悪性腫瘍薬の効果・毒性と遊離形血漿中濃度 (シンポジウム)	藤田 健一					第28回HAB研究機構学術年会	Jun-21
会議発表 (論文・口頭)	Capecitabineの加水分解反応における小胞体膜輸送体OAT2の役割	石田 尚輝 荒川 大 松本 奈都美 藤田 健一 加藤 将夫					日本薬剤学会第36年会	May-21
会議発表 (論文・口頭)	SN-38の体内動態とOATP1B1の機能:重篤な腎機能障害のない患者において	藤田 健一 久保田 祐太郎 石田 博雄 坪谷 綾子 角田 卓也 松本 奈都美 楠原 洋之 佐々木 康綱					第18回日本臨床腫瘍学会学術集会 (JSMO2021)	Feb-21
学術雑誌論文 (学外)	Higher systemic exposure to unbound active metabolites of regorafenib is associated with short progression-free survival in colorectal cancer patients	KUBOTA Yutaro FUJITA Ken-ichi TAKAHASHI Takehiro SUNAKAWA Yu ISHIDA Hiroo HAMADA Kazuyuki ICHIKAWA Wataru TSUNODA Takuya SHIMADA Kazuhiro MASUO Yusuke KATO Yukio SASAKI Yasutsuna	Clin Pharmacol Ther	108	3	586		Sep-20

学術雑誌論文 (学外)	Variants of carboxylesterase 1 have no impact on capecitabine pharmacokinetics and toxicity in capecitabine plus oxaliplatin treated-colorectal cancer patients	MATSUMOTO Natsumi KUBOTA Yutaro ISHIDA Hiroo SEKIDO Masae OHKUMA Ryotaro ISHIGURO Tomoyuki HIRASAWA Yuya ARIIZUMI Hirotsugu TSUNODA Takuya IKUSUE Toshikazu KOBAYASHI Kouji HISAMATSU Atsushi TOSHIMA Hirokazu SHIMADA Ken FUJITA Ken-ichi	Cancer Chemother Pharmacol	85	6	1119		Jun-20
学術雑誌論文 (学外)	Rabeprazole intake does not affect systemic exposure to capecitabine and its metabolites, 5'-deoxy-5-fluorocytidine, 5'-deoxy-5-fluorouridine, and 5-fluorouracil	SEKIDO Masae FUJITA Ken-ichi KUBOTA Yutaro ISHIDA Hiroo TAKAHASHI Takehiro OHKUMA Ryotaro TSUNODA Takuya ISHIKAWA Fumihiro SHIBANUMA Motoko SASAKI Yasutsuna	Cancer Chemother Pharmacol	83	6	1127		Jun-19
学術雑誌論文 (学外)	Decreased Disposition of Anticancer Drugs Predominantly Eliminated via the Liver in Patients with Renal Failure	FUJITA Ken-ichi MATSUMOTO Natsumi ISHIDA Hiroo KUBOTA Yutaro IWAI Shinichi SHIBANUMA Motoko KATO Yukio	Curr Drug Metab	20	5	361		Mar-19

昭和大学	薬学部臨床薬学講座臨床栄養代謝学部門	教授	千葉正博
------	--------------------	----	------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
会議発表 (論文・口頭)	腸管不全患者への垣根を超えた治療—インタープロフェッショナル・コラボレーション— (学術セミナー-09)	千葉 正博					第36回日本臨床栄養代謝学会学術集会	Jul-21
図書	日本臨床栄養代謝学会JSPENテキストブック	千葉 正博				571		Apr-21
学術雑誌論文 (学外)	Ethanol lock therapy in pediatric patients: A multicenter prospective study	CHIBA Masahiro YONEKURA Takeo KAJI Tatsuru AMAE Shintaro TAZUKE Yuko OOWARI Mitsugu OBANA Kazuko NAKANO Miwako KURODA Tasuo FUKUMOTO Kouzi YAMANE Yusuke YOSHINO Hiroaki HEBIGUCHI Tatsuzo TOKI Akira	Pediatr Int	62	3	379		Mar-21
学術雑誌論文 (学外)	長期中心静脈カテーテル患者のエタノールロック療法	千葉 正博 米倉 竹夫 加治 建 天江 新太郎 田附 裕子 大割 貢 尾花 和子 中野 美和子 黒田 達夫 福本 弘二 山根 裕介 吉野 裕顕 蛇口 達造 土岐 彰 日本小児外科代謝研究会中心静脈カテーテルエタノールロック療法ワーキンググループ	小児外科	52	1	77		Jan-20
学術雑誌論文 (学外)	短小腸患児への経口用ω3系油脂高含有製剤の有用性	千葉 正博 土岐 彰 杉山 彰英 菅野 丈夫 佐藤 千秋 十良澤 勝雄 八木 仁史 添野 民江	日本静脈経腸栄養学会雑誌	32	3	1207		Jul-17
学術雑誌論文 (学外)	Markers of enteral adaptation in pediatric short bowel syndrome.	CHIBA Masahiro SANADA Yutaka TOKI Akira	Pediatr Int	59	8	911		May-17

昭和大学	部門名 教育実践学部門	職名 准教授	氏名 田中佐知子
------	-------------	--------	----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	参加型演習科目「臨床心理学の活用」の遠隔授業での実施 -オンラインを活用した教育システムの構築-	田中 佐知子 加藤 里奈 小林 如乃 小林 文 山本 仁美	薬学教育	5		2020-073		Aug-21
学術雑誌論文 (学外)	Rubric Assessment for Pharmacotherapy in Spiral Curriculum: Development and Usefulness Evaluation	HANDA Satoko KOHYAMA Noriko KURIHARA Tatsuya SUGIYAMA Erika TANAKA Sachiko YAMAMOTO Hitomi MIYASAKA Yoshiyuki KOGO Mari KATO Yasuhisa NAKAMURA Akihiro YAMAMOTO Toshinori	薬学雑誌	140	12	1441		Dec-21
学術雑誌論文 (学内)	薬局薬剤師による小児在宅医療促進への課題と行動目標の提案	小林 文 篠原 大志 佐口 健一 加藤 里奈 田中 佐知子	昭和学士会雑誌	80	1	75		Jun-20
学術雑誌論文 (学外)	質的研究から見えるもの 質的研究により学修成果を捉える	榎田 めぐみ 田中 佐知子 佐口 健一	薬学教育	3		45		Jan-20

学術雑誌論文 (学外)	Medication Counseling in English for Japanese Pharmacy Students	KOBAYASHI Aya YAZAWA Kinu SAGUCHI Kenichi TANAKA Sachiko	JAS4QoL	4	3	1		Sep-18
会議発表 (論文・口頭)	オンラインを活用した教育システムを効果的に実施するための教員・学生支援体制の構築	加藤 里奈 山本 仁美 小林 文 田中 佐知子					第6回日本薬学教育学会大会	Aug-21
会議発表 (論文・口頭)	薬剤師から見た薬剤師養成教育の評価(第2報) —全国薬剤師アンケートによる旧4年制課程と6年制課程との比較—	小林 文 加藤 里奈 山本 仁美 田中 佐知子					第6回日本薬学教育学会大会	Aug-21
会議発表 (論文・口頭)	臨床研修薬剤師のプロフェッショナリズム評価-P-MEX評価と自己省察レポートの解析-	竹安 葵 加藤 里奈 小林 文 山本 仁美 北原 加奈之 百 賢二 佐々木 忠徳 田中 佐知子					第65回日本薬学会関東支部大会	Sep-21

昭和大学	部門名 医薬化学	職名 准教授	氏名 永田和弘
------	----------	--------	---------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	Synthesis and Catalytic Activities of 3-Decyl-β-proline for Michael Reactions in Water without an Organic Solvent	永田 和弘 NAKAGAWA Chihiro YOKOYAMA Wakana USUI Haruka MOCHIZUKI Rikako KANEMITSU Takuya MIYAZAKI Michiko ITOHI Takashi	ACS Omega	6		19642		Jul-21
学術雑誌論文 (学外)	Asymmetric Michael addition of malonic diesters to acrylates by phase-transfer catalysis toward the construction of quaternary stereogenic α-carbons	ODANAKA Yuki KANEMITSU Takuya IWASAKI Kanako MOCHIZUKI Yukiko MIYAZAKI Michiko NAGATA Kazuhiro KATO Masaru ITOHI Takashi	Tetrahedron	75	2	209		Jan-19
図書	クライン有機化学問題の解き方(日本語版)	伊藤 喬 稲垣 昌博 太田 公規 金光 卓也 小林 広和 永田 和弘 平井 康昭 福原 潔 前川 智弘 宮崎 倫子 山本 雅人						Mar-20
図書	スタンダード薬学シリーズII-9 薬学演習 II. 基礎科学	分担						2021-刊行予定
学会発表	有機分子触媒を用いたVibralactoneの不斉全合成	廣瀬瑠記 金光卓也 宮崎倫子 永田和弘 伊藤 喬					日本薬学会第141年会	2021年3月

昭和大学	部門名 医薬化学	職名 准教授	氏名 太田公規
------	----------	--------	---------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
会議発表 (論文・口頭)	ホウ素を枢要とした革新的創薬	太田 公規					日本薬学会第142年会	Mar-22
学術雑誌論文 (学外)	Antidepressant effect of BE360, a new selective estrogen receptor modulator, activated via CREB/BDNF, Bcl-2 signaling pathways in ovariectomized mice	SAKUMA Wakana NAKAGAWASAI Osamu NEMOTO Wataru ODAIRA Takayo OGAWA Takumi OHTA Kiminori ENDO Yasuyuki TAN-NO Koichi	Behav Brain Res	393		112764		Sep-20
図書	クライン有機化学問題の解き方(日本語版)	伊藤 喬 稲垣 昌博 太田 公規 金光 卓也 小林 広和 永田 和弘 平井 康昭 福原 潔 前川 智弘 宮崎 倫子 山本 雅人						Mar-20
学術雑誌論文 (学外)	Design and Synthesis of Novel Breast Cancer Therapeutic Drug Candidates Based upon the Hydrophobic Feedback Approach of Antiestrogens	OHTA Kiminori KAISE Asako TAGUCHI Fumi AOTO Sayaka OGAWA Takumi ENDO Yasuyuki	Molecules	24	21	3966		Nov-19
学術雑誌論文 (学外)	An automated microliter-scale high-throughput screening system (MSHTS) for real-time monitoring of protein aggregation using quantum-dot nanopores	SASAKI Rina TAINAKA Reina ANDO Yuichi HASHI Yurika DEEPAK Hadya V SUGA Yoshiko MURAI Yuta ANETAI Masaki MONDE Kenji OHTA Kiminori ITO Ikuko KIKUCHI Haruhisa OSHIMA Yoshiteru ENDO Yasuyuki NAKAO Hitomi SAKONO Masafumi UWAI Koji TOKURAKU Kiyotaka	Sci Rep	9	1	2587		Feb-19
学術雑誌論文 (学外)	Novel androgen receptor full antagonists: Design, synthesis, and a docking study of glycerol and aminoglycerol derivatives that contain p-?carborane cages	KAISE Asako OHTA Kiminori FUJII Shinya ODA Akifumi GOTO Tokuhito ENDO Yasuyuki	Bioorg Med Chem	26	13	3805		Jul-18

昭和大学	部門名 生物化学部門	職名 准教授	氏名 小濱孝士
------	------------	--------	---------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
------	---------	----	-----	---	---	-------	------------	------

会議発表 (論文・口頭)	生体内酸化LDL研究の進展	小瀧 孝士 板部 洋之					第94回日本生化学会大会	Nov-21
会議発表 (論文・口頭)	感染症と酸化リポタンパク質	板部 洋之 小瀧 孝士					第94回日本生化学会大会	Nov-21
会議発表 (論文・口頭)	好中球細胞外トラップ形成におけるlysoPCの関与	小瀧 孝士 澤田 直子 牧山 智彦 板部 洋之					第63回日本脂質生化学会	Jun-21
会議発表 (論文・口頭)	細胞内脂肪滴形成機構における小胞出芽制御因子Sar1の影響	牧山 智彦 小瀧 孝士 板部 洋之					第63回脂質生化学会	Jun-21
会議発表 (論文・口頭)	好中球細胞外トラップ：感染制御から血管疾患の増悪へ	小瀧 孝士 板部 洋之					第21回 Pharmacology-Hematology シンポジウム	May-21
学術雑誌論文 (学外)	Structure and dynamics of oxidized lipoproteins in vivo: roles of high-density lipoprotein.	ITABE Hiroyuki SAWADA Naoko MAKIYAMA Tomohiko OBAMA Takashi	Biomedicines	9	6	655		Jun-21
学術雑誌論文 (学外)	Neutrophils as a novel target of modified low-density lipoproteins and an accelerator of cardiovascular diseases.	OBAMA Takashi ITABE Hiroyuki	Int J Mol Sci	21	21	8312		Nov-20
学術雑誌論文 (学外)	Circulating Oxidized LDL, Increased in Patients With Acute Myocardial Infarction, Is Accompanied by Heavily Modified HDL	SAWADA Naoko OBAMA Takashi KOBAYASHI Shinji TAKAKI Takashi IWAMOTO Sanju AIUCHI Toshihiro KATO Rina KIKUCHI Masaki HAMAZAKI Yuji ITABE Hiroyuki	J Lipid Res	61	6	816		Jun-20
学術雑誌論文 (学外)	Cooperative action of oxidized low-density lipoproteins and neutrophils on endothelial inflammatory responses through neutrophil extracellular trap formation	OBAMA Takashi OHINATA Hitomi TAKAKI Takashi IWAMOTO Sanju SAWADA Naoko AIUCHI Toshihiro KATO Rina ITABE Hiroyuki	Front Immunol	10		1899		Aug-19
学術雑誌論文 (学外)	Temporal and spatial changes of peroxiredoxin 2 levels in aortic media at very early stages of atherosclerotic lesion formation in apoE-knockout mice.	KATO Rina HAYASHI Masataka AIUCHI Toshihiro SAWADA Naoko OBAMA Takashi ITABE Hiroyuki	Free Radic Biol Med	130		348		Jan-19

昭和大学	部門名 毒物学	職名 准教授	氏名 芦野 隆
------	---------	--------	---------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	Inorganic polyphosphate modulates leukocyte accumulation and vascular endothelial cell permeability and ameliorates cecal ligation and puncture-induced lethality	YAMAZAKI Yoshitaka TERASHIMA-HASEGAWA Mikako MANABE Atsufumi SHIBA Toshikazu KAWAZOE Yumi ASHINO Takashi HOSONUMA Masahiro NUMAZAWA Satoshi	Fundam Toxicol Sci	8	3	89		Jul-21
会議発表 (論文・口頭)	血小板由来増殖因子による血管平滑筋細胞遊走におけるサルフェンイオウの役割	芦野 隆 石井 俊一 沼澤 聡					第48回日本毒性学会学術年会	Jul-21
学術雑誌論文 (学外)	Reactive sulfur species inhibit the migration of PDGF-treated vascular smooth muscle cells by blocking the reactive oxygen species-regulated Akt signaling pathway.	ISHII Shunichi ASHINO Takashi FUJIMORI Hiroki NUMAZAWA Satoshi	Free Radic Res	55	2	186		Feb-21
学術雑誌論文 (学外)	Nrf2 Antioxidative System is Involved in Cytochrome P450 Gene Expression and Activity: A Delay in Pentobarbital Metabolism in Nrf2-Deficient Mice.	ASHINO Takashi YAMAMOTO Masayuki NUMAZAWA Satoshi	Drug Metab Dispos	48	8	673		Aug-20
学術雑誌論文 (学外)	Inorganic polyphosphate protects against lipopolysaccharide-induced lethality and tissue injury through regulation of macrophage recruitment.	TERASHIMA-HASEGAWA Mikako ASHINO Takashi KAWAZOE Yumi SHIBA Toshikazu MANABE Atsufumi NUMAZAWA Satoshi	Biochem Pharmacol	159		96		Jan-19
学術雑誌論文 (学外)	Copper transporter ATP7A interacts with IQGAP1, a Rac1 binding scaffolding protein: role in PDGF-induced VSMC migration and vascular remodeling.	ASHINO Takashi KOHNO T. SUDHAHAR V. ASH D. USHIO-FUKAI M. FUKAI T.	Am J Physiol Cell Physiol	315	6	C850		Dec-18

昭和大学	部門名 薬理学部門	職名 准教授	氏名 柴田佳太
------	-----------	--------	---------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	Potent efficacy of Stachybotrys microspora triphenyl phenol-7, a small molecule having anti-inflammatory and antioxidant activities, in a mouse model of acute kidney injury.	SHIBATA Keita HASHIMOTO Terumasa HASUMI Keiji NOBE Koji	Eur J Pharmacol					in press

学術雑誌論文 (学外)	Effect of the simple suspension method and crushing method on the pharmacokinetics of temocapril combined with magnesium oxide.	MACHINO Hanami HIDA Noriko HARADA Tsutomu SHIBATA Keita SAMBE Takehiko RYU Kakei MIZUKAMI Takuya YAMAZAKI Taigi MOROHOSHI Hokuto MURAYAMA Nobuhiro TAKENOSHITA Sachiko UCHIDA Naoki KURATA Naomi	Jpn J Pharm Health Care Sci					in press
学術雑誌論文 (学外)	Acetic acid treatment causes renal inflammation and chronic kidney disease in mice.	HASHIMOTO Terumasa SHIBATA Keita HONDA Kazuo NOBE Koji	J Pharmacol Sci	146	3	160		Jul-21
学術雑誌論文 (学外)	SMTP-44D improves diabetic neuropathy symptoms in mice through its antioxidant and anti-inflammatory activities	SHINOUCHI Ryosuke SHIBATA Keita HASHIMOTO Terumasa JONO Shiori HASUMI Keiji NOBE Koji	Pharmacol Res Perspect	8	6	e00648		Dec-20
学術雑誌論文 (学外)	Thrombolytic Therapy for Acute Ischemic Stroke: Past and Future	SHIBATA Keita HASHIMOTO Terumasa MIYAZAKI Takuro MIYAZAKI Akira NOBE Koji	Curr Pharm Des	25	3	242		Jun-19
会議発表 (論文・口頭)	化学療法誘発性末梢神経障害 (CIPN) モデルマウスを用いたハンドセラピー施術による神経障害改善効果の解明	篠内 良介 佐々木 晶子 柴田 佳太 古林 創史 芦野 隆 坂井 信裕 山口 真帆 佐藤 ゆり絵 細沼 雅弘 高木 孝士 辻 まゆみ 野部 浩司 木内 祐二					第53回日本臨床分子形態学会総会・学術集会	Oct-21
会議発表 (論文・口頭)	SMTP-44Dの抗酸化作用および抗炎症作用を介した糖尿病神経障害に対する作用メカニズムの検討	篠内 良介 柴田 佳太 城野 詩織 橋本 光正 蓮見 恵司 野部 浩司					第36回日本糖尿病合併症学会	Oct-21

昭和大学	部門名 生理・病態学	職名 准教授	氏名 谷岡 利裕
------	------------	--------	----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
会議発表 (論文・口頭)	単球由来Delta-1誘導ランゲルハンス細胞様樹状細胞は乾癬病態に関連するサイトカインを産生する	高橋 玲 巖本 三壽 谷岡 利裕 前田 耕平					第36回日本乾癬学会学術大会	Sep-21
学術雑誌論文 (学内)	A profile of pro-inflammatory cytokine expression in human Delta-1-induced monocyte-derived Langerhans cell-like dendritic cells after stimulation with Toll-like receptor ligands	TAKAHASHI Rei IWAMOTO Sanju TANIOKA Toshihiro MAEDA Kohei	Showa Univ J Med Sci	33	3	67		Sep-21
学術雑誌論文 (学外)	The Ang III/AT2R Pathway Enhances Glucose Uptake by Improving GLUT1 Expression in 3T3-L1 Adipocytes.	TANIOKA Toshihiro MAEDA Kohei TAKAHASHI Rei IWAMOTO Sanju	Biol Pharm Bull	44	7	1014		Jul-21
学術雑誌論文 (学外)	急性期脳梗塞患者におけるアルゴトロバン投与中の症状悪化と投与方法の関連性についての検討	須永 登美子 東野 真弓 木村 綾沙 馬場 康彦 谷岡 利裕 渡邊 徹 佐々木 忠徳	薬学雑誌	140	11	1373		Nov-20
図書	症候学的病態生理学 症候学的に病態生理・トリージ・セルフメディケーションを考える	岩井 信市 巖本 三壽 木内 祐二 神山 紀子 谷岡 利裕 橋本 光正 稗田 宗太郎						Aug-20
学術雑誌論文 (学内)	Regulatory Effect of IL-4 on Early Th17 Differentiation from Naive T Cells into Stem Cell Memory Th17 Precursors via Modulation of CD31 and CCR6 Expression	MAEDA Kohei TANIOKA Toshihiro IWAMOTO Sanju	Showa Univ J Med Sci	32	2	135		Jul-20
会議発表 (論文・口頭)	A profile of pro-inflammatory cytokine expression in human Delta-1-induced monocyte-derived Langerhans cell-like dendritic cells after stimulation with Toll-like receptor ligands	TAKAHASHI Rei IWAMOTO Sanju TANIOKA Toshihiro MAEDA Kohei					第50回日本免疫学会学術集会	Dec-21

昭和大学	部門名 薬剤学	職名 准教授	氏名 原田 努
------	---------	--------	---------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
会議発表 (論文・口頭)	服薬補助食品がOD錠の崩壊性に及ぼす影響の解明	原田 努					PLCM(耕薬)研究会 第15回シンポジウム	Feb-22
会議発表 (論文・口頭)	小児患者の声を活かす新たな製剤設計への挑戦	原田 努					第4回製剤技術研究コンソーシアム	Dec-21
会議発表 (論文・口頭)	小児製剤の効率的な開発のためのEuropean Paediatric Formulation Initiativeとの連携	原田 努					第42回日本臨床薬理学会学術大会	Dec-21
会議発表 (論文・口頭)	製剤から見た簡易懸濁法	原田 努					第31回日本医療薬学会年会	Oct-21

会議発表 (論文・口頭)	Swallowability of mini-tablets in Japanese children aged 6?23 months: Results from an exploratory randomised crossover study	MITSUI Nao HIDA Noriko KAMIYA Taro YAMAZAKI Taigi MIYAZAKI Kazuki SAITO Kiyomi SAITO Junpei YAMATANI Akimasa ISHIKAWA Yoichi NAKAMURA Akihiro HARADA Tsutomu NAKAMURA Hidefumi					13th Annual Conference European Paediatric Formulation Initiative (EuPF1 2021)	Sep-21
会議発表 (論文・口頭)	6か月以上2歳未満の乳幼児における細粒剤およびシロップ剤を対照としたミニタブレットの服用性と受容性の検討	鈴木(三井)奈緒 肥田 典子 神谷太郎 山崎 太義 宮崎 和城 齋藤 清美 齋藤 順平 山谷 明正 石川 洋一 中村 秀文 中村明弘 原田 努					日本薬学会第36年会	May-21

昭和大学	部門名 薬物動態学	職名 准教授	氏名 杉山恵理花
------	-----------	--------	----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	Associations among plasma concentrations of regorafenib and its metabolites, adverse events, and ABCG2 polymorphisms in patients with metastatic colorectal cancers.	KOBAYASHI Kazuo SUGIYAMA Erika SHINOZAKI E WAKATSUKI T TAJIMA Masataka KIDOKORO Hiroyuki AOYAMA T NAKANO Y KAWAKAMI K HASHIMOTO K SUENAGA M ICHIMURA T OGURA M CHIN K NAKAYAMA I OOKI A TAKAHARI D SUZUKI W YOKOKAWA T MINOWA Y HIRAKAWA T SUZUKI K SATO Hitoshi HAMA T YAMAGUCHI K	Cancer Chemother Pharmacol	87	6	767		Jun-21
学術雑誌論文 (学外)	Effects of dosing frequency on the clinical efficacy of ampicillin/sulbactam in Japanese elderly patients with pneumonia: A single-center retrospective observational study.	SUZUKI Tomokazu SUGIYAMA Erika NOZAWA Kenji TAJIMA Masataka TAKAHASHI Kyoka YOSHII M SUZUKI H SATO VH SATO Hitoshi	Pharmacol Res Perspect	9	2	e00746		Apr-21
学術雑誌論文 (学外)	Nonlinear Disposition and Metabolic Interactions of Cannabidiol Through CYP3A Inhibition <i>in Vivo</i> in Rats.	NAGAO Michiru NAKANO Yukako TAJIMA Masataka SUGIYAMA Erika SATO VH INADA M SATO Hitoshi	Cannabis Cannabinoid Res	5	4	318		Dec-20
学術雑誌論文 (学外)	Development of a Novel Nanoemulsion Formulation to Improve Intestinal Absorption of Cannabidiol	NAKANO Yukako TAJIMA Masataka 杉山 恵理花 SATO Vilasinee Hirunpanich SATO Hitoshi	Med Cannabis Cannabinoids	2		35		Apr-19
学術雑誌論文 (学外)	Comparison of adverse events following injection of original or generic docetaxel for the treatment of breast cancer.	TAGAWA Nao SUGIYAMA Erika TAJIMA Masataka SASAKI Yasutsuna NAKAMURA Seigo OKUYAMA Hiromi SHIMIZU Hisanori SATO Vilasinee Hirunpanich SASAKI Tadanori SATO Hitoshi	Cancer Chemother Pharmacol	80	4	841		Oct-17
会議発表 (論文・口頭)	チオ硫酸銀錯体によるがん細胞選択的な抗腫瘍効果	太田 晃 田島 正教 森 一憲 杉山 恵理花 佐藤 均					第373回昭和大学学生会例会 (薬学部会主催)	Jun-21

昭和大学	部門名 衛生薬学部門	職名 准教授	氏名 桑田 浩
------	------------	--------	---------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
会議発表 (論文・口頭)	長鎖アシルCoA合成酵素4の欠損はLPS誘発ショックを増強する	桑田 浩 原 俊太郎					第94回日本生化学大会	Nov-21
会議発表 (論文・口頭)	高度不飽和脂肪酸の活性化の阻害が炎症応答に及ぼす影響	桑田 浩 原 俊太郎					第21回 Pharmacology-Hematology シンポジウム	May-21
学術雑誌論文 (学外)	Ferroptosis driven by radical oxidation of n-6 polyunsaturated fatty acids mediates acetaminophen-induced acute liver failure	YAMADA Naoya KARASAWA Tadayoshi KIMURA Hiroaki WATANABE Sachiko KOMADA Takanori KAMARA Ryo SAMPILVANJIL Ariunaa ITO Junya NAKAGAWA Kiyotaka KUWATA Hiroshi HARA Shuntaro MIZUTA Koichi SAKUMA Yasunaru SATA Naohiro TAKAHASHI Masafumi	Cell Death Dis	11	2	144		Feb-20

学術雑誌論文 (学外)	Long-chain acyl-CoA synthetase 4 participates in the formation of highly unsaturated fatty acid-containing phospholipids in murine macrophages.	KUWATA Hiroshi NAKATANI Eriko SHIMBARA-MATSUBAYASHI Satoko ISHIKAWA Fumihito SHIBANUMA Motoko SASAKI Yuka YODA Emiko NAKATANI Yoshihito HARA Shuntaro	Biochim Biophys Acta Mol Cell Biol Lipids	1864	11	1606		Nov-19
学術雑誌論文 (学外)	Role of acyl-CoA synthetase ACSL4 in arachidonic acid metabolism.	KUWATA Hiroshi HARA Shuntaro	Prostaglandins Other Lipid Mediat	144		106363		Jul-19
学術雑誌論文 (学外)	Calcium-independent phospholipase A2y (iPLA2y) and its roles in cellular functions and diseases.	HARA Shuntaro YODA Emiko SASAKI Yuka NAKATANI Yoshihito KUWATA Hiroshi	Biochim Biophys Acta Mol Cell Biol Lipids	1864	6	861		Jun-19
学術雑誌論文 (学外)	The group VIA calcium-independent phospholipase A2 and NFATc4 pathway mediates IL-1β-induced expression of chemokines CCL2 and CXCL10 in rat fibroblasts.	KUWATA Hiroshi YUZURIHARA Chihiro KINOSHITA Natsumi TAKI Yuki IJEGAMI Yuki WASHIO Sana HIRAKAWA Yushi YODA Emiko AIUCHI Toshihiro ITABE Hiroyuki NAKATANI Yoshihito HARA Shuntaro	FEBS J	285	11	2056		Jun-18

昭和大学	部門名 医薬品評価薬学	職名 准教授	氏名 亀井 大輔
------	-------------	--------	----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	Gene deletion of microsomal prostaglandin E synthase-1 suppresses chemically induced skin carcinogenesis.	SASAKI Yuka, KUWATA Hiroshi, AIDA Eri, OCHIAI Tsubasa, KAMEI Daisuke, NAKATANI Yoshihito, HARA Shuntaro	Anticancer Res	41	3	1307		21-Mar
学術雑誌論文 (学外)	Effect of intraoral antioxidative capacity in orengedokuto	NISHIJIMA Hiroaki, TAKAMATSU Satoshi, SATOH Kazue, MURASE Remi, TAKI Iori, KAMEI Daisuke, KAWAZOE Kazuyoshi, NEMOTO Yukio, Iwai Shinichi	Tradit Kampo Med	7	1	30		20-Apr
学術雑誌論文 (学外)	Oxaliplatin induces prostaglandin E2 release in vascular endothelial cells	MATSUNUMA Satoru, HANDA Satoko, KAMEI Daisuke, YAMAMOTO Hitomi, OKUYAMA Kiyoshi, KATO Yasuhisa	Cancer Chemother Pharmacol	84	2	345		19-Aug
学術雑誌論文 (学外)	Anti-inflammatory effects of new catechin derivatives in a hapten-induced mouse contact dermatitis model.	NAKANO Eriko, KAMEI Daisuke, MURASE Remi, TAKI Iori, KARASAWA Koji, FUKUHARA Kiyoshi, Iwai Shinichi	Eur J Pharmacol	845		40		19-Feb
学術雑誌論文 (学外)	Coadministration of cytotoxic chemotherapeutic agents with irinotecan is a risk factor for irinotecan-induced cholinergic syndrome in Japanese patients with cancer.	TSUBOYA Ayako, FUJITA Ken-ichi, KUBOTA Yutaro, SHIDA Hiroo, TAKI (TAKEMOTO) Iori, KAMEI Daisuke, Iwai Shinichi, SASAKI Yasutsuna	Int J Clin Oncol	24	2	222		19-Feb
学術雑誌論文 (学外)	KRAS and EGFR Amplifications Mediate Resistance to Rociletinib and Osimertinib in Acquired Afatinib-Resistant NSCLC Harboring Exon 19 Deletion/T790M in EGFR.	NAKATANI Kaori, YAMAOKA Toshimitsu, OHBA Motoi, FUJITA Ken-ichi, ARATA Satoru, KUSUMOTO Sojiro, TAKI (TAKEMOTO) Iori, KAMEI Daisuke, Iwai Shinichi, TSURUTANI Junji, OHMORI Tohru	Mol Cancer Ther	18	1	112		19-Jan

昭和大学	部門名 薬物治療学	職名 准教授	氏名 大林 真幸
------	-----------	--------	----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
会議発表 (論文・口頭)	COP-NLRを用いた転移性腎細胞癌スニチニブ内服患者における予後予測モデルの構築	里 美貴 井田 歩希 神田 雄貴 高野 華央里 大林 真幸 神山 紀子 森田 順 富士 幸藏 佐々木 春明 小川 良雄 向後 麻里					医療薬学フォーラム 2021 第29回 クリニカルファーマシーシンポジウム	Jul-21
会議発表 (論文・口頭)	慢性閉塞性肺疾患患者の急性増悪に対する初期治療の効果に関連する因子の検討	神山 紀子 井上 タ子 岩? 恵里佳 井原 菜月 平井 邦朗 相良 博典 竹中 美貴 大林 真幸 向後 麻里					日本薬学会第141年会	Mar-21
学術雑誌論文 (学内)	パワーリフティングにおけるパフォーマンス評価のための加速度測定システム	船登 雅彦 蜂須 貢 落合 裕隆 芳賀 秀郷 大林 真幸 上間 裕二 三邊 武幸	昭和学学会雑誌	79	5	609		Oct-19
学術雑誌論文 (学外)	The exploration of population pharmacokinetic model for meropenem in augmented renal clearance and investigation of optimum setting of dose	TAMATSUKURI Tatsuhiro OHBAYASHI Masayuki KOHYAMA Noriko KOBAYASHI Yasuna YAMAMOTO Toshinori FUKUDA Kenichiro NAKAMURA Shunsuke MIYAKE Yasufumi DOHI Kenji KOGO Mari	J Infect Chemother	24	10	834		Oct-18

学術雑誌論文 (学外)	Effects of riluzole on spinal seizure-like activity in the brainstem-spinal cord preparation of newborn rat.	LIN Shih Tien OHBAYASHI Masayuki YAMAMOTO Toshinori ONIMARU Hiroshi KOGO Mari	Neurosci Res	125		46		Dec-17
----------------	--	---	--------------	-----	--	----	--	--------

昭和大学	部門名 天然医薬治療学	職名 准教授	氏名 栗原竜也
------	-------------	--------	---------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	Factors predicting addition of disease-modifying antirheumatic drugs after initial methotrexate monotherapy in patients with rheumatoid arthritis.	YAMAGUCHI Takashi KOHYAMA Noriko TAKENAKA Miki OKADA Takahiro KURIHARA Tatsuya SAKURAI Kosuke MIWA Yusuke KOGO Mari	Clin Rheumatol	40	7	2657		Jul-21
学術雑誌論文 (学外)	Scoring Model to Predict a Low Disease Activity in Elderly Rheumatoid Arthritis Patients Initially Treated with Biological Disease-modifying Antirheumatic Drugs	OKADA Takahiro KOHYAMA Noriko TAKENAKA Miki YAMAGUCHI Takashi KURIHARA Tatsuya SAKURAI Kosuke MIWA Yusuke KOGO Mari	Intern Med	60	12	1827		Jun-21
学術雑誌論文 (学外)	Predictive Factors of Opioid Induced Nausea in Cancer Patients	Yasuha Ogawa Tatsuya Kurihara Mami Sakurai Megumi Monma Hirofumi Nakayama Hitomi Higuchi Mari Kogo Yuji Kiuchi	J Pain Palliat Care Pharmacother.	35	1	7		Dec-21
学術雑誌論文 (学外)	Aging Obesity Dyslipidemia and Hypertension in Hospital Room are Clinical Risk Factors Relating to Pre-Anesthesia Hypertension.	Mizuno J Kato S Arita H Hanaoka K Kiuchi Y Kurihara T		52	2	110		Mar-20
学術雑誌論文 (学外)	Risk Associated with Severe Hematological Toxicity in Patients with Urothelial Cancer Receiving Combination Chemotherapy of Gemcitabine and Cisplatin.	TAKAHASHI Noriko SUNAGA Tomiko FUJIMIYA Tatsuhiko KURIHARA Tatsuya NAGATANI Akiko YAMAGISHI Motoki WATANABE Toru SASAKI Haruaki OGAWA Yoshio SASAKI Tadanori	Chemotherapy	65	####	29		Jul-20
会議発表 (論文・口頭)	多変量解析を用いた、心理教育プログラムを受けた統合失調症患者の再入院のリスク因子の検討	中野 裕佳子 杉沢 諭 栗原 竜也 古屋 宏章 永井 努 黒沢 雅広 常岡 俊昭 稲本 淳子 岩波 明					第5回日本精神薬学会総会・学術集会	Aug-21

昭和大学	部門名 感染制御薬学	職名 准教授	氏名 前田真之
------	------------	--------	---------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	Impact of health policy on structural requisites for antimicrobial stewardship: A nationwide survey conducted in Japanese hospitals after enforcing the revised reimbursement system for antimicrobial stewardship programs.	MAEDA Masayuki MURAKI Y KOSAKA T YAMADA T AOKI Y KAKU M SEKI M TANABE Y FUJITA N NIKI Yoshihito MORITA K YANAGIHARA K YOSHIDA K KAWAGUCHI T	J Infect Chemother	27	1	1		Jan-21
学術雑誌論文 (学外)	Development of the predicted and standardized carbapenem usage metric: Analysis of the Japanese Diagnosis Procedure Combination payment system data.	MAEDA Masayuki MURAKI Y ANNO Yuka SAWA A KUSAMA Y ISHIKANE M OHMAGARI N OHGE H	J Infect Chemother	26	6	633		Jun-20
学術雑誌論文 (学外)	A nationwide questionnaire survey of clinic doctors on antimicrobial stewardship in Japan.	GU Y FUJIMOTO Y SOEDA H NAKAHAMA C HASEGAWA N MAESAKI S MAEDA Masayuki MATSUMOTO T MIYAIRI I OHMAGARI N	J Infect Chemother	26	2	149		Feb-20
学術雑誌論文 (学外)	Essential human resources for antimicrobial stewardship teams in Japan: Estimates from a nationwide survey conducted by the Japanese Society of Chemotherapy.	MAEDA Masayuki MURAKI Yuichi KOSAKA Tadashi YAMADA Takehiro AOKI Yosuke KAKU Mitsuo SEKI Masafumi TANABE Yoshinari FUJITA Naohisa NIKI Yoshihito MORITA Kunihiko YANAGIHARA Katsunori YOSHIDA Koichiro KAWAGUCHI Tatsuya	J Infect Chemother	25	9	653		Sep-19
学術雑誌論文 (学外)	The first nationwide survey of antimicrobial stewardship programs conducted by the Japanese Society of Chemotherapy.	MAEDA Masayuki MURAKI Y KOSAKA T YAMADA T AOKI Y KAKU M KAWAGUCHI T SEKI M TANABE Y FUJITA N MORITA K YANAGIHARA K YOSHIDA K NIKI Yoshihito	J Infect Chemother	25	2	83		Feb-19
会議発表 (論文・口頭)	AST 活動における業務時間の確保は必要不可欠な要素である：FTE による人的資源の評価と確保に向けて	前田 真之					第68回日本化学療法学会東日本支部総会学術集会	Oct-21

会議発表 (論文・口頭)	抗菌薬適正使用支援プログラムの評価におけるベンチマークの確立に関する研究	前田 真之					第68回日本化学療法学会東日本支部総会 学術集会	Oct-21
会議発表 (論文・口頭)	薬剤師が推進する抗菌薬適正使用とAMR対策-COVID-19の影響と今後の展望	前田 真之					第34回新潟県薬剤師のための感染制御セミナー	Oct-21
会議発表 (論文・口頭)	COVID-19流行下における抗菌薬適正使用支援と活動評価	前田 真之					2021年度 第4回北里大学病院感染制御担当者育成講習会	Oct-21

昭和大学	部門名 教育企画・評価学	職名 講師	氏名 福村基徳
------	--------------	-------	---------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学内)	大学附属病院に勤務する医療専門職者の職種による組織コミットメントの特徴—多職種の協働推進を目的として—	大崎 千恵子 三邊 武彦 池田 尚人 福地本 晴美 大屋 晴子 福村 基徳 岩根 裕之 下司 映一	昭和学術会雑誌	79	5	616		Oct-19
学術雑誌論文 (学外)	抗老化を目指した生薬及び漢方薬の評価	高松 智 米野 真織 小谷野 響子 林 真雪 荒川 菜々恵 岡田 麗 保谷 実咲 小池 佑果 福村 基徳 川添 和義	アグリバイオ	2	3	93		Feb-18
学術雑誌論文 (学外)	Soy isoflavones inducing overt hypothyroidism in a patient with chronic lymphocytic thyroiditis: a case report	NAKAMURA Yuya OHSAWA Isao GOTO Yoshikazu TSUJI Mayumi OGUCHI Tatsunori SATO Naoki KIUCHI Yuji FUKUMURA Motonori INAGAKI Masahiro GOTOH Hiromichi	J Med Case Rep	11		253		Sep-17
学術雑誌論文 (学外)	Structural Revision of a Naphthodipyranodione from Gentian Root and its Degradation Pathway from Gentiopicroside	FUJII Miki ANDO Hidehiro KONNO Kiju FUKUMURA Motonori HORI Yumiko HIRAI Yasuaki IDA Yoshiteru	Nat Prod Commun	12	3	395		Jan-17

昭和大学	部門名 教育実践学	職名 講師	氏名 加藤里奈
------	-----------	-------	---------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学内)	薬局薬剤師による小児在宅医療促進への課題と行動目標の提案	小林 文 篠原 大志 佐口 健一 加藤 里奈 田中 佐知子	昭和学術会雑誌	80	1	75		Jun-20
学術雑誌論文 (学外)	Circulating Oxidized LDL, Increased in Patients With Acute Myocardial Infarction, Is Accompanied by Heavily Modified HDL	SAWADA Naoko OBAMA Takashi KOBAYASHI Shinji TAKAKI Takashi IWAMOTO Sanju AIUCHI Toshihiro KATO Rina KIKUCHI Masaki HAMAZAKI Yuji ITABE Hiroyuki	J Lipid Res	61	6	816		Jun-20
学術雑誌論文 (学外)	The Significance of Oxidized Low-Density Lipoprotein in Body Fluids as a Marker Related to Diseased Conditions	ITABE Hiroyuki KATO Rina SAWADA Naoko OBAMA Takashi YAMAMOTO Matsuo	Curr Med Chem	26	9	1576		Sep-19
学術雑誌論文 (学外)	Temporal and spatial changes of peroxiredoxin 2 levels in aortic media at very early stages of atherosclerotic lesion formation in apoE-knockout mice.	KATO Rina HAYASHI Masataka AIUCHI Toshihiro SAWADA Naoko OBAMA Takashi ITABE Hiroyuki	Free Radic Biol Med	130		348		Jan-19
学術雑誌論文 (学外)	Changes in apolipoprotein B and oxidized low-density lipoprotein levels in gingival crevicular fluids as a result of periodontal tissue conditions.	ISHIZUKA Motonori KATO Rina MORIYA Yumi NOGUCHI Emiko KOIDE Yoko INOUE Shin ITABE Hiroyuki YAMAMOTO Matsuo	J Periodontal Res	52	3	594		Jun-17
会議発表 (論文・口頭)	薬剤師から見た薬剤師養成教育の評価（第2報）—全国薬剤師アンケートによる旧4年制課程と6年制課程との比較—	小林 文 加藤 里奈 山本 仁美 田中 佐知子					第6回日本薬学教育学会	Aug-21

昭和大学	部門名 医薬化学部門	職名 講師	氏名 金光卓也
------	------------	-------	---------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	Synthesis and Catalytic Activities of 3-Decyl-β-proline for Michael Reactions in Water without an Organic Solvent	永田 和弘 NAKAGAWA Chihiro YOKOYAMA Wakana USUI Haruka MOCHIZUKI Rikako KANEMITSU Takuya MIYAZAKI Michiko ITO Takashi	ACS Omega	6		19642		Jul-21

図書	クライン有機化学問題の解き方(日本語版)	伊藤 喬 稲垣 昌博 太田 公規 金光 卓也 小林 広和 永田 和弘 平井 康昭 福原 潔 前川 智弘 宮崎 倫子 山本 雅人						Mar-20
学術雑誌論文(学外)	Asymmetric Michael addition of malonic diesters to acrylates by phase-transfer catalysis toward the construction of quaternary stereogenic α -carbons	ODANAKA Yuki KANEMITSU Takuya IWASAKI Kanako MOCHIZUKI Yukiko MIYAZAKI Michiko NAGATA Kazuhiro KATO Masaru ITOHI Takashi	Tetrahedron	75	2	209		Jan-19

昭和大学	部門名 医薬化学部門	職名 講師	氏名 水野 美麗
------	------------	-------	----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
会議発表(論文・口頭)	C-メチルフィセチンのラジカル消去活性	福原 潔 中西 郁夫 大久 保敏 水野 美麗 松本 謙一郎 大野 彰子					日本農芸化学会2021年度大会	Mar-21
会議発表(論文・口頭)	シリビニンの高機能化を目指した創薬研究	水野 美麗 森 一憲 土屋 圭輔 高木 孝士 三澤 隆史 出水 庸介 柴沼 質子 福原 潔					日本農芸化学会2021年度大会	Mar-21
学術雑誌論文(学外)	Design, Synthesis, and Biological Activity of Conformationally Restricted Analogues of Silibinin.	MIZUNO Mirei MORI Kazunori TSUCHIYA Keisuke TAKAKI Takashi MISAWA Takashi DEMIZU Yosuke SHIBANUMA Motoko FUKUHARA Kiyoshi	ACS Omega	5	36	23164		Aug-20
学術雑誌論文(学外)	Inhibition of β -amyloid-induced neurotoxicity by planar analogues of procyanidin B3	MIZUNO Mirei MORI Kazunori MISAWA Takashi TAKAKI Takashi DEMIZU Yosuke SHIBANUMA Motoko FUKUHARA Kiyoshi	Bioorg Med Chem Lett	29	18	2659		Sep-19
図書	茶ポリフェノールの生理機能と応用展開	福原 潔 水野 美麗				162		Sep-19
図書	アルツハイマー病発症メカニズムと新規診断法・創薬・治療開発	福原 潔 水野 美麗				275		Aug-18
学術雑誌論文(学外)	Enhanced radical scavenging activity of a procyanidin B3 analogue comprised of a dimer of planar catechin.	MIZUNO Mirei NAKANISHI Ikuro MATSUMOTO Ken-ichiro FUKUHARA Kiyoshi	Bioorg Med Chem Lett	27	22	5010		Nov-17

昭和大学	部門名 薬学部生体分析化学部門	職名 講師	氏名 村山周平
------	-----------------	-------	---------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
学術雑誌論文(学外)	Size-controlled bimodal in vivo nanoprobes as near-infrared phosphors and positive contrast agents for magnetic resonance imaging.	OKUBO K TAKEDA R MURAYAMA Shuhei UJIZAWA M KAMIMURA M OSADA K AOKI I SOGA K	Sci Technol Adv Mater	22	1	160		Feb-21
学術雑誌論文(学外)	Extraction of urinary cell-free DNA by using triamine-modified silica particles for liquid biopsy.	KATO Masaru FUJITA Y IIIZUKA T NOZAKI K TAKANO S FUNATSU T SANO Yoshihiro MURAYAMA Shuhei KARASAWA Koji	Anal Bioanal Chem	412	23	5647		Jun-20
学術雑誌論文(学外)	Trimethylammonium modification of a polymer-coated monolith column for rapid and simultaneous analysis of nanomedicines.	KATO Masaru ATHUMI Y YAMAGUCHI M DATE Haruka YAMAMOTO E MURAYAMA Shuhei KARASAWA Koji	J Chromatogr A	1617		460826		Dec-19
学術雑誌論文(学外)	Fluorescence Tumor-Imaging Using a Thermo-Responsive Molecule with an Emissive Aminoquinoline Derivative.	ARAKI Takeru FUCHI Yasufumi MURAYAMA Shuhei SHIRAIISHI Ryoma OYAMA Tokimi ASO Mariko AOKI Ichio KOBAYASHI Shigeki YAMADA Ken-ichi KARASAWA Satoru	Nanomaterials (Basel)	8	10	782		Aug-18
学術雑誌論文(学外)	Photodegradable Nanoparticles for Functional Analysis of Intracellular Protein	MURAYAMA Shuhei KARASAWA Koji KATO Masaru	J Photopolym Sci Technol	31	1	71		Jun-18

昭和大学	部門名 生体分析化学	職名 講師	氏名 松林 智子
------	------------	-------	----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
学術雑誌論文(学外)	Long-chain acyl-CoA synthetase 4 participates in the formation of highly unsaturated fatty acid-containing phospholipids in murine macrophages.	KUWATA Hiroshi NAKATANI Eriko SHIMBARA-MATSUBAYASHI Satoko ISHIKAWA Fumihiko SHIBANUMA Motoko SASAKI Yuka YODA Emiko NAKATANI Yoshihito HARA Shuntaro	Biochim Biophys Acta Mol Cell Biol Lipids	1864	11	1606		Nov-19
学術雑誌論文(学外)	Analysis on the Substrate Specificity of Recombinant Human Acyl-CoA Synthetase ACSL4 Variants	MATSUBAYASHI (SHIMBARA) Satoko KUWATA Hiroshi TANAKA Nobutada KATO Masaru HARA Shuntaro	Biol Pharm Bull	42	5	850		Jun-19

学術雑誌論文 (学外)	Synthesis, Anti-HBV, and Anti-HIV Activities of 3'-Halogenated Bis(hydroxymethyl)-cyclopentenyladenines	KUMAMOTO Hiroki IMOTO Shuhei AMANO Masayuki KUWATA-HIGASHI Nobuyo BABA Masanori MITSUYA Hiroaki ODANAKA Yuki MATSUBAYASHI (SHIMBARA) Satoko TANAKA Hiromichi HARAGUCHI Kazuhiro	ACS Med Chem Lett	9	12	1211	Nov-18
----------------	---	---	-------------------	---	----	------	--------

昭和大学	部門名 生体分析化学	職名 講師	氏名 小田中友紀
------	------------	-------	----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	Investigation of Various Organic Radicals Dispersed in Polymethylmethacrylate Matrices using the Electron Spin Resonance Spectroscopy Technique	KOBAYASHI Hirokazu AKINIWA Kento IWAHORI Fumiyasu HONDA Hidehiko YAMAMOTO Masato ODANAKA Yuki INAGAKI Masahiro	ACS Omega	6	32	20855		Aug-21
学術雑誌論文 (学外)	TG-DTA of Inclusion Compound Consisting of Acetaminophen Incorporated into 1D Nanochannels of 2,4,6-Tris(4-chlorophenoxy)-1,3,5-triazine	KOBAYASHI Hirokazu HONDA Hidehiko YAMAMOTO Masato TANAKA Reina SHIBATA Yo ODANAKA Yuki HIRAI Yasuaki INAGAKI Masahiro	Thermochimica Acta	702		178981		Jun-21
学術雑誌論文 (学外)	Asymmetric Michael addition of malonic diesters to acrylates by phase-transfer catalysis toward the construction of quaternary stereogenic α -carbons	ODANAKA Yuki KANEMITSU Takuya IWASAKI Kanako MOCHIZUKI Yukiko MIYAZAKI Michiko NAGATA Kazuhiro KATO Masaru ITO Takashi	Tetrahedron	75	2	209		Jan-19
学術雑誌論文 (学外)	Synthesis, Anti-HBV, and Anti-HIV Activities of 3'-Halogenated Bis(hydroxymethyl)-cyclopentenyladenines	KUMAMOTO Hiroki IMOTO Shuhei AMANO Masayuki KUWATA-HIGASHI Nobuyo BABA Masanori MITSUYA Hiroaki ODANAKA Yuki MATSUBAYASHI (SHIMBARA) Satoko TANAKA Hiromichi HARAGUCHI Kazuhiro	ACS Med Chem Lett	9	12	1211		Nov-18
学術雑誌論文 (学外)	Pyrolysis of UR-144, a synthetic cannabinoid, augments an affinity to human CB1 receptor and cannabimimetic effects in mice.	KAIZAKI-MITSUMOTO Asuka HATAOKA Kyoko FUNADA Masahiko ODANAKA Yuki KUMAMOTO Hiroki NUMAZAWA Satoshi	J Toxicol Sci	42	3	335		Jun-17

昭和大学	部門名 生物物理化学部門	職名 講師	氏名 早川 大地
------	--------------	-------	----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
会議発表 (論文・口頭)	電荷分布を明示的に記述する分子モデル構築のための電子密度フィッティング法	早川 大地 渡邊 友里江 合田 浩明					第49回構造活性相関シンポジウム	Sep-21
学術雑誌論文 (学外)	Unpolarizable molecular model describing electron distribution for treating halogen bonds	HAYAKAWA Daichi WATANABE-ODA Yurie GOUDA Hiroaki	Chemical Physics Letters	779		138824		Sep-21
学術雑誌論文 (学外)	A molecular interaction field describing nonconventional intermolecular interactions and its application to protein-ligand interaction prediction	HAYAKAWA Daichi SAWADA Nahoko WATANABE Yurie GOUDA Hiroaki	J Mol Graph Model	96		107515		May-20
学術雑誌論文 (学外)	DFT study of the influence of acetyl groups of cellulose acetate on its intrinsic birefringence and wavelength dependence	HAYAKAWA Daichi GOUDA Hiroaki HIRONO Shuichi UEDA Kazuyoshi	Carbohydr Polym	207		122		Mar-19
学術雑誌論文 (学外)	Evaluation of hydrogen bond networks in cellulose I β and II crystals using density functional theory and Car-Parrinello molecular dynamics	HAYAKAWA Daichi NISHIYAMA Yoshiharu MAZEAU Karim UEDA Kazuyoshi	Carbohydr Res	449		103		Sep-17
学術雑誌論文 (学外)	In silico analyses of the effects of a point mutation and a pharmacological chaperone on the thermal fluctuation of phenylalanine hydroxylase	HAYAKAWA Daichi YAMAOTSU Noriyuki NAKAGOME Izumi OZAWA Shin-ichiro YOSHIDA Tomoki HIRONO Shuichi	Biophys Chem	228		47		Sep-17

昭和大学	腫瘍細胞生物学部門	講師	森 一憲
------	-----------	----	------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	The selective cytotoxicity of silver thiosulfate, a silver complex, on MCF-7 breast cancer cells through ROS-induced cell death.	OTA Akira TAJIMA Masataka MORI Kazunori SUGIYAMA Erika SATO VH SATO Hitoshi	Pharmacol Rep	73	3	847		Jun-21
学術雑誌論文 (学外)	Rac1-mediated sustained β 4 integrin level develops reattachment ability of breast cancer cells after anchorage loss	MORI Kazunori HIGURASHI Masato ISHIKAWA Fumihiko SHIBANUMA Motoko	Cancer Sci	112	8	3205		Aug-21

学術雑誌論文 (学外)	Design, Synthesis, and Biological Activity of Conformationally Restricted Analogues of Silibinin.	MIZUNO Mirei MORI Kazunori TSUCHIYA Keisuke TAKAKI Takashi MISAWA Takashi DEMIZU Yosuke SHIBANUMA Motoko FUKUHARA Kiyoshi	ACS Omega	5	36	23164		Aug-20
学術雑誌論文 (学外)	High expression of FOXM1 critical for sustaining cell proliferation in mitochondrial DNA-less liver cancer cells	HIGURASHI Masato MARIYAMA Tsuyoshi NOGAMI Yusuke ISHIKAWA Fumihiko YOSHIDA Yukiko MORI Kazunori FUJITA Ken-ichi SHIBANUMA Motoko	Exp Cell Res	389	1	111889		Apr-20
学術雑誌論文 (学外)	A mitochondrial ROS pathway controls matrix metalloproteinase 9 levels and invasive properties in RAS-activated cancer cells	MORI Kazunori UCHIDA Tetsu YOSHIE Toshihiko MIZOTE Yuko ISHIKAWA Fumihiko KATSUYAMA Masato SHIBANUMA Motoko	FEBS J	286	3	459		Feb-19

昭和大学	部門名 毒物学	職名 講師	氏名 光本 明日香
------	---------	-------	-----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	Comparative study between active and passive exposure of methamphetamine vapor in mice	ABE Kazumasa KAIZAKI-MITSUMOTO Asuka NUMAZAWA Satoshi	Forensic Toxicol	39	2	394		Jul-21
学術雑誌論文 (学外)	Fetal methylphenidate exposure induced ADHD-like phenotypes and decreased Drd2 and Slc6a3 expression levels in mouse offspring.	AOKI Satoru KAIZAKI-MITSUMOTO Asuka HATTORI Natsumi NUMAZAWA Satoshi	Toxicol Lett	344		1		Jun-21
学術雑誌論文 (学外)	Simultaneous profiling of organic and inorganic impurities in α -pyrrolidinopentiphenone (α -PVP).	HATTORI Natsumi KAIZAKI-MITSUMOTO Asuka HATAOKA Kyoko NUMAZAWA Satoshi	J Toxicol Sci	44	12	849		Dec-19
学術雑誌論文 (学外)	Hyperreflexia induced by XLR-11 smoke is caused by the pyrolytic degradant	HATAOKA Kyoko KAIZAKI-MITSUMOTO Asuka TAKEBAYASHI-OHSAWA Mika HATTORI Natsumi FUNADA Masahiko NUMAZAWA Satoshi	Forensic Toxicol	37	2	412		Jul-19
学術雑誌論文 (学外)	Pyrolysis of UR-144, a synthetic cannabinoid, augments an affinity to human CB1 receptor and cannabimimetic effects in mice.	KAIZAKI-MITSUMOTO Asuka HATAOKA Kyoko FUNADA Masahiko ODANAKA Yuki KUMAMOTO Hiroki NUMAZAWA Satoshi	J Toxicol Sci	42	3	335		Jun-17
会議発表 (論文・口頭)	胎仔期のメチルフェニデート暴露はADHD症状を誘発しDrd2とSrc6a3遺伝子発現を低下させる	光本(貝崎) 明日香 青木 悟 宇佐美 (服部) 夏実 沼澤 聡					第48回日本毒 性学会学術年 会	Jul-21
会議発表 (論文・口頭)	急性カフェイン中毒21症例のカフェイン及びその代謝物の血中濃度解析	山崎 喜貴 光本(貝崎) 明日香 佐々木 忠徳 林 宗貴 土肥 謙二 沼澤 聡					第3回J's-CAT 学術集会	Sep-21

昭和大学	部門名 薬理学部門	職名 講師	氏名 古林 創史
------	-----------	-------	----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月

昭和大学	部門名 薬剤学	職名 講師	氏名 村山信浩
------	---------	-------	---------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	簡易懸濁法及び粉碎法が薬物動態に及ぼす影響～テモカプリルと酸化マグネシウム併用において～	町野 英弥 肥田 典子 原田 努 柴田 佳太 三邊 武彦 龍 家圭 水上 拓也 山崎 太義 諸星 北人 村山 信浩 竹ノ下 祥子 内田 直樹 倉田 なおみ	医療薬学					in press
学術雑誌論文 (学外)	剥がれの起点に着目した新しい剥離特性評価法による貼付剤の評価	飯田 香 林 和行 宮崎 雄太 村山 信浩 中村 明弘 原田 努	薬理と治療	49	5	681		May-21
学術雑誌論文 (学外)	A novel method to quantitatively evaluate slipperiness and frictional forces of solid oral dosage forms and to correlate these parameters with ease of swallowing	SHIMASAKI Maya 村山 信浩 藤田 吉明 中村 明弘 原田 努	J Drug Deliv Sci Technol	53		101141		Oct-19

昭和大学	部門名 薬剤学部門	職名 講師	氏名 藤田吉明
------	-----------	-------	---------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月

会議発表 (論文・口頭)	原薬粉体物性がアスピリンミニタブレットの品質に及ぼす影響	芹澤 風香 野田 秀裕 高橋 伸幸 鈴木 奈緒 藤田 吉明 中村 明弘 原田 努					日本薬学会第141年会	Mar-21
学術雑誌論文 (学外)	Recent Advances in Biomarkers and Regenerative Medicine for Diabetic Neuropathy	FUJITA Yoshiaki MURAKAMI T NAKAMURA Akihiro	Int J Mol Sci.	22	5	2301		Feb-21
学術雑誌論文 (学外)	Effect of Disintegrants on Prolongation of Tablet Disintegration Induced by Immersion in Xanthan Gum-Containing Thickening Solution: Contribution of Disintegrant Interactions with Disintegration Fluids Disintegration Fluids.	SUGIURA Daisuke ONUKI Y FUJITA Yoshiaki NAKAMURA Akihiro HARADA Tsutomu	Chem Pharm Bull	68	11	1055		Nov-20
学術雑誌論文 (学外)	Effect of xanthan gum-based food thickeners on the dissolution profile of fluoroquinolones oral formulations	TAKAHASHI Nobuyuki FUJITA Yoshiaki TAKAHASHI Nanako NAKAMURA Akihiro HARADA Tsutomu	J Pharm Health Care Sci	6	2	25		Nov-20
学術雑誌論文 (学外)	A novel method to quantitatively evaluate slipperiness and frictional forces of solid oral dosage forms and to correlate these parameters with ease of swallowing	SHIMASAKI Maya 村山 信浩 藤田 吉明 中村 明弘 原田 努	J Drug Deliv Sci Technol	53		101141		Oct-19
学術雑誌論文 (学外)	Effect of Film Coating on Xanthan Gum Solution-induced Delays in the Disintegration and Dissolution of Tablets	EBATA Rei FUJITA Yoshiaki NAKAMURA Akihiro HARADA Tsutomu	医療薬学	45	4	182		Apr-19

昭和大学	部門名 薬剤学	職名 講師	氏名 齊藤 清美
------	---------	-------	----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学内)	Higher Adiponectin Expression Suppresses Neointimal Hyperplasia by Attenuating the Inflammatory Response Following Acceleration of Endothelialization in Damaged Areas in Adiponectin Transgenic Mice	OMORI Yasutoshi SUZUKI Hiroshi SAITO Kiyomi SHOJI Makoto ISO Yoshitaka NEGORO Takaharu KOBA Shinji NAKANO	Showa Univ J Med Sci	29	2	107		Jun-17
会議発表 (論文・口頭)	6か月以上2歳未満の乳幼児における細粒剤およびシロップ剤を対照とした ミニタブレットの服用性と受容性の検討	鈴木(三井)奈緒 肥田 典子 神谷 太郎 山崎 太義 宮崎 和城 齊藤 清美 齊藤 順平 山谷 明正 石川 洋一 中村 秀文 中村 明弘 原田 努					日本薬剤学会第36年会	May-21
会議発表 (論文・口頭)	Swallowability of mini-tablets in Japanese children aged 6-23 months : Results from an exploratory randomized crossover study	Nao Mitsui Noriko Hida Taro Kamiya Taigi Yamazaki Kazuki Miyazaki Kiyomi Saito Jumpei Saito Akimasa Yamatani Yoichi Ishikawa Akihiro Nakamura Tsutomu Harada Hidefumi Nakamura					13th conference of the European Paediatric Formulation Initiative	Sep-21

昭和大学	部門名 薬物動態学	職名 講師	氏名 田島正教
------	-----------	-------	---------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
論文	Associations among plasma concentrations of regorafenib and its metabolites, adverse events, and ABCG2 polymorphisms in patients with metastatic colorectal cancers.	KOBAYASHI Kazuo SUGIYAMA Erika SHINOZAKI E WAKATSUKI T TAJIMA Masataka KIDOKORO Hiyori AOYAMA T NAKANO Y KAWAKAMI K HASHIMOTO K SUENAGA M ICHIMURA T OGURA M CHIN K NAKAYAMA I OOKI A TAKAHARI D SUZUKI W YOKOKAWA T MINOWA Y HIRAOKA T SUZUKI K SATO Hitoshi HAMA T YAMAGUCHI K	Cancer Chemother Pharmacol	87	6	767		Jun-21
論文	The selective cytotoxicity of silver thiosulfate, a silver complex, on MCF-7 breast cancer cells through ROS-induced cell death.	OTA Akira TAJIMA Masataka MORI Kazunori SUGIYAMA Erika SATO VH SATO Hitoshi	Pharmacol Rep	73	3	847		Jun-21
論文	Effects of dosing frequency on the clinical efficacy of ampicillin/sulbactam in Japanese elderly patients with pneumonia: A single-center retrospective observational study.	SUZUKI Tomokazu SUGIYAMA Erika NOZAWA Kenji TAJIMA Masataka TAKAHASHI Kyoka YOSHII M SUZUKI H SATO VH SATO Hitoshi	Pharmacol Res Perspect	9	2	e00746		Apr-21
論文	Nonlinear Disposition and Metabolic Interactions of Cannabidiol Through CYP3A Inhibition <i>In Vivo</i> in Rats.	NAGAO Michiru NAKANO Yukako TAJIMA Masataka SUGIYAMA Erika SATO VH INADA M SATO Hitoshi	Cannabis Cannabinoid Res	5	4	318		Dec-20
論文	Development of a Novel Nanoemulsion Formulation to Improve Intestinal Absorption of Cannabidiol	NAKANO Yukako TAJIMA Masataka SUGIYAMA Erika SATO Vilasinee Hirunpanich SATO Hitoshi	Med Cannabis Cannabinoids	2	-	35		Apr-19

昭和大学	部門名 社会薬学	職名 講師	氏名 赤川圭子
------	----------	-------	---------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
------	---------	----	-----	---	---	-------	------------	------

会議発表 (論文・口頭)	スイッチOTC医薬品として販売されている経皮吸収型鎮痛消炎貼付剤の不適切な使用に影響する因子の解析	赤川(佐々木) 圭子 狩野 小町 熊木 良太 岸本 桂子					日本アブライド・セラピューティクス(実践薬物治療)学会第11回学術大会 日本社会薬学会第39年合同大会	Sep-21
会議発表 (論文・口頭)	ネット販売における指定第2類医薬品の注意喚起に関する調査	浅岡 宝花 熊木 良太 赤川(佐々木) 圭子 岸本 桂子					日本アブライド・セラピューティクス(実践薬物治療)学会第11回学術大会 日本社会薬学会第39年合同大会	Sep-21
会議発表 (論文・口頭)	薬局薬剤師が減薬提案したくてもできない要因とその解消方法に関する調査	熊木 良太 後藤 広樹 赤川 圭子 後藤 知良 岸本 桂子					第5回日本老年薬学会学術大会	May-21
学術雑誌論文 (学外)	回復期リハビリテーション病棟における機能的自立度評価表(FIM)に影響する薬学的要因の探索ー決定木分析と重回帰分析を使用してー	大坪 博子 岸本 桂子 平野 偉与 中野 仁 板谷 一宏 熊木良太 赤川 圭子 大隅 寛之	医療薬学	47	2	96		Feb-21
図書	今日のOTC薬:解説と便覧 改訂第5版	木内 祐二 赤川 圭子				146		Feb-21
図書	薬学と社会 薬事関連法・制度	秋本 義雄[ほか] 岸本 桂子 赤川(佐々木) 圭子 亀井 大輔				45		Mar-20
学術雑誌論文 (学外)	Survey Of pharmacist services and status of drug administration to patients with dysphagia in convalescence rehabilitation wards	OHTSUBO Hiroko KISHIMOTO Keiko KUMAKI Ryota AKAGAWA Keiko KURATA Naomi	Jap J Compr Rehabil Sci	10	2019	108		Dec-19
研究報告書	国民への安全な医薬品の流通、販売・授与の実態等に関する調査研究 平成29年度総括・分担研究報告書(厚生労働行政推進調査事業費補助金 厚生労働科学特別研究事業)	赤川(佐々木) 圭子 今井 博久				172		Jul-18
図書	今日のOTC薬 改訂第4版	木内 祐二 赤川 圭子				86		Apr-18

昭和大学	部門名 薬物治療学部門	職名 講師	氏名 神山紀子
------	-------------	-------	---------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	Factors predicting addition of disease-modifying antirheumatic drugs after initial methotrexate monotherapy in patients with rheumatoid arthritis.	YAMAGUCHI Takashi KOHYAMA Noriko TAKENAKA Miki OKADA Takahiro KURIHARA Tatsuya SAKURAI Kosuke MIWA Yusuke KOGO Mari	Clin Rheumatol	40	7	2657		Jul-21
学術雑誌論文 (学内)	Risk factors for initial antibiotic treatment failure in patients with aspiration pneumonia	FUKUDA Moemi KOHYAMA Noriko MAEDA Masayuki KAWASAKI Tsutomu YAMAMOTO Toshinori KOGO Mari	Showa Univ J Med Sci	33	2	55		Jun-21
学術雑誌論文 (学外)	Scoring Model to Predict a Low Disease Activity in Elderly Rheumatoid Arthritis Patients Initially Treated with Biological Disease-modifying Antirheumatic Drugs	OKADA Takahiro KOHYAMA Noriko TAKENAKA Miki YAMAGUCHI Takashi KURIHARA Tatsuya SAKURAI Kosuke MIWA Yusuke KOGO Mari	Intern Med	60	12	1827		Jun-21
学術雑誌論文 (学外)	Factors associated with a reduction in the quality of life of patients with chronic hepatitis C treated by ledipasvir/sofosbuvir therapy	AIMONO Yuka KOHYAMA Noriko KAMOSHIDA Toshiro YAMAMOTO Toshinori KOGO Mari	Eur J Hosp Pharm			2215		Aug-20
学術雑誌論文 (学外)	Clinical Pharmacokinetics of Mianserin Suppositories in Healthy Older Japanese Male Adults: A Pilot Study	ICHIKUKRA Daisuke NAWATA Shuichi KOHYAMA Noriko TOKUNAGA Megumi HIDA Noriko YAMAZAKI Taigi TAKENOSHITA Sachiko UCHIDA Naoki MINEMURA Atsuko SASAKI Tadanori	臨床薬理	50	2	23		Mar-19

昭和大学	部門名 天然薬治療学部門	職名 講師	氏名 栗本 慎一郎
------	--------------	-------	-----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	Macrocarquinoids A-C, new meroterpenoids from <i>Sargassum macrocarpum</i>	NIWA Hiromi KURIMOTO Shin-ichiro KUBOTA Takaaki SEKIGUCHI Mitsuhiro	J. Nat. Med.	75		194		Jan-21
学術雑誌論文 (学外)	Kamiohnoynesides A and B, two new polyacetylene glycosides from flowers of edible Chrysanthemum "Kamiohno"	KURIMOTO Shin-ichiro FUJITA Hiroki KAWAGUCHI Satomi SASAKI Yu NAKAMURA Takanori KUBOTA Takaaki	J. Nat. Med.	75		167		Jan-21

学術雑誌論文 (学外)	Ma'edamines C and D, new bromotyrosine alkaloids possessing a unique tetrasubstituted pyridinium moiety from an Okinawan marine sponge <i>Suberea</i> sp.	KURIMOTO Shin-ichiro SEINO Satsuki Fromont Jane KOBAYASHI Jun'ichi KUBOTA Takaaki	Org. Lett.	21		8824		Oct-19
学術雑誌論文 (学外)	Ceratinadins E and F, new bromotyrosine alkaloids from an Okinawan marine sponge <i>Pseudoceratina</i> sp.	KURIMOTO Shin-ichiro OHNO Taito HOKARI Rei ISHIYAMA Aki IWATSUKI Masato ÔMURA Satoshi KOBAYASHI Jun'ichi KUBOTA Takaaki	Mar. Drugs	16		463		Dec-18
図書	The manzamine alkaloids	KUBOTA Takaaki KURIMOTO Shin-ichiro KOBAYASHI Jun'ichi	The Alkaloids: Chemistry and Biology	84		1		May-20
会議発表 (論文・口頭)	未利用天然資源を素材とした新規生物活性天然物の探索	栗本 慎一郎					日本生薬学会 第67年会	Sep-21
会議発表 (論文・口頭)	能登産海藻 <i>Sargassum macrocarpum</i> より単離した新規メロテルペノイド化合物の構造とAGEs生成阻害活性評価	篠田 清哉 丹羽 裕美 栗本 慎一郎 久保田 高明 関口 光広					日本生薬学会 第67年会	Sep-21
会議発表 (論文・口頭)	未利用天然資源からの新規生物活性天然物の探索	栗本 慎一郎					第23回天然薬物の開発と応用シンポジウム	Oct-21

昭和大学	部門名	がんゲノム医療薬学	職名	講師	氏名	半田 智子
------	-----	-----------	----	----	----	-------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	QOL Evaluation of Nab-Paclitaxel and Docetaxel for Early Breast Cancer.	OKUYAMA Hiromi NAKAMURA Seigo AKASHI-TANAKA Sadako SAWADA Terumasa KUWAYAMA Takashi HANDA Satoko KATO Yasuhisa	Eur J Breast Health	14	4	194		Oct-18
学術雑誌論文 (学外)	注射用抗がん薬バイアルの複数回使用に伴う無菌調製業務への影響の評価	米村 雅人 山口 正和 岩本 義弘 吉野 名穂子 田中 将貴 加納 大輔 平野 光枝 市田 泰彦 川崎 敏克 半田 智子 加藤 裕久	日本病院薬剤師会雑誌	54	11	1396		Nov-18
学術雑誌論文 (学外)	Oxaliplatin induces prostaglandin E2 release in vascular endothelial cells	MATSUNUMA Satoru HANDA Satoko KAMEI Daisuke YAMAMOTO Hitomi OKUYAMA Kiyoshi KATO Yasuhisa	Cancer Chemother Pharmacol	84	2	345		Aug-19
学術雑誌論文 (学外)	Effectiveness of a Smartphone Application as a Support Tool for Patients Undergoing Breast Cancer Chemotherapy: A Randomized Controlled Trial	HANDA Satoko OKUYAMA Hiromi YAMAMOTO Hitomi NAKAMURA Seigo KATO Yasuhisa	Clin Breast Cancer	20	3	201		Jun-20
学術雑誌論文 (学外)	Rubric Assessment for Pharmacotherapy in Spiral Curriculum: Development and Usefulness Evaluation	HANDA Satoko KOHYAMA Noriko KURIHARA Tatsuya SUGIYAMA Erika TANAKA Sachiko YAMAMOTO Hitomi MIYASAKA Yoshiyuki KOGO Mari KATO Yasuhisa 中村 明弘 YAMAMOTO Toshinori	薬学雑誌	140	12	1441		Dec-20

昭和大学	部門名	臨床栄養代謝学	職名	講師	氏名	唐沢 浩二
------	-----	---------	----	----	----	-------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	医薬品としてのプロバイオティクス・プレバイオティクス	唐沢 浩二	臨床栄養	139	3	304		Sep-21
学術雑誌論文 (学外)	Extraction of urinary cell-free DNA by using triamine-modified silica particles for liquid biopsy.	KATO Masaru FUJITA Y IIZUKA T NOZAKI K TAKANO S FUNATSU T SANO Yoshihiro MURAYAMA Shuhei KARASAWA Koji	Anal Bioanal Chem	412	23	5647		Sep-20
学術雑誌論文 (学外)	Analysis of Bactericidal Components in Japanese Honey.	KARASAWA Koji KATO Masaru ARAKAWA Hidetoshi	Am J Anal Chem	11	8	309		Aug-20
学術雑誌論文 (学外)	Simple and Rapid Evaluation of the Unique Manuka Factor in Manuka Honey Using Fluorescence Fingerprints and Principal Component Analysis.	KARASAWA Koji TAKAKURA Masatoshi KATO S AKATSUKA M KATO Masaru	Chem Pharm Bull (Tokyo)	68	8	762		Aug-20
学術雑誌論文 (学外)	Trimethylammonium modification of a polymer-coated monolith column for rapid and simultaneous analysis of nanomedicines.	KATO Masaru ATHUMI Y YAMAGUCHI M DATE Haruka YAMAMOTO E MURAYAMA Shuhei KARASAWA Koji	J Chromatogr A	1617		460826		Apr-20
学術雑誌論文 (学外)	A Simple and Easy Method of Monitoring Doxorubicin Release from a Liposomal Drug Formulation in the Serum Using Fluorescence Spectroscopy.	WATANABE A MURAYAMA Shuhei KARASAWA Koji YAMAMOTO E MORI KAWA S TAKITA R MURATA S KATO	Chem Pharm Bull (Tokyo)	67	4	367		Apr-19

学術雑誌論文 (学外)	Anti-inflammatory effects of new catechin derivatives in a hapten-induced mouse contact dermatitis model.	NAKANO Eriko KAMEI Daisuke MURASE Remi TAKI Iori KARASAWA Koji FUKUHARA Kiyoshi Iwai Shinichi	Eur J Pharmacol	845		40		Feb-19
学術雑誌論文 (学外)	Enrichment of liposomal nanomedicines using monolithic solid phase extraction discs following preactivation with bivalent metal ion solutions.	WATANABE A KARASAWA Koji MURAYAMA Shuhei SANO Yoshihiro TAKAGI M YAMAMOTO E MURATA S KATO Masaru	J Chromatogr A	1564		224		Aug-18
学術雑誌論文 (学外)	Development and clinical application of a bioluminescence enzyme immunoassay for oxytocin.	KARASAWA Koji SANO Yoshihiro KATO Nobumasa ARAKAWA Hidetoshi	Luminescence	33	4	670		Jun-18
学術雑誌論文 (学外)	Photodegradable Nanoparticles for Functional Analysis of Intracellular Protein	MURAYAMA Shuhei KARASAWA Koji KATO Masaru	J Photopolym Sci Technol	31	1	71		Jun-18
学術雑誌論文 (学外)	物理系薬学 臨床現場におけるmiRNAの簡易遺伝子検査(POCT)への期待	唐沢 浩二	ファルマシア	53	6	589		Jun-17

昭和大学	部門名 教育実践学部門	職名 助教	氏名 小林 文
------	-------------	-------	---------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
総説	参加型演習科目「臨床心理学の活用」の遠隔授業での実施～オンラインを活用した教育システムの構築～	田中佐知子、加藤里奈、小林如乃、小林 文、山本仁美	日本薬学教育学会誌	5		1		2021.4
短報	薬局薬剤師による小児在宅医療促進への課題と行動目標の提案	小林 文、篠原 大志、佐口 健一、加藤 里奈、田中佐知子	昭和学会雑誌	80	1	75		2020.6
原著論文	テキストマイニングの手法による昭和大学薬学部1年次の振り返りシート解析	佐口 健一、田中佐知子、小林 文、中村 明弘	昭和学会雑誌 79(1)、75-80、(2019. 2)	79	1	75		2019.2
原著論文	Medication Counseling in English for Japanese Pharmacy Students	KOBAYASHI Aya, YAZAWA Kinu, SAGUCHI Ken-ich, TANAKA Sachiko	Journal of Academic Society for Quality of Life in Online Journal	4	3	1		2018.9
原著論文	Online Survey of Problems Inhibiting the Active Involvement of Community Pharmacists in Patients with Cancer Undergoing Outpatient Chemotherapy	KOBAYASHI Yasuna, KOBAYASHI Aya, KOYAMA Noriko, SUGIHAMA Keiko, YAMAMOTO Toshinori	Journal of Academic Society for Quality of Life in Online Journal	3	2	1		2017.6
会議発表 (論文・口頭)	薬剤師から見た薬剤師養成教育の評価（続編）－全国アンケート調査による旧4年制課程と6年制課程との比較－	小林 文、加藤 里奈、山本 仁美、田中佐知子					第6回日本薬学教育学会	2021.8
会議発表 (論文・口頭)	オンラインを活用した教育システムを効果的に実施するための教員・学生支援体制の構築	加藤 里奈、小林 文、山本 仁美、田中佐知子					第6回日本薬学教育学会	2021.8
会議発表 (論文・口頭)	臨床研修薬剤師のプロフェッショナリズム評価－P-MEX評価と自己省察レポートの解析－	竹安 葵、田中佐知子、加藤 里奈、小林 文、山本 仁美、佐々木 忠徳、百 賢二、北原 加奈之					第65回薬学会関東支部会	2021.9
招待講演	Interprofessional Education at Showa University	Aya Kobayashi					Interprofessional Education in Japan and ASEAN countries	2021.7

昭和大学	部門名 教育実践学	職名 助教	氏名 山本仁美
------	-----------	-------	---------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	参加型演習科目「臨床心理学の活用」の遠隔授業での実施－オンラインを活用した教育システムの構築－	田中 佐知子 加藤 里奈 小林 如乃 小林 文 山本 仁美	薬学教育	5		2020-073		Aug-21
会議発表 (論文・口頭)	オンラインを活用した教育システムを効果的に実施するための教員・学生支援体制の構築	加藤 里奈 山本 仁美 小林 文 田中 佐知子					第6回日本薬学教育学会大会	Aug-21
会議発表 (論文・口頭)	薬剤師から見た薬剤師養成教育の評価（第2報）－全国薬剤師アンケートによる旧4年制課程と6年制課程との比較－	小林 文 加藤 里奈 山本 仁美 田中 佐知子					第6回日本薬学教育学会	Aug-21
会議発表 (論文・口頭)	薬局実務実習におけるオンラインによる「学生カンファレンス」の有用性の検討	山本 仁美 熊木 良太 松林 智子 加藤 里奈 柴田 佳太 岸本 桂子 向後 麻里 中村 明弘					日本薬学会第141年会	Mar-21
学術雑誌論文 (学外)	Rubric Assessment for Pharmacotherapy in Spiral Curriculum: Development and Usefulness Evaluation	HANDA Satoko KOHYAMA Noriko KURIHARA Tatsuya SUGIYAMA Erika TANAKA Sachiko YAMAMOTO Hitomi MIYASAKA Yoshiyuki KOGO Mari KATO Yasuhisa 中村 明弘 YAMAMOTO Toshinori	薬学雑誌	140	12	1441		Dec-20
学術雑誌論文 (学内)	Integrating Cancer Patients' Satisfaction with Rescue Medication in Pain Assessments	WADA Noriko HANDA Satoko YAMAMOTO Hitomi HIGUCHI Hitomi OKAMOTO Kenichiro SASAKI Tadanori KATO Yasuhisa	Showa Univ J Med Sci	32	3	181		Oct-20

学術雑誌論文 (学外)	Effectiveness of a Smartphone Application as a Support Tool for Patients Undergoing Breast Cancer Chemotherapy: A Randomized Controlled Trial	HANDA Satoko OKUYAMA Hiromi YAMAMOTO Hitomi NAKAMURA Seigo KATO Yasuhisa	Clin Breast Cancer	20	3	201		Jun-20
学術雑誌論文 (学外)	Oxaliplatin induces prostaglandin E2 release in vascular endothelial cells	MATSUNUMA Satoru HANDA Satoko KAMEI Daisuke YAMAMOTO Hitomi OKUYAMA Kiyoshi KATO Yasuhisa	Cancer Chemother Pharmacol	84	2	345		Aug-19

昭和大学	部門名 生物物理化学部門	職名 助教	氏名 小田 (渡邊) 友里江
------	--------------	-------	----------------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
会議発表 (論文・口頭)	電荷分布を明示的に記述する分子モデル構築のための電子密度フィッティング法	早川 大地 渡邊 友里江 合田 浩明					第49回構造活性 性相関シンポジウム	Sep-21
学術雑誌論文 (学外)	Unpolarizable molecular model describing electron distribution for treating halogen bonds	HAYAKAWA Daichi WATANABE-ODA Yurie GOUDA Hiroaki	Chem Phys Lett	779		138824		Sep-21
学術雑誌論文 (学外)	A molecular interaction field describing nonconventional intermolecular interactions and its application to protein-ligand interaction prediction	HAYAKAWA Daichi SAWADA Nahoko WATANABE Yurie GOUDA Hiroaki	J Mol Graph Model	96		107515		May-20
学術雑誌論文 (学外)	In Silico Screening Identified Novel Small-molecule Antagonists of PAC1 Receptor	TAKASAKI Tchiyo WATANABE Ai YOKAI Masafumi WATANABE Yurie HAYAKAWA Daichi NAGASHIMA Ryota LEKUCHI Kazunori KAWASUMI Yasuo MIZUGUCHI MIneyuki OBITA Takayuki WATANABE Yurie HAYAKAWA Daichi GOUDA Hiroaki MORI Hisashi TOYOOKA Naoki	J Pharmacol Exp Ther	365	1	1		Apr-18
学術雑誌論文 (学外)	Design, synthesis, and evaluation of novel inhibitors for wild-type human serine racemase	TAKAHARA Satoyuki NAKAGAWA Kiyomi UCHIYAMA Tsugumi YOSHIDA Tomoyuki MATSUMOTO Kazunori KAWASUMI Yasuo MIZUGUCHI MIneyuki OBITA Takayuki WATANABE Yurie HAYAKAWA Daichi GOUDA Hiroaki MORI Hisashi TOYOOKA Naoki	Bioorg Med Chem Lett	28	3	441		Feb-18
学術雑誌論文 (学外)	A docking model of dapson bound to HLA-B*13:01 explains the risk of dapson hypersensitivity syndrome	WATANABE Hideaki WATANABE Yurie TASHIRO Yasuya MUSHIRODA Taisei OZEKI Takeshi HASHIZUME Hideo SUEKI Hirohiko YAMAMOTO Toshinori UTSUNOMIYA-TATE Naoko GOUDA Hiroaki KUSAKABE Yoshio	J Dermatol Sci	88	3	320		Dec-17

昭和大学	部門名 生物化学部門	職名 助教	氏名 牧山 智彦
------	------------	-------	----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
会議発表 (論文・口頭)	γ-TaxilinによるNek2Aを介した中心体分離の制御機構	牧山 智彦 坂根 洋 野上 識 東 覚 白瀧 博通					第90回日本生 化学会	Dec-17
会議発表 (論文・口頭)	膵β細胞におけるVAMP7によるオートファゴソーム形成の制御機構	青柳 共太 西脇 知世乃 中道 洋子 福富 俊之 鳥居 征司 牧山 智彦 櫻井裕之 今泉 美佳					第90回日本生 化学会	Dec-17
会議発表 (論文・口頭)	TSG101, a tumor susceptibility gene, bidirectionally modulates cell invasion in an MMP9-dependent manner.	Hiromichi Shirataki Satoru Nogami Tomohiko Makiyama Hideyuki hiraishi					FEBS Congress 2018	Jul-18
会議発表 (論文・口頭)	VAMP7 regulates autophagosome formation by supporting Atg9a functions in pancreatic β-cells.	青柳 共太 西脇 知世乃 中道 洋子 福富 俊之 鳥居 征司 牧山 智彦 櫻井 裕之 今泉 美佳					第91回日本生 化学会	Sep-18
会議発表 (論文・口頭)	VAMP7 regulates autophagosome formation by supporting Atg9a functions in pancreatic beta-cells	青柳 共太 板倉 誠 牧山 智彦 西脇 知世乃 中道 洋子 今泉 美佳					第62回糖尿病 学会	May-19
会議発表 (論文・口頭)	妊娠期膵β細胞でのP2X7受容体によるインスリン分泌亢進機構	牧山 智彦 青柳 共太 中道 洋子 西脇 知世乃 小泉 修一 今泉 美佳					第92回日本生 化学会	Sep-19
会議発表 (論文・口頭)	細胞内脂肪滴形成機構における小胞出芽制御因子 Sar1の影響	牧山 智彦 小瀨 孝士 板部 洋之					第63回脂質生 化学会	Jun-21
会議発表 (論文・口頭)	HDLを伴った血中酸化リポタンパク質粒子の生成と動脈硬化症	澤田 直子 板部 洋之 小瀨 孝士 木庭 新治 巖本 三壽 高木 孝士 フィーマン ウィラポール 牧山 智彦 相内 敏弘					第93回日本生 化学会大会	Sep-21

学術雑誌論文 (学外)	α -taxilin overexpression correlates with proliferation activity but not with prognosis of colorectal cancer	AKIRA KANAMORI YASUO IMAI KEISUKE IHARA HITOSHI NAGATA MASAKAZU NAKANO KEIICHI TOMINAGA HIROAKI SHIMIZU TOMIHIKO MAKIYAMA HAJIME KURODA HIROMICHI SHIRATAKI HIDEYUKI HIRAISHI	Oncology Letters	14		1471		May-17
学術雑誌論文 (学外)	γ -Taxilin temporally regulates centrosome disjunction in a Nek2A-dependent manner	Tomohiko Makiyama Satoru Higashia Hiroshi Sakanea Satoru Nogami Hiromichi Shirataki	Experimental Cell Research	362	2	412		Dec-17
学術雑誌論文 (学外)	VAMP7 regulates autophagosome formation by supporting Atg9a functions in pancreatic β -cells from male mice.	Kyoto Aoyagi Makoto Itakura Toshiyuki Fukutomi Chiyono Nishiwaki Yoko Nakamichi Seiji Torii Tomohiko Makiyama Akihiro Harada Mica Ohara-Imaizumi	Endocrinology	159	11	3674		Sep-18
学術雑誌論文 (学外)	Structure and dynamics of oxidized lipoproteins in vivo: roles of high-density lipoprotein.	ITABE Hiroyuki SAWADA Naoko MAKIYAMA Tomohiko OBAMA Takashi	Biomedicines	9	6	655		Jun-21
学術雑誌論文 (学外)	Transfer and enzyme-mediated metabolism of oxidized phosphatidylcholine and lysophosphatidylcholine between low- and high-density lipoproteins.	SAWADA Naoko OBAMA Takashi MIZUNO Mirei FUKUHARA Kiyoshi IWAMOTO Sanju AIUCHI Toshihiro MAKIYAMA Tomohiko ITABE Hiroyuki	Antioxidants (Basel)	9	11	1045		Oct-21

昭和大学	部門名 生物化学	職名 助教	氏名 渡邊 雄一
------	----------	-------	----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
会議発表 (論文・口頭)	酸化ステロールはINSIGを介してPERK/ATF4経路活性化とそれに伴う細胞死を誘導する	渡邊 雄一、佐々木 崇、三吉 翔子、清水 誠、山内 祥生、佐藤 隆一郎					94回日本生化学会大会	Oct-21
学術雑誌論文 (学外)	Insulin-induced genes INSIG1 and INSIG2 mediate oxysterol-dependent activation of the PERK/eIF2 α /ATF4 axis.	WATANABE Yuichi, SASAKI Takashi, MIYOSHI Shoko, SHIMIZU Makoto, YAMAUCHI Yoshio, SATO Ryuichiro	J Biol Chem	297		100989		Aug-21
学術雑誌論文 (学外)	Muscle-specific TGR5 overexpression improves glucose clearance in glucose-intolerant mice.	SASAKI Takashi, WATANABE Yuichi, KUBOYAMA Ayane, OIKAWA Akira, SHIMIZU Makoto, YAMAUCHI Yoshio, SATO Ryuichiro	J Biol Chem	296		100131		Jan-21
学術雑誌論文 (学外)	酸化ステロール蓄積と肥満性炎症	渡邊 雄一	アグリバイオ	4	11	988		Oct-20
学術雑誌論文 (学外)	Effect of Lorenzo's Oil on Hepatic Gene Expression and the Serum Fatty Acid Level in abcd1-Deficient Mice.	MORITA Masashi, HONDA Ayako, KOBAYASHI Akira, WATANABE Yuichi, WATANABE Shiro, KAWAGUCHI Kosuke, TAKASHIMA Shigeo, SHIMOZAWA Nobuyuki, IMANAKA Tuneo	JIMD Reports	38		67		May-17

昭和大学	部門名 腫瘍細胞生物学	職名 助教	氏名 日暮 大渡
------	-------------	-------	----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
会議発表 (論文・口頭)	ミトコンドリア呼吸鎖複合体IはNAD+を供給することによりエビジェネティックにp21Cip1を発現制御する	日暮 大渡 森 一憲 石川 文博 柴沼 質子					第80回日本癌学会学術総会	Oct-21
学術雑誌論文 (学外)	Rac1-mediated sustained β 4 integrin level develops reattachment ability of breast cancer cells after anchorage loss	MORI Kazunori HIGURASHI Masato ISHIKAWA Fumihiko SHIBANUMA Motoko	Cancer Sci			1		May-21
学術雑誌論文 (学外)	High expression of FOXM1 critical for sustaining cell proliferation in mitochondrial DNA-less liver cancer cells	HIGURASHI Masato MARUYAMA Tsuyoshi NOGAMI Yusuke ISHIKAWA Fumihiko YOSHIDA Yukiko MORI Kazunori	Exp Cell Res	389	1	111889		Apr-20
学術雑誌論文 (学外)	Linkage of E2F1 transcriptional network and cell proliferation with respiratory chain activity in breast cancer cells.	MORI Kazunori UCHIDA Tetsu FUKUMURA Motonori TAMIYA Shigetoshi HIGURASHI Masato SAKAI Hirosato ISHIKAWA Fumihiko SHIBANUMA Motoko	Cancer Sci	107	7	963		Jul-16

昭和大学	部門名 毒物学部門	職名 助教	氏名 宇佐美 (服部) 夏実
------	-----------	-------	----------------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	Fetal methylphenidate exposure induced ADHD-like phenotypes and decreased Drd2 and Slc6a3 expression levels in mouse offspring.	AOKI Satoru KAIZAKI-MITSUMOTO Asuka HATTORI Natsumi NUMAZAWA Satoshi	Toxicol Lett	344		1		Jun-21

会議発表 (論文・口頭)	MARTAオランザピン誘発酸化ストレスへの応答性 には性差がある	服部 夏実 光本(貝崎) 明日香 芦野 隆 山本 雅之 沼澤 聡					日本薬学会第 141年会	Mar-21
学術雑誌論文 (学外)	Simultaneous profiling of organic and inorganic impurities in α -pyrrolidinopentiphenone (α -PVP).	HATTORI Natsumi KAIZAKI- MITSUMOTO Asuka HATAOKA Kyoko NUMAZAWA Satoshi	J Toxicol Sci	44	12	849		Dec-19
学術雑誌論文 (学外)	Hyperreflexia induced by XLR-11 smoke is caused by the pyrolytic degradant	HATAOKA Kyoko KAIZAKI- MITSUMOTO Asuka TAKEBAYASHI- OHSAWA Mika HATTORI Natsumi FUNADA Masahiko NUMAZAWA Satoshi	Forensic Toxicol	37	2	412		Jul-19

昭和大学	部門名 基礎医療薬学講座薬理学部門	職名 助教	氏名 篠内良介
------	-------------------	-------	---------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	SMTP-44D improves diabetic neuropathy symptoms in mice through its antioxidant and anti-inflammatory activities	SHINOUCHI Ryosuke SHIBATA Keita HASHIMOTO Terumasa JONO Shiori HASUMI Keiji NOBE Koji	Pharmacol Res Perspect	8	6	e00648		Dec-20
会議発表 (論文・口頭)	SMTP-44Dの抗酸化作用および抗炎症作用を介し た糖尿病神経障害に対する作用メカニズムの検討	篠内 良介 柴田 佳太 城野 詩 織 蓮見 恵司 野部 浩司					第36回日本糖 尿病合併症学 会	Oct-21
会議発表 (論文・口頭)	化学療法誘発性末梢神経障害 (GPN) モデルマウス を用いたハンドセラピー施術による神経障害改善 効果の解明	篠内 良介 佐々木 晶子 柴田 佳太 古林 創史 芦野 隆 坂井 信裕 山口 真帆 佐藤 ゆり絵 細沼 雅弘 高木 孝士 辻 まゆ み 野部 浩司 木内 祐二					第53回日本臨 床分子形態学 会総会・学術 集会	Oct-21

昭和大学	部門名 生理・病態学	職名 助教	氏名 前田耕平
------	------------	-------	---------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学内)	Regulatory Effect of IL-4 on Early Th17 Differentiation from Naive T Cells into Stem Cell Memory Th17 Precursors via Modulation of CD31 and CCR6 Expression	MAEDA Kohei TANIOKA Toshihiro IWAMOTO Sanju	Showa Univ J Med Sci	32	2	135		Jul-20
学術雑誌論文 (学外)	The Ang III/AT2R Pathway Enhances Glucose Uptake by Improving GLUT1 Expression in 3T3-L1 Adipocytes.	TANIOKA Toshihiro MAEDA Kohei TAKAHASHI Rei IWAMOTO Sanju	Biol Pharm Bull	44	7	1014		Jul-21
学術雑誌論文 (学内)	A profile of pro-inflammatory cytokine expression in human Delta-1-induced monocyte-derived Langerhans cell-like dendritic cells after stimulation with Toll-like receptor ligands	TAKAHASHI Rei IWAMOTO Sanju TANIOKA Toshihiro MAEDA Kohei	Showa Univ J Med Sci	33	3	67		Sep-21
会議発表 (論文・口頭)	単球由来Delta-1誘導ランゲルハンス細胞様樹状細 胞は乾癬病態に関連するサイトカインを産生する	高橋 玲 巖本 三壽 谷岡 利裕 前田 耕平					第36回日本乾 癬学会学術大 会	Sep-21
会議発表 (論文・口頭)	A profile of pro-inflammatory cytokine expression in human Delta-1-induced monocyte-derived Langerhans cell-like dendritic cells after stimulation with Toll-like receptor ligands	TAKAHASHI Rei IWAMOTO Sanju TANIOKA Toshihiro MAEDA Kohei					第50回日本免 疫学会学術集 会	Dec-21

昭和大学	部門名 生理・病態学	職名 助教	氏名 高橋玲
------	------------	-------	--------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
会議発表 (論文・口頭)	A profile of pro-inflammatory cytokine expression in human Delta-1-induced monocyte-derived Langerhans cell-like dendritic cells after stimulation with Toll-like receptor ligands	TAKAHASHI Rei IWAMOTO Sanju TANIOKA Toshihiro MAEDA Kohei					第50回日本免 疫学会学術集 会	Dec-21
学術雑誌論文 (学内)	A profile of pro-inflammatory cytokine expression in human Delta-1-induced monocyte-derived Langerhans cell-like dendritic cells after stimulation with Toll-like receptor ligands	TAKAHASHI Rei IWAMOTO Sanju TANIOKA Toshihiro MAEDA Kohei	Showa Univ J Med Sci	33	3	67		Sep-21
会議発表 (論文・口頭)	単球由来Delta-1誘導ランゲルハンス細胞様樹状細 胞は乾癬病態に関連するサイトカインを産生する	高橋 玲 巖本 三壽 谷岡 利裕 前田 耕平					第36回日本乾 癬学会学術大 会	Sep-21
学術雑誌論文 (学外)	The Ang III/AT2R Pathway Enhances Glucose Uptake by Improving GLUT1 Expression in 3T3-L1 Adipocytes.	TANIOKA Toshihiro MAEDA Kohei TAKAHASHI Rei IWAMOTO Sanju	Biol Pharm Bull	44	7	1014		Jul-21

昭和大学	部門名 衛生薬学部門	職名 助教	氏名 依田恵美子
------	------------	-------	----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
原著論文	Involvement of prostacyclin synthase in high-fat-diet- induced obesity.	Sasaki Y, Kuwata H, Akatsu M, Yamakawa Y, Ochiai T, Yoda E, Nakatani Y, Yokoyama C, Hara S.	Prostaglandins Other Lipid Mediat	153		106523		Jul-21
原著論文	Gene Deletion of Calcium-Independent Phospholipase A2y (iPLA2y) Suppresses Adipogenic Differentiation of Mouse Embryonic Fibroblasts.	Yoda E, Hachisu K, Kuwata H, Nakatani Y, Hara S.	Biol Pharm Bull.	43	9	1375		Sep-20

原著論文	Differential Role of Liver X Receptor (LXR) α and LXR β in the Regulation of UDP-Glucuronosyltransferase 1A1 in Humanized UGT1 Mice.	Hansmann E, Mennillo E, Yoda E, Verreault M, Barbier O, Chen S, Tukey RH.	Drug Metab Dispos.	48	4	255		Apr-20
総説	Calcium-independent phospholipase A2y (iPLA2y) and its roles in cellular functions and diseases.	Hara S, Yoda E, Sasaki Y, Nakatani Y, Kuwata H.	Biochim Biophys Acta Mol Cell Biol Lipids.	1864	6	861		Jun-19
総説	Species differences in drug glucuronidation: Humanized UDP-glucuronosyltransferase 1 mice and their application for predicting drug glucuronidation and drug-induced toxicity in humans.	Fujiwara R, Yoda E, Tukey RH.	Drug Metab Pharmacokinetic.	33	1	9		Feb-18

昭和大学	部門名 衛生薬学	助教	氏名 佐々木由香
------	----------	----	----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	Coordinated action of microsomal prostaglandin E synthase-1 and prostacyclin synthase on contact hypersensitivity.	OCHIAI Tsubasa SASAKI Yuka KUWATA Hiroshi NAKATANI Yoshihito YOKOYAMA Chieko HARA Shuntaro	Biochem Biophys Res Commun	546		124		Mar-21
学術雑誌論文 (学外)	Gene deletion of microsomal prostaglandin E synthase-1 suppresses chemically induced skin carcinogenesis.	SASAKI Yuka KUWATA Hiroshi AIDA Eri OCHIAI Tsubasa KAMEI Daisuke NAKATANI Yoshihito HARA Shuntaro	Anticancer Res	41	3	1307		Mar-21
学術雑誌論文 (学外)	Involvement of prostacyclin synthase in high-fat-diet-induced obesity.	SASAKI Yuka KUWATA Hiroshi AKATSU Moe YAMAKAWA Yuri OCHIAI Tsubasa YODA Emiko NAKATANI Yoshihito YOKOYAMA Chieko HARA Shuntaro	Prostaglandins Other Lipid Mediat	153		106523		Dec-20
学術雑誌論文 (学外)	Calcium-independent phospholipase A2y (iPLA2y) and its roles in cellular functions and diseases.	HARA Shuntaro YODA Emiko SASAKI Yuka NAKATANI Yoshihito KUWATA Hiroshi	Biochim Biophys Acta Mol Cell Biol Lipids	1864	6	861		Jun-19
学術雑誌論文 (学外)	Role of prostacyclin synthase in carcinogenesis	SASAKI Yuka OCHIAI Tsubasa TAKAMURA Masaya KONDO Y YOKOYAMA C HARA Shuntaro	Prostaglandins Other Lipid Mediat	133		49		Nov-17

昭和大学	部門名 社会薬学	職名 助教	氏名 熊木 良太
------	----------	-------	----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
その他	潜在的フレイル高齢者の現状と薬剤師の可能性	熊木 良太					第31回日本医療薬学会年會シンポジウム25「フレイルと栄養対策、薬剤師の挑戦」	Oct-21
会議発表 (論文・口頭)	在宅医療に着目した各都道府県の薬局機能情報提供サイトのユーザビリティ評価	長塚 芽久美 熊木 良太 赤川 (佐々木) 圭子 岸本 桂子					日本アブライド・セラピューティクス(実践薬物治療)学会第11回学術大会 日本社会薬学会第39年會合同大会	Sep-21
会議発表 (論文・口頭)	スイッチOTC医薬品として販売されている経皮吸収型鎮痛消炎貼付剤の不適切な使用に影響する因子の解析	赤川(佐々木) 圭子 狩野 小町 熊木 良太 岸本 桂子					日本アブライド・セラピューティクス(実践薬物治療)学会第11回学術大会 日本社会薬学会第39年會合同大会	Sep-21
会議発表 (論文・口頭)	ネット販売における指定第2類医薬品の注意喚起に関する調査	浅岡 宝花 熊木 良太 赤川 (佐々木) 圭子 岸本 桂子					日本アブライド・セラピューティクス(実践薬物治療)学会第11回学術大会 日本社会薬学会第39年會合同大会	Sep-21

会議発表 (論文・口頭)	薬局における患者の薬剤師への情報提供の促進要因及び患者の情報提供積極性の評価方法の検討	岸本 桂子 熊木 良太 清塚 千夏 櫻井 秀彦					日本アブライド・セラピューティクス(実践薬物治療)学会第11回学術大会 日本社会薬学会第42年会合同大会	Sep-21
会議発表 (論文・口頭)	薬局薬剤師が減薬提案したくてもできない要因とその解消方法に関する調査	熊木 良太 後藤 広樹 赤川 圭子 後藤 知良 岸本 桂子					第5回日本老年薬学会学術大会	May-21
その他	薬局における日本版FORTAの活用方法	熊木 良太					第5回日本老年薬学会学術大会 シンポジウム3「新規薬剤評価ツールFORTAの有用性について」	May-21
学術雑誌論文 (学外)	回復期リハビリテーション病棟における機能的自立度評価表(FIM)に影響する薬学的要因の探索ー決定木分析と重回帰分析を使用してー	大坪 博子 岸本 桂子 平野 偉与 中野 仁 板谷 一宏 熊木良太 赤川 圭子 大隅 寛之	医療薬学	47	2	96		Feb-21
学術雑誌論文 (学外)	フレイルに負けないヒント(第3回)(最終回) フレイルと栄養、薬局でできる取り組み	熊木 良太	都薬雑誌	42	11	54		Nov-20
学術雑誌論文 (学外)	新規規格経管栄養器具(ISO 80369-3)における細菌汚染の経時的変化の検証	古屋 宏章 石野 敬子 熊木良太 岸本 桂子 倉田 なおみ	学会誌JSPEN	2	5	316		Nov-20
学術雑誌論文 (学外)	Survey Of pharmacist services and status of drug administration to patients with dysphagia in convalescence rehabilitation wards	OHTSUBO Hiroko KISHIMOTO Keiko KUMAKI Ryota AKAGAWA Keiko KURATA Naomi	Jap J Compr Rehabil Sci	10	2019	108		Dec-19
図書	訪問看護基本テキスト 各論編	熊木 良太				159		Dec-18

昭和大学	部門名：医薬品評価薬学部門	職名：助教	氏名：滝 伊織
------	---------------	-------	---------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	KRAS and EGFR Amplifications Mediate Resistance to Rociletinib and Osimertinib in Acquired Afatinib-Resistant NSCLC Harboring Exon 19 Deletion/T790M in EGFR.	NAKATANI Kaori YAMAOKA Toshimitsu OHBA Motoi FUJITA Ken-ichi ARATA Satoru KUSUMOTO Sojiro TAKI (TAKEMOTO) Iori KAMEI Daisuke IWAI Shinichi TSURUTANI Junji OHMORI Tohru	Mol Cancer Ther	18	1	112		Jan-19
学術雑誌論文 (学外)	Coadministration of cytotoxic chemotherapeutic agents with irinotecan is a risk factor for irinotecan-induced cholinergic syndrome in Japanese patients with cancer.	TSUBOYA Ayako FUJITA Ken-ichi KUBOTA Yutaro ISHIDA Hiroo TAKI (TAKEMOTO) Iori KAMEI Daisuke IWAI Shinichi SASAKI Yasutsuna	Int J Clin Oncol	24	2	222		Feb-19
学術雑誌論文 (学外)	Anti-inflammatory effects of new catechin derivatives in a hapten-induced mouse contact dermatitis model.	NAKANO Eriko KAMEI Daisuke MURASE Remi TAKI Iori KARASAWA Koji FUKUHARA Kiyoshi IWAI Shinichi	Eur J Pharmacol	845		40		Feb-19
学術雑誌論文 (学内)	Five Prognostic Factors for Readmission in Patients Over 75 Years Old with Worsening Heart Failure	SAITO HIROSHI SHOJI Makoto TAKI Iori MURASE Remi KAMEI Daisuke SHINKE Toshiro IWAI Shinichi	Showa Univ J Med Sci	32	1	33		Apr-20
学術雑誌論文 (学外)	Effect of intraoral antioxidative capacity in orengedokuto	NISHIJIMA Hiroaki TAKAMATSU Satoshi SATOH Kazue MURASE Remi TAKI Iori KAMEI Daisuke KAWAZOE Kazuyoshi NEMOTO Yukio IWAI Shinichi	Tradit Kampo Med	7	1	30		Apr-20

昭和大学	部門名 医薬品評価薬学	職名 助教	氏名 村瀬礼美
------	-------------	-------	---------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	Group III phospholipase A2 promotes colitis and colorectal cancer	MURASE Remi TAKETOMI Y MIKI Y NISHITO Y SAITO M FUKAMI K YAMAMOTO K MURAKAMI M	Sci Rep	7	1	12261		Sep-17
学術雑誌論文 (学外)	Anti-inflammatory effects of new catechin derivatives in a hapten-induced mouse contact dermatitis model.	NAKANO Eriko KAMEI Daisuke MURASE Remi TAKI Iori KARASAWA Koji FUKUHARA Kiyoshi IWAI Shinichi	Eur J Pharmacol	845		40		Feb-19

学術雑誌論文 (学外)	Effect of intraoral antioxidative capacity in orengedokuto	NISHIJIMA Hiroaki TAKAMATSU Satoshi SATOH Kazue MURASE Remi TAKI Iori KAMEI Daisuke KAWAZOE Kazuyoshi NEMOTO Yukio IWAI Shinichi	Tradit Kampo Med	7	1	30		Apr-20
学術雑誌論文 (学内)	Five Prognostic Factors for Readmission in Patients Over 75 Years Old with Worsening Heart Failure	SAITO HIROSHI SHOJI Makoto TAKI Iori MURASE Remi KAMEI Daisuke SHINKE Toshiro IWAI Shinichi	Showa Univ J Med Sci	32	1	33		Apr-20
学術雑誌論文 (学外)	Mast Cell-Specific Deletion of Group III Secreted Phospholipase A2 Impairs Mast Cell Maturation and Functions.	TAKETOMI Y ENDO Y HIGASHI T MURASE Remi ONO T TAYA C KOBAYASHI T MURAKAMI M	Cells	10	7	1691		Jul-21

昭和大学	部門名 薬物治療学	職名 助教	氏名 里美貴
------	-----------	-------	--------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	Factors predicting addition of disease-modifying antirheumatic drugs after initial methotrexate monotherapy in patients with rheumatoid arthritis.	YAMAGUCHI Takashi KOHYAMA Noriko TAKENAKA Miki OKADA Takahiro KURIHARA Tatsuya SAKURAI Kosuke MIWA Yusuke KOGO Mari	Clin Rheumatol	40	7	2657		Jul-21
学術雑誌論文 (学外)	Scoring Model to Predict a Low Disease Activity in Elderly Rheumatoid Arthritis Patients Initially Treated with Biological Disease-modifying Antirheumatic Drugs	OKADA Takahiro KOHYAMA Noriko TAKENAKA Miki YAMAGUCHI Takashi KURIHARA Tatsuya SAKURAI Kosuke MIWA	Intern Med	60	12	1827		Jun-21
会議発表 (論文・口頭)	COP-NLRを用いた転移性腎細胞癌スニチニブ内服 患者における予後予測モデルの構築	里 美貴 井田 歩希 神田 雄貴 高野 華央里 大林 真幸 神山 紀子 森田 順 富士 幸蔵 佐々 木 春明 小川 良雄 向後 麻里					医療薬学 フォーラム 2021 第29回 クリニカル ファーマシー シンポジウム	Jul-21
会議発表 (論文・口頭)	関節リウマチ患者における初回メトトレキサート 単剤療法後の疾患修飾抗リウマチ薬 (DMARDs) 追加に影響を及ぼす因子の検討	山口天士, 神山紀子, 竹中美貴, 岡 田貴裕, 栗原竜也, 櫻井康亮, 三浦 瑠子, 三輪裕介, 向後麻里					日本リウマチ 学会	Apr-20
会議発表 (論文・口頭)	高齢関節リウマチ患者における生物学的製剤の効 果予測スコアモデルの構築	岡田貴裕, 神山紀子, 竹中美貴, 山 口天士, 栗原竜也, 櫻井康亮, 三浦 瑠子, 三輪裕介, 向後麻里					日本リウマチ 学会	Apr-20

昭和大学	部門名 天然医薬治療学部門	職名 助教	氏名 小池 佑果
------	---------------	-------	----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	抗老化を目指した漢方薬の評価	高松 智 小池 佑果 川添 和義	アグリバイオ	5	9	98		Jul-21
会議発表 (論文・口頭)	トロンビン活性を抑制した治打撲一方の成分	小池 佑果 高松 智 川添 和義					第43回日本血 栓止血学会学 術集会	May-21
図書	医歯薬学系博物館事典	小池 佑果				65		May-21
図書	生薬・薬用植物研究の最新動向	小池 佑果				83		Aug-17
学術雑誌論文 (学外)	漢方概念に基づいた天然資源からの創薬シーズ探 索と研究	小池 佑果	月刊ファインケミカル	46	6	6		Jun-17

昭和大学	部門名 がんゲノム医療薬学部門	職名 助教	氏名 松本奈都美
------	-----------------	-------	----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	Decreased Disposition of Anticancer Drugs Predominantly Eliminated via the Liver in Patients with Renal Failure	FUJITA Ken-ichi MATSUMOTO Natsumi ISHIDA Hiroo KUBOTA Yutaro IWAI Shinichi SHIBANUMA Motoko KATO Yukio	Curr Drug Metab	20	5	361		Mar-19
学術雑誌論文 (学外)	Variants of carboxylesterase 1 have no impact on capecitabine pharmacokinetics and toxicity in capecitabine plus oxaliplatin treated-colorectal cancer patients	MATSUMOTO Natsumi KUBOTA Yutaro ISHIDA Hiroo SEKIDO Masae OHKUMA Ryotaro ISHIGURO Tomoyuki HIRASAWA Yuya ARIIZUMI Hirotosugu TSUNODA Takuya IKUSUE Toshikazu KOBAYASHI Kouji HISAMATSU Atsushi TOSHIMA Hirokazu SHIMADA Ken FUJITA Ken-ichi	Cancer Chemother Pharmacol	85	6	1119		Jun-20

学術雑誌論文 (学外)	6-Hydroxyindole is an endogenous long-lasting OATP1B1 inhibitor elevated in renal failure patients	MASUO Yusuke FUJITA Ken-ichi MISHIRO Kenji SEBA Natsumi KOGI Tatsuya OKUMURA Hidenori MATSUMOTO Natsumi KUNISHIMA Munetaka KATO Yukio	Drug Metab Pharmacokinetic	35	6	555		Sep-20
学術雑誌論文 (学外)	Correlation between the metabolic conversion of a capecitabine metabolite, 5'-deoxy-5-fluorocytidine, and creatinine clearance	INAIISHI Takahiro FUJITA Ken-ichi MATSUMOTO Natsumi SHIMOKATA Tomoya MAEDA Osamu KIKUMORI Toyone HATTORI Norifumi NAKAYAMA Goro ANDO Yuichi	In Vivo	34	6	3539		Nov-20
会議発表 (論文・口頭)	SN-38の体内動態とOATP1B1の機能:重篤な腎機能障害のない患者において	藤田 健一 久保田 祐太郎 石田 博雄 坪谷 綾子 角田 卓也 松本 奈都美 楠原 洋之 佐々木 康綱					第18回日本臨床腫瘍学会学術集会 (JSMO2021)	Feb-21
会議発表 (論文・口頭)	Capecitabineの加水分解反応における小胞体膜輸送体OAT2の役割	石田 尚輝 荒川 大 松本 奈都美 藤田 健一 加藤 将夫					日本薬剤学会第36年会	May-21
学術雑誌論文 (学外)	Minimal contribution of the hepatic uptake transporter OATP1B1 to the inter-individual variability in SN-38 pharmacokinetics in cancer patients without severe renal failure.	TSUBOYA Ayako KUBOTA Yutaro ISHIDA Hiroo OHKUMA Ryotaro ISHIGURO Tomoyuki HIRASAWA Yuya ARIIZUMI Hirotsugu TSUNODA Takuya SASAKI Yasutsuna MATSUMOTO Natsumi KONDO Yusuke TOMODA Yukana KUSUHARA Hiroyuki FUJITA Ken-ichi	Cancer Chemother Pharmacol	88	3	543		Jun-21

業績項目における「会議発表(論文・口頭)」は発表形式を問わず、すべての学会発表を示します。

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 教授員外	氏名 渡邊 徹
------	---------	---------	---------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	Association of Potentially Inappropriate Medications With All-Cause Mortality in the Elderly Acute Decompensated Heart Failure Patients: Importance of Nonsteroidal Anti-Inflammatory Drug Prescription	Tomiko Sunagaa, Azusa Yokoyamab, Shoko Nakamura, Nagisa Miyamotob, Saki Watanabec, Miki Tsujichid, Sakura Nagumod, Ayaka Nogid, Hideyuki Maezawad, Takuya Mizukamid, Mio Ebatod, Hiroshi Suzukid, Akihiro Nakamura, Toru Watanabea, b, Tadanori Sasakia	Cardiol Res.	11	4	239		Mar-20
学術雑誌論文 (学外)	The association between cumulative radiation dose and the incidence of severe oral mucositis in head and neck cancers during radiotherapy	Tomiko Sunaga, Akiko Nagatani, Naokazu Fujii Touji Hashimoto, Toru Watanabe, Tadanori Sasaki	Cancer Report	4	2	e1317		Apr-21
学術雑誌論文 (学外)	The impact of lesion location on medication self-management ability in patients with cerebrovascular disease	Hisato Fujiwara, Keiya Goto, Mayumi Higashino, Shoko Nakamura, Eriko Tanaka, Tomiko Sunaga, Nobuyuki Kawate, Kazuyoshi Kawazoe, Toru Watanabe and Tadanori Sasaki	Japanese Journal of Comprehensive Rehabilitation Science.	11		21		Feb-20
学術雑誌論文 (学外)	Safety of vancomycin in patients with moderate and severe renal dysfunction.	Awaya M, Tanaka H, Suzuki A, Yamauchi R, Kusunoki Y, Tanaka N, Tomura K, Tanaka S, Watanabe T, Ikeda H, Sasaki T.	Clin. Nephrol.	26		On line		Jul-21
学術雑誌論文 (学外)	Comparison of trough concentration and area under the curve of vancomycin associated with the incidence of nephrotoxicity and predictors of a high trough level.	Suzuki A, Hamada Y, Ikeda H, Tanaka H, Yanagihara M, Namiki M, Watanabe T, Sasaki T.	J Infect Chemother.	27	3	455		Jul-21

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 准教授	氏名 田中克巳
------	---------	--------	---------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
会議発表 (論文・口頭)	手術・検査前中止薬の確認業務とその評価	柏原由佳 柘植縁理佳 伊波樹 江島麗 佐伯美沙 田中章久 前田絵里加 田中克巳					第31回日本医療薬学会年会	Oct-21
学術雑誌論文 (学外)	産科編 基本的薬剤の選び方・使い方・注意点 解熱鎮痛薬	磯崎 遥 前田 絵里加 田中克巳 大槻 克文	周産期医学	50	増刊	87		Dec-20
図書	周産期の薬(周産期医学 50(増刊))	磯崎 遥 前田 絵里加 田中克巳 大槻 克文				87		Dec-20
会議発表 (論文・口頭)	発足後1年間の緩和ケアチーム介入の実態と課題	柏原 由佳 小城原 傑 笈沼 智子 喜田 昌記 野 清美 嶋田 顕 田中 克巳 佐々木 忠徳					第6回日本がんサポーターブケア学会	May-21
会議発表 (論文・口頭)	「調剤業務のあり方」に基づく医療の質に与える影響の検討	永田 卓也 田中 克巳 久知良 礼美 中田 麻里 佐々木 忠徳					第22回日本医療マネジメント学会学術総会	Oct-20
学術雑誌論文 (学外)	薬薬連携におけるトレーシングレポート第1回 総説	渡邊 亜矢子 喜田 昌記 柏原由佳 田中 章久 田中 克巳 佐々木 忠徳	都薬雑誌	42	11	38		Nov-20
学術雑誌論文 (学内)	注射剤処方に対する疑義照会内容の分析とインシデントとの関連	仁尾 祐太 杉田 栄樹 北原加奈之 清水 久範 柏原 由佳 田中 克巳 佐々木 忠徳	昭和学士会雑誌	79	6	797		Dec-19
学術雑誌論文 (学外)	フェノバルビタールの剤形変更により血中フェノバルビタール濃度が著しく変動した1例	伊藤 綾花 渡邊 亜矢子 阿部久瑠美 中田 麻里 永田 卓也 柏原 由佳 花岡 健太郎 水野 克己 田中 克巳 佐々木 忠徳	日本小児臨床薬理学会雑誌	32		120		Aug-19

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 准教授	氏名 柏原由佳
------	---------	--------	---------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
会議発表 (論文・口頭)	手術・検査前中止薬の確認業務とその評価	柏原由佳 柘植縁理佳 伊波樹 江島麗 佐伯美沙 田中章久 前田絵里加 田中克巳					第31回日本医療薬学会年会	Oct-21
会議発表 (論文・口頭)	学部教育から臨床研修薬剤師教育まで一貫した臨床薬剤師教育体制確立への取組み	縄田 修一					第6回日本薬学教育学会大会	Aug-21

学術雑誌論文 (学外)	緩和薬物療法認定薬剤師 緩和薬物療法 認定薬剤師に期待されるもの	柏原 由佳 大戸 祐治 喜田 昌記	薬事新報		3211	764		Jul-21
会議発表 (論文・口頭)	発足後1年間の緩和ケアチーム介入の実態 と課題	柏原 由佳 小城原 傑 笈沼 智子 喜田 昌記 ?野 清美 嶋 田 颯 田中 克巳 佐々木 忠 徳					第6回日本が んサポーティ ブケア学会	May-21
学術雑誌論文 (学外)	薬業連携におけるトレーシングレポート 第2回 昭和大学江東豊洲病院での運用	柏原 由佳 田中 章久 喜田 昌記 渡邊 亜矢子 田中 克巳	都薬雑誌	42	12	48		Dec-20
学術雑誌論文 (学内)	注射剤処方に対する疑義照会内容の分析 とインシデントとの関連	仁尾 祐太 杉田 栄樹 北原 加奈之 清水 久範 柏原 由佳 田中 克巳 佐々木 忠徳	昭和医学会雑誌	79	6	797		Dec-19
学術雑誌論文 (学外)	【がんサバイバーの痛みを考える】薬物 療法 ペンタゾシン、ブプレノルフィン	柏原 由佳	ペインクリニック	40	別冊 秋	S337		Oct-19
学術雑誌論文 (学外)	フェノバルビタールの剤形変更により血 中フェノバルビタール濃度が著しく変動 した1例	伊藤 綾花 渡邊 亜矢子 阿部 久瑠美 中田 麻里 永田 卓也 柏原 由佳 花岡 健太郎 水 野 克己 田中 克巳 佐々木 忠徳	日本小児臨床薬理学会 雑誌	32		120		Aug-19

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 准教授	氏名 黒沢雅広
------	---------	--------	---------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	「精神刺激薬を安全で効果的に使う」を 開催して	黒沢 雅広	日本精神薬学会誌	4	2	26		Mar-21
学術雑誌論文 (学外)	【じっくり読めてしっかり身につく 精神 科薬物療法ガイド改訂版】精神科の薬学 的管理クリニカルクエスト (Question 1)薬局店頭で抗精神病薬の注射剤使用の 有無を確認する方法とは?	黒沢 雅広	調剤と情報	27	2	384		Jan-21
学術雑誌論文 (学外)	【じっくり読めてしっかり身につく 精神 科薬物療法ガイド改訂版】精神科の薬学 的管理クリニカルクエスト (Question 2)副作用の伝え方や発現状況の確認で注 意すべき点とは?	黒沢 雅広	調剤と情報	27	2	385		Jan-21
学術雑誌論文 (学外)	【じっくり読めてしっかり身につく 精神 科薬物療法ガイド改訂版】精神科の薬学 的管理クリニカルクエスト (Question 3)「いつまで薬を飲み続けたらよいの か」と尋ねられたときの対応とは?	黒沢 雅広	調剤と情報	27	2	386		Jan-21
会議発表 (論文・口頭)	多変量解析を用いた、心理教育プログラ ムを受けた統合失調症患者の再入院のリ スク因子の検討	中野 裕佳子 杉沢 諭 栗原 竜也 古屋 宏章 永井 努 黒 沢 雅広 常岡 俊昭 稲本 淳 子 岩波 明					第5回日本精 神薬学会総 会・学術集会	Aug-21
会議発表 (論文・口頭)	学部教育から臨床研修薬剤師教育まで一 貫した臨床薬剤師教育体制確立への取組 み	縄田 修一					第6回日本薬 学教育学会大 会	Aug-21
会議発表 (論文・口頭)	精神医療実習（病院実務実習）の構築ー 精神疾患患者の実際を学び対応を取得す る必須科目ー	栗原 竜也 永井 努 黒沢 雅 広 唐沢 浩二 福村 基徳 田 島 正教 向後 麻里 中野 裕 佳子 佐野 智香 八木 孝仁 池田 勝之 真田 建史 ?塩 理 岩波 明 中村 明弘					第5回日本薬 学教育学会大 会「未来を変 える薬学教育 の力」ー医療 の絆が新たな チャレンジを 実現するー	Sep-20
会議発表 (論文・口頭)	ADHD適正流通管理システムの運用状況と 今後の課題	黒沢 雅広					NPBP2020 合同年会 精 神刺激薬を安 全で効果的に 使う	Aug-20

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 准教授	氏名 阿部 誠治
------	---------	--------	----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	歯科領域でよく使用される薬剤の注意すべきところ	阿部 誠治	小児歯科臨床	26	5	27		May-21
学術雑誌論文 (学外)	当院における「輸液用フィルター・投与ルートガイドライン」作成の意義および有用性評価	二村 哲未, 阿部 誠治, 野田 秀裕, 岡崎 敬之介, 岡田 菜津美, 嶋崎 真耶, 太田 品子, 城所 扶美子, 佐々木 忠徳	医薬品情報学	23	1	1		Apr-21
学術雑誌論文 (学外)	Copy number elevation of 22q11.2 genes arrests the developmental maturation of working memory capacity and adult hippocampal neurogenesis	BOKU S IZUMI T ABE Seiji TAKAHASHI T NISHI A NOMARU H NAKA Y KANG G NAGASHIMA M HISHIMOTO A ENOMOTO S DURAN-Torres G TANIGAKI K ZHANG J YE K KATO S M?NNIST? PT KOBAYASHI K HIROI N	Mol Psychiatry	23	4	985		Apr-18

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 准教授	氏名 藤原久登
------	---------	--------	---------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学内)	A Retrospective Study of Injection Site Pain from Azithromycin Injection in Japanese Patients	Hironori TANAKA, Makoto HAYASHI, Mariko AWAYA, Yumiko KUSUNOKI, Nao TANAKA, Kazuki TOMURA, Hisato FUJIHARA, Toru WATANABE, Hirokazu IKEDA, Tadanori SASAKI	The Showa University Journal of Medical Sciences	32	3	207		Sep-20
学術雑誌論文 (学外)	The impact of lesion location on medication self-management ability in patients with cerebrovascular disease	Hisato Fujihara, Keiya Goto, Mayumi Higashino, Shoko Nakamura, Eriko Tanaka, Tomiko Sunaga, Nobuyuki Kawate, Kazuyoshi Kawazoe, Toru Watanabe, Tadanori Sasaki	Japanese Journal of Comprehensive Rehabilitation Science	11		21		Feb-20
学術雑誌論文 (学外)	【患者の気持ちに寄り添う服薬支援】(Part 3)事例にみる 患者の気持ちに寄り添う服薬支援 身体機能低下による服薬困難事例	藤原久登	看護技術	66	6	614		May-20
学術雑誌論文 (学外)	地域包括ケアシステムの回復期における病院薬剤師と薬局薬剤師との連携に関する調査研究	岸本真、荒川隆之、川崎美紀、豊見敦、藤原久登、清神文博、宮川哲也	日本病院薬剤師会雑誌	56	10	1214		Oct-20
学術雑誌論文 (学外)	Development and evaluation of a formula for predicting introduction of medication self-management in stroke patients in the Kaifukuki rehabilitation ward	FUJIHARA Hisato,KOGO Mari,SAITO Isao, KAWATE Nobuyuki,MIZUMA Masazumi,SUZUKI Hiroko,MURAYAMA Jun - ichiro,SASAKI Tadanori	J Pharm Health Care Sci	3	2	1		Jan-17
会議発表 (論文・口頭)	学部教育から臨床研修薬剤師教育まで一貫した臨床薬剤師教育体制確立への取組み	縄田修一、柏原由佳、市倉大輔、嶋村弘史、藤原久登、黒沢雅広、田中広紀、阿部誠治、百賢二、鈴木信也、須永登美子、渡邊徹					第6回日本薬学教育学会大会	Aug-21
会議発表 (論文・口頭)	回復期リハビリテーション病棟入院中の高齢脳卒中患者における抗コリン負荷が服薬自己管理に及ぼす影響	田中絵里子、藤原久登、高木桂子、三井奈緒、中村彰子、川手信行、佐々木忠徳					第31回日本医療薬学会年会	Oct-21

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 准教授	氏名 田中広紀
------	---------	--------	---------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	Comparison of trough concentration and area under the curve of vancomycin associated with the incidence of nephrotoxicity and predictors of a high trough level	SUZUKI Ayako HAMADA Yukihiro IKEDA Hirokazu TANAKA Hironori YANAGIHARA Mari NAMIKI Mikako WATANABE Toru SASAKI Tadanori	J Infect Chemother	27	3	455		Mar-21
学術雑誌論文 (学外)	予防投与量のST合剤でSIADHによる低Na血症が疑われた1例	米澤 龍 藤宮 龍祥 伊藤 真理 田中 広紀 原田 浩史 渡邊 徹	日本病院薬剤師学会雑誌	56	11	1329		Nov-20
学術雑誌論文 (学内)	A Retrospective Study of Injection Site Pain from Azithromycin Injection in Japanese Patient	TANAKA Hironori HAYASHI Makoto AWAYA Mariko KUSUNOKI Yumiko TANAKA Nao TOMURA Kazuki FUJIHARA Hisato WATANABE Toru IKEDA Hirokazu SASAKI Tadanori	Showa Univ J Med Sci	32	3	207		Oct-20

学術雑誌論文 (学外)	Evaluation of a clinical skills assessment tool for young pharmacists in Japan	KITAHARA Kanayuki KURIHARA Tatsuya TANAKA Hironori KASHIWABARA Yuka NAWATA Shuichi SUGITA Hideki UCHIKURA Takeshi SASAKI Tadanori	薬学教育	3		125		Jan-20
学術雑誌論文 (学外)	腎機能障害患者におけるパankoマイシン 初期投与の検討	栗屋 真理子 田中 広紀 鈴木 絢子 市川 剛 楠 裕美子 内 田 展 秋山 菜央 戸村 和希 須永 登美子 藤原 久登 並 木 美加子 田中 佐知子 渡邊 徹 池田 裕一 佐々木 忠徳	日本病院薬剤師会雑誌	55	2	197		Feb-19

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 准教授	氏名 縄田 修一
------	---------	--------	----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	Clinical Pharmacokinetics of Mianserin Suppositories in Healthy Older Japanese Male Adults: A Pilot Study	ICHIKUKA Daisuke NAWATA Shuichi KOHYAMA Noriko TOKUNAGA Megumi HIDA Noriko YAMAZAKI Taigi TAKENOSHITA Sachiko UCHIDA Naoki MINEMURA Atsuko SASAKI Tadanori	Japanese Journal of Clinical Pharmacology and Therapeutics	50	2	23		Mar-19
学術雑誌論文 (学外)	A cross-sectional survey of methods for controlling hand-foot syndrome in patients receiving capecitabine treatment	SUZUKI Shinya NAWATA Shuichi INADA Yusuke SATO Daisuke KUSANO Junichi ICHIKURA Daisuke TORIGOE Kazuhiro ISHITSUKA Kazumi SATO Fumiaki SAKAI Hiroyasu YUMOTO Tetsuro	Mol Clin Oncol	9	4	443		Oct-18
学術雑誌論文 (学外)	少量補液負荷の胆道がんGemcitabine＋ Cisplatin療法の忍容性評価	市村 文典 縄田 修一 市倉 大輔 村上 都 臼田 昌弘 川 島 渉 峯村 純子 佐々木 忠	薬学雑誌	140	7	924		Jul-20
学術雑誌論文 (学外)	Study protocol for SPARED trial: randomised non-inferiority phase III trial comparing dexamethasone on day 1 with dexamethasone on days 1-4, combined with neurokinin-1 receptor	MINATOGAWA H IZAWA N KAWAGUCHI T MIYAJI T SHIMOMURA K KAZUNORI H IIHARA H OHNO Y INADA Y ARIOKA H MORITA H HIDA N SUGAWARA M KATADA C NAWATA Shuichi ISHIDA Hiroo TSUBOYA A TSUDA T YAMAGUCHI T NAKAJIMA TE	BMJ Open	10	12	e041737		Dec-20

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 准教授	氏名 須永 登美子
------	---------	--------	-----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	Effect of CYP3A4 inducing drug-drug interactions on contraceptive failures stratified by route of administration.	Sunaga T, Brian Cicali Stephan Schmidt Brown DJ.	Contraception	103	4	222		Apr-21
学術雑誌論文 (学外)	The association between cumulative radiation dose and incidence oral mucositis in head and neck cancer during radiotherapy.	Sunaga T, Nagatani A, Fujii N, Hashimoto T, Watanabe T, Sasaki T.	Cancer Reports (Hoboken)	4	2	e1317		Apr-21
学術雑誌論文 (学外)	Effect of continuous infusion administration of argatroban in acute ischemic stroke patients.	Sunaga T, Higashino M, Kimura A, Baba Y, Tanioka T, Watanabe T, Sasaki T.	YAKUGAKU ZASSHI	140	11	1373		Aug-20
学術雑誌論文 (学外)	Risk associated with sever hematological toxicity in patients with urothelial cancer receiving combination chemotherapy of gemcitabine and cisplatin.	Takahashi N, Sunaga T, Fujimiya T, Kurihara T, Nagatani A, Yamagishi M, Watanabe T, Sasaki H, Ogawa Y, Sasaki T	Chemotherapy	65	1-2	29		Jul-20
学術雑誌論文 (学外)	The association between potentially inappropriate medications and all-cause mortality in the elderly acute decompensated heart failure patients: importance of nonsteroidal anti-inflammatory drugs prescription.	Sunaga T, Yokoyama A, Nakamura S, Miyamoto N, Watanabe S, Tsujuchi M, Nagumo S, Nogi A, Maezawa H, Mizukami T, Ebato M, Suzuki H, Nakamura A, Watanabe T, Sasaki T.	Cardiol Res	11	4	239		Jun-20

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 准教授	氏名 百 賢二
------	---------	--------	---------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	Investigation of the Real-World Situation and Risk Factors Associated with Olanzapine Prescribed to Diabetes Patients by Using a Japanese Claims Database	YAMASHITA Shinsuke IMAI Shungo MOMO Kenji KASHIWAGI Hitoshi SATO Yuki SUGAWARA Mitsuru TAKEKUMA Yoh	Biol Pharm Bull	44	8	1151		Aug-21

学術雑誌論文 (学外)	Determination of the concentration of gilteritinib in human plasma using HPLC.	YASU Takeo SUGI Tomiyuki MOMO Kenji HAGIHARA Masao YASUI Hiroshi	Biomed Chromatogr	35	4	e5028		Apr-21
学術雑誌論文 (学外)	Probiotic Prescription Status of Pediatric Patients with Otitis Media Receiving Oral Amoxicillin or Amoxicillin/Clavulanate from April 2016 to March 2017 Using a Japanese Health Insurance Claims Database.	IMAI Shungo MOMO Kenji KASHIWAGI Hitoshi MIYAI Takayuki SUGAWARA Mitsuru TAKEKUMA Yoh	Biol Pharm Bull.	44	3	448		Mar-21
学術雑誌論文 (学外)	Association of proton pump inhibitors and concomitant drugs with risk of acute kidney injury: a nested case-control study	IKUTA Keiko NAKAGAWA Shunsaku MOMO Kenji YONEZAWA Atsushi ITO HARA Kotaro SATO Yuki IMAI Satoshi NAKAGAWA Takayuki MATSUBARA Kazuo	BMJ Open	11	2	e041543		Feb-21
学術雑誌論文 (学外)	Effects of an Indomethacin Oral Spray on Pain Due to Oral Mucositis in Cancer Patients Treated With Radiotherapy and Chemotherapy: A Double-Blind, Randomized, Placebo-Controlled Trial (JORTC-PAL04).	NAGAOKA Hiroka MOMO Kenji HAMANO Jun MIYAJI Tempei OYAMADA Shunsuke KAWAGUCHI Takashi HOMMA Masato YAMAGUCHI Takuhiro MORITA Tatsuya KIZAWA Yosiyuki	J Pain Symptom Manage.	28		S0885-3924(21)00144-5		Jan-21

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 准教授	氏名 鈴木 信也
------	---------	--------	----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
会議発表 (論文・口頭)	非イオン性ヨード造影剤の副作用発症の予測モデルの構築および検証	茶谷 良一 上村 忠聖 鈴木 信也 小松原 江里子 林 誠一 橋口 正行 木崎 速人 堀 里子					第23回日本医薬品情報学会総会・学術大会	Jun-21
学術雑誌論文 (学外)	多職種によ〜く伝わる薬学的思考を活かした 診療録記載のまとめ方(第5回) 患者の身体所見に基づく副作用評価と医師への提案(その1)	市村 丈典 鈴木 信也 佐村 優	薬事	63	6	1136		May-21
会議発表 (論文・口頭)	卵巣がんドセタキセル+カルボプラチン+ペバシズマブ療法による掌の皮膚剥離出現の実態調査	徳永 愛美 縄田 修一 河本 貴之 松浦 玲 市倉 大輔 鈴木 信也 佐々木 忠徳					第14回日本緩和医療薬学会年会	May-21
学術雑誌論文 (学外)	術後悪心嘔吐の発症率と麻酔科医の予防措置決定に薬剤師による介入が及ぼす影響	猪狩 賢蔵 鈴木 信也 関 博志 野村 嘉奈子 外園 弥生 吉田 蘭子 阪上 貴子 伊藤 智一 荒瀬 透 林 誠一	医療薬学	47	4	179		Apr-21
学術雑誌論文 (学外)	多職種によ〜く伝わる薬学的思考を活かした診療録記載のまとめ方(第3回) 検査値に関連した副作用評価と医師への提案	高田 昂輔 鈴木 信也	薬事	63	4	776		Mar-21
会議発表 (論文・口頭)	医療連携におけるPBPMを応用した外来患者に対する医療用麻薬処方への取り組み〜STAS-JIによる共通評価の試み〜	徳永 愛美 縄田 修一 日向 美羽 横山 和彦 小貫 道子 脇谷 美由紀 小原 君予 木村 祐子 市村 丈典 市倉 大輔 鈴木 信也 佐々木 忠徳					日本臨床腫瘍薬学会学術大会2021	Mar-21
会議発表 (論文・口頭)	調剤時の薬剤取違いに及ぼす薬名類似と薬効類似の影響	佐川 晴香 上村 忠聖 鈴木 信也 林 誠一 吉川 康大 木崎 速人 堀 里子					日本薬学会第141年会	Mar-21
会議発表 (論文・口頭)	非イオン性ヨード造影剤の副作用発現回避のための予防薬投与の有用性評価	茶谷 良一 上村 忠聖 鈴木 信也 小松原 江里子 林 誠一 橋口 正行 木崎 速人 堀 里子					日本薬学会第141年会	Mar-21

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 講師	氏名 和田 紀子
------	---------	-------	----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
その他	大学病院における緩和ケア〜疼痛管理における薬剤師の関わり〜	和田 紀子					日本ジェネリック医薬品・バイオシミラー学会第15回学術大会	Jun-21
会議発表 (論文・口頭)	慢性心不全患者への緩和ケアチーム薬剤師の介入と役割	和田 紀子 山口 芽衣 西木戸 修 高橋 彩子 鈴木 洋久 我妻 志保 山尾 尚子 岡本 健一郎 新家 俊郎 佐々木 忠徳					第14回日本緩和医療薬学会年会	May-21

学術雑誌論文 (学内)	Integrating Cancer Patients' Satisfaction with Rescue Medication in Pain Assessments	WADA Noriko HANDA Satoko YAMAMOTO Hitomi HIGUCHI Hitomi OKAMOTO Kenichiro SASAKI Tadanori KATO Yasuhisa	Showa Univ J Med Sci	32	3	181		Oct-20
学術雑誌論文 (学外)	【がんサバイバーの痛みを考える】薬物療法 モルヒネ・フェンタニル・オキシコドン・タペンタドール・メサドン・ヒドロモルフォン	岡本 健一郎 西木戸 修 横山和彦 和田 紀子	ペインクリニック	40	別冊秋	S328		Oct-19
学術雑誌論文 (学内)	Comparison of User Impressions of Oral Transmucosal Fentanyl Placebo Formulations by Medical Staff	WADA Noriko KASHIWABARA Yuka HIGUCHI Hitomi HINATA Miwa SASAKI Tadanori KATO Yasuhisa	Showa Univ J Med Sci	30	1	53		Mar-18

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 講師	氏名 北原加奈之
------	---------	-------	----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	Developing a Japanese version of the 'scale of attitudes toward pharmacist-physician collaboration'	Kanayuki Kitahara, Takeshi Uchikura, Yuta Nio, Satoko Katsuragi, Keinosuke Okazaki, Yoshiko Nishi, Takashi Kawaguchi, Takuhiro Yamaguchi, Tadanori Sasaki.	J Interprof Care.	15		1		Nov-20
学術雑誌論文 (学外)	Evaluation of a clinical skills assessment tool for young pharmacists in Japan.	Kanayuki Kitahara, Tatsuya Kurihara, Hironori Tanaka, Yuka Kashiwabara, Shuichi Nawata, Hideki Sugita, Takeshi Uchikura, Tadanori Sasaki.	Japanese Journal of Pharmaceutical Education	3		125		Jun-19
学術雑誌論文 (学外)	Incident Factor Analysis by THERP with a View to Preventing Dispensing Errors	Kanayuki Kitahara, Atsuko Minemura, Masahiro Numata, Masatoshi Ouchi, Tohru Aruga, Jun-ichiro Murayama	Jpn J Pharm Health Care Sci.	34	6	552		Sep-08
学術雑誌論文 (学外)	A Case of Cerebral Infarction During Treatment With Rivaroxaban for Venous Thromboembolism	Kanayuki Kitahara, Kenji Momo, Satomi Nimura, Keinosuke Okazaki, Norihiro Suzuki, Yutaro Kubota, Takuya Tsunoda, Daishi Watanabe, Keita Mizuma, Kenjiro Ono, Tadanori Sasaki	Am J Ther			1		Dec-20
学術雑誌論文 (学外)	昭和大学病院および附属東病院における8年間のインシデントレポートの状況把握と薬剤関連インシデント事例への対応	田中克巳, 北原 加奈之, 村上雅彦, 村山純一郎, 有賀 徹	安全医学	12		15		Mar-16

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 講師	氏名 吉川 雅之
------	---------	-------	----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	Standard pharmacist intervention checklist to improve the appropriate use of medications for inpatients with polypharmacy.	SHIMAMURA Hiroshi KATSURAGI Satoko YOSHIKAWA Masayuki NAKURA Miyuki SASAKI Tadanori ITABE Hiroyuki	BPB Reports	3	6	196		Dec-20
学術雑誌論文 (学外)	ビルダグリブチンとメホルミンの単剤併用から配合剤への切り替えによるHbA1c改善効果	吉川 雅之 田島 正教 杉山恵理花 佐々木 忠徳 佐藤 均	くすりと糖尿病	8	1	162		Jun-19

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 講師	氏名 内倉 健
------	---------	-------	---------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
総説	臨床研究法施行後の研究者が知っておくべき臨床研究に関する法・基準の差異について GCP省令、臨床研究法、及び倫理指針の差異	内倉 健 小林 真一 龍 家圭 三邊 武彦 肥田 典子 内田 直樹	臨床薬理	50	5	229		Sep-19
学術雑誌論文 (学外)	Evaluation of a clinical skills assessment tool for young pharmacists in Japan	KITAHARA Kanayuki KURIHARA Tatsuya TANAKA Hironori KASHI WABARA Yuka NAWATA Shuichi SUGITA Hideki Uchikura Takeshi SASAKI Tadanori	Japanese Journal of Pharmaceutical Education	3		125		Sep-19
学術雑誌論文 (学外)	全国の大学附属病院における患者向け治療情報公開に関する実態調査	佐々木 哲哉 三邊 武彦 山崎太義 内倉 健 竹ノ下 祥子 龍家圭 肥田 典子 内田 直樹 小林 真一	臨床薬理	50	1	3		Feb-19
学術雑誌論文 (学内)	入院管理下臨床試験における健康被験者のエネルギー摂取量と血清トランスアミナーゼ値の推移の関係	外谷 衣都子 鈴木 立紀 龍家圭 山崎 太義 竹ノ下 祥子 肥田 典子 三邊 武彦 内倉 健 内田 直樹 小林 真一	昭和学術会雑誌	77	4	448		Aug-17

学術雑誌論文 (学外)	健康成人におけるオルメサルタン投与後の血清カルウム値に関する安全性評価	川島 渉 内倉 健 三邊 武彦 岡田 菜津美 山田 寛子 嶋村弘史 肥田 典子 山崎 太義 内田 直樹 佐々木 忠徳 小林 真一	薬理と治療	45	5	729	May-17
----------------	-------------------------------------	--	-------	----	---	-----	--------

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 講師 (実務)	氏名 市倉 大輔
------	---------	------------	----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
会議発表 (論文・口頭)	学部教育から臨床研修薬剤師教育まで一貫した臨床薬剤師教育体制確立への取組み	縄田 修一 柏原 由佳 市倉大輔 嶋村 弘史 藤原 久登 黒沢 雅広 田中 広紀 阿部誠治 百 賢二 鈴木 信也 須永 登美子 渡邊 徹 田中 克巳 佐々木 忠徳					第6回日本薬学教育学会大会	Aug-21
学術雑誌論文 (学外)	Effectiveness of corticosteroids on immune checkpoint inhibitor-induced interstitial pneumonia among patients with a history of interstitial pneumonia: A case series	ICHIMURA Takenori HINATA Miwa ICHIKURA Daisuke SUZUKI Shinya	SAGE Open Med Case Rep	9		2050313 X211031 313		Jul-21
会議発表 (論文・口頭)	卵巣がんドセタキセル＋カルボプラチン＋ペバシズマブ療法による掌の皮膚剥離出現の実態調査	徳永 愛美 縄田 修一 河本 貴之 松浦 玲 市倉 大輔 鈴木 信也 佐々木 忠徳					第14回日本緩和医療薬学会年会	May-21
学術雑誌論文 (学外)	がん性疼痛に対してオキシコドン塩酸塩を使用した妊婦から出生した児に新生児薬物離脱症候群が出現した1例	徳永 愛美 縄田 修一 横山和彦 稲垣 彩美 瀬尾 晃平 井川 三緒 村川 哲郎 市倉大輔 峯村 純子 佐々木 忠徳	Palliat Care Res	15	4	297		Nov-20
学術雑誌論文 (学外)	少量補液負荷の胆道がんGemcitabine＋Cisplatin療法の忍容性評価	市村 文典 縄田 修一 市倉大輔 村上 郁 臼田 昌弘 川島 渉 峯村 純子 佐々木 忠徳	薬学雑誌	140	7	929		Jul-20
学術雑誌論文 (学外)	Clinical Pharmacokinetics of Mianserin Suppositories in Healthy Older Japanese Male Adults: A Pilot Study	ICHIKURA Daisuke NAWATA Shuichi KOHYAMA Noriko TOKUNAGA Megumi HIDA Noriko YAMAZAKI Taigi TAKENOSHITA Sachiko UCHIDA Naoki MINEMURA Atsuko SASAKI Tadanori	臨床薬理	50	2	23		Mar-19
学術雑誌論文 (学外)	A cross-sectional survey of methods for controlling hand-foot syndrome in patients receiving capecitabine treatment	SUZUKI Shinya NAWATA Shuichi INADA Yusuke SATO Daisuke KUSANO Junichi ICHIKURA Daisuke TORIGOE Kazuhiro ISHITSUKA Kazumi SATO Fumiaki SAKAI Hiroyasu YUMOTO Tetsuro	Mol Clin Oncol	9	4	443		Oct-18

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 講師	氏名 島本 一志
------	---------	-------	----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	がん患者の角層水分量がフェンタニル貼付剤のフェンタニル皮膚移行率に及ぼす影響	島本 一志 松井 美月 田島正教 杉山 恵理花 佐藤 均 渡邊 徹 市川 度 佐々木 忠徳	日本緩和医療薬学雑誌					in press
会議発表 (論文・口頭)	ニボルマブによる腎細胞がん治療において遅発性の副腎機能障害を発症した症例	島本 一志 坂井 美穂 山寺志保 ?田 恵理子 米澤 龍 須永 登美子					日本病院薬剤師会関東ブロック第51回学術大会	Aug-21
会議発表 (論文・口頭)	ホジキンリンパ腫に対するABVD療法により高トリグリセリド血症を生じた一例	米澤 龍 島本 一志 蒲澤 宣幸 佐野 瑞希 田中 志津子 松井 美月 原田 浩史 須永 登美子					日本病院薬剤師会関東ブロック第51回学術大会	Aug-21
会議発表 (論文・口頭)	Morphine、Oxycodone、Hydromorphone、Tapentadolの初回内服後のせん妄様症状に関する実態調査	松井 美月 藤宮 龍祥 島本 一志 米澤 龍 田中 志津子 中山 博文 渡邊 徹 佐々木 忠徳					第14回日本緩和医療薬学会年会	May-21
学術雑誌論文 (学外)	Best Supportive Care患者におけるフェンタニル貼付剤への早期Opioid Switchingに影響する要因解析	島本 一志 須永 登美子 杉山 恵理花 田島 正教 向後 麻里 佐々木 忠徳 佐藤 均	日本緩和医療薬学雑誌	11	2	43		Jun-18

学術雑誌論文 (学外)	The Association between Fever and Prognosis in Lung Cancer Patients with Bone Metastases Receiving Zoledronic Acid.	SUNAGA Tomiko SHIMAMOTO Kazushi NAKAMURA Shoko TAKAHASHI Noriko HIGASHINO Mayumi HOZUMI Tomomi MATSUI Mitsuki NAGATANI Akiko KOKUBU Fumio KOGO Mari SASAKI Tadanori	Chemotherapy	62	6	327		Jun-17
----------------	---	---	--------------	----	---	-----	--	--------

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 講師	氏名 杉田栄樹
------	---------	-------	---------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	Comparison of extended versus intermittent infusion of antipseudomonal beta-lactams for the treatment of critically ill patients with respiratory infections: A systematic review and meta-analysis.	ABOULATTA L SUGITA Hideki WAKABAYASHI Hitomi NOMA H SASAKI Tadanori	Int J Infect Dis	98		41		Jun-20
学術雑誌論文 (学外)	Prophylactic Quinolone Prescription Patterns Related to Febrile Neutropenia in Cancer Chemotherapy Outpatients	NIO Yuuta MOMO Kenji SUGITA Hideki SHIMIZU Hisanori SASAKI Tadanori	癌と化学療法	47	3	441		Mar-20
学術雑誌論文 (学外)	Evaluation of a clinical skills assessment tool for young pharmacists in Japan	KITAHARA Kanayuki KURIHARA Tatsuya TANAKA Hironori KASHIWABARA Yuka NAWATA Shuichi SUGITA Hideki UCHIKURA Takeshi SASAKI Tadanori	薬学教育	3		125		Jan-20
会議発表 (論文・口頭)	Evaluating outcomes of extended versus intermittent infusion of antipseudomonal beta-lactams for treatment of critically ill patients with respiratory infection: A systematic review and meta-analysis	ABOULATTA Laila SUGITA Hideki WAKABAYASHI Hitomi NOMA Hisashi SASAKI Tadanori					American Society of Healthcare-system Pharmacists midyear clinical meeting 2019	Dec-19
学術雑誌論文 (学外)	Effect of text messages to improve health literacy on medication adherence in patients with type 2 diabetes mellitus: A randomized controlled pilot trial	SUGITA Hideki SHINOHARA Ryoji YOKOMICHI Hiroshi SUZUKI Kohta YAMAGATA Zentaro	Nagoya J Med Sci	79	3	313		Aug-17

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 小林 麻美
------	---------	-------	----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
図書	薬学と社会：医療経済・多職種連携とチーム医療・地域医療・在宅医療 臨床薬学テキストシリーズ	佐々木 忠徳 小林 麻美				2		Sep-17
	妊婦・授乳婦と一般用医薬品・サプリメント：周産期の薬	中山 泰葉 小林 麻美	周産期医学	50	増刊号	62		Dec-20

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 若林 仁美
------	---------	-------	----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	ロフラゼ酸エチルを服用中に母乳育児を行った5症例の検討	深井 萌佳 神谷 太郎 若林 仁美 佐々木 忠徳 水野 克己	日本小児臨床薬理学会雑誌	33	1	14		Dec-20
学術雑誌論文 (学外)	Comparison of extended versus intermittent infusion of antipseudomonal beta-lactams for the treatment of critically ill patients with respiratory infections: A systematic review and meta-analysis.	ABOULATTA L SUGITA Hideki WAKABAYASHI Hitomi NOMA H SASAKI Tadanori	Int J Infect Dis	98		41		Jun-20
学術雑誌論文 (学外)	小児用法を有するOver The Counter (OTC) 医薬品のかぜ薬における添付文書情報に関する調査	遠藤 美緒 富家 俊弥 中山 泰葉 阿部 久瑠美 若林 仁美 水野 克己 佐々木 忠徳	日本小児臨床薬理学会雑誌	31	1	58		Jan-19
学術雑誌論文 (学外)	母乳と薬相談外来開設後の現状報告	中山 泰葉 遠藤 美緒 稲垣 彩美 若林 仁美 星 茜 深井 萌佳 富家 俊弥 栗原 竜也 神谷 太郎 水野 克己 板橋 家頭夫 佐々木 忠徳	日本母乳哺育学会雑誌	11	2	122		Dec-17

学術雑誌論文 (学外)	Efficacy of non-carbapenem antibiotics for pediatric patients with first febrile urinary tract infection due to extended-spectrum beta-lactamase-producing <i>Escherichia coli</i> .	ABE Yoshifusa INAN-ERDOGAN Isil FUKUCHI Kunihiro WAKABAYASHI Hitomi OGAWA Yasuho HIBINO Satoshi SAKURAI Shunsuke MATSUHASHI Kazuhiko WATANABE Yoshitaka HASHIMOTO Kaori UGAJIN Kazuhisa ITABASHI Kazuo	J Infect Chemother	23	8	517		Aug-17
----------------	--	--	--------------------	----	---	-----	--	--------

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 大戸 祐治
------	---------	-------	----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	緩和薬物療法認定薬剤師 緩和薬物療法認定薬剤師に期待されるもの	柏原 由佳 大戸 祐治 喜田 昌記	薬事新報		3211	764		Jul-21
学術雑誌論文 (学外)	人と人 大学病院で働くということ	大戸 祐治	薬事新報		3164	35		Aug-20
学術雑誌論文 (学外)	Predictive factors associated with bleeding in atrial fibrillation patients treated with anti-coagulant drugs using a large claims database.	MOMO Kenji SHU-TOH Kana KANEKO Makiko YAMANAKA Nauta OTO Yuji TANAKA Katsumi KOINUMA Masayoshi SASAKI Tadanori	PLoS One	15	8	e0238233		Aug-20
学術雑誌論文 (学外)	Severe Drowsiness with Fever Induced by Transdermal Fentanyl Administration	OTO Yuji MOMO Kenji NAGATA Takuya TSUGE Erika KOBAYASHI Kouji SHIMADA Ken TANAKA Katsumi SASAKI Tadanori	J Palliat Med	23	8	1006		Aug-20
学術雑誌論文 (学外)	改めて考える大学の附属病院の薬剤師とは？ 人工知能には任せられない薬剤師のアイデンティティー	安田 礼美 中田 麻里 松崎 あい理 大戸 祐治 田中 克巳	薬事新報		3067	7		Oct-18
会議発表 (論文・口頭)	薬剤師が中心となった抗菌薬適正使用支援ラウンドの効果の検証	大戸 祐治 中田 麻里 新井 祐司 高久 美穂 岡田 壮令 田中 克巳 佐々木 忠徳					第31回日本医療薬学会年会	Oct-21

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 渡邊 亜矢子
------	---------	-------	-----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	薬業連携におけるトレーシングレポート 第2回 昭和大学江東豊洲病院での運用	柏原 由佳 田中 章久 喜田 昌記 渡邊 亜矢子 田中 克巳	都薬雑誌	42	12	48		Dec-20
学術雑誌論文 (学外)	薬業連携におけるトレーシングレポート 第1回 総説	渡邊 亜矢子 喜田 昌記 柏原 由佳 田中 章久 田中 克巳 佐々木 忠徳	都薬雑誌	42	11	38		Nov-20
学術雑誌論文 (学外)	フェノバルビタールの剤形変更により血中フェノバルビタール濃度が著しく変動した1例	伊藤 綾花 渡邊 亜矢子 阿部 久瑠美 中田 麻里 永田 卓也 柏原 由佳 花岡 健太郎 水野 克巳 田中 克巳 佐々木 忠徳	日本小児臨床薬理学会雑誌	32		120		Aug-19
学術雑誌論文 (学外)	改めて考える大学の附属病院の薬剤師とは？ Missionから考える薬剤師の業務	伊藤 綾花 渡邊 亜矢子 越塚 宏美 屋城 由樹 田中 克巳	薬事新報		3058	13		Aug-18

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 星茜
------	---------	-------	-------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
会議発表 (論文・口頭)	食道がん術前化学療法に伴う抗利尿ホルモン不適合分泌症候群 (SIADH) の治療にトルバタタンを用いた一症例	星茜、百賢二、山崎公靖、大塚耕司、青木武士、村上雅彦、佐々木忠徳					日本医療薬学会	Oct-21
学術雑誌論文 (学外)	Tolvaptan for Hyponatremia Induced by Chemotherapy With Docetaxel, Cisplatin, and 5-Fluorouracil	HOSHI Akane MOMO Kenji YAMAZAKI Kimiyasu OTSUKA Koji AOKI Takeshi MURAKAMI Masahiko SASAKI Tadanori	Am J Ther.			Online ahead of print.		Jul-21
学術雑誌論文 (学外)	Surface Phenotype Changes and Increased Response to Oxidative Stress in CD4 + CD25 high T Cells	YAMAMOTO Yoshiki NEGORO Takaharu TADA Rui NARUSHIMA Michiaki HOSHI Akane NEGISHI Yoichi NAKANO Yasuko	Biomedicines.	9	6	616		Jun-21
学術雑誌論文 (学外)	Survey of the Time-Onset Profiles of Nedaplatin-Induced Adverse Events in Head and Neck Cancer Therapy	HOSHI Akane MOMO Kenji KURIHARA Tatsuya SHIMANE Toshikazu KOBAYASHI Hitome SASAKI Tadanori	Gan To Kagaku Ryoho.	48	2	207		Feb-21

一般雑誌記事	【がんサバイバーの痛みを考える】薬物療法 コデインリン酸塩、トラマドール	星 茜	ペインクリニック	40		5321		Oct-19
--------	--------------------------------------	-----	----------	----	--	------	--	--------

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 杉沢 諭
------	---------	-------	---------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
学術雑誌論文(学外)	持効性注射剤の穿刺時痛に対する局所麻酔薬の使用が与える影響	常岡 俊昭 杉沢 諭 中村 純子 眞野 三奈子 山田 真理 青柳 啓介	臨床精神医学	50	5	467		May-21
学術雑誌論文(学外)	2種類の持効性注射剤を併用した統合失調症患者8例の経験	常岡 俊昭 杉沢 諭 中村 純子 横山 佐知子 山田 真理 佐藤 諒太郎 染村 宏法 清水 勇人 中村 暖 堀内 健太郎 山田 浩樹 岩波 明	精神医学	63	4	527		Apr-21
学術雑誌論文(学外)	Asphyxia risk factors in adult psychiatric wards.	SUGISAWA Satoru NOZUE Shinji KURIHARA Tatsuya KOYA Hiroaki TSUNEOKA Toshiaki NAGAI Tsutomu KURATA Naomi INAMOTO Atsuko TAKAHASHI Koji SASAKI Tadanori	Perspect Psychiatr Care	56	3	720		Jul-20
学術雑誌論文(学外)	【Clozapineによる臨床の新たな展開】感染症罹患による好中球減少でclozapine投与を中止せざるを得なかった1症例	常岡 俊昭 杉沢 諭 中村 純子 岩見 有里子 河合 恵太 山田 真理 池ヶ谷 訓章 岩波 明	臨床精神薬理	23	1	91		Jan-20
学術雑誌論文(学外)	Suvorexant as an Adjunctive Treatment for Insomnia Prior to Discontinuation of Benzodiazepines: Prevention of Withdrawal Syndrome and Rebound Insomnia	YOKOYAMA Sachiko TSUNEOKA Toshiaki HORI Koji TAKASHIO Osamu SUGISAWA Satoru NAKAMURA Sumiko SAGA Nobuyuki ONO Eriko IWANAMI Akira	Brain Disord Ther	6	2	e		May-17

昭和大学	病院薬剤学講座	助教	中村 彰子
------	---------	----	-------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
学術雑誌論文(学外)	Association of Potentially Inappropriate Medications With All-Cause Mortality in the Elderly Acute Decompensated Heart Failure Patients: Importance of Nonsteroidal Anti-Inflammatory Drug Prescription.	SUNAGA Tomiko YOKOYAMA Azusa NAKAMURA Shoko MIYAMOTO Nagisa WATANABE Saki TSUJIIUCHI Miki NAGUMO Sakura NOGI Ayaka MAEZAWA Hideyuki MIZUKAMI Takuya EBATO Mio SUZUKI Hiroshi NAKAMURA Akihiro WATANABE Toru SASAKI Tadanori	Cardiol Res	11	4	239		Aug-20
学術雑誌論文(学外)	回復期リハビリ病棟における薬剤師業務 回復期リハビリテーション病棟における薬剤師の業務と役割	中村 彰子 藤原 久登	薬事新報		3153	11		Jun-20
学術雑誌論文(学外)	非弁膜症性心房細動患者における直接経口抗凝固薬投与後の出血に関連する危険因子と安全性プロファイルの検討	中村 彰子 須永 登美子 藤原 久登 松井 美月 東野 真弓 宮本 浩 稲本 真弓 江波戸 美緒 鈴木 洋 向後 麻里 渡邊 徹 佐々木 忠徳	神奈川県病院薬剤師会雑誌	51	2	2		Jul-19
学術雑誌論文(学外)	静脈血栓塞栓症における直接作用型経口抗凝固薬投与による小出血リスク因子の検討	須永 登美子 清水 朋美 中村 彰子 ?橋 典子 東野 真弓 松井 美月 穂積 智美 江波戸 美緒 鈴木 洋 向後 麻里 渡邊 徹 佐々木 忠徳	薬学雑誌	139	3	461		Mar-19

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 阿部 久瑠美
------	---------	-------	-----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
学術雑誌論文(学外)	Midazolam Intoxication in a Premature Neonate	ENDO Mio HIRANO R SHIBASAKI H YOKOKAWA A FURUTA T ABE Kurumi MORITA Koji TANAKA S HIRANO T SAKURAI Motoichiro MIZUNO Katsumi	Clin Ther	42	5	946		May-20

学術雑誌論文 (学外)	フェノバルビタールの剤形変更により血中 フェノバルビタール濃度が著しく変動した1例	伊藤 綾花 渡邊 亜矢子 阿部 久瑠美 中田 麻里 永田 卓也 柏原 由佳 花岡 健太郎 水野 克己 田中 克巳 佐々木 忠徳	日本小児臨床薬理学会 雑誌	32		120		Aug-19
学術雑誌論文 (学外)	小児用法を有するOver The Counter (OTC) 医 薬品のかぜ薬における添付文書情報に関す る調査	遠藤 美緒 富家 俊弥 中山 泰菜 阿部 久瑠美 若林 仁美 水野 克己 佐々木 忠徳	日本小児臨床薬理学会 雑誌	31	1	58		Jan-19

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 玉造 竜郎
------	---------	-------	----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
その他	新時代の幕開け！ 薬剤師の新たな役割と 将来展望 初期診療における薬剤師の役 割	玉造 竜郎 田中 道子 岡本 まとか					第23回日本臨 床救急医学会 総会・学術集 会	Aug-20
一般雑誌記事	挿管時の薬剤投与時、どんなことに注意 する？(コラム4)	岡本 まとか 玉造 竜郎	Expert Nurse	36	8	90		Jun-20
一般雑誌記事	生命をささえる薬剤師 救命救急におけ る薬剤師の役割 病態を判断し、治療薬 を選択	玉造 竜郎	6年制薬学ガイド2020			6		May-19
学術雑誌論文 (学外)	救急・集中治療領域にかかわる薬剤師の 質的向上を目指した臨床救急医療薬学研 究会の取り組み	今井 徹 菊池 憲和 篠原 高 雄 添田 博 玉造 竜郎 中馬 真幸 西澤 健司 岩元 理絵 峯村 純子 渡邊 暁洋	日本臨床救急医学会雑 誌	21	6	735		Dec-18
会議発表 (論文・口頭)	高濃度抗菌薬局所投与により治療した耐 性緑膿菌による骨・軟部組織感染症の2症 例	玉造 竜郎 田中 道子 吉川 泰司 杉田 栄樹 阿部 和正 岡田 菜津美 関戸 匡恵 縄田 修一 佐々木 忠徳					第31回日本医 療薬学会年会	Oct-21
会議発表 (論文・口頭)	ワルファリンKとST合剤を含む複数の抗菌 薬の併用によりPT-INRが顕著に上昇した1 症例	関戸 匡恵 玉造 竜郎 杉田 栄樹 岡田 菜津美 阿部 和正 縄田 修一 楠本 壮二郎 佐々木 忠徳					第31回日本医 療薬学会年会	Oct-21
会議発表 (論文・口頭)	静脈血栓塞栓症に対して高用量の直接作 用型経口抗凝固薬で治療中に増悪したが ん関連血栓症の一例	岡田菜津美 玉造竜郎 杉田栄樹 関戸匡恵 阿部和正 縄田修一 中村友哉 佐々木忠徳					第4回日本腫 瘍循環器学会 学術集会	Oct-21
学術雑誌論文 (学外)	【ERでの鎮痛と鎮静-非日常へのレジリエ ントな対応】鎮痛・鎮静における薬剤師 の役割	玉造 竜郎	救急医学	41	12	1581		Nov-17

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 講師	氏名 内藤 結花
------	---------	-------	----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	抗菌薬適正使用支援チームによるカルバ ペナム系薬を対象とした処方後のモニタ リングとフィードバックが処方動向に与 える影響の検討	長友安弘, 前田真之, 内藤結 花, 服部はるか, 詫間隆博, 二 木芳人, 時松一成	日本化学療法学会雑誌	69	1	1		Jan-21
学術雑誌論文 (学外)	Epidemiology and risk factors for mortality in bloodstream infections: A single-center retrospective study in Japan	Haruka Hattori, Masayuki Maeda, Yasuhiro Nagatomo, Takahiro Takuma, Yoshihito Niki, Yuika Naito, Tadanori Sasaki, Keiko Ishino	American journal of infection control	46	12	e75		Dec-18
学術雑誌論文 (学外)	Negative predictors of clinical response to amitriptyline in Japanese patients with migraine	Yuika Naito, Masakazu Ishii, Masaaki Ishibashi, Hideyo Kasai, Hirotaka Katoh	Neurology and Clinical Neuroscience	6	5	125		Sep-18
会議発表 (論文・口頭)	昭和大学病院ASTIにおける広域抗菌薬使用 者ラウンドの現状とその評価	内藤 結花					第68回日本化 学療法学会東 日本支部総会 「広域抗菌薬 antimicrobialst ewardshipを 推進するた めの戦略」	Oct-21

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教(実務)	氏名 詫間 章俊
------	---------	-----------	----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	基質特異性拡張型β-ラクタマーゼ(ESBL)産 生菌感染症における経験的治療の有効性 評価	詫間 章俊 前田 真之 川島 渉 渡辺 裕貴 中村 久子 福 岡 絵美 橋本 裕子 木村 聡 峯村 純子	日本環境感染学会誌	33	4	130		Jul-18

学術雑誌論文 (学外)	急性期人工関節周囲感染症例における抗MRSA薬の有効性と医療費に関する調査	染谷 梨沙 高田 昂輔 詫間 章俊 内倉 健 縄田 修一 前田 昭彦 川崎 恵吉 木村 聡 藤巻 良昌 詫間 隆博 峯村 純子 佐々木 忠徳	日本人工関節学会誌	50		721		Dec-20
----------------	---------------------------------------	--	-----------	----	--	-----	--	--------

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 鈴木 康介
------	---------	-------	----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	【目で見る標準治療-GATE frameによる図解がん薬物療法】(Part4)目で見る胃がん薬物療法 in GATE frame 日本胃癌学会 胃癌治療ガイドライン 医師用2018年1月改訂第5版より 胃がん ラムシルマブ+毎週パクリタキセル療法 切除不能進行・再発胃がんもしくは胃食道接合部がん(二次化学療法)	鈴木 康介	Cancer Board Square	5	2	368		Jul-19
図書	2ページで理解する標準薬物治療ファイル改訂3版							Aug-19
学術雑誌論文 (学外)	【病気とくすり2020 基礎と実践Expert's Guide】循環器系・泌尿器系・生殖器系の病気とくすり 泌尿器系・生殖器系疾患ネフローゼ症候群	阿部 祥英 鈴木 康介 嶋村 弘史 佐々木 忠徳	薬局	71	4	1136		Mar-20
図書	消化器疾患最新の治療 2021-2022	鈴木 康介 田中 道子 葛城 怜子 嶋崎 真耶 佐々木 忠徳				357		Feb-21
会議発表 (論文・口頭)	処方複雑性指標日本語版(MRCI-J)の開発と高齢者への適用	舩本 祥一 佐藤 幹 百 賢二 松下 綾 鈴木 康介 嶋村 弘史 佐々木 忠徳 浜野 淳					第5回日本老年医療薬学会	May-21

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 中山泰葉
------	---------	-------	---------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
会議発表 (論文・口頭)	小児用法を有するOTC医薬品のかぜ薬における添付文書情報に関する調査	遠藤 美緒 富家 俊弥 中山 泰葉 阿部 久瑠美 若林 仁美 佐々木 忠徳					第44回日本小児臨床薬理学会学術集会	Oct-17
学術雑誌論文 (学外)	母乳と薬相談外来開設後の現状報告	中山 泰葉 遠藤 美緒 稲垣 彩美 若林 仁美 星 茜 深井 萌佳 富家 俊弥 栗原 竜也 神谷 太郎 水野 克己 板橋 家頭夫 佐々木 忠徳	日本母乳哺育学会雑誌	11	2	122		Dec-17
学術雑誌論文 (学外)	小児用法を有するOver The Counter (OTC) 医薬品のかぜ薬における添付文書情報に関する調査	遠藤 美緒 富家 俊弥 中山 泰葉 阿部 久瑠美 若林 仁美 水野 克己 佐々木 忠徳	日本小児臨床薬理学会雑誌	31	1	58		Jan-19
会議発表 (論文・口頭)	静注用脂肪乳剤の有効利用を考える：臨床の場での問題点と対策	千葉 正博 中山 泰葉 若林 仁美 杉沢 諭					第30回日本医療薬学会年会	Oct-20
学術雑誌論文 (学外)	Predictive Factors of Opioid-Induced Nausea in Cancer Patients.	Ogawa Y, Kurihara T, Sakurai M, Monma M, Nakayama H, Higuchi H, Kogo M, Kiuchi Y.	J Pain Palliat Care Pharmacother.	35	1	7		Mar-21

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 仁尾 祐太
------	---------	-------	----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	Developing a Japanese version of the 'scale of attitudes toward pharmacist-physician collaboration'	KITAHARA Kanayuki UCHIKURA Takeshi NIO Yuuta KATSURAGI Satoko OKAZAKI Keinosuke NISHI Yoshiko KAWAGUCHI Takashi YAMAGUCHI Takuhiro SASAKI Tadanori	J Interprof Care			1		Nov-20
学術雑誌論文 (学外)	Prophylactic Quinolone Prescription Patterns Related to Febrile Neutropenia in Cancer Chemotherapy Outpatients	NIO Yuuta MOMO Kenji SUGITA Hideki SHIMIZU Hisanori SASAKI Tadanori	癌と化学療法	47	3	441		Mar-20
学術雑誌論文 (学内)	注射剤処方に対する疑義照会内容の分析とインシデントとの関連	仁尾 祐太 杉田 栄樹 北原 加奈之 清水 久範 柏原 由佳 田中 克己 佐々木 忠徳	昭和学士会雑誌	79	6	797		Dec-19

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 太田品子
------	---------	-------	---------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	当院における「輸液用フィルター・投与 ルートガイドライン」作成の意義および 有用性評価	二村哲未、阿部誠治、野田秀 裕、岡崎敬之介、岡田菜津美、 嶋崎真耶、太田品子、城所扶美 子、佐々木忠徳	Jpn.J Drug Inform.	23	1			Jun-21
図書	消化器疾患最新の治療2019-2020 巻末付録 主な消化器系薬剤一覧表	鈴木康介、太田品子、葛城怜 子、山口芽衣、佐々木忠徳	消化器疾患最新の治療 2019-2020			441		Mar-19
学術雑誌論文 (学外)	吸入療法における服薬アドヒアランスに 影響を与える要因と吸入指導の意義	太田品子、杉山恵理花、佐藤均	アレルギーの臨床			51		May-18
学術雑誌論文 (学外)	食物アレルギー患者への投与を避けるべ き医薬品	太田品子、杉山恵理花、佐藤均	アレルギーの臨床			86		Jul-18

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 高田昂輔
------	---------	-------	---------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	多職種によ〜く伝わる薬学的思考を活か した診療録記載のまとめ方(第3回) 検査 値に関連した副作用評価と医師への提案	高田 昂輔 鈴木 信也	薬事	63	4	776		Mar-21
学術雑誌論文 (学外)	MRSAによる急性期人工関節周囲感染に対 する抗MRSA薬の有効性と費用に関する検 討	染谷 梨沙 高田 昂輔 詫間 章俊 内倉 健 縄田 修一 前 田 昭彦 川崎 恵吉 木村 聡 藤巻 良昌 詫間 隆博 峯村 純子 佐々木 忠徳	日本人工関節学会誌	50		721		Dec-20
学術雑誌論文 (学外)	小児における筋弛緩薬の持続投与の現状 調査	稲垣 彩美 高田 昂輔 梅野 煩子 縄田 修一 藤井 隆成 宮原 義典 石野 幸三 富田 英 峯村 純子 佐々木 忠徳	日本小児臨床薬理学会 雑誌	32	1	93		Dec-19

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 二村 哲未
------	---------	-------	----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	Perilipins: A diversity of intracellular lipid droplet proteins.	ITABE Hiroyuki, YAMAGUCHI Tomohiro, NIMURA Satomi, SASABE Naoko	Lipids Health Dis	16	1	83		Apr-17
会議発表 (論文・口頭)	長期実務実習におけるクリニカルクラ ックシップ薬学教育プログラムに対する学 生評価-昭和大学薬学教育のさらなる充実 を目指して-	阿部 誠治、二村 哲未、藤宮 龍祥、北原 加奈之、宮坂 善 之、田中 広紀、藤原 久登、 大戸 祐治、縄田 修一、栗原 竜也、小林 文、滝 伊織、田 島 正教、木内 祐二、加藤 裕久、中村 明弘、佐々木 忠 徳					医療薬学 フォーラム 2017・第25回 クリニカル ファーマシー シンポジウム	Jul-17
学術雑誌論文 (学外)	薬剤リンパ球刺激試験を施行した間質性 腎炎の1男子例	二村 哲未、阿部 祥英、日比 野 聡、阿部 誠治、佐々木忠 徳	薬事新報	3074				Dec-18
会議発表 (論文・口頭)	アシクロビル脳症疑い例におけるアシク ロビルおよび代謝物の血中濃度測定	阿部 和正、光本(貝崎) 明日 香、青木 悟、齋藤 友広、杉 山 元紀、二村 哲未、上嶋 和代、佐々木 忠徳、沼澤 聡					第42回日本中 毒学会総会・ 学術集会	Sep-20
会議発表 (論文・口頭)	トルバブタン増量に伴いワルファリン調 整が不安定化し脳塞栓を発症した慢性腎 臓病を伴った心不全患者の一例	二村 哲未、北原 加奈之、上 嶋 和代、望月泰秀、新家俊 郎、百 賢二、佐々 木 忠徳					日本心不全学 会	Oct-20
会議発表 (論文・口頭)	腎障害の薬物療法について後輩から相談 を受けたケース	二村 哲未					日本病院薬剤 師会関東ブ ロック第50回 大会 シンポ ジウム2「症 例プレゼンに はお作法があ る 臨床推論 と症例プレゼ ンテーション 」	Oct-20

学術雑誌論文 (学外)	A Case of Cerebral Infarction During Treatment With Rivaroxaban for Venous Thromboembolism	KITAHARA Kanayuki, MOMO Kenji NIMURA Satomi, OKAZAKI Keinosuke, SUZUKI Norihiro, KUBOTA Yutaro, TSUNODA Takuya, WATANABE Daishi, MIZUMA Keita, ONO Kenjiro, SASAKI Tadanori	Am J Ther						Dec-20
学術雑誌論文 (学外)	当院における「輸液用フィルター・投与ルートガイドライン」作成の意義および有用性評価	二村 哲未, 阿部 誠治, 野田 秀裕, 岡崎 敬之介, 岡田 菜津美, 嶋崎 真耶, 太田 品子, 城所 扶美子, 佐々木 忠徳	医薬品情報学	23	1	1			May-21
学術雑誌論文 (学外)	Distribution of serum adiponectin isoforms in pediatric patients with steroid-sensitive nephrotic syndrome	Tetsuro Tamaï, Kaori Kamijo, Yoshifusa Abe, Satoshi Hibino, Shunsuke Sakurai, Shuichiro Watanabe, Yoshitaka Watanabe, Satomi Nimura, Atsutoshi Shiratori, Takaaki Takayanagi, Tsuneki Watanabe, Yuya Nakano, Hirokazu Ikeda, Kazushige Dobashi, Yasuko Nakano, Katsumi Mizuno, Kazuo Itabashi	Clin Exp Nephrol	25	9	1027			Jun-21

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 米澤 龍
------	---------	-------	---------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	A Case of Iodoform Toxicity Due to Drug-Induced Acute Kidney Injury After Discontinuation of Iodoform Gauze.	Ryo Yonezawa, Tomiko Sunaga, Jumpei Maruoka, Koichi Kadomatsu, Toru Watanabe.	Am J Ther.	0	0	1		Apr-21
学術雑誌論文 (学外)	予防投与量の ST 合剤で SIADH による低 Na 血症が疑われた 1 例	米澤龍, 藤宮龍祥, 伊藤真理, 田中広紀, 原田浩史, 渡邊徹	日本病院薬剤師学会雑誌	56	11	1329		Nov-20

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 越塚宏美
------	---------	-------	---------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	薬業連携におけるトレーシングレポート第5回 最終回 副作用におけるトレーシングレポート事例	越塚 宏美 江島 麗 前田 絵里加 田中 克巳 武 由梨 柳原 桃子 大内 雅之 小松 仁美 前元 研治	都薬雑誌	43	3	38		Mar-21
学術雑誌論文 (学外)	改めて考える大学の附属病院の薬剤師とは？Missionから考える薬剤師の業務	伊藤 綾花 渡邊 亜矢子 越塚宏美 屋城 由樹 田中 克巳	薬事新報		3058	13		Aug-18

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 田中 茜
------	---------	-------	---------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
なし								

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 松崎あい理
------	---------	-------	----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	改めて考える大学の附属病院の薬剤師とは？ 人工知能には任せられない薬剤師のアイデンティティ	安田 礼美 中田 麻里 松崎あい理 大戸 祐治 田中 克巳	薬事新報		3067	7		Oct-18

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 守屋 賀奈絵
------	---------	-------	-----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	Incidence of Ophthalmic Disorders in Patients Treated with the Antineoplastic Agent S-1	MORIYA Kanae SHIMIZU Hisanori HANDA Satoko SASAKI Tadanori SASAKI Yasutsuna TAKAHASHI Haruo NAKAMURA Seigo YOSHIDA Hitoshi KATO Yasuhisa	癌と化学療法	44	6	501		Jun-17
会議発表 (論文・口頭)	ロスバスタチンの隔日投与においてスタチン誘発性筋障害を呈した一例	高橋 伸幸 葛城 怜子 山口 天士 岡本 まとか 守屋 賀奈絵 百 賢二 田中 広紀 佐々木 忠徳					日本病院薬剤師会関東ブロック第51回学術大会	Aug-21

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 田川菜緒
------	---------	-------	---------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
------	---------	----	-----	---	---	-------	------------	------

会議発表 (論文・口頭)	ペロスピロン母乳中薬物濃度を測定した一例報告	田川 菜緒 小川 泰美 小林麻美 若林 仁美 田中 祥子 神谷 太郎 佐々木 忠則					医療薬学	Oct-21
学術雑誌論文 (学外)	バンコマイシンTDM解析ソフトTOWA-TDMとMEEKとの予測性およびベジアン収束性の比較評価	関本 司 野中 匠 田島 正教 田川 菜緒 杉山 恵理花 佐藤 均	医薬品情報学	23	1	17		May-21
学術雑誌論文 (学外)	Comparison of adverse events following injection of original or generic docetaxel for the treatment of breast cancer.	TAGAWA Nao SUGIYAMA Erika TAJIMA Masataka SASAKI Yasutsuna NAKAMURA Seigo OKUYAMA Hiromi SHIMIZU Hisanori SATO Vilasinee Hirunpanich SASAKI Tadanori SATO Hitoshi	Cancer Chemother Pharmacol	80	4	841		Oct-17

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 永井 努
------	---------	-------	---------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
会議発表 (論文・口頭)	多変量解析を用いた、心理教育プログラムを受けた統合失調症患者の再入院のリスク因子の検討	中野 裕佳子 杉沢 諭 栗原 竜也 古屋 宏章 永井 努 黒沢 雅広 常岡 俊昭 稲本 淳子 岩波 明					第5回日本精神薬学会総会・学術集会	Aug-21
会議発表 (論文・口頭)	統合失調症の薬物治療とその薬学的管理の関連の予備的解析	麻那古 信之 村田 篤信 山本 智也 長谷川 尚美 肥田 裕文 井手 健太 永井 努 徳谷 晃 清水 善仁 松本 純弥 三浦 健一郎 渡邊 衛一郎 稲田 健 奥田 真弘 橋本 亮太					第5回日本精神薬学会総会・学術集会	Aug-21
図書	ゆるりとはじめる精神科の1冊目 病気がわかる くすりがわかる	古屋 宏章 永井 努				302		May-21
図書	ゆるりとはじめる精神科の1冊目 病気がわかる くすりがわかる	古屋 宏章 永井 努				121		May-21
学術雑誌論文 (学外)	【じっくり読めてしっかり身につく 精神科薬物療法ガイド改訂版】精神科の薬学的管理クリニカルクエスチョン (Question 4) 処方薬を飲みたがらない患者さんへの服薬指導とは？	永井 努	調剤と情報	27	2	387		Jan-21
学術雑誌論文 (学外)	【じっくり読めてしっかり身につく 精神科薬物療法ガイド改訂版】精神科の薬学的管理クリニカルクエスチョン (Question 5) 処方薬を飲みたがらない患者さんにできる処方上の工夫とは？	永井 努	調剤と情報	27	2	388		Jan-21
学術雑誌論文 (学外)	Asphyxia risk factors in adult psychiatric wards.	SUGISAWA Satoru NOZUE Shinji KURIHARA Tatsuya KOYA Hiroaki TSUNEOKA Toshiaki NAGAI Tsutomu KURATA Naomi INAMOTO Atsuko TAKAHASHI Koji SASAKI Tadanori	Perspect Psychiatr Care	56	3	720		Jul-20

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 岡田 菜津美
------	---------	-------	-----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
会議発表 (論文・口頭)	静脈血栓塞栓症に対して高用量の直接作用型経口抗凝固薬で治療中に増悪したが、関連血栓症の一例	岡田 菜津美 玉造 竜郎 杉田 栄樹 関戸 匡恵 阿部 和正 縄田 修一 中村 友哉 佐々木 忠徳					第4回日本腫瘍循環器学会学術集会	Oct-21
学術雑誌論文 (学外)	Feasibility of intracoronary nicorandil for inducing hyperemia on fractional flow reserve measurement: Comparison with intracoronary papaverine.	MATSUMOTO Hidenari MIKURI M MASAKI Ryota TANAKA Hideaki OGURA Kunihiro ARAI Taitou SAKAI Rikuo OISHI Yosuke OKADA Natsumi SHINKE Toshiro	Int J Cardiol	314		1		Sep-20
会議発表 (論文・口頭)	救急初療室における薬剤師業務の現状と今後の方向性 適切な薬物治療を「迅速に」実施するための当院における取り組みと課題	玉造 竜郎 岡田 菜津美 杉田 栄樹 佐々木 忠徳					第21回日本臨床救急医学会総会・学術集会	May-18
学術雑誌論文 (学外)	A Standard Intervention Practice to Promote Appropriate Lamotrigine Therapy by Pharmacists.	SHIMAMURA Hiroshi YAMADA Hiroko OKADA Natsumi UCHIKURA Takeshi TANAKA Katsumi SASAKI Tadanori ITABE Hiroyuki	Biol Pharm Bull	41	4	465		Apr-18

学術雑誌論文 (学外)	健康成人におけるオルメサルタン投与後の血清カリウム値に関する安全性評価	川島 渉 内倉 健 三邊 武彦 岡田 葉津美 山田 寛子 嶋村 弘史 肥田 典子 山崎 太義 内田 直樹 佐々木 忠徳 小林 真一	薬理と治療	45	5	729		May-17
----------------	-------------------------------------	---	-------	----	---	-----	--	--------

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 葛城 怜子
------	---------	-------	----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
図書	消化器疾患最新の治療 2021-2022	鈴木 康介 田中 道子 葛城 怜子 嶋崎 真耶 佐々木 忠徳				357		Feb-21
図書	消化器疾患最新の治療 2019-2020	鈴木 康介 太田 品子 葛城 怜子 山口 芽衣 佐々木 忠徳				441		Mar-19
学術雑誌論文 (学外)	3stepで考える! それって本当に副作用ですか? この「低ナトリウム血症」はルビプロストンによるものですか?	葛城 怜子	薬事	61	5	880		Apr-19
学術雑誌論文 (学外)	ロスバスタチンの隔日投与においてスタチン誘発性筋障害を呈した一例	高橋 伸幸 葛城 怜子 山口 天士 岡本 まとか 守屋 賀奈絵 百 賢二 田中 広紀 佐々木 忠徳					日本病院薬剤師会関東ブロック第51回学術大会	Aug-21

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 田中 道子
------	---------	-------	----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 戸村和希
------	---------	-------	---------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	わが国における進行腎細胞がん患者に対するスニチニブ対インターフェロンαの費用効果分析	戸村 和希 内藤 由貴 須永 登美子 栗原 竜也 臼田 昌弘 永谷 明子 小川 由美子 秋山 菜央 佐々木 春明 村田 達教 坂巻 弘之 向後 麻里 佐々木 忠徳	薬学雑誌	138	11	1397		Nov-18
学術雑誌論文 (学内)	カルボプラチンを含む術後補助化学療法を施行した卵巣がん患者における増悪因子の検討	内藤 由貴 戸村 和希 須永 登美子 永谷 明子 内田 展 田中 広紀 栗屋 真理子 秋山 菜央 楠 裕美子 小川 公一 向後 麻里 佐々木 忠徳	昭和医学会雑誌	79	1	35		Feb-19
学術雑誌論文 (学外)	腎機能障害患者におけるバンコマイシン初期負荷投与の検討	栗屋 真理子 田中 広紀 鈴木 絢子 市川 剛 楠 裕美子 内田 展 秋山 菜央 戸村 和希 須永 登美子 藤原 久登 並木 美加子 田中 佐知子 渡邊 徹 池田 裕一 佐々木 忠徳	日本病院薬剤師会雑誌	55	2	197		Feb-19

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 江島 麗
------	---------	-------	---------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	Effect of Film Coating on Xanthan Gum Solution-induced Delays in the Disintegration and Dissolution of Tablets	EBATA Rei FUJITA Yoshiaki NAKAMURA Akihiro HARADA Tsutomu	医療薬学	45	4	182		Apr-19
学術雑誌論文 (学外)	薬薬連携におけるトレーシングレポート第5回 最終回 副作用におけるトレーシングレポート事例	越塚 宏美 江島 麗 前田 絵里加 田中 克巳 武 由梨 柳原 桃子 大内 雅之 小松 仁美 前元 研治	都薬雑誌	43	3	38		Mar-21

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 佐藤真理子
------	---------	-------	----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
会議発表 (論文・口頭)	SBT/CPZによる白血球減少症を生じた一例	田中 志津子 栗屋 真理子 米澤 龍 田中 広紀 渡邊 徹 佐々木 忠徳					日本病院薬剤師会関東ブロック第51回学術大会	Aug-21
学術雑誌論文 (学外)	縦隔気腫を合併した血液透析が奏功した急性カフェイン中毒の1例	中村 元保 宮本 和幸 光本 (貝崎) 明日香 大野 孝則 栗屋 真理子 沼澤 聡 林 宗貴	日本救命医療学会雑誌	34		13		Dec-20

学術雑誌論文(学内)	A Retrospective Study of Injection Site Pain from Azithromycin Injection in Japanese Patient	TANAKA Hironori HAYASHI Makoto AWAYA Mariko KUSUNOKI Yumiko TANAKA Nao TOMURA Kazuki FUJIHARA Hisato WATANABE Toru IKEDA Hirokazu SASAKI Tadanori	Showa Univ J Med Sci	32	3	207		Oct-20
学術雑誌論文(学外)	意識障害と遷延する高血圧を呈した急性メラトニン中毒の1例	宮本 和幸 光本(貝崎) 明日香 渡邊 円香 栗屋 真理子 渡邊 徹 佐々木 純 林 宗貴	中毒研究	32	4	386		Dec-19
学術雑誌論文(学外)	腎機能障害患者におけるバンコマイシン初期負荷投与の検討	栗屋 真理子 田中 広紀 鈴木 絢子 市川 剛 楠 裕美子 内田 展 秋山 菜央 戸村 和希 須永 登美子 藤原 久登 並木 美加子 田中 佐知子 渡邊 徹 池田 裕一 佐々木 忠徳	日本病院薬剤師会雑誌	55	2	197		Feb-19
学術雑誌論文(学内)	カルボプラチンを含む術後補助化学療法を施行した卵巣がん患者における増悪因子の検討	内藤 由貴 戸村 和希 須永 登美子 永谷 明子 内田 展 田中 広紀 栗屋 真理子 秋山 菜央 楠 裕美子 小川 公一 向後 麻里 佐々木 忠徳	昭和医学会雑誌	79	1	35		Feb-19

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 稲垣彩美
------	---------	-------	---------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
学術雑誌論文(学外)	母乳と薬相談外来開設後の現状報告	中山 泰菜 遠藤 美緒 稲垣彩美 若林 仁美 星 茜 深井萌佳 富家 俊弥 栗原 竜也 神谷 太郎 水野 克己 板橋家頭夫 佐々木 忠徳	日本母乳哺育学会雑誌	11	2	122	日本母乳哺育学会雑誌	Dec-17
学術雑誌論文(学外)	がん性疼痛に対してオキシコドン塩酸塩を使用した妊婦から出生した児に新生児薬物離脱症候群が出現した1例	徳永 愛美 縄田 修一 横山和彦 稲垣 彩美 瀬尾 晃平 井川 三緒 村川 哲郎 市倉大輔 峯村 純子 佐々木 忠徳	Palliat Care Res	15	4	297	日本母乳哺育学会	Nov-21
学術雑誌論文(学外)	小児における筋弛緩薬の持続投与の現状調査	稲垣 彩美 高田 昂輔 梅野 頌子 縄田 修一 藤井 隆成 宮原 義典 石野 幸三 富田 英 峯村 純子 佐々木 忠徳	日本小児臨床薬理学会雑誌	32	1	93	日本小児臨床薬理学会	Dec-19

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 磯崎 遥
------	---------	-------	---------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
図書	産婦人科感染症マニュアル	磯崎 遥、大槻 克文				47		Feb-18
学術雑誌論文(学外)	改めて考える大学の附属病院の薬剤師とは？～昭和大学江東豊洲病院における地域連携の実際と課題～	磯崎 遥、喜田 昌記、永田 卓也、柏原 由佳、田中 克己	週刊薬事新報		3062	13		Sep-18
学術雑誌論文(学外)	新時代のホルモン療法マニュアル	磯崎 遥、大槻 克文	産科と婦人科	86	増刊	252		Apr-19
学術雑誌論文(学外)	周産期の薬 ＜産科編＞	磯崎 遥、前田 絵里加、大槻 克文	周産期医学	50	増刊	87		Dec-20
学術雑誌論文(学外)	「私の治療」切迫流産・切迫早産	磯崎 遥、大槻 克文	日本医事新報		5049	40		Jan-21

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教(実務)	氏名 木村 祐子
------	---------	-----------	----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
会議発表(論文・口頭)	医療連携におけるPBPMを応用した外来患者に対する医療用麻薬処方への取り組み～STAS-JIによる共通評価の試み～	徳永 愛美 縄田 修一 日向美羽 横山 和彦 小貫 道子 脇谷 美由紀 小原 君予 木村 祐子 市村 文典 市倉 大輔 鈴木 信也 佐々木 忠徳					日本臨床腫瘍薬学会学術大会2021	Mar-21
会議発表(論文・口頭)	連携充実加算への対応とその成果～トレーシングレポートの活用状況～	縄田 修一 市村 文典 市倉 大輔 徳永 愛美 木村 祐子 稲垣 彩美 中川 啓子 鈴木 信也 佐々木 忠徳					日本臨床腫瘍薬学会学術大会2021	Mar-21
学術雑誌論文(学外)	大腸がん患者と向き合う	木村 祐子	神奈川県病院薬剤師会雑誌				神奈川県病院薬剤師会	Mar-21

学術雑誌論文 (学内)	当院における新型コロナウイルス感染症 (COVIT-19) に対する薬物療法の現状調 査	高田 昂輔 木村 祐子 稲垣 彩美 詫間 章俊 市倉 大輔					北部医学会総 会紀要	Mar-21
----------------	--	----------------------------------	--	--	--	--	---------------	--------

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 楠 裕美子
------	---------	-------	----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学内)	A Retrospective Study of Injection Site Pain from Azithromycin Injection in Japanese Patient	TANAKA Hironori, HAYASHI Makoto, AWAYA Mariko, KUSUNOKI Yumiko, TANAKA Nao, TOMURA Kazuki, FUJIHARA Hisato, WATANABE Toru, IKEDA Hirokazu, SASAKI Tadanori	Showa Univ J Med Sci	32	3	207		Oct-22
会議発表 (論文・口頭)	高度・中等度腎機能低下患者におけるバ ンコマイシン初期負荷投与の検討	栗屋 真理子 田中 広紀 鈴木 絢子 山内 梨姿 楠 裕美子 秋山 (田中) 菜央 戸村 和 希 田中 佐知子 渡邊 徹 佐々木 忠徳					日本病院薬剤 師会関東ブ ロック第49回 学術大会	
学術雑誌論文 (学内)	カルボプラチンを含む術後補助化学療法 を施行した卵巣がん患者における増悪因 子の検討	内藤 由貴 戸村 和希 須永 登美子 永谷 明子 内田 展 田中 広紀 栗屋 真理子 秋山 菜央 楠 裕美子 小川 公一 向後 麻里 佐々木 忠徳	昭和学術雑誌	79	1	35		Feb-22
学術雑誌論文 (学外)	腎機能障害患者におけるバンコマイシン 初期負荷投与の検討	栗屋 真理子 田中 広紀 鈴木 絢子 市川 剛 楠 裕美子 内 田 展 秋山 菜央 戸村 和希 須永 登美子 藤原 久登 並 木 美加子 田中 佐知子 渡邊 徹 池田 裕一 佐々木 忠徳	日本病院薬剤師会雑誌	55	2	197		Feb-22
会議発表 (論文・口頭)	腎機能障害患者におけるバンコマイシン 負荷投与の安全性の検討	栗屋 真理子 田中 広紀 鈴木 絢子 市川 剛 楠 裕美子 戸 村 和希 須永 登美子 藤原 久登 並木 美加子 田中 佐知 子 渡邊 徹 池田 裕一 佐々 木 忠徳					第27回日本医 療薬学会年会	
会議発表 (論文・口頭)	ステロイド投与中の患者に生じた有害事 象への関わり	内田 展 東野 真弓 楠 裕美 子 穂積 智美 戸村 和希 須 永 登美子 渡邊 徹 佐々木 忠徳					日本病院薬剤 師会関東ブ ロック第47回 学術大会	
会議発表 (論文・口頭)	病棟薬剤師によるVCM投与患者への関わ り	楠 裕美子 松井 美月 栗屋 真理子 内田 展 秋山 菜央 中村 彰子 田中 広紀 渡邊 徹 佐々木 忠徳					日本病院薬剤 師会関東ブ ロック第47回 学術大会	
会議発表 (論文・口頭)	患者の訴えに傾聴した服薬指導の実践と 服薬アドヒアランス向上への関わり	田中 菜央 楠 裕美子 中村 彰子 内藤 由貴 小川 由美子 戸村 和希 永谷 明子 須永 登美子 田中 広紀 藤原 久登 向後 麻里 佐々木 忠徳					日本病院薬剤 師会関東ブ ロック第46回 学術大会	

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教 (実務)	氏名 徳永 愛美
------	---------	------------	----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	Clinical Pharmacokinetics of Mianserin Suppositories in Healthy Older Japanese Male Adults: A Pilot Study	ICHIKUKRA Daisuke NAWATA Shuichi KOHYAMA Noriko TOKUNAGA Megumi HIDA Noriko YAMAZAKI Taigi TAKENOSHITA Sachiko UCHIDA Naoki MINEMURA Atsuko SASAKI Tadanori	臨床薬理	50	2	23	日本臨床薬理 学会	Mar-19
学術雑誌論文 (学外)	がん性疼痛に対してオキシシドン塩酸塩 を使用した妊婦から出生した児に新生児 薬物離脱症候群が出現した1例	徳永 愛美 縄田 修一 横山 和彦 稲垣 彩美 瀬尾 晃平 井川 三緒 村川 哲郎 市倉 大輔 峯村 純子 佐々木 忠徳	Palliat Care Res	15	4	297	日本緩和医療 学会	Nov-21
学術雑誌論文 (学内)	初期・二次救急外来受診患者における内 服抗菌薬使用状況調査	川島 渉 清水 愛美 鷺尾 紗 菜 稲垣 彩美 市倉 大輔 縄 田 修一 神尾 義人 峯村 純 子	第7回北部医学会総会	32	1	93	北部医学会	Mar-17

会議発表 (論文・口頭)	外来患者が疼痛コントロール不良に陥る要因の解明：質的インタビュー調査（中間報告）	日向 美羽 徳永 愛美 宮崎 貴久子 中山 健夫 縄田 修一				第26回日本緩和医療学会学術大会	Jun-21
会議発表 (論文・口頭)	卵巣がんドセタキセル＋カルボプラチン＋ペバシズマブ療法による掌の皮膚剥離出現の実態調査	徳永 愛美 縄田 修一 河本 貴之 松浦 玲 市倉 大輔 鈴木 信也 佐々木 忠徳				第14回日本緩和医療学会年会	Jul-21

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 服部 はるか
------	---------	-------	-----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	抗菌薬適正使用支援チームによるカルバペネム系薬を対象とした処方後のモニタリングとフィードバックが処方動向に与える影響の検討	長友安弘 前田真之 内藤結花 服部はるか 詫間隆博 二木芳人 時松一成	日本化学療法学会雑誌	69	1	1		Jan-21
学術雑誌論文 (学外)	Epidemiology and risk factors for mortality in bloodstream infections: A single-center retrospective study in Japan.	HATTORI Haruka MAEDA Masayuki NAGATOMO Yasuhiro TAKUMA Takahiro NIKI Yoshihito NAITO Yuika SASAKI Tadanori ISHINO Keiko	Am J Infect Control	46	12	e75		Dec-18
学術雑誌論文 (学外)	血液培養陽性患者に対する抗菌薬適正使用支援プログラムに基づく早期介入のアウトカム評価－後ろ向き準実験的研究－	前田真之 詫間隆博 内藤結花 宇賀神和久 寺田真悠子 小司久志 関はるか 石野敬子 二木芳人	日本化学療法学会雑誌	65	5	751		Sep-17

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教（実務）	氏名 関戸 匡恵
------	---------	-----------	----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	Variants of carboxylesterase 1 have no impact on capecitabine pharmacokinetics and toxicity in capecitabine plus oxaliplatin treated-colorectal cancer patients	MATSUMOTO Natsumi KUBOTA Yutaro ISHIDA Hiroo SEKIDO Masae OHKUMA Ryotaro ISHIGURO Tomoyuki HIRASAWA Yuya ARIIZUMI Hirotosugu TSUNODA Takuya IKUSUE Toshikazu KOBAYASHI Kouji HISAMATSU Atsushi TOSHIMA Hirokazu SHIMADA Ken FUJITA Ken-ichi	Cancer Chemother Pharmacol	85	6	1119		Jun-20
学術雑誌論文 (学外)	Rabeprazole intake does not affect systemic exposure to capecitabine and its metabolites, 5'-deoxy-5-fluorocytidine, 5'-deoxy-5-fluorouridine, and 5-fluorouracil	SEKIDO Masae FUJITA Ken-ichi KUBOTA Yutaro ISHIDA Hiroo TAKAHASHI Takehiro OHKUMA Ryotaro TSUNODA Takuya ISHIKAWA Fumihiro SHIBANUMA Motoko SASAKI Yasutsuna	Cancer Chemother Pharmacol	83	6	1127		Jun-19

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 中野 裕佳子
------	---------	-------	-----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
会議発表 (論文・口頭)	多変量解析を用いた、心理教育プログラムを受けた統合失調症患者の再入院のリスク因子の検討	中野 裕佳子 杉沢 諭 栗原 竜也 古屋 宏章 永井 努 黒沢 雅広 常岡 俊昭 稲本 淳子 岩波 明					第5回日本精神薬学会総会・学術集会	Aug-21
会議発表 (論文・口頭)	精神医療実習（病院実務実習）の構築－精神疾患患者の実際を学び対応を取得する必須科目－	栗原 竜也 永井 努 黒沢 雅広 唐沢 浩二 福村 基徳 田島 正教 向後 麻里 中野 裕佳子 佐野 智香 八木 孝仁 池田 勝之 真田 建史 高塩 理 岩波 明 中村 明弘					第5回日本薬学教育学会大会「未来を変える薬学教育の力」－医療の絆が新たなチャレンジを実現する－	Sep-20

会議発表 (論文・口頭)	成人注意欠陥・多動症 (ADHD) に対する アトモキセチンの有効性関連因子の探索	永井 努 栗原 竜也 宇賀神 祐希 岡島 千絵 中野 裕佳 子 古屋 宏章 杉沢 諭 中山 泰葉 三邊 武彦 太田 晴久 岸本 桂子 向後 麻里 内田 直樹 岩波 明 佐々木 忠徳					第50回日本 神経精神薬 理学会年 会・第42回 日本生物学 的精神医学 会年会・第4 回日本精神 薬学会総 会・学術集 会合同年会	Aug-20
会議発表 (論文・口頭)	カンナビジオールの非線形動態とCYP3A を介した薬物間相互作用に関する研究	永尾 美智瑠 中野 裕佳子 田島 正教 杉山 恵理花 稲 田 睦 佐藤 均					日本薬学会 第140年会	Mar-20
会議発表 (論文・口頭)	薬物間相互作用の疑いに対する介入で 良好な転帰を得た統合失調症の1例	柏淵 弓佳 阿部 和正 山田 真理 真田 建史 古屋 宏章 中野 裕佳子 永井 努 栗原 竜也 佐々木 忠徳					日本病院薬 剤師会関東 ブロック第49 回学術大会	Aug-19
学術雑誌論文 (学外)	Development of a Novel Nanoemulsion Formulation to Improve Intestinal Absorption of Cannabidiol	NAKANO Yukako TAJIMA Masataka 杉山 恵理花 SATO Vilasinee Hirunpanich SATO Hitoshi	Med Cannabis Cannabinoids	2		35		Apr-19
学術雑誌論文 (学外)	Nonlinear Disposition and Metabolic Interactions of Cannabidiol Through CYP3A Inhibition <i>in Vivo</i> in Rats.	NAGAO Michiru NAKANO Yukako TAJIMA Masataka SUGIYAMA Erika SATO VH INADA M SATO Hitoshi	Cannabis Cannabinoid Res	5	4	318		Dec-20

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 久知良礼美
------	---------	-------	----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
会議発表 (論文・口頭)	医療ビッグデータ解析を組み込んだビス フォスフォネート製剤のフォーミュラ 策定	百 賢二 石下 宏征 北原 加 奈之 久知良 礼美 嶋村 弘史 田中 広紀 松尾 香 柳原 麻里 新山 加菜美 小平 紀久 佐々木 忠徳					医療薬学 フォーラム 2021 第29回 クリニカル ファーマシー シンポジウム	Jul-21
学術雑誌論文 (学外)	薬薬連携におけるトレーシングレポート 第4回 抗がん剤治療に関わるトレーシ ングレポート事例	久知良 礼美 柘植 緑理佳 佐 伯 美沙 田中 克巳 大内 雅 之 向後 真寿美 川野 由紀子	都薬雑誌	43	2	46		Feb-21
学術雑誌論文 (学外)	Doxorubicin- and Cyclophosphamide-Based Chemotherapy for Pregnant Women With Stage IIIa Breast Cancer.	KUCHIRA Remi MOMO Kenji ISOZAKI Haruka KOSHIZUKA Hiromi KIDA Masaki WATANABE Ayako NAGASHIMA Chie KASHIWABARA Yuka TANAKA Katsumi SHIMADA Ken OTSUKI Katsufumi YOSHIDA Miwa SASAKI Tadanori	Am J Ther	29	1	e120		Jan-22
学術雑誌論文 (学外)	改めて考える大学の附属病院の薬剤師と は？ 人工知能には任せられない薬剤師 のアイデンティティー	安田 礼美 中田 麻里 松崎 あい理 大戸 祐治 田中 克巳	薬事新報		3067	7		Oct-18
学術雑誌論文 (学内)	終末期医療における自己決定と医療倫理 教育に関する課題の検討?安楽死・尊厳死 に関する医学生・文系学生の意識差をも とに?	岩田 浩子 佐藤 啓造 米山 裕子 根本 紀子 藤城 雅也 足立 博 李 曉鵬 松山 高明 栗原 竜也 安田 礼美 浅見 昇吾 米山 啓一郎	昭和学士会雑誌	78	2	156		Apr-18

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 山寺志保
------	---------	-------	---------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
会議発表 (論文・口頭)	ニボルマブによる腎細胞がん治療におい て遅発性の副腎機能障害を発症した症例	島本 一志 坂井 美穂 山寺 志保 高田 恵理子 米澤 龍 須永 登美子					日本病院薬 剤師会関東ブ ロック第51回 学術大会	Aug-21
会議発表 (論文・口頭)	抗TLR-4抗体処置下でのLinagliptinの抗炎症 作用	山寺 志保、中村 裕也、稲垣 昌博、稲垣 貴恵、齋藤 拓 史、佐藤 直樹、小口 達敬、 三澤 英央、辻 勇弥、辻 ま ゆみ、大澤 勲、後藤 博道、 木内 祐二					第66回日本透 析医学会学術 集会・総会	Jun-21

学術雑誌論文 (学外)	Linagliptin Inhibits Lipopolysaccharide-Induced Inflammation Concentration-Dependently And -Independently	SATO Naoki NAKAMURA Yuya YAMADERA Shiho INAGAKI Masahiro KENMOTSU Sachiyo SAITO HIROSHI OGUCHI Tatsunori TSUJI Mayumi CHOKKI Hirokazu OHSAWA Isao GOTOH Hiromichi Iwai Shinichi KIUCHI Yuji	J Inflamm Res	12		285		Oct-19
学術雑誌論文 (学外)	Linagliptin inhibits lipopolysaccharide-induced inflammation in human U937 monocytes	YAMADERA Shiho NAKAMURA Yuya INAGAKI Masahiro KENMOTSU Sachiyo NOHARA Tetsuhito SATO Naoki OGUCHI Tatsunori TSUJI Mayumi OHSAWA Isao GOTOH Hiromichi GOTO Yoshikazu YURA Akihiko KIUCHI Yuji Iwai Shinichi	Inflamm Regen	38		13		Aug-18
学術雑誌論文 (学外)	Linagliptin inhibits lipopolysaccharide-induced inflammation in human U937 monocytes.	YAMADERA Shiho NAKAMURA Yuya INAGAKI Masahiro KENMOTSU Sachiyo NOHARA Tetsuhito SATO Naoki OGUCHI Tatsunori TSUJI Mayumi OHSAWA Isao GOTOH Hiromichi GOTO Yoshikazu YURA Akihiko KIUCHI Yuji Iwai Shinichi	Inflamm Regen	38		13		Aug-18
学術雑誌論文 (学外)	Vitamin E-Coated Dialyzer Inhibits Oxidative Stress	YAMADERA Shiho NAKAMURA Yuya INAGAKI Masahiro OHSAWA Isao GOTOH Hiromichi GOTO Yoshikazu SATO Naoki OGUCHI Tatsunori GOMI Yurika TSUJI Mayumi KIUCHI Yuji Iwai Shinichi	Blood Purif	44	4	288		Oct-17
学術雑誌論文 (学外)	Significance of Cu/Zn-superoxide dismutase levels in hemodialysis patients: A mini review	NAKAMURA Yuya INAGAKI Masahiro KENMOTSU Sachiyo YAMADERA Shiho OHSAWA Isao GOTOH Hiromichi GOTO Yoshikazu SATO Naoki OGUCHI Tatsunori TSUJI Mayumi KIUCHI Yuji	Mod Res Inflamm	6	2	9		May-17

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 田中英央
------	---------	-------	---------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
会議発表 (論文・口頭)	エドキシパン長期投与後に薬剤性間質性肺炎を認めた1例	高田 恵理子 北原 加奈之 田中 菜央 楠 裕美子 安藤 睦実 井上 大輔 鹿間 裕介 須永 登美子					日本病院薬剤師会関東ブロック第51回学術大会	
学術雑誌論文 (学内)	A Retrospective Study of Injection Site Pain from Azithromycin Injection in Japanese Patient	TANAKA Hironori HAYASHI Makoto AWAYA Mariko KUSUNOKI Yumiko TANAKA Nao TOMURA Kazuki FUJIIHARA Hisato WATANABE Toru IKEDA Hirokazu SASAKI Tadanori	Showa Univ Med Sci	32	3	207		Oct-20

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 嶋崎 真耶
------	---------	-------	----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
	医療ビッグデータを用いた働き盛りの勤務者を対象としたベンゾジアゼピン系薬剤の長期使用に関する実態調査	嶋崎 真耶、百 賢二、中谷 香織、佐々木忠徳					医療薬学フォーラム2021 第29回クリニカファーマシーシンポジウム	Jul-21
図書	消化器疾患最新の治療 2021-2022	鈴木 康介 田中 道子 葛城 怜子 嶋崎 真耶 佐々木 忠徳				357		Feb-21
学術雑誌論文 (学外)	A novel method to quantitatively evaluate slipperiness and frictional forces of solid oral dosage forms and to correlate these parameters with ease of swallowing	SHIMASAKI Maya 村山 信浩 藤田 吉明 中村 明弘 原田 努	J Drug Deliv Sci Technol	53				Oct-19
会議発表 (論文・口頭)	製剤の滑りやすさの定量的評価	嶋崎 真耶、村山 信浩、藤田 吉明、原田 努、中村 明弘					第 35 回製剤と粒子設計シンポジウム	Oct-18

会議発表 (論文・口頭)	製剤の飲み込み易さのin vitro 評価	嶋崎 真耶、村山 信浩、藤田 吉明、原田 努、中村 明弘				製剤機械技術 学会第28回大 会	Oct-18
会議発表 (論文・口頭)	水が製剤表面の滑りやすさに与える影響	嶋崎 真耶 村山 信浩 藤田 吉明 原田 努 中村 明弘				日本薬学会第 138回年会	Mar-18

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 船越晴喜
------	---------	-------	---------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	Liver Injury by the Traditional Chinese Medicine Hanshrento, Zenshikunshito, and Ninjin'yoeito in a Patient with Lung Cancer: Probable Causality Assessed by the Updated Roussel Uclaf Causality Assessment Method.	FUNAKOSHI Haruki MOMO Kenji KASHIMA Ayaka IDA Hitomi MIYATA Yoshito SAGARA Hironori SASAKI Tadanori	Integrative Cancer Therapies	20		1		Mar-21
学術雑誌論文 (学外)	β2 - adrenoceptor agonist inhalation induced paroxysmal atrial fibrillation and tachycardia in a patient with severe bronchial asthma	FUNAKOSHI Haruki MOMO Kenji OKAZAKI Keinosuke EBATO Takaya YAMAMOTO Shigenori UNO Tomoki OHTA Shin SAGARA Hironori SASAKI Tadanori	British Journal of Clinical Pharmacology			3375		Feb-21
学術雑誌論文 (学外)	Agranulocytosis During Treatment With Sulfamethoxazole-Trimethoprim and a Proton Pump Inhibitor	FUNAKOSHI Haruki MOMO Kenji UCHIKURA Takeshi ARIIZUMI Hirotugu HAMADA Kazuyuki TSUNODA Takuya SASAKI Tadanori	American Journal of Therapeutics					Nov-19
図書	ナースが知っておくがん治療：治療とケアの成り行き"＆薬の最新知識これだけガイド"	菅原 嘉恵 船越 晴喜 岡崎 敬之介	学研メディカル秀潤社			176		Jul-19
図書	病態を理解して組み立てる 薬剤師のための疾患別薬物療法Ⅱ 精神・脳神経系疾患／消化器疾患 改訂第2版	船越 晴喜 鈴木 康介 竹内 義明 峯村 純子	南江堂			100		Mar-18

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教（実務）	氏名 市村 文典
------	---------	-----------	----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	Effectiveness of corticosteroids on immune checkpoint inhibitor-induced interstitial pneumonia among patients with a history of interstitial pneumonia: A case series	ICHIMURA Takenori HINATA Miwa ICHIKURA Daisuke SUZUKI Shinya	SAGE Open Med Case Rep	9		2050313 X211031 313		Jul-21
学術雑誌論文 (学外)	多職種によ〜く伝わる薬学的思考を活かした 診療録記載のまとめ方(第5回) 患者の身体所見に基づく副作用評価と医師への提案(その1)	市村 文典 鈴木 信也 佐村 優	薬事	63	6	1136		May-21
図書	医療薬学・臨床薬学(スタンダード薬学シリーズⅡ:9. 薬学演習:1)	市村 文典				179		Oct-20
学術雑誌論文 (学外)	少量補液負荷の胆道がんGemcitabine＋Cisplatin療法の忍容性評価	市村 文典 縄田 修一 市倉大輔 村上 郁 臼田 昌弘 川島 渉 峯村 純子 佐々木 忠徳	薬学雑誌	140	7	929		Jul-20

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 喜田昌記
------	---------	-------	---------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	緩和薬物療法認定薬剤師 緩和薬物療法認定薬剤師に期待されるもの	柏原 由佳 大戸 祐治 喜田 昌記	薬事新報		3211	764		Jul-21
学術雑誌論文 (学外)	【Dr. ツマリトリといっしょに学ぶ排便コントロール 日本一たのしいがんの便秘まるごとナビ】こんなお薬をつかいます便秘につかう薬剤とは?	喜田 昌記	YORI-SOUがんナース ン グ	11	3	224		Jun-21
会議発表 (論文・口頭)	発足後1年間の緩和ケアチーム介入の実態と課題	柏原 由佳 小城原 傑 笈沼智子 喜田 昌記 高野 清美 嶋田 颯 田中 克巳 佐々木 忠徳					第6回日本が んサポーティ ブケア学会	May-21
学術雑誌論文 (学外)	薬薬連携におけるトレーシングレポート第3回 服薬方法やアドヒアランスに関するトレーシングレポート事例	喜田 昌記 米澤 夏里 伊波樹 田中 克巳 菊池 麻子 大内 雅之	都薬雑誌	43	1	52		Jan-21

学術雑誌論文 (学外)	【がんサバイバーの痛みを考える】薬物療法 抗うつ薬	喜田 昌記	ペインクリニック	40	別冊 秋	S370		Oct-19
図書	精神・脳神経系疾患/消化器疾患 改訂第2版 (薬剤師のための疾患別薬物療法: 病態を理解して組み立てる:2)	喜田 昌記 柏原 由佳 伊藤 敬義				111		Mar-18

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教 (実務)	氏名 日向 美羽
------	---------	------------	----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	Evaluation of rapid drug safety communication materials for patients in Japan.	YAGUCHI-SAITO Akiko YAMAMOTO Ken SENGOKU Tami SUKA Machi SATO Tsugumichi HINATA Miwa NAKAMURA Toshiaki NAKAYAMA Takeo YAMAMOTO Michiko	Drug Discov Ther	15	2	101		May-21
学術雑誌論文 (学外)	Mindset modification of community pharmacists in a collaborative relationship between a major hospital and neighboring community pharmacies: a qualitative study.	HINATA Miwa MIYAZAKI K OKADA H NAKAYAMA T	BMC Health Serv Res	19	1	487		Jul-19
学術雑誌論文 (学外)	Trends in descriptions of palliative care in the cancer clinical practice guidelines before and after enactment of the Cancer Control Act (2007): content analysis	HINATA Miwa MIYAZAKI K KANAZAWA N KITO K KIYOTO S KONDA M KURIYAMA A MORI H NAKAOKA S OKUMURA A TOKUMASU H NAKAYAMA T	BMC Palliat Care	18	1	5		Jan-19
学術雑誌論文 (学内)	Comparison of User Impressions of Oral Transmucosal Fentanyl Placebo Formulations by Medical Staff	WADA Noriko KASHIWABARA Yuka HIGUCHI Hitomi HINATA Miwa SASAKI Tadanori KATO Yasuhisa	Showa Univ J Med Sci	30	1	53		Mar-18
会議発表 (論文・口頭)	外来患者が疼痛コントロール不良に陥る要因の解明: 質的インタビュー調査 (中間報告)	日向 美羽 徳永 愛美 宮崎 貴久子 中山 健夫 縄田 修一					第26回日本緩和医療学会学術大会	Jun-21
会議発表 (論文・口頭)	医療連携におけるPBPMを応用した外来患者に対する医療用麻薬処方への取り組み～STAS-Jによる共通評価の試み～	徳永 愛美 縄田 修一 日向 美羽 横山 和彦 小貫 道子 脇谷 美由紀 小原 君予 木村 祐子 市村 文典 市倉 大輔 鈴木 信也 佐々木 忠徳					日本臨床腫瘍薬学会学術大会2021	Mar-21
学術雑誌論文 (学外)	Effectiveness of corticosteroids on immune checkpoint inhibitor-induced interstitial pneumonia among patients with a history of interstitial pneumonia: A case series	ICHIMURA Takenori HINATA Miwa ICHIKURA Daisuke SUZUKI Shinya	SAGE Open Med Case Rep	9		205031 3X2110 31313		Jul-21

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 高田恵理子
------	---------	-------	----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	オシメルチニブによる多形紅斑重症型が生じた非小細胞肺癌患者	中野 恵理子、藤宮 龍祥、武井 華子、中田 土起文、藤嶋 彬、鹿間 裕介、田中 広紀、渡邊 徹、佐々木 忠徳	日本臨床腫瘍薬学会雑誌	18		1-7		Jan-21
会議発表 (論文・口頭)	エドキシバン長期投与後に薬剤性間質性肺炎を認めた1例	高田恵理子、北原加奈之、田中英央、楠裕美子、安藤睦実、井上大輔、鹿間裕介、須永登美子					日本病院薬剤師会関東ブロック第51回学術大会	Aug-21

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 松井美月
------	---------	-------	---------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学会)	非弁膜症性心房細動患者における直接経口抗凝固薬投与後の出血に関連する危険因子と安全性プロファイルの検討	中村 彰子、須永 登美子、藤原 久登、松井 美月、東野 真弓、宮本 渚、稲本 真弓、江波戸 美緒、鈴木 洋、向後 麻里、渡邊 徹、佐々木 忠徳	神奈川県病院薬剤師会雑誌	51	2	2		Jul-19

会議発表 (論文・口頭)	ホジキンリンパ腫に対するABVD療法により高トリグリセリド血症を生じた一例	米澤 龍、島本 一志、蒲澤 宣幸、佐野 瑞希、田中 志津子、松井 美月、原田 浩史、須永 登美子					日本病院薬剤師会関東ブロック第51回学術大会	Aug-21
-----------------	---------------------------------------	--	--	--	--	--	------------------------	--------

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 柘植縁理佳
------	---------	-------	----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	Severe Drowsiness with Fever Induced by Transdermal Fentanyl Administration	OTO Yuji MOMO Kenji NAGATA Takuya TSUGE Erika KOBAYASHI Kouji SHIMADA Ken TANAKA Katsumi SASAKI Tadanori	J Palliat Med	23	8	1006		Aug-20

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 染谷 梨沙
------	---------	-------	----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	急性期人工関節周囲感染症例における抗MRSA薬の有効性と医療費に関する調査	染谷 梨沙 高田 昂輔 詫間 章俊 内倉 健 縄田 修一 前田 昭彦 川崎 恵吉 木村 聡 藤巻 良昌 詫間 隆博 峯村 純子 佐々木 忠徳	日本人工関節学会	50		721	日本人工関節学会	Dec-20
学術雑誌論文 (学内)	MRSAによる急性期人工関節周囲感染に対する抗MRSA薬の有効性と費用に関する検討	染谷 梨沙 高田 昂輔 詫間 章俊 内倉 健 縄田 修一 前田 昭彦 川崎 恵吉 木村 聡 峯村 純子	北部医学会総会紀要			126	北部医学会	Mar-19

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 伊藤綾花
------	---------	-------	---------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	フェノバルビタールの剤形変更により血中フェノバルビタール濃度が著しく変動した1例	伊藤 綾花 渡邊 亜矢子 阿部 久瑠美 中田 麻里 永田 卓也 柏原 由佳 花岡 健太郎 水野 克己 田中 克巳 佐々木 忠徳	日本小児臨床薬理学会雑誌	32		120		Aug-19
学術雑誌論文 (学外)	改めて考える大学の附属病院の薬剤師とは？Missionから考える薬剤師の業務	伊藤 綾花 渡邊 亜矢子 越塚 宏美 屋城 由樹 田中 克巳	薬事新報		3058	13		Aug-18

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 中田 麻里
------	---------	-------	----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	改めて考える大学の附属病院の薬剤師とは？ 人工知能には任せられない薬剤師のアイデンティティ	安田 礼美 中田 麻里 松崎 あい理 大戸 祐治 田中 克巳	薬事新報		3067	7		Oct-18
学術雑誌論文 (学外)	フェノバルビタールの剤形変更により血中フェノバルビタール濃度が著しく変動した1例	伊藤 綾花 渡邊 亜矢子 阿部 久瑠美 中田 麻里 永田 卓也 柏原 由佳 花岡 健太郎 水野 克己 田中 克巳 佐々木 忠徳	日本小児臨床薬理学会雑誌	32		120		Aug-19

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 山口 天士
------	---------	-------	----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	Factors predicting addition of disease-modifying antirheumatic drugs after initial methotrexate monotherapy in patients with rheumatoid arthritis.	YAMAGUCHI Takashi KOHYAMA Noriko TAKENAKA Miki OKADA Takahiro KURIHARA Tatsuya SAKURAI Kosuke MIWA Yusuke KOGO Mari	Clin Rheumatol	40	7	2657		Jul-21
学術雑誌論文 (学外)	Scoring Model to Predict a Low Disease Activity in Elderly Rheumatoid Arthritis Patients Initially Treated with Biological Disease-modifying Antirheumatic Drugs	OKADA Takahiro KOHYAMA Noriko TAKENAKA Miki YAMAGUCHI Takashi KURIHARA Tatsuya SAKURAI Kosuke MIWA Yusuke KOGO Mari	Intern Med	60	12	1827		Jun-21
会議発表 (論文・口頭)	ロスバスタチンの隔日投与においてスタチン誘発性筋障害を呈した一例	高橋 伸幸 葛城 怜子 山口 天士 岡本 まとか 守屋 賀奈絵 百 賢二 田中 広紀 佐々木 忠徳					日本病院薬剤師会関東ブロック第51回学術大会	Aug-21

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 山口 芽衣
------	---------	-------	----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
会議発表 (論文・口頭)	慢性心不全患者への緩和ケアチーム薬剤師の介入と役割	和田 紀子 山口 芽衣 西木戸修 高橋 彩子 鈴木 洋久 我妻 志保 山尾 尚子 岡本 健一郎 新家 修郎 佐々木 忠徳					第14回日本緩和医療薬学会	May-21
会議発表 (論文・口頭)	カペシタビン服用患者における手足症候群予防対策の実態調査	山口 芽衣 杉田 栄樹 齋藤 拓史 清水 久範 佐々木 忠徳					第14回日本緩和医療薬学会	May-21
会議発表 (論文・口頭)	フルオロウラシルの血管炎に対する疼痛対策に關与した症例	中嶋 宏太 船越 晴喜 山口 芽衣					第10回日本薬剤師レジデントフォーラム	Mar-21
図書	薬局で役立つ経口抗がん薬はじめての一步	山口 芽衣 清水 久範				54		Apr-20
その他	がん薬物療法の患者安全管理に向けた知っておきたい共通認識 第4回 手足症候群 -患者さんの状態を適切に評価するために-	原山 真理子 村田 勇人 山口 芽衣	都業雑誌	41	6	29		Jun-19
図書	消化器疾患最新の治療 2019-2020	鈴木 康介 太田 品子 葛城 怜子 山口 芽衣 佐々木 忠徳				441		Mar-19

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 中谷香織
------	---------	-------	---------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
一般雑誌記事	第1章 キーワードでおさらい！薬物動態のキソ6～8	百賢二、中谷香織	調剤と情報2021年7月増刊号「ニガテさん」のための薬物動態	27	10	2		Jul-21
会議発表 (論文・口頭)	医療ビッグデータを用いたがん患者の発熱性好中球減少症に伴う入院に及ぼすベグフィルグラスチム上市の影響	中谷香織、百賢二、嶋崎真耶、佐々木忠徳					第29回クリニカルファーマシーシンポジウム	
会議発表 (論文・口頭)	医療ビッグデータを用いた働き盛りの勤務者を対象としたベンゾジアゼピン系薬剤の長期使用に関する実態調査	嶋崎真耶、百賢二、桐生嘉浩、中谷香織、佐々木 忠徳					第29回クリニカルファーマシーシンポジウム	

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教（実務）	氏名 古屋宏章
------	---------	-----------	---------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
会議発表 (論文・口頭)	多変量解析を用いた、心理教育プログラムを受けた統合失調症患者の再入院のリスク因子の検討	中野 裕佳子 杉沢 諭 栗原 竜也 古屋 宏章 永井 努 黒沢 雅広 常岡 俊昭 稲本 淳子 岩波 明					第5回日本精神薬学会総会・学術集会	Aug-21
会議発表 (論文・口頭)	新規誤接続防止コネクタ (ISO 80369-3) における栄養チューブ接合部の洗浄方法に関する検討 (ワークショップ03 新経腸栄養コネクタへの対応と工夫)	古屋 宏章 倉田 なおみ 石野 敬子 岸本 真					第36回日本臨床栄養代謝学会学術集会 (JSPEN2021)	Jul-21
会議発表 (論文・口頭)	新規誤接続防止コネクタ (ISO80365-3) における栄養チューブ接合部の洗浄方法に関する検討	古屋 宏章 倉田 なおみ 石野 敬子 岸本 真					第5回日本老年薬学会学術大会	May-21
図書	ゆるりとはじめる精神科の1冊目 病気がわかる くすりがわかる	古屋 宏章 永井 努				302		May-21
図書	ゆるりとはじめる精神科の1冊目 病気がわかる くすりがわかる	古屋 宏章 永井 努				121		May-21
学術雑誌論文 (学外)	新規経管栄養器具(ISO 80369-3)における細菌汚染の経時的変化の検証	古屋 宏章 石野 敬子 熊木 良太 岸本 桂子 倉田 なおみ	学会誌JSPEN	2	5	316		Nov-20

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 永田 卓也
------	---------	-------	----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	フェノバルビタールの剤形変更により血中フェノバルビタール濃度が著しく変動した1例	伊藤 綾花 渡邊 亜矢子 阿部 久瑠美 中田 麻里 永田 卓也 柏原 由佳 花岡 健太朗 水野 克己 田中 克巳 佐々木 忠徳	日本小児臨床薬理学会雑誌	32		120		Aug-19

学術雑誌論文 (学外)	改めて考える大学の附属病院の薬剤師とは？～昭和大学江東豊洲病院における地域連携の実際と課題～	磯? 遥 喜田 昌記 永田 卓也 柏原 由佳 田中 克巳	薬事新報		3062	13		Sep-18
学術雑誌論文 (学外)	Severe Drowsiness with Fever Induced by Transdermal Fentanyl Administration	OTO Yuji MOMO Kenji NAGATA Takuya TSUGE Erika KOBAYASHI Kouji SHIMADA Ken TANAKA Katsumi SASAKI Tadanori	J Palliat Med	23	8	1006		Aug-20

昭和大学	病院薬剤学講座	職名	助教	氏名	阿部和正
------	---------	----	----	----	------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	Comparative study between active and passive exposure of methamphetamine vapor in mice.	K. Abe, A. Kaizaki-Mitsumoto, S. Numazawa	Forensic Toxicology	39	1	39, 394-404		Apr-21
会議発表 (論文・口頭)	覚せい剤炙り使用と受動曝露を識別するための基礎的検討.	阿部和正, 光本 (貝崎) 明日香, 沼澤 聡					日本法中毒学会第 39 年会	Jun-20
会議発表 (論文・口頭)	アシクロビル脳症疑い例におけるアシクロビルおよび代謝物の血中濃度測定	阿部和正, 光本 (貝崎) 明日香, 青木悟, 斉藤友広, 杉山元紀, 二村哲未, 上嶋和代, 佐々木忠則, 沼澤 聡					第 42 回日本中毒学会総会・学術集会	Sep-20
会議発表 (論文・口頭)	エチレングリコール中毒患者にエタノール濃度96%のアルコール飲料を治療に用いた一例	阿部 和正, 杉田 栄樹, 玉造 竜郎, 関戸 匡恵, 八木 正晴, 佐々木 忠徳					第3回J's-CAT学術集会	Sep-21

昭和大学	病院薬剤学講座	職名	助教 (実務)	氏名	石井 俊一
------	---------	----	---------	----	-------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	Reactive sulfur species inhibit the migration of PDGF-treated vascular smooth muscle cells by blocking the reactive oxygen species-regulated Akt signaling pathway.	ISHII Shunichi ASHINO Takashi FUJIMORI Hiroki NUMAZAWA Satoshi	Free Radic Res	55	2	186		Feb-21
会議発表 (論文・口頭)	血小板由来増殖因子による血管平滑筋細胞遊走におけるサルフェニオウの役割	芦野 隆 石井 俊一 沼澤 聡					第48回日本毒生学会学術年会	Jul-21

昭和大学	病院薬剤学講座	職名	助教	氏名	伊波樹
------	---------	----	----	----	-----

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	薬薬連携におけるトレーシングレポート第3回 服薬方法やアドヒアランスに関するトレーシングレポート事例	喜田 昌記 米澤 夏里 伊波樹 田中 克巳 菊池 麻子 大内 雅之	都薬雑誌	43	1	52		Jan-21
会議発表 (論文・口頭)	小児急性気道感染症における抗菌薬の使用実態調査	伊藤 綾花 阿部 久瑠美 渡邊 亜矢子 江島 麗 伊波 樹 越塚 宏美 柏原 由佳 田中 克巳 佐々木 忠徳					第30回日本医療薬学会年会	Oct-20

昭和大学	病院薬剤学講座	職名	助教	氏名	岡田 貴裕
------	---------	----	----	----	-------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	Scoring Model to Predict a Low Disease Activity in Elderly Rheumatoid Arthritis Patients Initially Treated with Biological Disease-modifying Antirheumatic Drugs	OKADA Takahiro KOHYAMA Noriko Takenaka Miki YAMAGUCHI Takashi KURIHARA Tatsuya SAKURAI Kosuke MIWA Yusuke KOGO Mari	Intern Med	60	12	1827		Jun-21
学術雑誌論文 (学外)	Factors predicting addition of disease-modifying antirheumatic drugs after initial methotrexate monotherapy in patients with rheumatoid arthritis.	YAMAGUCHI Takashi KOHYAMA Noriko Takenaka Miki OKADA Takahiro KURIHARA Tatsuya SAKURAI Kosuke MIWA Yusuke KOGO Mari	Clin Rheumatol	40	7	2657		Jul-21

昭和大学	病院薬剤学講座	職名	助教	氏名	岡本 まとか
------	---------	----	----	----	--------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
会議発表 (論文・口頭)	ロスバスタチンの隔日投与においてスタチン誘発性筋障害を呈した一例	高橋 伸幸 葛城 怜子 山口 天士 岡本 まとか 守屋 賀奈絵 百 賢二 田中 広紀 佐々木 忠徳					日本病院薬剤師会関東ブロック第51回学術大会	Aug-21

会議発表 (論文・口頭)	当院における経口第3世代セファロスポリン系抗菌薬の処方状況	岡本 まとか 田中 広紀 時松 一成 佐々木 忠徳					日本病院薬剤師会関東ブロック第51回学術大会	Aug-21
その他	新時代の幕開け! 薬剤師の新たな役割と将来展望 初期診療における薬剤師の役割	玉造 竜郎 田中 道子 岡本 まとか					第23回日本臨床救急医学会総会・学術集会	Aug-20
一般雑誌記事	挿管時の薬剤投与時、どんなことに注意する?(コラム4)	岡本 まとか 玉造 竜郎	Expert Nurse	36	8	90		Jun-20

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 高橋 伸幸
------	---------	-------	----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
会議発表 (論文・口頭)	ロスバスタチンの隔日投与においてスタチン誘発性筋障害を呈した一例	高橋 伸幸 葛城 怜子 山口 天士 岡本 まとか 守屋 賀奈絵 百 賢二 田中 広紀 佐々木 忠徳					日本病院薬剤師会関東ブロック第51回学術大会	Aug-21
会議発表 (論文・口頭)	原薬粉体物性がアスピリンミニタブレットの品質に及ぼす影響	芹澤 風香 野田 秀裕 高橋 伸幸 鈴木 奈緒 藤田 吉明 中村 明弘 原田 努					日本薬学会第141年会	Mar-21
会議発表 (論文・口頭)	とろみ剤による錠剤の溶出遅延に対するコーティング剤の効果	加藤 七菜 高橋 伸幸 藤田 吉明 原田 努 中村 明弘					日本薬剤学会第35年会	May-20
学術雑誌論文 (学外)	Effect of xanthan gum-based food thickeners on the dissolution profile of fluoroquinolones oral formulations	TAKAHASHI Nobuyuki, FUJITA Yoshiaki, TAKAHASHI Nanako, NAKAMURA Akihiro, HARADA Tsutomu	J Pharm Health Care Sci	6	2	25		Nov-21

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 古田 康之
------	---------	-------	----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	肺血栓塞栓症 (Pulmonary Thromboembolism:PE) の予知予測にはD-dimer(DD)とThrombin-antithrombin complex (TAT)の併用が有用である—血液サンプリングによる肺血栓塞栓症の予知—	小林洋一, 古田康之, 二瓶友美, 徳田幸子, 松井泰樹, 越智明憲, 猪口孝一郎, 新家俊郎, 内田英二	心臓	53	5	449		Aug-21
学術雑誌論文 (学外)	「軽微なインシデント」への介入ポイントと実例	古田康之	隔月刊病院安全教育					Aug-21
会議発表 (論文・口頭)	外来診療からの緊急入院におけるRRS起動基準を用いた重症病床入室検討基準チェックシートの有用性	古田康之, 二瓶友美, 増島絵里子, 徳田幸子, 小林洋一					第7回日本医療安全学会学術総会	May-21
会議発表 (論文・口頭)	失神の予知予測は、院内の転倒・転落を減少させる可能性がある	古田康之, 高橋笑美子, 戸田桂子, 徳田幸子, 小林洋一					第11回失神研究会	Jul-21
会議発表 (論文・口頭)	内服薬・注射薬インシデント報告「発生原因・要因」のテキストマイニング解析と改善への有用性について	古田康之, 野田秀裕, 高橋笑美子, 戸田桂子, 徳田幸子, 小林洋一					第19回日本臨床医学リスクマネジメント学会学術集会	Sep-21

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 佐伯美沙
------	---------	-------	---------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	薬業連携におけるトレーシングレポート第4回 抗がん剤治療に関わるトレーシングレポート事例	久知良 礼美, 柘植 緑理佳, 佐伯 美沙, 田中 克巳, 大内雅之, 向後 真寿美, 川野 由紀子	都薬雑誌	43	2	46		Feb-21

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 田中志津子
------	---------	-------	----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始ページ	学会・シンポジウム名	刊行年月
会議発表 (論文・口頭)	Morphine、Oxycodone、Hydromorphone、Tapentadolの初回内服後のせん妄様症状に関する実態調査	松井 美月 藤宮 龍祥 島本一志 米澤 龍 田中 志津子 中山 博文 渡邊 徹 佐々木 忠徳					第14回日本緩和医療薬学会年会	May-21
会議発表 (論文・口頭)	ホジキンリンパ腫に対するABVD療法により高トリグリセリド血症を生じた一例	米澤 龍 島本 一志 蒲澤 宣幸 佐野 瑞希 田中 志津子 松井 美月 原田 浩史 須永 登美子					日本病院薬剤師会関東ブロック第51回学術大会	Aug-21
会議発表 (論文・口頭)	SBT/CPZによる白血球減少症を生じた一例	田中 志津子 栗屋 真理子 米澤 龍 田中 広紀 渡邊 徹 佐々木 忠徳					日本病院薬剤師会関東ブロック第51回学術大会	Aug-21

会議発表 (論文・口頭)	MRSA菌血症に対しVCMから早期にDAPTに変更した一例	田中 志津子 栗屋 真理子 米澤 龍 戸村 和希 田中 広紀 渡邊 徹					日本病院薬 剤師会関東 ブロック第50 回学術大会	Oct-20
会議発表 (論文・口頭)	肺腺癌術後のシスプラチン+ビノレルビン療法に伴う悪心にオランザピンが有効であった1症例	田中 志津子 藤宮 龍祥 金 正興 船越 晴喜 楠本 壮二 郎 杉田 栄樹 佐々木 忠徳					日本病院薬 剤師会関東 ブロック第49 回学術大会	Aug-19

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 平出 美紀
------	---------	-------	----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 前田 絵里加
------	---------	-------	-----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
会議発表 (論文・口頭)	手術・検査前中止薬の確認業務とその評価	柏原由佳, 柘植緑理佳, 伊波 樹, 江島麗, 佐伯美沙, 田中章 久, 前田絵里加, 松崎あい理, 田中克巳					第31回日本医 療薬学会年会 (Web)	Oct-21
一般雑誌記事	副作用に関するトレーシングレポート事例	越塚宏美, 江島麗, 前田絵里 加, 田中克巳, 武由梨, 柳原桃子, 大内雅之, 小松仁美, 前元研治	都薬雑誌	43	642	38-41		Mar-21
一般雑誌記事	周産期医学 解熱鎮痛薬	磯崎遥, 前田絵里加, 田中克 巳, 大槻克文	周産期の本	50	増刊 号	87-89		Dec-20
会議発表 (論文・口頭)	人工膝関節全置換術周術期におけるデュロキセチン使用の有効性と安全性	磯崎遥, 佐藤敦, 前田絵里加, 古屋 貴之, 柏原由佳, 田中克 巳, 佐々木忠徳					日本病院薬剤 師会関東ブ ロック第50回 年会(Web)	Oct-20
会議発表 (論文・口頭)	人工膝関節全置換術周術期におけるデュロキセチン使用の有効性と安全性	磯崎遥, 佐藤敦, 前田絵里加, 屋城由樹, 古屋 貴之, 柏原由 佳, 田中克巳, 佐々木忠徳				27	日本薬学会第 140年会要旨 集	Mar-20
会議発表 (論文・口頭)	人工膝関節全置換術周術期におけるデュロキセチン使用の有効性と安全性	磯崎遥, 佐藤敦, 前田絵里加, 古屋 貴之, 柏原由佳, 田中克 巳, 佐々木忠徳					日本病院薬剤 師会関東ブ ロック第50回 年会(Web)	Oct-20
会議発表 (論文・口頭)	外来診察におけるトレーシングレポート活用による薬物治療への影響の検討	喜田昌記, 磯崎遥, 渡邊亜矢 子, 柏原由佳, 福元史織, 前田 絵里加, 米澤夏里, 田中克巳, 佐々木忠徳				324	日本薬剤師会 学術大会要旨 集第52回	Oct-19

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 米澤夏里
------	---------	-------	---------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	薬業連携におけるトレーシングレポート第3回 服薬方法やアドヒアランスに関するトレーシングレポート事例	喜田 昌記, 米澤 夏里, 伊波 樹, 田中 克巳, 菊池 麻子, 大内 雅之	都薬雑誌	43	1	52		Feb-21

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 磯部 順哉
------	---------	-------	----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 永尾美智瑠
------	---------	-------	----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	Nonlinear Disposition and Metabolic Interactions of Cannabidiol Through CYP3A Inhibition <i>in Vivo</i> in Rats	NAGAO Michiru NAKANO Yukako TAJIMA Masataka SUGIYAMA Erika SATO VH INADA Makoto SATO Hitoshi	Cannabis Cannabinoid Res	5	4	318		Dec-20

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教	氏名 大城（仙北屋）真理奈
------	---------	-------	---------------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
特になし								

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教（薬科）	氏名 野口拓馬
------	---------	-----------	---------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
なし								

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教（薬科）	氏名 青木 悟
------	---------	-----------	---------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	Fetal methylphenidate exposure induced ADHD-like phenotypes and decreased Drd2 and Slc6a3 expression levels in mouse offspring	Satoru Aoki, Asuka Kaizaki-Mitsumoto, Natsumi Hattori, Satoshi Numazawa	Toxicology letter	344		1		Feb-21

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教（薬科）	氏名 太田 晃
------	---------	-----------	---------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
学術論文冊子 (学外)	The selective cytotoxicity of silver thiosulfate, a silver complex, on MCF-7 breast cancer cells through ROS-induced cell death	OTA Akira, TAJIMA Masataka, MORI Kazunori, SUGIYAMA Erika, SATO VH, SATO Hitoshi	Pharmacological Reports	73	3	847		Jun-21
会議発表 (論文・口頭)	チオ硫酸銀錯体によるがん細胞選択的な抗腫瘍効果	太田 晃、田島 正教、森 一憲、杉山 恵理花、佐藤 均	第373回昭和大学学士会例会（薬学部会主催）					Jun-21

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教（薬科）	氏名 黒瀧 アン里
------	---------	-----------	-----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	Substrate specificity of human long-chain acyl-CoA synthetase ACSL6 variants	KUROTAKI Anri HARA Shuntaro KUWATA Hiroshi	Biol. Pharm. Bull	44	10			Oct-21

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教薬科	氏名 三井 奈緒
------	---------	---------	----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
会議発表 (論文・口頭)	Swallowability of mini-tablets in Japanese children 6-23 months old: results from an exploratory randomized cross-over study	Nao Mitsui Noriko Hida Taro Kamiya Taigi Yamazaki Kazuki Miyazaki Kiyomi Saito Junpei Saito Akimasa Yamatani Yoichi Ishikawa Akihiro Nakamura Tutomu Harada, Hidefumi Nakamura					13th EuPFI virtual conference	Sep-21
会議発表 (論文・口頭)	原薬粉体物性がアスピリンミニタブレットの品質に及ぼす影響	芹澤 風香 野田 秀裕 高橋 伸幸 鈴木 奈緒 藤田 吉明 中村 明弘 原田 努					日本薬学会第141年会	Mar-21
会議発表 (論文・口頭)	6か月以上2歳未満の乳幼児における細粒剤およびシロップ剤を対照としたミニタブレットの服用性と受容性の検討	鈴木 奈緒 肥田 典子 神谷 太郎 山崎 太義 宮崎 和城 齊藤 清 美 齊藤 順平 山谷 明正 石川 洋一 中村 秀文 中村 明弘 原田 努					日本薬剤学会第36年会	May-21
一般雑誌記事	ゲル化コーティングミニタブレットの有用性と今後の展望	鈴木 奈緒 熊木 良太 原田 努 倉田 なおみ	製剤機械技術雑誌	30	1	36-40		Feb-21
学術雑誌論文 (学外)	ゲル化コーティング製剤の服用性の評価	鈴木 奈緒 秋山 滋男 岸本 桂子 原田 努 倉田 なおみ	日摂嚥下リハ会誌	24	3	231-239		Dec-20

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教（薬科）	氏名 竹安 葵
------	---------	-----------	---------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
会議発表 (論文・口頭)	臨床研修薬剤師のプロフェッショナリズム評価-P-MEX評価と自己省察レポート -	竹安葵、加藤里奈、小林文、山本仁美、北原加奈之、百賢二、佐々木忠徳、田中佐知子					第65回日本薬学会関東支部大会	Sep-21

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教（薬科）	氏名 出口 智一
------	---------	-----------	----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教（薬科）	氏名 徳留真優
------	---------	-----------	---------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
なし								

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教（薬科）	氏名 稲本真弓
------	---------	-----------	---------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教(薬科)	氏名 井上 裕美子
------	---------	-----------	-----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教(薬科)	氏名 柏淵 弓佳
------	---------	-----------	----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教薬科	氏名 永田 未希
------	---------	---------	----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
会議発表 (論文・口頭)	藻類であるFucoidanによるアミロイドβ誘発性神経毒性に対する保護作用について	永田 未希 辻 まゆみ 小口 達敬 門馬 佑太郎 野原 哲人 大橋 英朗 井藤 尚仁 山本 謙 宇高 結子 佐々木 晶子 木内 祐二 沼澤 聡	日本認知症学会誌	35	4	660	第40回日本認知症学会学術集会	Oct-21
会議発表 (論文・口頭)	Aβ高分子oligomer誘発性細胞傷害に対する新規治療薬GT863の保護作用	門馬 佑太郎 辻 まゆみ 小口 達敬 野原 哲人 大橋 英朗 井藤 尚仁 山本 謙 永田 未希 中村 史朗 小野 賢二郎 木内 祐二	日本認知症学会誌	35	4	660	第40回日本認知症学会学術集会	Oct-21
会議発表 (論文・口頭)	クルクミンとフェルラ酸のアミロイドβ凝集および神経細胞傷害への相対効果	大橋 英朗 辻 まゆみ 小口 達敬 門馬 佑太郎 野原 哲人 井藤 尚仁 山本 謙 永田 未希 小野 賢二郎 木内 祐二	日本認知症学会誌	35	4	647	第40回日本認知症学会学術集会	Oct-21

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教(薬科)	氏名 西田純平
------	---------	-----------	---------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教(薬科)	氏名 福元史織
------	---------	-----------	---------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
なし								

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教薬科	氏名 與儀 和香子
------	---------	---------	-----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
学術雑誌論文 (学外)	Influences of Lavender Essential Oil Inhalation on Stress Responses during Short-Duration Sleep Cycles: A Pilot Study	YOGI Wakako TSUKADA Mana SATO Yosuke IZUNO Takuji INOUE Tatsuki TSUNOKAWA Yoshiki OKUMO Takayuki HISAMITSU Tadashi SUNAGAWA Masataka	Healthcare	9	7	909		2021年7月

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教(薬科)	氏名 稲垣 貴士
------	---------	-----------	----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教(薬科)	氏名 井上 恵里花
------	---------	-----------	-----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
なし								

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教(薬科)	氏名 大日方 瞳
------	---------	-----------	----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
学術雑誌論文(学外)	Cooperative action of oxidized low-density lipoproteins and neutrophils on endothelial inflammatory responses through neutrophil extracellular trap formation	OBAMA Takashi OHINATA Hitomi TAKAKI Takashi IWAMOTO Sanju SAWADA Naoko AIUCHI Toshihiro KATO Rina ITABE Hiroyuki	Front Immunol	10		1899		Aug-19

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教(薬科)	氏名 杉本 佳寿美
------	---------	-----------	-----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
なし								

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教（薬科）	氏名 村岡健太
------	---------	-----------	---------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
会議発表 (論文・口頭)	日本救急医学会学生・研修医部会 (SMAQ) の概要と戦略的展望	村岡 健太 武田 宗和 新井 隆男					第48回日本救急医学会総会・学術集会	Nov-22
その他	救急医療の裾野を広げるSMAQの取り組み	村岡 健太	医学界新聞		3350	7		Dec-22
会議発表 (論文・口頭)	日本救急医学会学生・研修医部会 (SMAQ) の紹介 概要と展望	村岡 健太 新井 隆男 武田 宗和					第47回日本救急医学会総会・学術集会	Oct-22

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教（薬科）	氏名 山内 梨袋
------	---------	-----------	----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月
なし								

昭和大学	病院薬剤学講座	職名 助教（薬科）	氏名 竹安 結花子
------	---------	-----------	-----------

業績項目	タイトル・書名	著者	雑誌名	巻	号	開始 ページ	学会・シンポ ジウム名	刊行年月

(基礎資料10) 学生の健康管理

表1. 評価対象年度の定期健康診断受診率

学年	在学者数	受診者数	受診率(%)
1年	211	211	100.00%
2年	218	218	100.00%
3年	207	207	100.00%
4年	173	173	100.00%
5年	173	173	100.00%
6年	191	191	100.00%

表2. 評価対象年度の5年生の実務実習前の抗体検査の実施状況

検査対象抗体	抗体価が十分高かった 学生数	抗体価が不十分なためワクチン接種をした学生数 ¹⁾
風疹	101	72
麻疹	48	119
水痘	159	14
ムンプス	99	73
B型肝炎	159	10

[注] 1) 4年次12月末までに、ワクチン接種した学生数（確認できた人数）を記入してください。
確認できない場合は、左欄のみ記入してください。

(基礎資料11-1) 薬学科の教育に使用する施設の状況

施設 ¹⁾		座席数	室数	収容人員合計	備 考
講義室・演習室 ²⁾	大講義室（旗の台キャンパス）	220-240	5	918	4号館500号(固定席220)、4号館600号(固定席240)、16号館2階(固定席230)、16号館地下(固定席228)
	中講義室（旗の台キャンパス）	98-168	7	873	4号館302号(固定席168)、2号館第1(固定席104)、第2(固定席98)、第3(固定席108)、第4(固定席135)、第5(固定席134)、第6(固定席126)
	小講義室（旗の台キャンパス）	30	1	30	2号館ラーニングコモンズ(可動席30)
	大講義室（富士吉田キャンパス）	211-372	3	805	1号館202号室(固定席211)、1号館第一講堂(可動席372)、5号館第二講堂(固定席222)
	中講義室（富士吉田キャンパス）	94-154	9	1050	1号館101号教室(固定席140)、1号館201号教室(固定席154)、1号館203号教室(固定席95)、1号館204号教室(可動席95)、1号館301号教室(固定席100)、1号館302号教室(固定席130)、5号館512室(可動席132)、5号館521室(可動席94)、5号館522室(可動席)110
	小講義室（富士吉田キャンパス）	30-40	6	223	1号館102号教室(可動席40)、1号館103号教室(可動席40)、1号館205号教室(可動席40)、1号館206号教室(可動席40)、5号館511室(可動席30)、5号館523室(可動席33)
	小グループ演習室（富士吉田キャンパス）	10	36	360	SGSセンター
実習室	実習室（旗の台キャンパス）	128-230	7	1054	5号館1階(解剖系:解剖台20台)、5号館2階(生理系:最大168席)、5号館3階(顕微鏡系:最大192席)、5号館4階(化学系:最大168席)、5号館5階(顕微鏡系:最大128席)、5号館6階(社会医学系:最大168席)、2-5(化学系:最大230席)
	シミュレーション室（旗の台キャンパス）	20-40	4	120	1号館3階薬局シミュレーション室(実習可能人数:20)、2号館3階病棟シミュレーション室(実習可能人数:30)、2号館4階調剤シミュレーション室(実習可能人数:40)、2号館4階無菌調剤シミュレーション室(実習可能人数:30)
	物理学実習室（富士吉田キャンパス）	140	1	140	
	化学実習室（富士吉田キャンパス）	182	1	182	
	生物学実習室（富士吉田キャンパス）	180	1	180	
自習室等 ³⁾	PBL室（旗の台キャンパス）	8	40	320	
	学生ホール（旗の台キャンパス）	30-128	3	218	4号館地下1階(60)、1号館地下1階(128)、10号館(30)
	共同学習室（富士吉田キャンパス）	8-19	29	388	他学部学生と共用: 赤松寮(5室80)、白樺寮(8室104)、すみれ寮(6室110)、百合寮(10室94)
	学生自習室（富士吉田キャンパス）	4	177	708	他学部学生と共用: 赤松寮(38室152)、白樺寮(28室112)、すみれ寮(50室200)、百合寮(61室244)
薬用植物園	① 設置場所: 旗の台キャンパス ② 施設の構成と規模: 位置: 北緯35度36分30秒 東経139度42分5秒、標高: 約36m、面積: 266㎡ ③ 栽培している植物種の数: 37科109種 ④ その他の特記事項: 常駐職員: なし、園場: なし、灌水: 一部自動灌水、温室: なし、移設: 2020年4月				
第一医薬資源園	① 設置場所: 富士吉田キャンパス ② 施設の構成と規模: 位置: 北緯35度28分39秒 東経138度46分23秒、標高: 898 m、面積: 901 ㎡ ③ 栽培している植物種の数: 51科130種 ④ その他の特記事項: 常駐職員: なし、園場: なし、温室: なし、創設: 2005年4月、エゾウコギ、ダイオウ、ゲンチアナなど北方や高山帯の植物が見られる				
第二医薬資源園 (栽培園場)	① 設置場所: 富士吉田キャンパス ② 施設の構成と規模: 位置: 北緯35度27分58秒 東経138度46分15秒、標高: 944 m、面積: 3,626 ㎡ ③ 栽培している植物種の数: 25科45種 ④ その他の特記事項: 常駐職員: なし、園場: なし、温室: なし、創設: 1973年、エゾウコギ、ダイオウなど北方や高山帯の植物が見られる				
自然教育園	① 設置場所: 富士吉田キャンパス ② 施設の構成と規模: 位置: 北緯35度28分36秒 東経138度46分47秒、標高: 867 m、面積: 18,930 ㎡ ③ 栽培している植物種の数: 1,166種(樹木~草本類、野菜等含め) ④ その他の特記事項: 常駐職員: あり、ビニールハウス: あり、創設: 2012年6月				

(基礎資料11-2) 卒業研究などに使用する施設

表1. 講座・研究室の施設

施設名 ^{1), 2)}	面積 ³⁾	収容人員 ⁴⁾	室数 ⁵⁾	備 考
教授室	25m ²	1人	16	9-34 m ² (教育企画・評価学部門、感染制御薬学部門は研究室に教授用デスクがある)
研究室 (大)	163m ²	20人	11	12部門の研究室 (100m ² 以上) ※2室はそれぞれ異なる2部門で共同利用
研究室 (中)	74m ²	10人	12	11部門の研究室 (50-100m ²) ※2室は同一の2部門で共同利用
研究室 (小)	31m ²	5人	15	10部門の研究室 (50m ² 未満)
共用倉庫	14m ²	0人	4	

- 1) 単独の講座・研究室などが占有する卒業研究で使用する学生用研究室は、(基礎資料11-1)と重複してかまいません。
- 2) 複数の講座・研究室が(隣接する2～3講座で共用で)占有する施設があれば、記載してください。
実験室・研究室に広さが異なるものがある場合は、「大・小」、「大・中・小」のように大まかに区分してください。
- 3) 同じ区分の部屋で面積に若干の違いがある場合、面積には平均値を記入してください。
- 4) 1室当たりの収容人数を記入してください。同じ区分の部屋で若干の違いがある場合は平均値を記入してください。
- 5) 薬学科の卒業研究を担当する講座・研究室が占有する部屋の合計数を記入してください。(ひとつの講座・研究室当たりの数ではありません。)

表2. 学部で共用する実験施設

施設の区分 ^{1), 2)}	室数	施設の内容
実験動物施設	19	一般飼育室 (7室)、特殊動物 (感染、無菌、遺伝子組換え) 飼育室 (12室)
分子分析センター	7	NMR室、質量分析室、LC/MS室、ESR室、元素分析室、ラマン分光光度計室、天秤室
組み換えDNA実験室	3	P2実験室 (3室)
共通機器室	1	電子顕微鏡、フローサイトメトリー等精密機器設置室 (1室)
薬理科学研究センター	7	実験室 (5室) 低温実験室 (1室)、機器室 (1室)

- 1) 実験動物施設、NMR室など、例示を参考に、大まかな用途による区分を設け、各区分に含まれる室数と施設の内容を例示のように列記してください。
(面積などは不要です。)
- 2) 例示以外の実験施設 (例えば、培養室など) があれば追加してください。

(基礎資料12) 学生閲覧室等の規模

図書室(館)の名称	学生閲覧室 座席数(A)	学生収容 定員数(B) ¹⁾	収容定員に対する 座席数の割合(%) $A/B \times 100$	その他の 自習室の名称	その他の 自習室の座席数	その他の 自習室の整備状況 ²⁾	備 考 ³⁾
昭和大学図書館 (本館) ⁴⁾	226	2,908	7.77%	グループ学習室 個人閲覧室	12 6	LANコンセント7 LANコンセント6	学 部: 医718 歯630 薬1,200 大学院: 医240 歯72 薬48 * 新型コロナウイルス対策による2021 年5月1日時点の座席数: 115席
富士吉田校舎図書室	105	579	18.13%				学 部: 医119 歯105 薬200 保155 * 新型コロナウイルス対策による2021 年5月1日時点の座席数: 32席
計	331	3,487	9.49%				

1) 「学生収容定員数(B)」欄には、当該施設を利用している全ての学部・大学院学生等を合計した学生収容定員数を記入してください。

2) 「その他の自習室の整備状況」欄には情報処理端末をいくつ設置しているか等を記載してください。

3) 「備考」欄には「学生収容定員(B)」の内訳を、学部・大学院等ごとに記入してください。

4) 例示の中央図書館は、薬学部の利用がなければ(キャンパスが異なるなど)、右の欄を空欄にしてください。

(基礎資料13) 図書、資料の所蔵数および受け入れ状況

図書館の名称	図書の冊数		定期刊行物の種類		視聴覚資料の 所蔵数 (点数) ²⁾	電子ジャー ナルのタイ トル数 ³⁾	過去3年間の図書受け入れ状況			備 考
	図書の全冊数	開架図書の 冊数(内) ¹⁾	国内書	外国書			2020年度	2019年度	2018年度	
昭和大学図書館 (本館)	237,923	192,669	2,295	2,325	362	4,272	1,486	1,446	1,910	・定期刊行物は富士吉田 と歯科病院図書室を含 む。 ・電子ジャーナルは本館 で集中管理。
富士吉田校舎 図書室	39,715	39,715	－	－	221		617	608	610	・定期刊行物は本館に含 む。
計	277,638	232,384	2,295	2,325	583	4,272	2,103	2,054	2,520	

[注] 雑誌等ですでに製本済みのものは図書の冊数に加えても結構です。

- 1) 開架図書の冊数(内)は、図書の全冊数のうち何冊かを記入してください。
- 2) 視聴覚資料には、マイクロフィルム、マイクロフィッシュ、カセットテープ、ビデオテープ、CD・LD・DVD、スライド、映画フィルム、CD-ROM等を含め、所蔵数については、タイトル数を記載してください。
- 3) 電子ジャーナルが中央図書館で集中管理されている場合は、中央図書館にのみ数値を記入し、備考欄にその旨を注記してください。